

# 世良田環濠集落遺跡(2)

社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線  
世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県太田土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 世良田環濠集落遺跡(2)

社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線  
世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県太田土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団







1 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ  
春や」(せらだ しみずや)と記載。Ⅲ区  
1号遺物集中箇所62(第89図)



2 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ  
すや」(せらだ しみずや)と記載。Ⅳ区  
2号土坑21(第109図)



3 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ  
寿や」(せらだ しみずや)と記載。Ⅲ  
区1号遺物集中箇所123(第94図)



4 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ  
寿や」(せらだ しみずや)と記載。Ⅲ区  
1号遺物集中箇所7(第86図)



5 焼継あり。焼継溶液で「文吉」(ぶんき  
ち)と記載。Ⅱ区1号竪穴状遺構1(第74  
図)



6 焼継あり。赤色で「千せ」(ちせ)と記載。  
Ⅲ区一括25(第98図)



7 徳利の底部に墨書で「大町井筒屋 斜  
格子囲い内に外の字」(おおまちいづつ  
や 屋号)と記載。Ⅲ区22号土坑6(第78  
図)



8 染付土瓶の文様下に呉須で「松川亭」ま  
たは「杉山亭」か。Ⅱ区1号竪穴状遺構1  
(第74図)



9 焼継あり。口唇部7カ所に赤茶色の指  
先状痕跡。高台端部に黒色の焼き付いた  
痕2カ所。Ⅲ区1号遺物集中箇所63(第  
89図)

## 口絵 2



10 内面に赤色等付着。右奥：Ⅱ区1号溝11、左奥：Ⅲ区23号土坑2、中央：Ⅱ区2号溝1、右手前：Ⅲ区一括28、左手前：Ⅱ区13号土坑1



11 各所から出土した「円盤状加工品」。高台部を利用したものも多い。



12 各所から出土した灯明具(在地製土器 皿)



13 各所から出土した灯明具(陶器 油皿と受皿)



14 各所から出土した灯明具(ひょうそく)



15 各所から出土した灯明具(圓口形カンテラ)



16 肥前磁器 染付広東碗の揃い



17 肥前磁器 染付広東碗の揃い



18 肥前磁器 染付小広東碗の揃い



19 肥前磁器 染付端反碗の揃い



20 肥前磁器 染付碗の揃い



21 肥前磁器 染付端反碗の揃い



22 肥前磁器 染付皿の揃い



23 瀬戸・美濃陶器 染付皿の揃い

## 口絵 4



24 群馬県では貴重品だった江戸時代後期の焼塩壺



25 江戸時代後期の陶器蓋各種



26 江戸時代後期の陶器徳利



27 江戸時代後期の置き壺



28 江戸時代後期の手水鉢



29 江戸時代後期の火鉢

## 序

清和源氏一門の有力な武士団であった新田氏一族の根拠地として平安時代末期に成立した新田荘の荘域は、上野国新田郡全域から勢多郡・佐位郡・武蔵国榛沢郡の一部という広大な範囲に及び、平成12年には、新田荘遺跡群の構成要素のうちの11箇所が国の史跡に指定され、改めてその歴史的価値が高く評価されることになりました。

また、近世になると、江戸に幕府を開いた徳川将軍家が、新田氏の支族である得川氏の末裔を自称したことによって、徳川氏発祥の「聖地」と認定され、幕府による手厚い保護が加えられるに至りました。

このように歴史的に高い意義を有する地域に位置し、周囲に堀を持つ中世の集落の形態を遺す遺跡として知られて参りました本遺跡の一部が、平成25年度から26年度にかけて、主要地方道大間々世良田線の世良田交差点改良工事に先立って当事業団によって発掘調査されました。

このたび、世良田交差点の北西・南東・南西側における発掘調査の成果がまとめられ、平成25～26年度に発掘調査された範囲全域について発掘調査報告書が刊行され、事業が完結することになりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、地元関係者の皆様方に、多大なるご指導とご協力を賜りました。篤く御礼を申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に資することを願ひまして、序といたします。

平成27年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 中野 三智男



## 例 言

1 本書は、社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査による、世良田環濠集落遺跡Ⅱ～Ⅳ区にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

なお、1区の調査成果については、当事業団が、平成27年1月16日に発行した『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』に纏めてあるので、併せて参照されたい。

2 所在地 太田市世良田町1086-1、1086-8、1087-1、1088-1、1089-1、1089-2、1089-3、1360-1、1360-3、1360-4、1361-2、1361-4

3 事業主体 群馬県太田土木事務所

4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 調査期間 履行期間 平成26年5月1日～平成27年8月29日

調査期間 平成26年6月1日～平成26年6月30日

履行期間 平成26年10月1日～平成27年2月27日

調査期間 平成26年11月1日～平成26年12月31日

6 調査面積 280㎡+1,172㎡

7 発掘調査体制は次の通りである。

発掘調査担当 調査統括・上席専門員 関根徹二、主任調査研究員 藤井義徳

遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社 有限会社 毛野考古学研究所

地上測量業務委託 株式会社 シン技術コンサル

8 整理期間 履行期間 平成27年4月1日～平成27年11月30日

整理期間 平成27年4月1日～平成27年9月30日

9 整理体制は次の通りである。

整理担当 専門員(総括) 高島英之

遺物写真撮影 補佐(総括) 関 邦一、専門員(総括) 津島秀章、専門員(総括) 高島英之、専門調査役 藤巻幸男

遺物保存処理 補佐(総括) 関 邦一

デジタル編集 主任調査研究員 齊田智彦

10 本書作成の担当者は次の通りである。

編集・執筆 専門員(総括) 高島英之、専門調査役 藤巻幸男(第4章第2節)

遺物観察表(土器・陶磁器) 専門調査役 藤巻幸男

遺物観察表(石器) 専門員(総括) 津島秀章

遺物観察表(鉄製品) 補佐(総括) 関 邦一

11 発掘調査資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

12 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の方々、機関にご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)

峰岸純夫、須永光一、小宮俊久、群馬県教育委員会、群馬県立文書館、太田市教育委員会、太田市立新田荘歴史資料館

## 凡 例

- 本文中に使用した座標・方位は、すべて世界測地系(日本測地系2,000平面直角座標第IX系)を使用している。なお、座標北と真北との偏差は、調査対象地中央付近の $X=29,568$ 、 $Y=-49,848$ で東偏 $0^{\circ}19'41.40''$ である。
- 遺構平面図に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
- 遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下の通りとした。1:3以外の縮尺の遺物については、遺物番号の後に縮尺を記入してある。遺物観察表における遺物法量の単位はcm、重量の単位はgである。

遺構 1:40

遺物 中近世陶器・土器(甕・鉢・焙烙・鍋などの大型品)・瓦 1:4

中近世陶磁器(碗皿などの小型品) 1:3

石製品(砥石など)・鉄製品 1:2

石製品(硯など)・銅銭 1:1

- 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地形図 1:25,000「上野境」(平成14年2月1日発行)、「深谷」(平成14年9月1日発行)


1:50,000「深谷」(平成10年9月1日発行)、「高崎」(平成10年12月1日発行)

国土地理院 地勢図 1:200,000「宇都高」(平成23年6月1日発行)

太田市役所地形図 1:2,500(平成23年3月測図)

- 本書の図版に使用したスクリーンパターン及びマークは、次のことを示す。

遺物出土地点 石器 \* 土器 \*

遺構図 攪乱(断面図) 

遺物図 石器 摩耗痕  摩耗痕の範囲(断面図) 

土器 スス付着 



# 目次

口絵

序

例言・凡例

目次

挿図・表・写真目次

第1章 調査に至る経緯、調査の方法・経過	1	第3節 III区で検出された遺構と遺物	39
第1節 調査に至る経緯	1	1. 土坑	40
第2節 調査の方法と経過	4	2. 井戸	47
1. 調査の方法	4	3. 溝	48
2. 調査の経過	4	4. ビット	49
第3節 整理作業の概要	4	5. 礎石	53
第4節 IV区で検出された遺構と遺物	71	6. 配石	71
第5節 V区で検出された遺構と遺物	71	7. その他の遺構	71
第6節 VI区で検出された遺構と遺物	71	8. 遺構外一括出土遺物	71
第2章 遺跡の位置と環境	5	第4章 調査成果のまとめ	108
第1節 地理的環境	5	第1節 出土した「文久永宝」について	108
第2節 歴史的環境	5	第2節 出土した近世の陶磁器・土器について	109
1. 旧石器時代	5	1. 文字資料	109
2. 縄文時代	11	2. 明りの道具類	109
3. 弥生時代	11	3. 焼塩壺	112
4. 古墳時代	11	4. 置き壺	112
5. 奈良・平安時代	12	5. 手水鉢	113
6. 中世	13	第3節 まとめ	114
7. 近世	15	遺物観察表	116
第3章 調査の成果	16	非掲載遺物集計表	145
第1節 成果の概要	16	遺物図版	
第2節 II区で検出された遺構と遺物	16	遺構写真	
1. 土坑	17	抄録	
2. 井戸	21		
3. 溝	22		
4. ビット	23		
5. 地下式坑	25		
6. 竪穴状遺構	38		
7. 礎石	39		
8. その他の遺構	39		
9. 遺構外一括出土遺物	39		

# 挿図目次

第1図	遺跡の位置(1)	1	第62図	Ⅱ区24号土坑出土遺物(2)	154
第2図	遺跡の位置(2)	2	第63図	Ⅱ区24号土坑出土遺物(3)、1~3号井戸出土遺物	155
第3図	調査区設定図	3	第64図	Ⅱ区4号井戸出土遺物、1号溝出土遺物(1)	156
第4図	周辺地形分界図	6	第65図	Ⅱ区1号溝出土遺物(2)	157
第5図	周辺の遺跡	7	第66図	Ⅱ区1号溝出土遺物(3)	158
第6図	Ⅱ-1~3調査区遺構検出状況	26	第67図	Ⅱ区1号溝出土遺物(4)	159
第7図	Ⅱ-4~7調査区遺構検出状況	27	第68図	Ⅱ区1号溝出土遺物(5)	160
第8図	Ⅱ区1~11号土坑平面図・断面図	28	第69図	Ⅱ区1号溝出土遺物(6)	161
第9図	Ⅱ区12~20号土坑平面図・断面図	29	第70図	Ⅱ区1号溝出土遺物(7)	162
第10図	Ⅱ区21・22・24~28号土坑平面図・断面図	30	第71図	Ⅱ区1号溝出土遺物(8)、2号溝出土遺物	163
第11図	Ⅱ区1~4号井戸平面図・断面図	31	第72図	Ⅱ区3・5・6号溝出土遺物、7号溝出土遺物	164
第12図	Ⅱ区1・2・4・5号溝平面図・断面図	32	第73図	Ⅱ区8・9号溝出土遺物、4・10号ピット、1号地下式坑出土遺物、1号竪穴状遺構出土遺物(1)	165
第13図	Ⅱ区3号溝平面図・断面図	33	第74図	Ⅱ区1号竪穴状遺構出土遺物(2)	166
第14図	Ⅱ区3・6・7号溝平面図・断面図	34	第75図	Ⅱ区2号竪穴状遺構、遺構外出土遺物	167
第15図	Ⅱ区8・9号溝平面図・断面図	35	第76図	Ⅱ区一括出土遺物	168
第16図	Ⅱ区1~12号ピット平面図・断面図	36	第77図	Ⅱ区1・4・7号土坑出土遺物、9号土坑出土遺物(1)	169
第17図	Ⅱ区1号地下式坑、1・2号竪穴状遺構、1号礎石、1号落ち込み平面図・断面図	37	第78図	Ⅱ区9号土坑出土遺物(2)、11・13・16・22号土坑出土遺物	170
第18図	Ⅱ-1~3調査区遺構検出状況	55	第79図	Ⅱ区24・27・30~32・35・36・47号土坑、1号井戸出土遺物	171
第19図	Ⅱ-4・5調査区遺構検出状況	56	第80図	Ⅱ区2・3号井戸、2・3号溝出土遺物、4号溝出土遺物(1)	172
第20図	Ⅱ区1~8・10・11号土坑平面図・断面図	57	第81図	Ⅱ区4号溝出土遺物(2)・2号ピット出土遺物	173
第21図	Ⅱ区9・12~16・19号土坑平面図・断面図	58	第82図	Ⅱ区6号ピット、1号礎石出土遺物、2号礎石出土遺物(1)	174
第22図	Ⅱ区17・18、20~28、53・54号土坑平面図・断面図	59	第83図	Ⅱ区2号礎石出土遺物(2)	175
第23図	Ⅱ区29~37・58号土坑平面図・断面図	60	第84図	Ⅱ区4号礎石出土遺物、6号礎石出土遺物(1)	176
第24図	Ⅱ区38~49号土坑平面図・断面図	61	第85図	Ⅱ区6号礎石出土遺物(2)、7号礎石、1号礎石出土遺物(1)	177
第25図	Ⅱ区50~52・55~57・59・60号土坑平面図・断面図	62	第86図	Ⅱ区1号礎石出土遺物(2)、2号礎石出土遺物、1号遺物集中箇所出土遺物(1)	178
第26図	Ⅱ区1~3号井戸平面図・断面図	63	第87図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(2)	179
第27図	Ⅱ区1・3号溝平面図・断面図	64	第88図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(3)	180
第28図	Ⅱ区4号溝平面図・断面図	65	第89図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(4)	181
第29図	Ⅱ区2・5号溝平面図・断面図	66	第90図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(5)	182
第30図	Ⅱ区1~21号ピット平面図・断面図	67	第91図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(6)	183
第31図	Ⅱ区22~30号ピット、1・5~8号礎石平面図・断面図	68	第92図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(7)	184
第32図	Ⅱ区2~4号礎石平面図・断面図	69	第93図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(8)	185
第33図	Ⅱ区1~2号礎石平面図・断面図、1号遺物集中箇所平面図	70	第94図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(9)	186
第34図	Ⅱ-1~3調査区遺構検出状況	92	第95図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(10)	187
第35図	Ⅱ-4・5調査区遺構検出状況	93	第96図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(11)	188
第36図	Ⅱ区1~10号土坑平面図・断面図	94	第97図	Ⅱ区1号遺物集中箇所出土遺物(12)	189
第37図	Ⅱ区11~18号土坑平面図・断面図	95	第98図	Ⅱ区一括出土遺物(1)	190
第38図	Ⅱ区19~29・31号土坑平面図・断面図	96	第99図	Ⅱ区一括出土遺物(2)	191
第39図	Ⅱ区30・32~38号土坑平面図・断面図	97	第100図	Ⅱ区一括出土遺物(3)	192
第40図	Ⅱ区40~45号土坑、1・2号井戸平面図・断面図	98	第101図	Ⅱ区一括出土遺物(4)	193
第41図	Ⅱ区3~8号井戸平面図・断面図	99	第102図	Ⅱ区一括出土遺物(5)	194
第42図	Ⅱ区9~13号井戸平面図・断面図	100	第103図	Ⅱ区一括出土遺物(6)	195
第43図	Ⅱ区1~4号溝、7・34~38号ピット平面図・断面図	101	第104図	Ⅱ区一括出土遺物(7)	196
第44図	Ⅱ区39~43、61~70号ピット平面図・断面図	102	第105図	Ⅱ区一括出土遺物(8)	197
第45図	Ⅱ区1~5号礎石平面図・断面図	103	第106図	Ⅱ区一括出土遺物(9)	198
第46図	Ⅱ区巨石器検認調査坑位置図・断面図	104	第107図	Ⅱ区一括出土遺物(10)、Ⅱ区2号土坑出土遺物(1)	199
第47図	Ⅱ区巨石器検認調査坑位置図・断面図	105	第108図	Ⅱ区2号土坑出土遺物(2)	200
第48図	Ⅱ区巨石器検認調査坑位置図・断面図	106	第109図	Ⅱ区2号土坑出土遺物(3)	201
第49図	出土したカンテラ	111	第110図	Ⅱ区2・3・12号土坑出土遺物	202
第50図	出土した焼塩釜	112	第111図	Ⅱ区13・18・22号土坑出土遺物	203
第51図	出土した置き壺	112	第112図	Ⅱ区25・26・28号土坑出土遺物、29号土坑出土遺物(1)	204
第52図	出土した手水鉢	113	第113図	Ⅱ区29号土坑出土遺物(2)	205
第53図	上毛新田世良田略絵図(弘化2(1845)年)	114	第114図	Ⅱ区29号土坑出土遺物(3)	206
第54図	山崎一氏作田世良田環集録高図	115	第115図	Ⅱ区31~33・36号土坑出土遺物	207
第55図	Ⅱ区2号土坑出土遺物、6号土坑出土遺物(1)	147	第116図	Ⅱ区38号土坑、1・3・4号井戸出土遺物	208
第56図	Ⅱ区6号土坑出土遺物(2)、7・12号土坑出土遺物、13号土坑出土遺物(1)	148	第117図	Ⅱ区6~8・10・11号井戸出土遺物	209
第57図	Ⅱ区13号土坑出土遺物(2)	149	第118図	Ⅱ区12・13号井戸、3・40・41・68・70号ピット、1号礎石出土遺物	210
第58図	Ⅱ区13号土坑出土遺物(3)	150	第119図	Ⅱ区一括出土遺物(1)	211
第59図	Ⅱ区13号土坑出土遺物(4)、16号土坑出土遺物(1)	151	第120図	Ⅱ区一括出土遺物(2)	212
第60図	Ⅱ区16号土坑出土遺物(2)	152			
第61図	Ⅱ区24号土坑出土遺物(1)	153			

# 表 目 次

第1表	周辺の道跡一覧表(1)	8	第4表	陶磁器類文字資料一覧	110
第2表	周辺の道跡一覧表(2)	9	第5表	非陶磁遺物集計表	145
第3表	周辺の道跡一覧表(3)	10			

# 写真目次

## Pl. 1

1. II-1区全景(北)
2. II-2区全景(南)
3. II-3区全景(北)
4. II-3区全景 北端(南)
5. II-4区全景(南)
6. II-5区全景(北)
7. II-7区全景 西端(西)
8. II-7区全景 東端(西)

## Pl. 2

1. II-3区1号土坑全景(南)
2. II-3区2号土坑全景(南)
3. II-3区3・5号土坑全景(南)
4. II-3区4号土坑全景(南)
5. II-3区6号土坑遺物出土状況(東)
6. II-3区6号土坑土層断面(南)
7. II-3区6号土坑全景(南)
8. II-3区7号土坑全景(東)
9. II-3区7号土坑土層断面(南)
10. II-2区8号土坑土層断面(東)
11. II-5区9号土坑全景(西)
12. II-5区10号土坑全景(西)
13. II-4区11号土坑全景(南)
14. II-4区12号土坑全景・土層断面(南)
15. II-1区13号土坑全景(南)

## Pl. 3

1. II-1区13号土坑土層断面(南)
2. II-6区16号土坑全景(北)
3. II-6区16号土坑土層断面(西)
4. II-7区17号土坑全景・土層断面(南)
5. II-7区18号土坑全景(西)
6. II-7区18号土坑土層断面(北)
7. II-7区19号土坑全景(西)
8. II-7区19号土坑土層断面(西)
9. II-7区20号土坑全景・土層断面(北)
10. II-7区21号土坑土層断面(北)
11. II-7区22号土坑全景(北)
12. II-7区21号土坑土層断面(南)
13. II-7区24号土坑遺物出土状況(南西)
14. II-7区24号土坑遺物出土状況(南西)
15. II-7区24号土坑全景(南西)

## Pl. 4

1. II-6区25号土坑土層断面(東)
2. II-6区26号土坑土層断面(南)
3. II-7区27号土坑全景(北)
4. II-7区28号土坑全景・土層断面(南)
5. II-2区1号井戸全景(北)

6. II-2区1号井戸土層断面(南)
7. II-2区2号井戸全景(北)
8. II-2区2号井戸土層断面(西)

## Pl. 5

1. II-1区3号井戸全景・土層断面(西)
2. II-3区1号溝全景(北)
3. II-3区1号溝土層断面(東)
4. II-3区2号溝全景(南)
5. II-1区3号溝全景(北)
6. II-1区3号溝土層断面(北)
7. II-2区3号溝全景(北)
8. II-2区3号溝土層断面(北)

## Pl. 6

1. II-3区3号溝南部全景(北)
2. II-3区3号溝北部全景(北)
3. II-3区3号溝土層断面(南)
4. II-4区3号溝全景(南)
5. II-5区3号溝全景(南)
6. II-7区5号溝全景・土層断面(東)
7. II-7区6・7号溝全景(東)

## Pl. 7

1. II-7区8号溝全景(西)
2. II-6区8号溝土層断面(西)
3. II-7区9号溝全景(北)
4. II-7区9号溝全景(西)
5. II-7区9号溝土層断面(西)
6. II-3区1号ピット全景(南)
7. II-3区1号ピット土層断面(東)
8. II-3区2号ピット全景・土層断面(南西)
9. II-5区3号ピット全景(東)
10. II-5区3号ピット土層断面(東)
11. II-7区4・5号ピット全景・土層断面(北)
12. II-7区6号ピット全景・土層断面(北)
13. II-7区7号ピット全景・土層断面(南)
14. II-7区8号ピット全景(北)
15. II-7区9号ピット全景(北)

## Pl. 8

1. II-6区1号地下式坑全景(南西)
2. II-3区1号竪穴状遺構遺物出土状況(東)
3. II-3区1号竪穴状遺構全景(北)
4. II-4区2号竪穴状遺構全景(東)
5. II-4区2号竪穴状遺構土層断面(南)
6. II-6区1号礎石全景(南)
7. III-1区全景(北)
8. III-1区土層断面(南)

PL. 9

1. III-2区全景(南西)
2. III-3区全景(南)
3. III-4区全景(南)
4. III-5区全景西端(南)
5. III-5区全景(南東)
6. III-5区全景(北西)
7. III-5区全景(南東)

PL. 10

1. III-5区1号土坑全景(北東)
2. III-5区1号土坑土層断面(東)
3. III-5区2号土坑全景(北西)
4. III-5区2号土坑土層断面(東)
5. III-5区3号土坑全景(北)
6. III-5区3号土坑土層断面(南西)
7. III-5区4号土坑全景・遺物出土状況(北東)
8. III-5区4号土坑土層断面(南東)
9. III-5区5号土坑全景・土層断面全景(北東)
10. III-5区6号土坑土層断面(南東)
11. III-3区7号土坑全景(東)
12. III-3区7号土坑土層断面(東)
13. III-3区8号土坑全景(南東)
14. III-3区8号土坑土層断面(東)
15. III-5区9号土坑全景(西)

PL. 11

1. III-3区10号土坑全景(東)
2. III-3区10号土坑土層断面(東)
3. III-5区11号土坑全景(南西)
4. III-5区11号土坑土層断面(南西)
5. III-5区12号土坑全景・土層断面(南西)
6. III-5区13号土坑全景・土層断面(北)
7. III-5区14号土坑全景・遺物出土状況(北東)
8. III-5区15号土坑全景(南西)
9. III-5区15号土坑土層断面(南西)
10. III-5区16号土坑全景・土層断面(北東)
11. III-5区17号土坑全景(南)
12. III-5区17号土坑土層断面(北西)
13. III-5区18号土坑全景・土層断面(北西)
14. III-5区19号土坑全景(南西)
15. III-2区20号土坑全景(東)

PL. 12

1. III-2区21号土坑全景・土層断面(東)
2. III-2区22号土坑遺物出土状況(東)
3. III-2区22号土坑全景・土層断面(東)
4. III-2区23・24号土坑全景(南)
5. III-2区23・25号土坑全景(北西)
6. III-2区23・25号土坑土層断面(南)
7. III-5区27号土坑全景(南西)
8. III-5区28・29号土坑全景(南西)
9. III-4区30号土坑全景(南東)
10. III-4区30号土坑土層断面(東)
11. III-4区31・58号土坑全景(西)
12. III-4区31号土坑土層断面(東)
13. III-5区32号土坑全景(東)
14. III-5区32号土坑土層断面(南東)
15. III-4区33・37号土坑全景(南東)

PL. 13

1. III-4区34号土坑全景(南東)
2. III-4区34号土坑土層断面(西)
3. III-4区35号土坑土層断面(西)
4. III-4区36号土坑全景(北西)
5. III-4区36号土坑土層断面(南)

6. III-4区38号土坑全景(西)
7. III-4区38号土坑土層断面(西)
8. III-4区40・41号土坑全景(南西)
9. III-4区42・44・49号土坑全景(北西)
10. III-4区42号土坑土層断面(南西)
11. III-4区44号土坑全景(南東)
12. III-4区46号土坑土層断面(南東)
13. III-4区47号土坑全景(西)
14. III-4区47号土坑土層断面(南東)
15. III-4区47号土坑罐下全景(西)

PL. 14

1. III-4区47号土坑罐下土層断面(南)
2. III-4区48号土坑全景(南西)
3. III-4区50号土坑全景・土層断面(南東)
4. III-5区51・54・57・60号土坑全景(北西)
5. III-5区51号土坑土層断面(南西)
6. III-5区52号土坑土層断面(南東)
7. III-5区53号土坑土層断面(北東)
8. III-5区54号土坑土層断面(北東)
9. III-5区55号土坑全景(北東)
10. III-5区55号土坑土層断面(南西)
11. III-5区56号土坑全景(北東)
12. III-5区56号土坑土層断面(南西)
13. III-5区57号土坑全景・土層断面(南西)
14. III-1区59号土坑土層断面(北)
15. III-5区60号土坑土層断面(北西)

PL. 15

1. III-5区1号井戸全景(北西)
2. III-5区1号井戸土層断面(北東)
3. III-4区2号井戸全景(北西)
4. III-4区2号井戸土層断面(南東)
5. III-4区3号井戸全景(南東)
6. III-4区3号井戸土層断面(北東)
7. III-5区1号溝全景(北)
8. III-3区3号溝全景(南西)

PL. 16

1. III-3区3号溝土層断面(南西)
2. III-4区3号溝全景(南西)
3. III-4区3号溝土層断面(南西)
4. III-2区4号溝全景(南西)
5. III-3区4号溝土層断面A-A' (南西)
6. III-3区4号溝土層断面B-B' (北東)
7. III-4区5号溝全景(南東)
8. III-4区5号溝土層断面(南)

PL. 17

1. III-5区2号ビット全景・土層断面(北)
2. III-5区3号ビット全景・土層断面(東)
3. III-5区5号ビット全景(北西)
4. III-5区5号ビット土層断面(北西)
5. III-5区6号ビット土層断面(西)
6. III-4区7・18号ビット全景(北西)
7. III-4区8・9号ビット全景(北西)
8. III-4区10号ビット全景(南東)
9. III-4区12号ビット全景(南)
10. III-4区13号ビット全景(北西)
11. III-4区13号ビット土層断面(南)
12. III-4区ビット群(北西)
13. III-5区21号ビット土層断面(北)
14. III-5区22号ビット土層断面(西)
15. III-5区23号ビット土層断面(南)

PL.18

1. III-5区24号ピット土層断面(北西)
2. III-5区25号ピット土層断面(南東)
3. III-5区26号ピット土層断面(北西)
4. III-4区27号ピット土層断面(北西)
5. III-5区1号群全景(東)
6. III-5区1号礎石全景(北東)
7. III-5区1号礎石土層断面(北東)
8. III-5区1号礎石船み状況(南)
9. III-5区2号礎石全景(東)
10. III-5区2号礎石全景(南西)
11. III-5区2号礎石土層断面(西)
12. III-4区3~7号礎石全景(南)
13. III-4区3・4号礎石土層断面(北西)
14. III-4区3号礎石土層断面(北西)
15. III-4区4号礎石全景(北西)

PL.19

1. III-4区4号礎石土層断面(東)
2. III-4区5号礎石全景(北東)
3. III-4区5号礎石土層断面(南東)
4. III-4区6号礎石全景(北西)
5. III-4区6号礎石土層断面(東)
6. III-4区7号礎石全景(西)
7. III-4区7号礎石土層断面(東)
8. III-4区8号礎石全景(西)
9. III-3区1号配石全景(西)
10. III-3区1号配石完備後全景(西)
11. III-3区2号配石全景(西)
12. III-3区2号配石完備後全景(西)
13. IV-1区全景(南)
14. IV-2区全景(北東)
15. IV-3区北東端全景(北東)

PL.20

1. IV-3区西端全景(西)
2. IV-3区西全景(東)
3. IV-3区中央全景(南)
4. IV-5区全景(東)
5. IV-5区全景(東)
6. IV-4区1号土坑全景・土層断面(南)
7. IV-5区2号土坑全景(南)

PL.21

1. IV-3区4号土坑全景・土層断面(東)
2. IV-1区5号土坑全景・土層断面(東)
3. IV-1区6号土坑全景・土層断面(東)
4. IV-1区7号土坑全景・土層断面(東)
5. IV-1区8号土坑全景・土層断面(東)
6. IV-1区9号土坑全景(南)
7. IV-1区10号土坑全景・土層断面(南東)
8. IV-1区11号土坑全景(南東)
9. IV-1区11号土坑・5号井戸土層断面(東)
10. IV-1区11号土坑底部付近土層断面(南西)
11. IV-1区12号土坑全景(北西)
12. IV-1区12号土坑土層断面(東)
13. IV-1区13号土坑土層断面(西)
14. IV-4区14号土坑全景(南西)
15. IV-4区15号土坑全景・土層断面(東)

PL.22

1. IV-4区16号土坑全景(北)
2. IV-4区16号土坑土層断面(北東)
3. IV-4区17号土坑土層断面(北)
4. IV-4区18号土坑土層断面(南西)
5. IV-3区21号土坑全景(南東)

6. IV-3区21号土坑土層断面(南西)
7. IV-3区22号土坑出土遺物(東)
8. IV-3区22号土坑全景(南西)
9. IV-3区22号土坑土層断面(北)
10. IV-3区23・25号土坑土層断面(南東)
11. IV-3区25号土坑出土遺物(南東)
12. IV-3区26号土坑全景・土層断面(北西)
13. IV-3区28号土坑全景(西)
14. IV-3区29号土坑出土遺物状況(北)
15. IV-3区29号土坑全景(北)

PL.23

1. IV-3区29号土坑土層断面(西)
2. IV-4区30号土坑全景・土層断面(北)
3. IV-3区32号土坑遺物出土状況(南)
4. IV-3区32号土坑全景(南)
5. IV-3区32号土坑土層断面(南西)
6. IV-3区33号土坑全景・土層断面(西)
7. IV-4区34号土坑土層断面(南)
8. IV-3区36号土坑全景・土層断面(北西)
9. IV-3区38号土坑遺物出土状況(南西)
10. IV-3区38号土坑全景(南)
11. IV-3区38号土坑土層断面(南西)
12. IV-3区39号土坑全景(東)
13. IV-3区39号土坑土層断面(南)
14. IV-3区40号土坑全景(西)
15. IV-3区40号土坑土層断面(北西)

PL.24

1. IV-3区41号土坑全景(北)
2. IV-3区42号土坑全景(東)
3. IV-3区42号土坑土層断面(南)
4. IV-3区43号土坑全景(南)
5. IV-3区43号土坑土層断面(南西)
6. IV-2区44号土坑全景・土層断面(北)
7. IV-3区1号井戸全景・土層断面(東)
8. IV-3区2号井戸全景・土層断面(南)
9. IV-1区3号井戸全景(南東)
10. IV-1区3号井戸土層断面(南西)
11. IV-1区4号井戸土層断面(北東)
12. IV-3区6号井戸全景(北東)
13. IV-3区6号井戸土層断面(南東)
14. IV-3区7号井戸全景(北東)
15. IV-3区7号井戸土層断面(南東)

PL.25

1. IV-3区8号井戸全景(北)
2. IV-4区9号井戸全景(東)
3. IV-3区10号井戸全景・土層断面(北)
4. IV-3区11号井戸全景・土層断面(東)
5. IV-2区12号井戸全景(西)
6. IV-2区12号井戸土層断面(北東)
7. IV-3区13号井戸全景(北東)
8. IV-2区13号井戸全景・土層断面(南)

PL.26

1. IV-5区1号溝全景(南)
2. IV-5区1号溝土層断面(北)
3. IV-5区2号溝全景(南東)
4. IV-5区2号溝(北)
5. IV-1区3号溝全景・土層断面(東)
6. IV-4区4号溝土層断面(南)
7. IV-5区4号ピット土層断面(南)
8. IV-5区5号ピット全景(南)

PL.27

1. IV-5区6号ピット全景(南)
2. IV-5区7号ピット土層断面(東)
3. IV-1区21号ピット土層断面(東)
4. IV-1区22・23号ピット全景(北西)
5. IV-1区22号ピット土層断面(南)
6. IV-1区24～27・30・31・33号ピット群全景(南東)
7. IV-1区23号ピット土層断面(南西)
8. IV-1区24号ピット土層断面(南)
9. IV-1区25号ピット土層断面(西)
10. IV-1区26号ピット土層断面(南)
11. IV-1区27号ピット土層断面(南)
12. IV-1区30号ピット土層断面(南西)
13. IV-1区31号ピット土層断面(南西)
14. IV-4区34号ピット全景・土層断面(南西)
15. IV-4区36号ピット土層断面(北東)

PL.28

1. IV-4区37号ピット土層断面(東)
2. IV-4区38号ピット土層断面(南西)
3. IV-4区39号ピット土層断面(北西)
4. IV-3区40～42号ピット全景・土層断面(南東)
5. IV-4区60号ピット土層断面(南)
6. IV-4区61・62号ピット土層断面(南)
7. IV-3区63号ピット土層断面(南)

8. IV-3区64号ピット全景(北)
9. IV-3区65号ピット全景(西南)
10. IV-3区66号ピット全景(北)
11. IV-3区66号ピット土層断面(北西)
12. IV-3区67号ピット全景(北)
13. IV-3区68号ピット全景(北西)
14. IV-2区69号ピット土層断面(東)
15. IV-2区70号ピット土層断面(南西)

PL.29

1. IV-2区71号ピット土層断面(南西)
2. IV-2区72号ピット土層断面(南)
3. IV-4区3～5号礎石全景(南東)
4. IV-5区2号礎石全景(南)
5. IV-5区2号礎石土層断面(南)
6. IV-4区3号礎石全景(南西)
7. IV-4区3号礎石掘方全景(南)
8. IV-4区4号礎石全景(南西)
9. IV-4区4号礎石上面石取り上げ後(南)
10. IV-4区4号礎石完掘後全景(北)
11. IV-4区5号礎石全景(南西)
12. IV-4区5号礎石下面全景(南)
13. IV-4区5号礎石完掘後全景(南)
14. IV-2区旧石部確認調査坑全景(南)
15. IV-2区旧石部確認調査坑土層断面(北西)

## 第1章 調査に至る経緯、調査の方法・経過

### 第1節 調査に至る経緯

世良田環濠集落遺跡は群馬県太田市世良田町に所在する(第1図)。世良田町は太田市の南西の端にあたり、旧尾島町の西端に位置する。

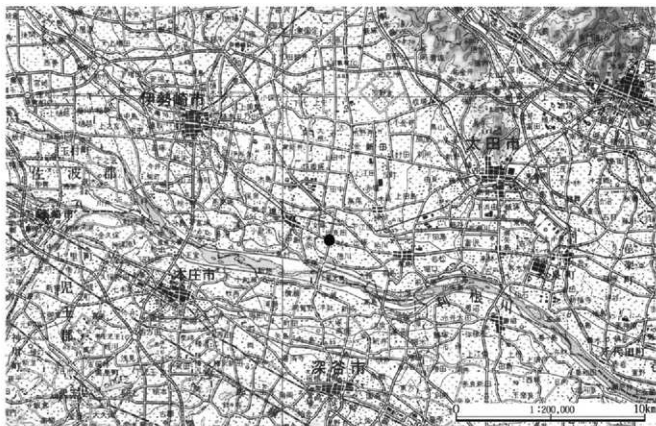
発掘調査は、世良田町を南北に走る主要地方道大間々世良田線、同伊勢崎・深谷線と、東西に貫く国道354線とが交わる世良田交差点の改良工事に先立って行われた。

改良工事では、交差点付近の道路が拡幅されるため、交差点4方向が発掘調査の対象となった。国道354線の北側、主要地方道大間々世良田線の北東側にあたる調査区(1区)における調査成果については、平成27年1月16日に当事業団から刊行された『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文

化財発掘調査報告書』にすでに纏められている。

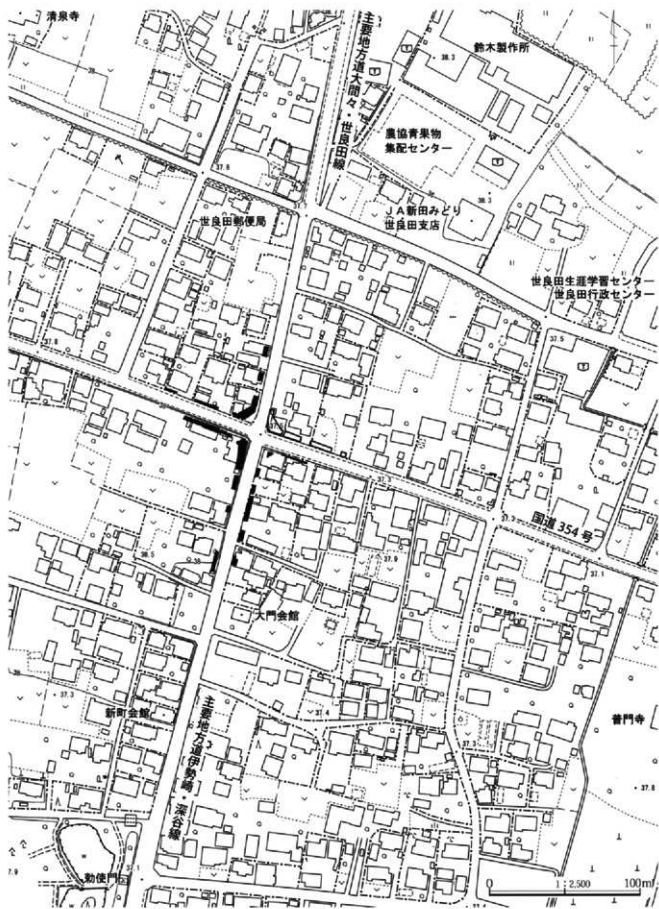
この事業については、平成25年5月10日、群馬県土整備部建設企画課から群馬県教育委員会事務局文化財保護課に対して、平成25年度社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事についての事業照会から始まった。県教育委員会文化財保護課は、同年6月18日、当該箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内にあたることから、文化財保護法第94条による届出が必要なこと、工事対象地の遺構の有無次第では埋蔵文化財発掘調査が必要なることを回答した。

8月26日に、県太田土木事務所と県教育委員会文化財保護課により現地協議が行われ、県教育委員会文化財保護課からは試掘調査の実施が提案され、9月30日に県教育委員会文化財保護課が試掘調査を実施し、遺構の存在を確認したため、埋蔵文化財の記録保存を前提とした発掘調査が行われ、県太田土木事務所から当事業団に委託



第1図 遺跡の位置(1)

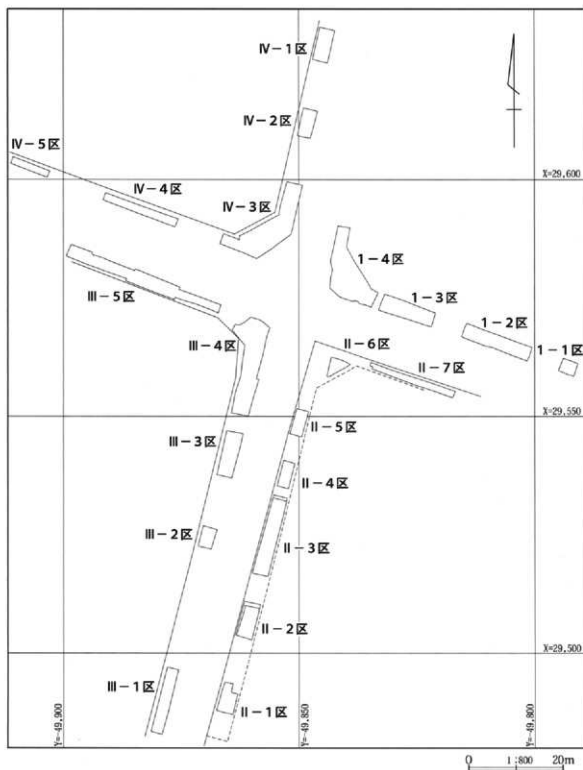
(国土地理院200,000分の1地勢図「宇都宮」(平成23年6月1日発行)使用)



第2図 遺跡の位置(2)

(太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1地形図(平成23年測図)を使用)





第3図 調査区設定図

されることとなった。

世良田交差点北東側の発掘調査は、平成26年2月1日から28日まで当事業団によって実施され、平成26年9月1日から平成27年1月31日までの間、整理作業が実施された。

交差点北西・南東・南東側の発掘調査は、平成26年6月1日から6月30日までと、平成26年10月1日から12月31日までの2回にわたって実施し、整理業務を平成27年4月1日から9月30日までの間実施した。

## 第2節 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

調査の対象になったのは世良田交差点の北西、南東、南西側3箇所であり、南東側をⅡ区、南西側をⅢ区、北西側をⅣ区とした。それぞれの調査区は、対象地に隣接する民家への進入路、あるいはすでに地下に埋納されたライフライン確保のため寸断され、Ⅱ区はⅡ-1～7調査区、Ⅲ区はⅢ-1～5調査区、Ⅳ区はⅣ-1～5調査区に細分して調査を行った。

遺構の測量には世界測地系(日本測地系2000平面直角座標Ⅸ系)を用いた。調査区が狭小であるため、特に本遺跡特有のグリッドは設けていない。位置の表示が必要な場合は、1m×1m単位のグリッドを作り、その南東側の差票の下三桁を用いて表している(例: X=29,565、Y=-49,804の場合、565-804と表す)。

調査の方法であるが、バックホーによる表土除去の後、鍬旗を用いて遺構確認を行い、確認できた遺構について発掘調査を行った。住宅密集地における発掘調査だったため、遺構確認には多くの攪乱がみられ、遺構確認は困難を極めた。確認できた主な遺構は、地下式坑1、土坑132、溝18、井戸20、ピット117、礎石14などであり、それぞれ埋土の土層観察のために半截するなどをして掘り下げた。各遺構の名称は、各調査区ごと、各遺構の種類ごとに番号を付して表現した。

遺構の測量は測量業者に委託し、平面図、断面図ともに縮尺は1/20とし、データをデジタル化してその後の整理作業の便を図っている。また、写真撮影はデジタル一眼レフカメラにより、一部にプロローニー版の白黒フィルムを使用している。

なお、すでに報告書を刊行した1区では、調査対象地に、ロームではないかと思われる土層の堆積が認められたため、1-3調査区において2m×2mの旧石器確認のためのトレンチを設定して確認調査を実施したが、良好なローム層は確認することができなかった。本調査区でも旧石器の分布はないものと判断し、それ以上の調査は行なっていなかった。

今回の調査ではⅢ-4調査区及びⅣ-3調査区において2m×2mの旧石器確認のためのトレンチを2箇所設

定して確認調査を実施したが、良好なローム層は確認することができなかった。本調査区でも旧石器の分布はないものと判断し、それ以上の調査は行なわなかった。

### 2. 調査の経過

現地における発掘調査は平成26年6月2日(月)から着手し、最初に世良田交差点南東側にあたるⅡ区の調査から着手した。6月27日(金)までⅡ-5区の調査を実施して、一時中断し、その後、11月7日(金)から再着手した。11月10日(月)からはⅢ区・Ⅳ区の調査にも着手し、11月14日(金)にはⅡ-7区の埋め戻しに着手し、11月17日(月)にはⅡ区のすべての調査を終了し、Ⅱ区から撤収している。

以後、11月下旬からはⅢ区・Ⅳ区の発掘調査が主体となり、12月15日(月)からはⅣ区、翌12月16日(火)からはⅢ区でも旧石器の確認調査に着手し、12月18日(木)にはⅢ・Ⅳ区ともに埋め戻しに着手、19日(金)まで実施し、現場での作業を終え、以後は12月24日(木)まで基礎整理を実施した。

## 第3節 整理作業の概要

整理作業は平成27年4月1日(水)から9月30日(水)まで、6箇月間実施した。

遺構図面は調査区ごとに順次、点検・修正・編集を行い、掲載図面をデジタルデータとして作成した。遺物については、接合・復元・写真撮影・実測の後、実測図をスキャンしてデジタルデータ化した。遺物実測と並行して遺物の観察を行い、遺物観察表を作成した。

写真は、遺構・遺物ともデジタル写真から編集をおこなった。

以上の作業と並行して本文の執筆、土層説明や各種一覧表を作成し、それらを併せてレイアウトを作成した後、デジタル編集し、9月上旬までに報告書原稿を作成した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

世良田環濠集落遺跡は群馬県南部の平野域の東部に位置する太田市の南西隅付近、旧尾島町の町域の西端近くに所在している。

広大な関東平野の北端に位置しており、市全体の地形は、北から中央東側にかけて金山・八王子丘陵があるが、それ以外はほぼ平坦地で、全体的には起伏に乏しい地形である。

市域の西側には広大な大間々扇状地が広がり、その南側には低い台地と、それとあまり標高差のない低地が広がっている。

市域の北東部は渡良瀬川によって栃木県と、南は利根川によって埼玉県と接しており、古代以来、上野国と下野・武蔵両国との国境地帯に位置し、交通の要衝であった。

本遺跡地の標高は、世良田交差点で37.5mである。周辺の地形分類は、第4図(1)区発掘調査報告書『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業発掘調査報告書第595集世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015.1.より引用)に見るように大間々扇状地の南側にあたり、利根川の沖積作用によって形成された平野が広がっている。

本遺跡は、伊勢崎市街地から広瀬川右岸に沿って東に延びる伊勢崎台地の東端にあたり、先端は旧尾島町の中心市街地にまで及ぶ幅1km前後の細長く低い台地で、「伊勢崎砂層」で構成される「尾島台地」上に立地し、「伊勢崎砂層」の表層には二次堆積のローム層が堆積しているという(澤口宏「第二章地形・地質」『尾島町誌通史編』上巻尾島町、1993)。本遺跡では第一次調査、第二次調査とも旧石器の確認調査を実施したが、いずれの調査区においても純粋なローム層は確認できていない。

現在、本遺跡の周辺では、北側の低地が水田、南側の台地が集落や畑として利用され、遺跡のある地域は現在、

世良田の集落となっており、宅地以外には畑地である。今回、調査対象地となったのは集落中心部の交差点周辺であり、江戸時代後期～幕末期の絵図でも宅地として描かれており、古くから宅地として利用されていたと考えられる。そのため、調査範囲には多くの攪乱が入り、遺構の残りはよい状態ではなかった。

### 第2節 歴史的環境

調査対象地は、インターネット上に公開されている群馬県統合型地理情報システム(GIS)マッピングぐんまの「遺跡・文化財」<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp>、2015年9月現在のデータ)によれば、南北1km、東西1kmほどの範囲にわたって、「J0052世良田環濠集落」として中世集落・城館跡の周知の埋蔵文化財包蔵地とされている。埋蔵文化財包蔵地として認定されている範囲には、国指定史跡新田荘遺跡群を構成する総持寺境内、長楽寺境内、東照宮境内など中世から近世にかかわる寺社などが存在している。

なお、第5図「周辺の遺跡」に掲載した周辺遺跡の名称・位置・範囲は、上記マッピングぐんま「遺跡・文化財」のデータに依拠した。

なお、上記は、本遺跡の先行報告書である当事業団編(資料統括高井佳弘編集担当)『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業発掘調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015.1.の第1章第1節「調査に至る経緯」・第2章第1節「地理的環境」・第2章第2節「歴史的環境」を一部引用した。

#### 1. 旧石器時代

遺跡が所在する尾島台地上では、これまでのところ本遺跡を含めて旧石器時代の遺構・遺物は全く検出されない。

本遺跡の北、約1kmに位置する尾島工業団地遺跡群内



第4図 周辺地形分類図

(地形分類は群馬県「土地分類基本調査・深谷」(1991)、『岡・高崎』(1993)による。国土地理院 50,000分の1地形図「深谷」(平成10年9月1日発行)、『高崎』(平成10年12月1日発行)使用)



第5図 周辺の遺跡

(国土地理院25,000分の1地形图上野焼) (平成14年2月1日発行、深谷(平成14年9月1日発行)使用)

## 第2章 遺跡の位置と環境

第1表 周辺の遺跡一覧表(1)

番号	遺跡名称	所在地	時代	種類	文献等
1	曾良田環濠集落遺跡	太田市曾良田町	中世	集落・城跡	本報古書 尾島町誌専門員会1963「尾島町誌 通史編上巻」
2	上新田遺跡	太田市曾良田町	古墳・中世	散布地、城跡	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」
3	新田遺跡	太田市曾良田町	中世	城跡	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」、尾島町教育委員会1997「新田遺跡」
4	今井地区遺跡群	太田市曾良田町	古墳・平安～中近世	集落・城跡・寺社・墓	平成元～6に5次の発掘調査を実施
5	今井遺跡	太田市曾良田町	中世・近世	集落	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」
6	曾良田城跡	太田市曾良田町	中世	城跡	群馬県教育委員会1985「群馬県の中世城跡群」
7	長楽寺遺跡	太田市曾良田町	弥生・古墳・中世・近世	集落、社寺、古墳	尾島町教育委員会1979「長楽寺遺跡」、1984「長楽寺遺跡」、1992「長楽寺遺跡」
8	曾良田新町遺跡	太田市曾良田町	中世	社寺	平成10.5～7発掘調査実施
9	東照宮南遺跡	太田市安養寺町	中世・近世	城跡	「藤馬島の中世城跡群」
10	上新田日遺跡	太田市曾良田町	中世	集落	尾島町教育委員会1979「長楽寺遺跡」、1984「長楽寺遺跡」
11	若松野原跡	太田市曾良田町	中世・近世	城跡	「藤馬島の中世城跡群」
12	船白瀬跡	太田市曾良田町	古墳・中世・近世	集落・城跡・寺社	「尾島町誌通史編上巻」
13	宝積院跡	太田市曾良田町	古墳・中世・近世	集落・城跡・寺社	尾島町誌専門員会1963「尾島町誌通史編上巻」
14	曾良田神社	太田市曾良田町	中世・近世	その他	平成14・15発掘調査実施
15	積善場遺跡	太田市曾良田町	奈良・平安	散布地	昭和63.9～10発掘調査実施
16	曾良田下町遺跡	太田市曾良田町	古墳・中世・近世	散布地	昭和61.11試掘
17	曾良田海跡下遺跡	太田市曾良田町	古墳・平安～中近世	古墳・集落・生産	尾島町教育委員会1994「曾良田海跡下遺跡」
18	下原古墳群	太田市曾良田町	古墳	古墳	
19	曾良田下江田前遺跡	太田市曾良田町	不明	不明	尾島町教育委員会1992「出塚大日南遺跡・船川黒川遺跡・曾良田下江田前遺跡」
20	下江田前遺跡	太田市曾良田町	中世	その他	群文1991「飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡」
21	浮城流下遺跡群	太田市	古墳	集落・生産	
22	曾良田若宮遺跡	太田市曾良田町	古墳	散布地	
23	曾良田諏訪東遺跡	太田市曾良田町	古墳・奈良	散布地	
24	出塚大日南遺跡	太田市曾良田町	古墳	散布地	尾島町教育委員会1992「出塚大日南遺跡・船川黒川遺跡・曾良田下江田前遺跡」
25	徳川断跡	太田市徳川町	中世	城跡	昭和63.5発掘調査実施
26	緑切寺菩提寺遺跡	太田市曾良田町	近世	社寺	発掘調査実施
27	大塚新成遺跡	太田市大塚町	古墳・中世	散布地	昭和63.12調査(試掘)
28	大塚断跡	太田市大塚町	縄文・古墳	散布地	「藤馬島の中世城跡群」
29	安養寺西区立遺跡	太田市安養寺町	中世	城跡	「藤馬島の中世城跡群」
30	安養寺区立遺跡	太田市安養寺町	縄文・古墳	散布地	
31	安養寺森西遺跡	太田市安養寺町	古墳・中世・近世	城跡・その他	
32	安養寺森ノ内遺跡(安養寺断跡)	太田市安養寺町	弥生・古墳・中世・近世	散布地・城跡	「群馬県の中世城跡群」、尾島町教育委員会「安養寺断跡」2004
33	安養寺北原遺跡	太田市安養寺町	中世・近世	その他	平成12.6～8発掘調査実施
34	船川本郷遺跡	太田市船川町	古墳・奈良	散布地	
35	安養寺東区立遺跡	太田市安養寺町	中世	城跡	「群馬県の中世城跡群」
36	安養寺森西遺跡・大塚馬場遺跡・阿久津宮内遺跡	太田市安養寺町			群文1955「安養寺森西遺跡・大塚馬場遺跡・阿久津宮内遺跡」
37	船川新堀下遺跡	太田市船川町	古墳・平安	集落・墓	尾島町教育委員会2000「船川新堀下遺跡」
38	龜岡軒瓦遺跡	太田市龜岡町	中世・近世	その他	尾島町教育委員会2005「龜岡軒瓦遺跡」
39	尾島裏町遺跡	太田市尾島町	古墳・中世	散布地	
40	下田島遺跡	太田市下田島町	縄文・古墳	古墳・集落	太田市教育委員会2005「市内遺跡第3」、2004「市内遺跡第20」、2005「市内遺跡第21」
41	石之塔遺跡	太田市中郷町	古墳	散布地	
42	長福寺遺跡	太田市下田島町	古墳・平安・近世・中世・江戸	集落・城跡・寺社	太田市教育委員会1992「長福寺遺跡発掘調査報告」、2005「長福寺遺跡第2巻」
43	西田島遺跡	太田市下田島町	縄文・古墳・平安・近世	古墳・集落・城跡	太田市教育委員会1987「西田島遺跡」、1991「西田島遺跡Ⅱ-下田島上跡の調査-」
44	若松屋址	太田市下田島町	中世	城跡	
45	屋宇新遺跡	太田市船町	縄文・古墳	古墳・集落	太田市教育委員会1996「屋宇新遺跡」
46	なだ山遺跡	太田市船町	縄文・古墳	散布地	
47	船川山之神遺跡	太田市船川町	縄文・近世	散布地	尾島町教育委員会1992「船川山之神遺跡」、1994「船川山之神遺跡Ⅱ」、1997「船川山之神遺跡」、1998「船川山之神遺跡Ⅲ」
48	杉ノ内遺跡	太田市下田島町	古墳	散布地	
49	松木ヶ谷戸遺跡	太田市中郷町	古墳	散布地	
50	下田遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳	散布地・その他	新田町教育委員会1992「下田遺跡」
51	大石新遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳	散布地・その他	「資料編(上)」新田町誌、第2巻
52	長命寺集落跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳・平安	散布地	「資料編(上)」新田町誌、第2巻
53	中道遺跡	太田市新田木崎町	古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌、第2巻
54	花園遺跡	太田市新田木崎町	旧石器・縄文～平安・中世	集落	新田町教育委員会1996「中江田遺跡群花園遺跡」、2001「新田町内遺跡Ⅲ」

第2表 周辺の遺跡一覧表(2)

番号	遺跡名称	所在地	時代	種類	文献等
55	下野地遺跡	太田市新田赤塚町	古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
56	繁宮遺跡	太田市新田中江田町	古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
57	ハツ岡遺跡	太田市新田中江田町	集落・墓	縄文・古墳～平安・中近世	群文1985「中江田ハツ岡遺跡」、新田町教育委員会1998「ハツ岡遺跡」
58	中江田原遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文～奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
59	原形遺跡	太田市新田中江田町	中世・近世	城館	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
60	新門遺跡	太田市下江田町	古墳	城館	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
61	五反田遺跡	太田市新田下江田町	縄文・古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
62	下江田本郷遺跡	太田市新田下江田町	縄文・古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
63	中江田本郷遺跡	太田市新田中江田町	縄文・古墳～平安・中世	集落	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
64	中江田本郷遺跡(中江田本郷虎寺)	太田市新田中江田町	縄文・古墳～平安・中世	集落・寺社	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
65	赤仏遺跡	太田市新田中江田町	古墳・奈良・平安・他	散布地	
66	中江田前通遺跡	太田市新田中江田町	古墳・奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
67	中江田乙遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
68	中江田丙遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文・古墳	散布地	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
69	出来返寺跡	太田市新田中江田町	中世・近世	社寺	「資料編(上)」新田町誌(第2巻)
70	中江田A遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文～奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」、2001「上野井古墳群・堀原遺跡・中江田A遺跡」
71	歌舞伎遺跡	太田市曹良田町	古墳～奈良・平安～中世	集落	群文1982「歌舞伎遺跡」尾島町教育委員会1998「歌舞伎遺跡」
72	曹良田上塚分遺跡	太田市曹良田町	古墳・奈良・平安	集落	尾島町教育委員会1995「曹良田上塚分遺跡」
73	原塚遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳・平安	古墳・集落	群文1987「原塚遺跡」2012「尾島工業団地遺跡」
74	小角田前遺跡	太田市曹良田町	古墳～奈良・平安・中世	集落	群文1986「小角田前遺跡」、1995「小角田前1・B遺跡」、太田町教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
75	小角田下遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳～奈良・中世	古墳	太田町教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
76	小角田古墳群	太田市小角田町	古墳	古墳	
77	小角田中遺跡	太田市小角田町	古墳・平安・近世	集落・墓	尾島町教育委員会1997「小角田遺跡群」
78	小角田中道遺跡	太田市小角田町	中世・近世	集落・墓	平成12.1～2発掘調査実施
79	中道遺跡	太田市新田下田中町	古墳～中世		(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」、群文1995「下田中道遺跡・下田中川久保遺跡」
80	下田中川久保遺跡	太田市新田下田中町	中世		新田町教育委員会2005「新田町内遺跡群」、群文1995「下田中道遺跡・下田中川久保遺跡」
81	三ツ木沼田遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文・古墳・平安・近世	古墳・集落・生産	群文2000「三ツ木沼田遺跡」
82	三ツ木通り3遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	奈良・平安	散布地	
83	三ツ木・堀戸遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	奈良・平安	散布地・集落	群文1981「三ツ木遺跡」
84	三ツ木・堀戸2遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
85	三ツ木・住持寺遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳・奈良・平安	集落	発掘調査1983～85実施
86	水久保遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳・平安	古墳・城館	太田市教育委員会2013「尾島工業団地遺跡」
87	水久保3遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
88	水久保2遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
89	水久保1遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
90	三ツ木遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文・奈良・平安	集落	群文1985「三ツ木遺跡」他
91	三ツ木・自然史遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文～奈良・平安	集落・集落	地町教育委員会1980「今井井・三ツ木遺跡調査報告」
92	土矢倉遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳～奈良・平安	集落・墓	地町教育委員会1979「土矢倉遺跡発掘調査報告」
93	三ツ木・西林遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文・古墳～中世	集落・墓	山崎～1979「上毛古城址の研究」、地町教育委員会1979「西林遺跡第1次発掘調査報告」
94	女塚・下田遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳・平安～中近世	集落・墓	地町教育委員会1979「西林遺跡・下田遺跡発掘調査報告」
95	栄・谷川遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
96	女塚・大塚塚遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	奈良・平安	散布地	
97	女塚遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	奈良・平安	散布地・集落	地町発掘1978「地町の古代遺跡」他
98	女塚・道西遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	奈良・平安	散布地	
99	女塚・新開地遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
100	女塚・堀古遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
101	三蔵塚遺跡	太田市曹良田町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」
102	女塚・熊之野3遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	奈良・平安	散布地	
103	女塚・熊之野2遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文	散布地	
104	女塚・熊之野1遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文	散布地	
105	北米河遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文・古墳～中世	散布地・集落	私立伊勢崎女子高等学校1962「群馬県塩三ツ木河遺跡」
106	米岡・沼塚遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	縄文・古墳・奈良・平安	散布地	
107	米岡・光正坊遺跡	伊勢崎市塩三ツ木町	平安・中世	散布地	

## 第2章 遺跡の位置と環境

第3表 周辺の遺跡一覧表(3)

古墳	番号	古墳名称	所在地	時代	種別	文献等
1	伊良田村1号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
2	伊良田村2号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
3	伊良田村3号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
4	伊良田村4号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
5	伊良田村5号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
6	伊良田村6号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
7	伊良田村7号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
8	伊良田村8号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
9	伊良田村9号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
10	伊良田村10号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
11	伊良田村11号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
12	伊良田村12号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
13	伊良田村13号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
14	伊良田村14号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
15	伊良田村15号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
16	伊良田村16号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
17	伊良田村17号墳(一本松塚古墳)	太田市伊良田町	古墳・中世・近世	散在地	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
18	伊良田村18号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
19	伊良田村19号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
20	伊良田村20号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
21	伊良田21号墳(しどろみ山古墳)	太田市伊良田町	古墳・中世・近世	散在地	尾島町教育委員会1994「伊良田論語下遺跡」	
22	伊良田村22号墳(第二しどろみ山古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
23	伊良田村23号墳(鉢地蔵塚古墳)	太田市伊良田町	古墳・中世・近世	散在地	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
24	伊良田村24号墳(源南塚古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
25	徳川義孝家代の墓・伊良田村25号墳(文徳山古墳)	太田市伊良田町	古墳・中世	古墳・墓その他	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
26	伊良田村26号墳(船岡山古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
27	伊良田村27号墳(下ノ籠古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
28	伊良田村28号墳(二子塚古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
29	伊良田村29号墳(御福山古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
30	伊良田村30号墳(歌舞山古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
31	伊良田村31号墳(屋敷古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳(前方後円墳)	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
32	伊良田村32号墳(鏡神塚古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」	
33	伊良田村33号墳(上ノ籠古墳)	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
34	伊良田村34号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会1998「伊良田論語下遺跡」	
35	伊良田村35号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会1999「伊良田論語下遺跡」	
36	伊良田村36号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2000「伊良田論語下遺跡」	
37	伊良田村37号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2001「伊良田論語下遺跡」	
38	伊良田村38号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2002「伊良田論語下遺跡」	
39	伊良田村39号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2003「伊良田論語下遺跡」	
40	伊良田村40号墳	太田市伊良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
41	伊良田村41号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2004「伊良田論語下遺跡」	
42	伊良田村42号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2005「伊良田論語下遺跡」	
43	伊良田村43号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2006「伊良田論語下遺跡」	
44	伊良田村44号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2007「伊良田論語下遺跡」	
45	中道1号墳	太田市藤田(下)中町	古墳	古墳	前掲文1995「下田中道遺跡・下田中川久保遺跡」	
46	穴船神社古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳		
47	二ツ山古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳		
48	日東源寺跡古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳		
49	石川古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
50	本郷古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳		
51	百伏中古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
52	藤古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳		
53	轟下古墳	太田市藤田(中)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
54	木崎村5号墳(二ツ塚古墳)	太田市藤田(下)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
55	長塚塚古墳	太田市藤田(下)江野町	古墳	古墳		
56	長命寺古墳	太田市藤田(下)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
57	大石塚古墳	太田市藤田(下)江野町	古墳	古墳		
58	木崎二ツ塚古墳	太田市藤田(下)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
59	神ノ塚古墳	太田市藤田(下)江野町	古墳	古墳	「資料編(上)」、「新田町誌」第2巻	
60	尾島町1号墳	太田市尾島町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	
61	尾島町2号墳	太田市尾島町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌遺史編上巻」	



歌舞伎遺跡(71)で終末期の尖頭器、中江田A遺跡(70)と中江田原遺跡(58)からも浅間山火山灰(As-Bpブロック)を含む層位からスクレイパーが1点とナイフ型石器が2点出土している。

## 2. 縄文時代

遺跡が所在する尾島台地上では、現在までのところ縄文時代の遺跡も見つかっていない。

周辺では、前期～後期の集落遺跡がいくつか発見されているものは、いずれも小規模である。

**前期集落** 本遺跡の北東約1.2kmに位置する花園遺跡(54)がある。

**中期集落** 本遺跡から約1～1.5km北に位置する尾島工業団地遺跡群内の歌舞伎遺跡(71)・小角田下遺跡(75)・小角田前遺跡(74)・水久保遺跡(86)・水久保Ⅱ遺跡(87)・水久保Ⅲ遺跡(88)・鼠塚遺跡(73)などがある。

**後期集落** 尾島工業団地遺跡群内小角田前遺跡(74)と本遺跡の東北東約3kmに位置する粕川山之神遺跡(47)などがある。

## 3. 弥生時代

弥生時代になるとようやく尾島台地にも小規模ながら集落が形成され始めてくる。

これら本遺跡周辺で確認されている弥生時代の集落遺跡も、本遺跡周辺の縄文時代集落と同様、いずれも小規模なもののばかりである。

**中期** 本遺跡から約700m南側という近い位置に所在する長楽寺遺跡(6・7・25などとほぼ同位置)では、弥生時代中期中葉(須和田式期)の竪穴住居が2棟調査されている。この他、本遺跡の西南西約3kmに位置する阿久津宮内遺跡(36)では中期の条痕土器が、また、中期の土器が、本遺跡の東北東約1.4kmに位置する花園遺跡(54)や歌舞伎遺跡(71)などから出土している。

**後期** 小角田前遺跡(74)では、樽式期の竪穴住居1棟が調査されている。

## 4. 古墳時代

**前期集落等** 群馬県における古墳時代前期土器の標識遺跡である石田川遺跡が本遺跡の東約6kmに存在し、本遺跡から約700m南側という近い位置にあり、弥生時代中

期中葉(須和田式期)の竪穴住居が2棟調査された長楽寺遺跡(6・7・25などとほぼ同位置)では、古墳時代前期の竪穴建物群が31棟が検出されている。

他に、鼠塚遺跡(73)・小角田前遺跡(74)・小角田下遺跡(75)・花園遺跡(54)・水久保遺跡Ⅰ～Ⅳ(86～89)、本遺跡から北西に約2.5kmの三ツ木遺跡(90)などで古墳時代前期の竪穴建物群や方形周溝墓、壺棺墓等が検出されている。

**中期集落** 中期では前期以上に集落の規模が拡大している様相がみられる。

尾島工業団地遺跡群では、古墳時代中期の竪穴住居合計117棟などと共に幅4.2m・深さ1.2mの南北方向の濠が検出され(鼠塚遺跡(73))、張り出しがみられることから、平面形は五角形状で、南辺約105m・東辺約60m・北東辺約110m・北西辺約90m・西辺約70m(溝)という規模を呈する古墳時代の豪族居館跡と想定された。南側の谷、北東側の旧早川、北西側の湿地という自然地形をうまく利用し、台地を分断するように2本の濠を掘って区画しており、時期は、溝からの出土遺物と土層断面の状況から、5世紀後半～6世紀初頭と見られる。

この他、歌舞伎遺跡(71)や花園遺跡(54)でも集落が調査されている。

**中期の島** 本遺跡の北東約800mに位置する大館馬場遺跡(27・28付近)では、榛名山火山灰FA層下の島も調査されている。

**後期集落** 本遺跡から東北東に約400mという至近に位置する宝積遺跡(13)で、この時期の集落が検出されている。

大規模な集落は、本遺跡の約1～1.5km北に位置する尾島工業団地内遺跡群で、古墳時代後期(鬼高期)の竪穴住居合計611棟検出され、周囲の世良田諏訪下遺跡(17)、小角田前遺跡(74)・歌舞伎遺跡(71)、本遺跡から北東へ約1.5kmの場所に位置する中江田A遺跡(70)・中江田原遺跡(58)、本遺跡の東北東約1.4kmに位置する花園遺跡(54)など多くの遺跡から後期の集落が発見されている。

**後期の島** 本遺跡の西南西約2kmに位置する安養寺森西遺跡・阿久津宮内遺跡(36)では洪水層下の古墳時代の島が検出された。

**古墳** 1938(昭和13)年に刊行された『上毛古墳総覧』に

は、旧世良田村内で55基の古墳が掲載されている。その多くは古墳時代後期・6世紀以降の径10m前後の小型円墳であるが、本遺跡の周辺で最も規模が大きい古墳は、本遺跡の北北東約1.5kmに位置する全長約90mの前方後円墳、世良田村37号墳(古墳表37)であり、大刀・刀装具・金環・埴輪多数が出土している。

本遺跡から約700m南側という近い位置に所在する長楽寺遺跡(6・7・25などとほぼ同位置)からは、周濠に椀山火山灰FA層が堆積する円墳5基と埴輪箱1基が発見されている。

本遺跡の北東約1kmに位置する尾島第二工業団地内遺跡群内の世良田諏訪下遺跡(17)では、帆立貝式古墳4基を含む古墳73基が調査された。一部が低地に立地したため、平安時代に起こった洪水で埋没し、埴輪が配置された状態のまま検出された。

本遺跡の北約1.2kmに位置する世良田工業団地内遺跡群の鼠塚遺跡(73)では、円墳とともに「上毛古墳総覧」に「世良田村31号墳(鼠塚)」(古墳表31)として掲載されている古墳が調査され、全長44mの前方後円墳であったことが判明した。

## 5. 奈良・平安時代

**郡・郷** 本遺跡の地は律令制下には新田郡内にあたる。新田郡の郡名「新田」は、中世の『万葉集』の写本では「爾比多」、平安時代の『延喜式』や『和名抄』では「尔布多」と読みが振られており、「ニヒタ」とか「ニフタ」などと発音されていたと考えられる。旧新田町内の遺跡では、「入田」と記載した墨書土器が多く出土しており、「ニフタ」と発音されていたことを裏付ける。

新田郡は、西側を佐佐郡と、北東から東側にかけては山田郡と、北側を勢多郡と接し、南側は利根川を隔てて武蔵国と接している。

平安時代中期に成立したわが国最初の百科事典である『和名類聚抄』では、郡内に新田(ニフタ)・津野(カスノ)・石西(イフセ)・祝人(ハフリ)・淡甘(タンカイまたはタコウ)・駅家(ウマヤ)の6郷があったとされる。

郡名を負う新田郷と駅家郷は郡家や駅家が設置された官衙地区の周辺である郡域中央東部一帯。津野郷は旧尾島町柏川周辺、石西郷は太田市街地南部の岩瀬川町周辺、祝人郷は八王子丘陵西麓の平坦地一帯などがそれぞれ有

力な比定地と考えられている。

**淡甘郷** 世良田の周辺には「上田中」・「下田中」・「高尾」などという地名が存在することから「淡甘郷」の故地に比定されている。淡甘郷に関わる古代の史料としては、正倉院蔵の調布に、「(表)上野国新田郡淡甘郷戸主矢田部根麻呂調黄登返長六丈廣一尺九寸(裏)天平勝寶四年十月主當國司正六位上行介阿部朝臣息道郡司擬少領无位他田部君足人」とあり、752(天平勝寶4)年段階における郡司の氏名がわかる稀有な史料とである。また『東大寺要録』には、747(天平19)年に勅命によって東大寺に1000戸の食封が施入されたことを示す記事があり、その中に上野国新田郡内の50戸が含まれている。

**新田郡家** 新田郡家は、旧新田町と太田市との市町境に位置する太田市天良町天良七堂遺跡である。1955(昭和30)年に行われた発掘調査で、南北16m・東西7m、6間×3間の南北棟総柱大型礎石建物が検出され、付近から炭化米が多数出土した。この大型総柱礎石建物は、新田郡家正倉院を形成する倉庫群のうちの一棟と考えられ、この遺跡が新田郡家の遺跡である可能性が指摘された。2007(平成19)年5月の発掘調査によっても正倉院の一角を構成していたと考えられる大規模な総柱建物が発見され、さらに同年6月には主要地方道伊勢崎・足利線の北側から巨大な郡庁院の遺構が検出され、天良七堂遺跡が新田郡家の遺跡であることは確実となった。

**新田駅家** 『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によれば、新田郡内には東山道駅家が東西に貫通し、上野・下野両国から武蔵国への分岐点となった陸上交通上の要衝であり、官人の公務通行を支援すべく設けられた施設である新田駅家が置かれていた。古代において、官衙はそれぞれが比較的近辺にまとまって配置されていた様子が判明しているため、新田駅家も新田郡家からさほど遠くない場所に設置されていたものとするのが自然である。新田駅家の所在地としては、太田市新田村田から寺井にかけての場所に想定する意見が強い。

**古代交通の要衝** 周知のように、711(宝龜2)年、武蔵国が東海道に所管換えとなり、新田駅家から南へと分岐して武蔵国府に至っていた東山道駅家武蔵路は駅路としての扱いを受けなくなった(『経日本紀』宝龜2年10月己卯条)。これによって、制度的には、新田駅家は駅路分岐点としての重要拠点から駅路路線上の一般的な駅家と

同じになるわけで、官衙としての性格に大きな変更が生じたように感じられるが、新田駅家と武蔵国府とを結ぶ道路自体が実際に廃止されたわけではない。東山道駅路武蔵路が、道路そのものの若干の位置の変更はあるにせよ、ルートとして中世の鎌倉街道にほぼ踏襲されていることからみても、そのことは明白である。東山道駅路武蔵路は、あくまでも駅路ではなくなったというだけのことで、上野・下野両国間にわたる東山道駅路と武蔵国府・東海道駅路とを結ぶ連絡的な官道として機能し続けたものと考えられる。それによって、駅路分岐点ではなくなったものの、東山道駅路と東海道駅路とを連絡する官道との分岐点として、古代陸上交通上の要衝としての重要性は、決して変わるものではなかったと見るべきであろう。

**古代交通の遺跡** 旧新田町内では、牛堀・矢ノ原ルートと称される高崎市南部の平地から玉村町を経て旧境町にかけて東西に貫く幅約12mの古代道路遺構に続く道路遺構と、その南側数百メートルの位置を、牛堀・矢ノ原ルートと並行して東西に貫く幅約10mの下新田ルートの二系統の駅路遺構が検出されている。また、北関東自動車道の建設に関わる調査では、さらに東に寄った金山丘陵の東麓地域である太田市東今泉町の地域で、約1kmにわたって幅約12mの古代道路遺構が検出され、これは牛堀・矢ノ原ルートにつながる道路遺構であると考えられている。

群馬県高崎市南部から玉村町、旧境町、旧新田町南部にかけて検出されている牛堀・矢ノ原ルートと、その延長上の道路と考えられる太田市東今泉町付近で検出された幅12mの古代道路遺構は、いずれも8世紀中葉から後半にかけて廃絶していることが調査の結果明らかになっており、牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルートいずれも『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条に記載のある段階の東山道駅路とは異なる段階の駅路の跡とみられ、むしろ『延喜式』段階における東山道駅路は、牛堀・矢ノ原ルートや下新田ルートよりはかなり北側に位置する榛名山東麓から赤城山南麓の台地上を通っていたものと考えられる。平安時代の東山道駅路は、本遺跡の北方、旧鞍塚本町域内を通っていたと想定できるが、旧鞍塚本町域や太田市北部地域では、現在までのところ、古代の道路遺構が検出された遺跡はない。

**集落** 多くの集落遺跡が調査されている。なかでも尾島工業団地内遺跡群では、奈良時代の竪穴住居が199棟、平安時代の竪穴住居211棟・大型掘立柱建物1棟を含む掘立柱建物69棟が検出され、古墳時代中期から継続的に集落が営まれた様相が明らかになっている。

この他、世良田諏訪下遺跡(17)、歌舞伎遺跡(71)、小角田前遺跡(74)、中江田宿通遺跡(66)、中江田本郷遺跡(64)、花園遺跡(54)など多くの集落遺跡が調査されている。

なお、尾島工業団地内遺跡から出土した9世紀中葉の滑石製紡輪には、上面に「矢田衆即□矢田公□子□」と篆刻されたものが出土している。

**水田** 世良田諏訪下遺跡(17)では、9世紀の洪水で埋没した水田が2面と浅間山火山灰As-B層下水田跡が検出されている。こうした水田跡は小角田遺跡群でも検出されている。

## 6. 中世

**新田荘** 上野管内の荘園で最も著名な新田荘は、平安時代末期に成立した。

天仁元(1108)年に起きた浅間山の大噴火による火山灰(As-B)の降下によって荒廃した新田郡東南部の平野部を清和源氏嫡流の流れを汲む在地豪族新田義重が地主職を得て再開発し、1157(保元2)年に19郷を、時の治天の君である鳥羽院の御願寺であった金剛院に寄進し、領家を当時に納言であった藤原(花山院)忠雅とした。その功績によって新田義重は改めて下司職に任ぜられ、新田荘の立券に成功したことによって成立した。

その範囲は、当初、北を鹿田山、東を金山丘陵、西を早川、南を利根川に囲まれた地域の19郷とされ、新田郡の西側を占めていた。その後、1170(嘉応二)年の「新田荘嘉応二年目録」には新たに37郷が追加され、新田郡全域に及び、義重の没後はその子供たちによって分割された。

その後、鎌倉時代の1224(元仁元)年段階では、新田氏本宗家と支流の世良田氏・岩松氏(父系では足利氏流)の3氏の間で分割支配されるようになるが、新田氏本宗家は、義重の曾孫にあたる新田政義の代に没落し、以後は『吾妻鏡』にも登場しないような一地方御家人にまで零落してしまった。

新田氏本宗8代目の義貞は、後醍醐天皇の挙兵に呼応して、足利尊氏の嫡子(後の義詮)を奉じて鎌倉を攻め、

鎌倉幕府の中核を減ぼした。以後、新田氏一門は南朝軍の中核となるが、次第に敗退を重ねていく南朝と共に没落してゆき、早く北朝に降った岩松氏が事実上の本宗家の地位を占めて新田荘を支配した。だが、戦国時代に入ると岩松氏も家臣で新田義宗の末裔を称した由良氏によって下剋上され、さらに小田原北条氏の傘下にあった由良氏も、1590(天正18)年、豊臣秀吉による関東攻略で秀吉軍に敗れ、居城である金山城と所領を失い、新田荘は完全に解体された。

**女堀** なお、赤城山南麓の標高90～100mの等高線の間をほぼ東南東方向に、前橋市東部の荒口町、二之宮町、伊勢崎市赤堀町下触などを経て同市西国定までの全長約13kmに及び12世紀初頭に開削された未完の農業用水路跡である女堀は、新田氏の開削が想定された時期もあったが、近年では、1108(天仁元)年の浅間山大噴火の降灰によって壊滅した大間々扇状地地域の農地、澗名荘の再開発のための農業用水の供給を目的に、下野国西部から上野国東部にかけて一大勢力を形成し、上野国衛の在庁官人としても主要な位置を占めていた秀郷流藤原氏の澗名氏を中心とする豪族連合であると見るのが有力である。

開削が未完に終わった理由は、自然条件的に無理が多い計画であったことや、土木技術の未熟さによる工事の破綻、義国河内源氏と秀郷流藤原氏が次第に対立関係に陥ったことにあるとする見方がある。

**新田荘関連遺跡群** 本遺跡周辺には新田荘に関係する遺跡が多く存在する。

本遺跡の西、約600mに位置する現・總持寺一帯は、新田氏館跡(3)とされ、新田義重居館説や世良田頼氏・新田義貞などの居館説などがある。規模からみても新田氏本宗家惣領級の豪族の館であることには間違いないだろう。

**長楽寺** 本遺跡の南側に近接し、境内が史跡新田荘遺跡群の構成要素となっている長楽寺(7)は、1221(承久3)年に得川義季がわが国の臨濟宗の開祖である栄西の高弟である栄朝を開山として創建した東日本初の禅寺(「東国最初禅窟」)であるが、禅の専門道場ではなく、顯密三宗兼学の寺であった。幕府から「関東十刹」の第7位に列せられ、新田本宗家の滅亡後も鎌倉公方家の帰依を得、関東屈指の臨濟宗大寺院として繁栄したが、戦国時代には寺運は著しく衰退した。

その後、長楽寺は江戸に幕府を開いた徳川家康の顧問であった天台僧正によって天台宗に改宗され、江戸時代には歴代徳川将軍の帰依を受け、世良田東照宮の別当寺ともなり、末寺七百余ヶ寺を擁する大寺院として隆盛を極めた。

なお、長楽寺境内はこれまで、1976(昭和51)年3～4月に行われた長楽寺現境内の南側、東照宮現境内の東側に隣接する尾島町立世良田小学校の改築に伴う発掘調査では、中世の墓壇や井戸が、また、1981(昭和56)年9～10月に行われた長楽寺車庫に隣接する世良田保育園改築工事に伴って行われた発掘調査では、境内の区画溝が、さらに1992(平成4)年10月に行われた長楽寺車庫改築に伴う発掘調査では、近世末期の車庫の建物跡の一部にあたる礎石建物跡が検出されている。この調査で検出された遺構・遺物は、本遺跡の今回の発掘調査で検出された遺構・遺物の年代観に近い。

**普光庵跡古基** 世良田東照宮境内に所在する普光庵跡は、長楽寺第5世月船琛海のために、同寺第11世牧翁了一が建立した墓地の跡で、長く所在地が不明であったが、1937(昭和12)年9月、落雷を受け倒れた老杉の根を撤去するために掘削したところ、骨蔵器が発見され、禅僧の埋葬形式である普同塔(共同埋葬)であることが判明した。

月船琛海は、鎌倉時代後期の1282(弘安5)年に長楽寺の住持となり、同寺の基礎を確立した名僧で、1307(徳治2)年に京都東福寺第8世となり、翌、1308(延慶元)年、東福寺において入滅、時の花園天皇より「法照禅師」の諡を下賜された。

塔所は、東福寺に営まれたが、牧翁了一によって長楽寺にも分骨されたのである。

月船琛海の骨蔵器である古瀬戸灰軸三耳壺は、安山岩製の縦4.5cm、横3.6cm、高さ30cmの石櫃の中に納められ、「月船和尚」の刻銘のある一辺30cm・厚さ6cmの凝灰岩製の蓋が載せられていた。弟子6人の骨蔵器は古瀬戸灰軸四耳壺2点と灰軸瓶子4点であり、月船琛海石櫃の西側に南北一列に並んで発見された。

このように埋葬者が特定できる中世の骨蔵器は全国的に希であり、これらは瀬戸焼の編年基準となる貴重な資料として注目されている。

**運河** 世良田諏訪下遺跡(17)では、鎌倉時代の溝が調査

され、早川から中世世良田宿を通り石田川に至る物資運搬のための運河と考えられている。この大溝からは、中世の笹塔婆、皿、板草履など大量の木製品が出土している。

**中世陶磁器の出土** 徳川館跡(25)には新田氏の祖である新田義重の墓と伝えられている五輪塔があり、墓地整理の際に骨蔵器として使用された13世紀前後の古瀬戸四耳壺が出土した。こうした古瀬戸や在産陶器を利用した中世の骨蔵器は、東照宮境内(6・8付近)の普光庵跡古墓の他に円福寺境内伝新田氏累代墓でも発見されている。

花園遺跡(54)では古瀬戸鉄軸印花合子、歌舞伎遺跡(71)からは古瀬戸灰軸水滴、上新田遺跡(新田館跡)(2)からも古瀬戸鉄軸水滴などが出土、また、長楽寺には青磁香炉・花瓶などが伝世しており当時の繁栄が窺える。

## 7. 近世

**家康関東東配** 天正18(1590)年、豊臣秀吉による小田原北条氏攻略後の徳川家康関東入封に伴い、徳川四天王・徳川十六神将・徳川三傑に数えられ、家康朝業の功臣として名高い榊原康政が上野国館林城に入り、徳川家臣中第2位の10万石を与えられ、現在の館林市・太田市域ほぼ全域を領した。

榊原康政は、この地の堤防工事や街道整備などに力を注ぎ、慶長11(1606)年5月14日に館林城にて死去。榊原家は三代にわたって館林城主の地位にあったが、寛永20(1643)年に陸奥国白河(福島県白河市)に転封され、世良田の地城は天領となった。

**徳川郷** 当初、「松平」の苗字と藤原氏の氏名を名乗っていた徳川家康は、新田氏の祖である新田義重の子の得川義季の末裔を自称し、武家の棟梁の一つである清和源氏の流れであることを主張するようになる。永禄9年(1566)年、勅許を得て徳川を名乗ることを許され、従五位下三河守に叙任された。時の正親町天皇は、当初、この先例のない申請に対して勅許を躊躇したが、吉田兼右が万里小路家文書を調査した結果、先例が発見されたことにより、勅許を得るに至ったのである。家康は、朝廷より三河守の官職を得ることによって領国たる三河国支配の正当性を得るとともに、清和源氏一門である新田氏の流れを汲む徳川氏を公称することによって、家格の向上を

図ったのみならず、後に征夷大将軍に補任される正当性をも得ることになった。

1617(元和3)年に、家康の遺言に従って二代将軍秀忠が駿河国久能山より下野国日光へ家康の遺骸を改葬した際に建てられた東照社の社殿を、三代将軍家光は、1636(寛永13)年の家康21年神忌に向けて寛永の大造替を開始し、今日見られる荘厳な社殿への大規模改築が行われた。1645(正保2)年11月11日には、後光明天皇から官号が授与され、東照社から東照宮と改称され、国家守護の「日本之神」として、翌年の例祭からは朝廷からの奉幣が恒例となり、奉幣使(日光例幣使)が派遣されるようになった。その日光例幣使が日光と京都とを往復する道を例幣使街道と呼んだ。

### 補注

なお、第5図「周辺遺跡」に掲載した周辺遺跡の名称・位置・範囲は、上記マッピングぐんま「遺跡・文化財」のデータに依拠したものであり、また、以上の記述は、本遺跡の先行報告書である当事業団編(資料統括高井佳弘編)『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業開発調査報告書第595集 世良田郷遺跡集落遺跡(1) 社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田郷世良田交差改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』2015.1.の第2章第1節「地理的環境」、第2章第2節「歴史的環境」を全体的に参考とし、一部引用した部分もあり、第5図「周辺の遺跡」及び第2～4表「周辺の遺跡」(古墳表を含む)は、同報告書からの全体的引用であることを明記しておく。

### 参考文献

- ・群馬県総合型地理情報システム(GIS)マッピングぐんま-「遺跡・文化財」<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/select.asp?dtp=89&pl=3>、2015年9月現在のデータ
- ・熊登健・峰岸純夫編『よみがえる中世5塊開火山灰と中世の東国』平凡社 1989.12.
- ・尾島町誌編纂委員会編『尾島町誌 通史編』尾島町 1993
- ・新田町誌編纂委員会編『新田町誌 第4巻 新田荘と新田氏』新田町 1984
- ・新田町誌編纂委員会編『新田町誌 第1巻 通史編』新田町 1990
- ・太田市史編纂委員会編『太田市史通史編 中世』太田市 1997
- ・神谷佳明「第2章第2節「歴史的環境」(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団事業団編『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団開発調査報告書第595集世良田郷遺跡集落遺跡(1) 社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田郷世良田交差改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』2015)

## 第3章 調査の成果

### 第1節 成果の概要

本遺跡は、市街地化が進んだ地域の中に所在しており、しかも今回、調査の対象となった地域は、直前まで宅地として利用されていたため、ゴミ穴などが沢山掘られるなど、現代の攪乱が数多く、遺構の残存状態は、必ずしも良好ではなかった。そのような中で調査できた遺構は、Ⅱ区からⅣ区あわせて、土坑132基、井戸20基、溝18条、ピット117基、地下式坑1基、竪穴状遺構2基、礎石14基、配石2基であった。それぞれの調査区が狭小であるため、遺構の全容を調査できたものは少なく、ほとんどの遺構が調査区外までかかっていたり、部分的に破壊されたりしていた。各区とも遺構確認面の起伏が甚だしいのが特色である。

この遺跡において最も多く検出された遺構である土坑は、調査区の全域に分布しており、とくに集中箇所はない。形態には様々なものが見られるので、用途も様々なものがあつたらしい。井戸も市街地にあるため16基と多い。いずれも素堀の井戸である。溝は区画溝の一部と見られるものがあつた。ピットの検出数も多く、数基ずつ集中しているようであり、何らかの建物の柱穴として把握できたものは皆無であった。これは礎石についても同様と言えることである。配石も礎石の一部である可能性が高いが、礎石ほど明確ではない。

### 第2節 Ⅱ区で検出された遺構と遺物

Ⅱ区は、昨年度調査をしたⅠ区からみて、国道354号線を挟んだ南側にあたる部分と、同線と直角に交差する主要地方道伊勢崎・深谷線の東側に道路を拡幅する部分にあたる。

調査区は7箇所に分かれ、世良田交差点を北の起点とする主要地方道伊勢崎・深谷線の東側の拡幅部分を、南側から順次、Ⅱ-1調査区、Ⅱ-2調査区、Ⅱ-3調査区、Ⅱ-4調査区、Ⅱ-5調査区とし、世良田交差点における国道354号線との交差箇所をⅡ-6区、国道354号

線の南側の調査区をⅡ-7区とした。

Ⅱ区で検出された遺構は、土坑27基、井戸4基、溝9条、ピット15基、地下式坑1基、竪穴状遺構2基、礎石1基である。

Ⅱ-1調査区は、Ⅱ区の最南端にあたり、 $X=29,485 \sim 29,495 \cdot Y=-49,860$ に位置する。

主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んでⅢ-1調査区の東側にあたる。土坑3基、井戸1基、溝1条が検出された。

Ⅱ-2調査区は、Ⅱ区の南から二番目の場所、 $X=29,500 \sim 29,515 \cdot Y=-49,855 \sim -49,865$ に位置し、主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んで西側にはⅢ-2調査区がある。土坑1基、井戸2基、溝1条が検出された。

Ⅱ-3調査区は、Ⅱ区の南から三番目の場所、 $X=29,515 \sim 29,535 \cdot Y=-49,850 \sim -49,860$ に位置し、主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んで西側にⅢ-3調査区がある。Ⅱ区最大の調査面積を有する調査区である。土坑7基、溝4条、ピット6基、竪穴状遺構1基が検出された。

Ⅱ-4調査区は、Ⅱ-3区のさらに北側の調査区であり、 $X=29,535 \sim 29,545 \cdot Y=-49,850 \sim -49,855$ に位置する。主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んで西側にはⅢ-3区がある。土坑2基、溝1条、竪穴状遺構1基が検出された。

Ⅱ-5調査区は、Ⅱ-4調査区のさらに北側の調査区であり、主要地方道伊勢崎・深谷線に面する最北端の調査区である。 $X=29,545 \sim 29,555 \cdot Y=-49,845 \sim -49,855$ に位置し、主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んで西側にはⅢ-4調査区がある。土坑2基、溝1条、ピット1基などが検出された。

Ⅱ-6調査区は、世良田交差点に面した三角形形状を呈する調査区であり、世良田交差点の西側にはⅢ-4調査区、北西側にはⅠ-3調査区、北側にはⅠ-4調査区がある。Ⅱ区ではこの5調査区とその東側に位置する6調査区が国道354号線に面した調査区である。 $X=29,555 \sim 29,560 \cdot Y=-49,835 \sim -49,845$ に位置する。土坑3基、溝1条、井戸1基、地下式坑1基が検出された。

II-7調査区は、世良田交差点の東側、国道354線に面するII区では最東端の調査区である。X=29,550～29,565・Y=-49,8145～-29,835に位置し、国道354号線を挟んで北側にはI-2・3調査区がある。土坑9基、溝5条、ピット7基が検出された。

### 1. 土坑

II区では27基の土坑が検出された。II区の最南端にあたるII-1調査区では3基、その北側に位置するII-2調査区では1基、さらにその北側に位置するII-3調査区では7基、さらに北側のII-4調査区では2基、さらに北側のII-5調査区では2基、世良田交差点に面した三角形を呈するII-6調査区では3基、世良田交差点の東側、国道354線に面するII区では最東端の調査区であるII-7調査区では9基が検出された。

なお、23号土坑は欠番である。

#### (1) 1号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南東隅付近に位置する2号土坑のすぐ東側、5号土坑のすぐ南側に隣接する。1～5号土坑はII-3区の南東端付近に5基まとまって存在する。それぞれの重複が甚だしい。X=29,516～29,517、Y=-49,856～-49,857。

重複関係：西側を2号土坑に掘り込まれる。

方向：N-120°-E。

規模と形状：西側を2号土坑に破壊されるが、東西に長い楕円形状を呈する。長さ0.95m・幅0.85m・深さ0.18m。全体に浅いが、西側が深く、東に行くに従って浅くなっている。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (2) 2号土坑(第8・55図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近の中央部に位置する。3・4号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,517、Y=-49,886。

重複関係：1号土坑の西辺を掘り込む。

方向：N-4°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長さ0.65m・幅0.55m・深さ0.23m。

埋土：暗褐色土。 遺物：砥石片1点。 時期：不明。

#### (3) 3号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近のほぼ中央部に位置する。4号土坑のすぐ北東側、5号土坑のすぐ北西側に隣接する。X=29,518～29,519、Y=-49,856～-48,857。

重複関係：4号土坑の北東辺を掘り込み、5号土坑に南東辺を掘り込まれる。

方向：N-75°-E。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.83m・幅0.8m・深さ0.17m。全体的に扁平で浅い。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (4) 4号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近のほぼ中央部に位置する。南西部落ち込みのすぐ東側、3号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,518、Y=-49,857。

重複関係：3号土坑に北東辺を掘り込まれる。

方向：N-20°-E。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.8m・幅0.76m・深さ0.09m。全体的に扁平で浅い。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (5) 5号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近のほぼ中央部に位置する。1号土坑のすぐ北側、3号土坑のすぐ南側に近接する。X=29,517～29,518、Y=-49,856。

重複関係：3号土坑の南東辺を掘り込む。

方向：N-45°-E。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.7m・幅0.63m・深さ0.19m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (6) 6号土坑(第8・55・56図、PL.2)

位置：II-3調査区のほぼ中央部のやや西寄りに位置する。3号溝のすぐ東側、2号溝のすぐ西側に近接する。X=29,524～29,526、Y=-49,856。

重複関係：2号溝の西端を掘り込む。

方向：N-14°-E。

規模と形状：南北方向に長い長円形状を呈する。長さ1.57m・幅0.55m・深さ0.37m。土坑自体の特異な形状や、皿・碗のような供食型遺物がまとまって出土しているこ

と、とくにその中に人為的穿孔が施された皿が含まれていることなどから、土葬墓あるいは何らかの祭祀・信仰に関わる遺構である可能性も考えられるが、埋土等の状況からは、積極的な証左は得られなかった。

**埋土:** 上層に暗褐色土、中層に黒褐色土、下層に鈍い黄褐色土の堆積が見られた。 **遺物:** 肥前磁器染付皿4点、瀬戸・美濃陶器染付皿2点、在地土器皿4点、鉄釘1点。土師器皿の1点には底部に人為的な穿孔がなされている。 **時期:** 近世末期。

(7) 7号土坑(第8・56図、PL. 2)

**位置:** II-3調査区のほぼ中央部のやや西寄りに位置する。3号溝の東側、4号溝の西側に近接する。X=29,527~29,529、Y=-49,856。

**重複関係:** 3号溝に西辺を掘り込まれる。4号溝の西端を掘り込む。

**規模と形状:** 不定形。検出長1.25m・検出幅1.05m・深さ0.3m。

**埋土:** 上層に鈍い暗褐色土、下層に明灰褐色土の堆積が見られた。 **遺物:** 円盤状土製品1点。 **時期:** 近世末期。

(8) 8号土坑(第8図、PL. 2)

**位置:** II-2調査区で検出された唯一の土坑で、調査区のほぼ中央部のやや北寄り、西端に位置する。1号井戸の北西側、2号井戸の西側に位置する。X=29,507~29,509、Y=-49,860~-49,961。

**重複関係:** 3号溝を掘り込む。

**規模と形状:** 不定形。長さ1.57m・残存幅0.95m・深さ0.27m。

**埋土:** 上層に黒褐色土、下層に褐灰色土の堆積が見られた。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(9) 9号土坑(第8図、PL. 2)

**位置:** II-5調査区の北西端に位置している。10号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,550~29,551、Y=-49,849~-49,850。

**重複関係:** 3号溝のII-5調査区における北西端部を掘り込む。

**規模と形状:** 不定形。検出長1.5m・検出幅1.3m・深さ0.42m。底部は浅いすり鉢状を呈している。

**埋土:** 褐灰色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(10) 10号土坑(第8図、PL. 2)

**位置:** II-5調査区の中央部の西寄りの位置にある。9号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,547~29,549、Y=-49,849~-49,850。

**重複関係:** 3号溝により西辺を掘り込まれる。

**規模と形状:** 北側に張り出しを持つ台形状に見えるが、西側を破壊されているため、全容は不明である。不定形。長さ1.91m・検出幅0.74m・深さ0.15m。底部は浅く扁平。

**遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(11) 11号土坑(第8図、PL. 2)

**位置:** II-4調査区の南東隅寄りに位置する。II-4調査区の東端約三分の二を占める12号土坑のすぐ西側に近接する。X=29,534~29,535、Y=-49,853~-49,854。

**重複関係:** 3号溝を掘り込む。

**方向:** N-105°-E。

**規模と形状:** 東西に長い楕円形状を呈する。長さ1.3m・幅0.75m・深さ0.17m。

**遺物:** 鉄銭小片1点(泉文解読不能)。

**時期:** 近世末期。

(12) 12号土坑(第9・56図、PL. 2)

**位置:** II-6調査区の東端の南側約三分の二を占める巨大な土坑。11号土坑のすぐ東側に近接する。X=29,534~29,539、Y=-49,851~-49,852。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 調査区内では南北に長い不整形円形状に見えるが、東側大半が調査区の東側に出、南端も調査区外に出るため、全容は不明である。不定形。検出長4m・検出幅1.03m・深さ0.1m。底部は浅く扁平。

**埋土:** 黒褐色土。 **遺物:** 在地土器火鉢片1点、瀬戸・美濃陶器燗徳利1点、銅銭1点(文久永宝:文久3(1863)年2月から慶応3(1867)年まで鑄造)。 **時期:** 近世末期。

(13) 13号土坑(第9・56~59図、PL. 2・3)

**位置:** II-1調査区のほぼ中央に位置する。3号井戸のすぐ南端を掘り込む。X=29,489~29,491、Y=-



49,864～49,865。

**重複関係**：なし。

**方向**：N-100°-E。

**規模と形状**：北東-南西方向に長い隅丸長方形を呈する。北側がオーバーハングする。長さ1.55m・幅0.6m・深さ0.25m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：19点を取り上げた。肥前磁器染付丸碗2点、肥前磁器染付碗蓋片1点、肥前磁器染付鉢片1点、京・信楽系陶器碗片1点、瀬戸・美濃系陶器灰釉丸碗片1点、瀬戸・美濃系陶器灰釉折縁輪禿皿片2点、丹波陶器すり鉢片1点、在地系土器瓦質鉢片1点、在地系土器焙烙片7点、円盤状加工土製品1点、羽口1点である。いずれも近世末期～近代初等頃のものと考えられる。 **時期**：近世末期。

#### (14)14号土坑(第9図)

**位置**：II-1調査区の北端のほぼ中央に位置する3号井戸の北側に隣接する。X=29,492～29,493、Y=49,864～49,865。

**重複関係**：3号井戸に南側を掘り込まれる。

**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈するものと思われるが、北側が調査区外に出、南側を破壊されているため全容は不明である。検出長0.95m・幅0.72m・深さ0.2m。  
**遺物**：なし。 **時期**：近世末期

#### (15)15号土坑(第9図)

**位置**：II-1調査区の南西隅に位置する。X=29,488、Y=49,864～49,865。

**重複関係**：3号溝を掘り込む。

**規模と形状**：楕円形状を呈するものと思われるが、西側及び南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.55m・現存幅0.33m・深さ0.37m。

**埋土**：褐色土。**遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (16)16号土坑(第9・59・60図、PL.3)

**位置**：II-6調査区の北東寄りに位置する。II-6調査区の北東隅にある1号地下式坑のすぐ西側、II-6調査区の北辺にかかる26号土坑のすぐ南東側に隣接する。X=29,560～29,561、Y=49,840～49,841。

**重複関係**：なし。

**方向**：N-95°-E。

**規模と形状**：東西にわずかに長い楕円形状を呈する。長さ1.55m・幅0.6m・深さ0.25m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：産地不詳須片・徳利片各1点、在地系土器焔炉片2点、在地系土器火鉢片2点、銅銭小片(文久永宝：文久3(1863)年2月から慶応3(1867)年まで鑄造)など8点、鎌など鉄製品片2点、礫石器磨石1点が出土した。急須の底部には「トチ」という墨書がある。 **時期**：近世末期。

#### (17)17号土坑(第9図、PL.3)

**位置**：II-7調査区的最東端付近にまとまって点在している。17号土坑は、II-7調査区的最東端近く北側に位置する。18号土坑の北西側、19号土坑の東側に位置する。X=29,555、Y=49,817～49,818。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北側が調査区外に出るため全容は不明である。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (18)18号土坑(第9図、PL.3)

**位置**：II-7調査区的最東端付近の南壁にほぼ接して位置する。17号土坑の南側に位置する。南端が調査区の南端と接する。X=29,554～29,555、Y=49,817～49,818。

**重複関係**：8号溝を掘り込む。

**方向**：N-20°-E。

**規模と形状**：北西-南東方向にわずかに長い楕円形状を呈する。長さ0.55m・幅0.5m・深さ0.2m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (19)19号土坑(第9図、PL.3)

**位置**：II-7調査区的最東端付近、17号土坑の南側に位置する。X=29,555～29,556、Y=49,819～49,820。

**重複関係**：7・8号溝を掘り込む。

**方向**：N-25°-E。

**規模と形状**：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.6m・幅0.5m・深さ0.08m、浅い。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(20)20号土坑(第9図、PL.3)

**位置:** II-7調査区のほぼ中央部付近、21号土坑の東側に位置する。X=29,555~29,556、Y=-49,819~-49,820。

**重複関係:** 9号溝と8号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状:** 不整形。検出長0.9m・検出幅0.85m・深さ0.55m。

**埋土:** 上中層暗褐色土、下層褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(21)21号土坑(第10図、PL.3)

**位置:** II-7調査区の中央部からやや西寄りの付近、20号土坑のすぐ西側、22号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,557~29,558、Y=-49,826~-49,828。

**重複関係:** 9号溝に掘り込まれる。

**規模と形状:** 南側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長0.9m・検出幅0.85m・深さ0.83m。

**埋土:** 上層暗褐色土、中層鈍い黄褐色土、下層黒褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(22)22号土坑(第10図、PL.3)

**位置:** II-7調査区の西寄りの位置、21号土坑のすぐ西側、5号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,558~29,559、Y=-49,829~-49,830。

**重複関係:** 9号溝、4号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状:** 南北両端が調査区外に出るため全容は不明である。現存長1.26m・現存幅1.03m・深さ0.5m。

**埋土:** 暗褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(23)24号土坑(第10・61~63図、PL.3)

**位置:** II-7調査区の西端寄りの位置、10号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,559~29,560、Y=-49,831~-49,832。

**重複関係:** 27号土坑の北西辺を掘り込む。

**方向:** N-89°-E。

**規模と形状:** 西北隅が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。長さ1.23m・幅0.53m・深さ0.93m。

**埋土:** 上層褐色土、中層暗褐色土、下層褐色土。 **遺物:** 多種多様な陶器片、土器片などが出土し、いわゆるゴミ

捨ての穴と考えられる。ここでは、34点の遺物を取り上げた。肥前磁小坏2点、肥前磁器染付猪口片2点、肥前磁器染付皿片1点、瀬戸・美濃系磁器小坏3点、瀬戸・美濃系磁器染付猪口1点、瀬戸・美濃系陶器染付皿2点、瀬戸・美濃系磁器染付端反碗1点、瀬戸・美濃系陶器錆釉灯明油皿3点、瀬戸・美濃系陶器鉄絵乗燭1点、京・信楽系陶器灰輪蓋2点、京・信楽系灰輪灯明油皿片3点、在地系土器皿1点、在地系土器さな片1点、搬入形塩焼壺蓋1点、搬入形塩焼壺片1点、制作地不詳の碗1、蓋1、透明輪蓋1、染付蓋1、灰輪片口鉢1、鍋蓋片1、白磁端反皿1、椀瓦片2点、銅製品銭貨1点。瀬戸美濃系陶器乗燭底部には「に」と墨書されている。 **時期:** 近代。

(24)25号土坑(第10図、PL.4)

**位置:** II-6調査区の北西隅。26号土坑のすぐ西側、1号礎石のすぐ北西側に隣接する。X=29,561~29,562、Y=-49,842~-49,843。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 北及び西側が調査区外に出るため全容は不明である。現存長1.06m・現存幅0.43m・深さ0.5m。

**埋土:** 上層暗褐色土、中層黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(25)26号土坑(第10図、PL.4)

**位置:** II-6調査区の北西寄りの位置。北端。25号土坑のすぐ西側、4号井戸のすぐ北側、16号土坑のすぐ北西側に隣接する。X=29,561~29,562、Y=-49,840~-49,842。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 北側が調査区外に出るため全容は不明である。現存長2.03m・幅0.43m・深さ0.5m。

**埋土:** 上層黒色土、下層黄褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(26)27号土坑(第10図、PL.4)

**位置:** II-7調査区の西端寄りの位置。6・9号ピットの東側、4号ピット・22号土坑西側に近接する。X=29,558~29,559、Y=-49,831。

**重複関係:** 北西辺を24号土坑に掘り込まれる。5号ピットを掘り込む。

**規模と形状**：南側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長1.5m・検出幅1m・深さ0.8m。

**埋土**：表土褐色土(砂質)、上層暗褐色土、下層暗褐色土。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (27)28号土坑(第10図、PL.4)

**位置**：II-7調査区の最西端寄りの位置。6・9号ピットの北西側、10号ピット西側に近接する。X=29,560～29,561、Y=-49,833～-49,834。

**重複関係**：中央部を7号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状**：北側が調査区外に出るため全容は不明である。下部がオーバーハングしている。検出1.23m・検出幅0.57m・深さ1.03m。

**埋土**：表土褐色土ローム混、上層明黄褐色土、下層暗褐色土ローム塊混。 **遺物**：なし。 **時期**：不明

## 2. 井戸

II区では4基の井戸が検出されている。II-1調査区で1基、II-2調査区で2基、II-6調査区で1基であった。II区世良田交差点から国道354号線に面するII-7調査区では全く井戸は検出されなかった。また、II-3・5調査区からも井戸は検出されていない。

ただし、主要地方道太田・大間々線に面したII-4調査区では、世良田交差点以北でも井戸は検出されているので、世良田交差点以北には井戸はないということではない。

II区で検出されたのは、いずれも素堀の井戸であり、また、径も比較的小さかったことや、現状で、いずれも交通量が激しい道路に面した箇所での調査であり、調査区が民家とも隣接していたため、調査及び周辺民家及び通行の安全を最優先し、底面までの完掘はいずれも断念せざるを得なかった。

#### (1)1号井戸(第11・63図、PL.4)

**位置**：II-2調査区の中央部から南寄りの位置、3号溝のすぐ東側に隣接する。X=29,504～29,506、Y=-49,860～-49,861。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：不整円形状を呈する。幅1m・調査深度約1m。

**埋土**：黒褐色土ベース。 **遺物**：在地系土器皿片2点。

**時期**：近世末期。

#### (2)2号井戸(第11・63図、PL.4)

**位置**：II-2調査区の中央部の東端南寄りの位置。X=29,505～29,508、Y=-49,859。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長2.55m・検出幅1.15m・調査深度約0.7m。

**埋土**：表土にふい黄褐色土・灰黄褐色土・にふい黄色土・褐色土(砂質土)、埋土最上層褐色土、上層黒褐色土、下層中央暗褐色土、下層壁際褐色土(粘土ブロック崩落土)。 **遺物**：11点を取り上げた。肥前磁器染付湯呑片1点、肥前磁器染付丸碗片1点、肥前磁器丸碗片1点、瀬戸・美濃陶器染付筒形湯呑片1点、在地系土器皿片、京・信楽系陶器灰釉壺1点、甕片、焙烙片、置輪片各1点、砥石片2点。 **時期**：近代。

#### (3)3号井戸(第11・63図、PL.5)

**位置**：II-1調査区の北寄りの位置。X=29,491～29,492、Y=-49,864～-49,865。

**重複関係**：14号土坑、3号溝を掘り込む。13号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：東北側約四分の一が調査区外に出るため全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。本遺跡では最大規模の井戸である。検出長2.3m・検出幅2.2m・調査深度約0.8m。

**埋土**：表土暗褐色土、上層黒褐色土、中層黄褐色土(ローム塊多く含む)、下層褐色粘質土。 **遺物**：在地系土器皿片、鉢片各1点。 **時期**：近世末期。

#### (4)4号井戸(第11・64図)

**位置**：II-6調査区の中央から西寄りの位置。16号土坑のすぐ南西側、25号土坑のすぐ南東側。26号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,560～29,562、Y=-49,841～-49,843。

**重複関係**：埋絶後に1号礎石が架かれる。8号溝を掘り込む。上層を大きく攪乱されている。

**規模と形状**：東西にやや長い楕円形状を呈する。オーバーハングしている。長さ1.62m・幅1.43m・調査深度

約0.7m。

**埋土:**鈍い黄褐色土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗片1点、中国白磁皿片1点、瀬戸・美濃陶器天目茶碗片1点、常滑陶器裏片1点、焼締陶器裏片1点、砥石2点、中央に孔が穿たれた石製品1点。 **時期:**近世末期。

### 3. 溝

Ⅱ区では9条の溝が検出されている。Ⅱ-1区からⅡ-6区にかけて検出された確認総延長約650mに及ぶ3号溝、Ⅱ-6調査区からⅡ-7調査区にかけて検出された確認総延長22.5mに及ぶ8号溝の他は、ほぼ各調査区内での検出である。

#### (1) 1号溝(第12・64～71図、PL.5)

**位置:**Ⅱ-3調査区の最北端。X=29,530～29,533、Y=-49,854～-49,855。

**重複関係:**埋没後上面を11～14号ピットに掘り込まれる。底部を1号竪穴状遺構に掘り込まれる。7号土坑に南辺の一部を掘り込まれる。

**規模と形状:**東西方向に流れる深い溝の長さ約1m分が検出されたに過ぎない。幅1m・調査深度約1m。

**埋土:**上層暗褐色土、褐灰色土、黒褐色土、中層褐色土、黒褐色土、暗褐色土、下層灰黄褐色土、黒褐色土。 **遺物:**71点を取り上げた。肥前磁器染付小杯4点、肥前磁器染付筒形湯呑片2点、肥前磁器染付湯呑4点、肥前磁器染付端反碗4点、肥前磁器染付丸碗2点、肥前磁器染付碗1点、肥前磁器染付丸碗2点、肥前磁器染付平碗1点、肥前磁器染付広東碗1点、肥前磁器染付皿2点、肥前磁器染付壳皿2点、堺・明石陶器すり鉢片1点、肥前磁器染付輪花鉢2点、瀬戸・美濃陶器染付湯呑1点、瀬戸・美濃陶器踏輪灯明油皿9点、瀬戸・美濃陶器腰筒碗片1点、瀬戸・美濃陶器灰軸折鉢輪壳皿片1点、瀬戸・美濃陶器皿片1点、瀬戸・美濃陶器水瓶片1点、瀬戸・美濃陶器平割裏片1点、瀬戸・美濃陶器灰軸大皿片1点、在地系土器皿片2点、在地系土器煎鍋片2点、在地系土器十能片2点、在地系土器鉢片3点、在地系土器置き輪片1点、在地系土器焙烙片7点、在地系土器置壺1点、円盤状加工土製品1点、制作地不詳灰軸端反碗1点、制作地不詳土瓶片1点、平瓦片3点、棧瓦片3点、鉄釘1点、銅製キセル吸口1点、砥石片1点。なお、平瓦の裏面に

「大」カ「丈」かと墨書されたものがある。 **時期:**近代。

#### (2) 2号溝(第12・71図、PL.5)

**位置:**Ⅱ-3調査区のほぼ中央部を1号溝と並行して東西方向に流れる。X=29,525、Y=-49,854～-49,855。 **重複関係:**西端部を6号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:**東西方向に流れる溝で、西端は6号土坑に掘り込まれる。検出長1.83m・幅1.1m・深さ0.1m。

**遺物:**肥前磁器染付小杯2点、肥前磁器白磁香炉片1点、瀬戸・美濃陶器染付皿1点、瀬戸・美濃陶器鉄軸灯明油皿2点、在地系土器置壺片1点、制作地不詳陶器蓋1点、鉄釘1点。 **時期:**近世末期。

#### (3) 3号溝(第13・14・72図、PL.5・6)

**位置:**Ⅱ-1～Ⅱ-5調査区の西壁にかかる位置。X=29,489～29,550、Y=-49,850～-49,866。

**重複関係:**Ⅱ-1区では3号土坑、14・15号土坑を掘り込む。Ⅱ-2区では中央部付近を8号土坑に掘り込まれる。Ⅱ-3区では北端部を1号溝に掘り込まれる。Ⅱ-4区では南端部付近を11号土坑に、北端部を2号竪穴状遺構に掘り込まれる。Ⅱ-5区では北端部を9号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:**Ⅱ-1区からⅡ-5区まで、総延長650mに及ぶが、Ⅱ-3区の南側では、一部検出されなかった区間がある。Ⅱ-2区では調査区の北端まで溝が伸びているので、Ⅱ-2区からⅡ-3区に至る間の未調査箇所であったん止まるものと考えられる。Ⅱ-5調査区の北端が9号土坑によって掘り込まれているため、溝がⅡ-5調査区の更に北に延びるのか否かは不明である。各調査区西側が調査区外に出るため、溝幅は全く不明である。検出総延長約650m・検出幅0.2～0.58m・深さ0.17～0.55m。

**埋土:**上層暗褐色土、下層褐色土、黄褐色土。 **遺物:**肥前磁器染付端反碗片1点、肥前磁器染付丸碗片1点、常滑陶器裏片1点、在地系土器皿片1点、在地系土器鉢片1点、在地系土器火鉢片1点、在地系土器焙烙片1点、円盤状加工土製品1点、銅銭1点(寛永通宝)、銅製キセル雁首1点、砥石片1点。 **時期:**近世末期。

#### (4) 4号溝(第12図)

**位置:** II-3調査区の北寄りの位置。1号溝のすぐ南側、2号溝の北側を両溝に並行して東西方向に流れる。1・2号溝との新旧関係は不明。X=29,527、Y=-49,853～-49,855。

**重複関係:** 西端を7号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:** 東西方向に流れる小規模な溝。検出長2.1m・幅0.33m・深さ約0.23m。

**埋土:** 上層暗褐色土、下層黒褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 近世末期。

#### (5) 5号溝(第12・72図、PL. 6)

**位置:** II-7調査区の中央部からやや東寄りの位置。北壁際。7号溝のすぐ北側。X=29,556～29,557、Y=-49,853～-49,855。

**重複関係:** 9号溝2の西端を掘り込む。

**規模と形状:** II-7調査区北壁側から南北方向に流れる小規模な溝。8号溝の手前で止まる。検出長0.84m・幅0.56m・深さ約0.11m。暗黒褐色土。

**遺物:** 在地系土器皿片1点、瓦片1点。 **時期:** 不明。

#### (6) 6・7号溝(第14・72・73図)

**位置:** II-7調査区の東寄りの位置。X=29,554、Y=-49,819～-49,823。

**重複関係:** 19号土坑に掘り込まれる。18号土坑を掘り込む。南端を8号溝に掘り込まれる。

**規模と形状:** II-7調査区東・北壁の外側から南西-東北方向に流れる比較的大きな溝。8号溝が7号溝の北側をほぼ並行して流れ、7号溝に合流する。南側をほぼ並行して8号溝が流れる。検出長3.8m・幅0.71m・深さ約0.1～0.15m。

**遺物:** 6号溝出土の遺物2点(瀬戸・美濃陶器尾呂茶碗片1点、常滑陶器甕片1点)、7号溝出土の遺物4点(肥前磁器染付丸碗片1点、肥前磁器陶胎染付碗片1点、瀬戸・美濃灰釉丸碗片1点、志戸呂陶器鉄軸灯明油皿1点)を取り上げた。 **時期:** 近世末期。

#### (7) 8号溝(第15図、PL. 7)

**位置:** II-6調査区のほぼ南半分を占め、II-7調査区の南東隅部分で検出される。II-6調査区では東西両端が調査区外に出、II-7調査区では南西側及び東端が調

査区外に出る。X=29,554～29,560、Y=-49,817～-49,842。

**重複関係:** II-6区では4号井戸に北辺を掘り込まれる。II-7調査区では18号土坑に掘り込まれる。7号溝を掘り込む。

**規模と形状:** 東西方向に流れる大溝。検出長22.5m・幅0.75m・深さ約0.47m。

**埋土:** 上層暗褐色土、黒褐色土、中層灰黄褐色土、褐色土、下層褐色土。 **遺物:** 3点を取り上げた。京・信楽系陶器灰釉碗片1点、常滑陶器甕片1点、砥石片1点。

**時期:** 近世末期。

#### (8) 9号溝(第15図、PL. 7)

**位置:** II-7調査区のほぼ中央部に位置する。X=29,555～29,559、Y=-49,816～-49,827。

**重複関係:** 20～22号土坑を掘り込み、5号溝に掘り込まれる。

**規模と形状:** 東西方向に流れる溝。ほぼ中央部が土橋状に掘り遺される。長さ6.57m・幅0.6m・深さ約0.6m。

**埋土:** 灰黄褐色土。 **遺物:** 肥前磁器染付丸碗片1点。

**時期:** 近世末期。

## 4. ビット

II区では15基のビットが検出されている。1～10号ビットはいずれも用途不明の小穴である。11～15号ビットは建物の礎石だった可能性が考えられる。

検出されたのは、II-3調査区から7基、II-5調査区から1基、II-7調査区から7基である。

#### (1) 1号ビット(第16図、PL. 7)

**位置:** II-3調査区の中央部から南寄りに位置する。3号溝の東側に近接する。X=29,520、Y=-49,856～-49,857。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.45m・短径0.4m・深さ約0.28m。

**埋土:** 褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

#### (2) 2号ビット(第16図、PL. 7)

**位置:** II-3調査区の北東寄りに位置する。2号溝の

北側、4号溝の南側に近接する。X=29,526、Y=-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い隅丸方形を呈する。長径0.33m・短径0.3m・深さ約0.3m。

(3) 3号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-5調査区の中央部、南端寄りに位置する。3号溝の東側に近接する。X=29,545、Y=-49,850。

重複関係：なし。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.3m・深さ約0.16m。

埋土：鈍い黄褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(4) 4号ピット(第16・73図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部から西寄りの位置。9号溝のすぐ西側、5号ピットのすぐ北側に隣接し、27号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,558～29,559、Y=-49,829。

重複関係：22号土坑、5号ピットを掘り込む。

規模と形状：不整形形状を呈する。長径0.34m・短径0.33m・深さ約0.11m。

埋土：鈍い黄褐色土。遺物：在地形土器火鉢1点。

時期：不明。

(5) 5号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部から西寄りの位置。9号溝の西側に近接する。4号ピットとほぼ同じ位置である。X=29,558～29,559、Y=-49,829。

重複関係：27号土坑を掘り込む。5号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：不整形形状を呈するものと思われるが、南端が調査区外に出る。長径0.52m・短径0.42m・深さ約0.14m。

埋土：鈍い黄褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(6) 6号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りの位置。9号ピットのすぐ南側に隣接する。27号土坑の西側に近接する。X=29,559、Y=-49,852～-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：不整形形状を呈するものと思われるが、南端が調査区外に出るため、全容は不明である。現存最大径0.64m・現存最幅0.3m・深さ約0.15m。

埋土：暗褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(7) 7号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りの位置。9・10号ピットの西側に近接する。X=29,560、Y=-49,830。

重複関係：28号土坑を掘り込む。

規模と形状：不整形形状を呈するものと思われるが、北端が調査区外に出るため全容は不明である。検出最大径0.5m・検出最大幅0.3m・深さ約0.2m。

埋土：暗褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(8) 8号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部から東寄りに位置する。X=29,560、Y=-49,830。

重複関係：20号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。南端が調査区外に出る。長径0.55m・短径0.44m・深さ約0.84m。

埋土：暗赤褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(9) 9号ピット(第14図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りに位置する。6号ピットのすぐ北側、10号ピットのすぐ南側、24号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,560、Y=-49,832～-49,833。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南北方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.25m・短径0.22m・深さ約0.25m。

埋土：鈍い黄褐色土。人為的埋没。遺物：なし。

時期：不明。

(10) 10号ピット(第16・73図)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りに位置する。24号土坑のすぐ西側、に隣接する。X=29,545、Y=-49,850。

重複関係：なし。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.3m・深さ約0.16m。

埋土：暗褐色土。遺物：石製品砥石1点。時期：不明。

## (11)11号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置、11・12号ピットは調査区の東壁に接している。12号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,529～29,530、Y=-49,853。

特徴：11～15号ピットは、14号ピット以外、いずれも礫が詰まった穴である。13・14号ピットの西側、III-3調査区の西壁際で検出された南北に並ぶ同様の礫が詰まった礎石状の遺構や、同様に15号ピットの西側の壁際で検出された同様に礫が詰まった礎石状の遺構とともに、それらの形状から、建物の礎石であると考えられる。11号ピット・13号ピット・西壁際の礎石状遺構が東西方向に一直線上に並び、そのすぐ南側に心々間で約1mの間隔をとって12号ピット・14号ピット・西壁際の礎石状遺構が一直線に東西方向に並ぶ。中列、13・14号ピット及びその西側に隣接する西壁際の礎石状遺構との間は約0.7mほどであるが、東側第1列である11・12号ピットと中列13・14号ピットとの間は約16mと離れており、東側第1列と中列との中間の位置に並存した礎石状遺構が存在したが、調査時までには失われた可能性もある。あるいは、東側第1列と、中列及び西壁際の礎石状遺構とは別個の建物であった可能性もある。南側に位置する15号ピットと、そのすぐ西側に隣接する西壁際の第三の礎石状遺構との列の間は南北に約3m離れていること、15号ピットの東側には、11・12号ピットに対応するような礎石状遺構の列がないことから考えれば、南側の15号ピット及びその西側に隣接する礎石状遺構によって構成される建物は別個のものである可能性が高い。

重複関係：なし。

規模と形状：南北に長い楕円形状の不整円形状を呈するものと思われるが、東側が調査区外に出るため、全容は不明である。長径0.73m・検出短径0.27m・深さ約0.16m。

遺物：なし。 時期：不明。

## (12)12号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置。11号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,528～29,529、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：11号ピット同様、石が詰められた浅い穴。南北に長い楕円形状を呈するものと思われるが、東端が

調査区外に出る。長径0.55m・検出短径0.38m・深さ約0.33m。 遺物：なし。 時期：不明。

## (13)13号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置。11号ピットの西側、14号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,530、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：11・12号ピット同様、石が詰まった浅い穴。南北に長い楕円形状を呈する。長径0.51m・短径0.45m・深さ約0.08m。 遺物：なし。 時期：不明。

## (14)14号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置。12号ピットの西側、13号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,529、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：11～13号ピットとは異なり、本ピットには石が詰まっていないが、規模や形状、位置などから見て11～15号ピット同様の機能を呈したものと考えられる。南北に長い不整円形状を呈する。長径0.63m・短径0.4m・深さ約0.11m。 遺物：なし。 時期：不明。

## (15)15号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の中央部から北西寄りの位置。X=29,525、Y=-49,854。

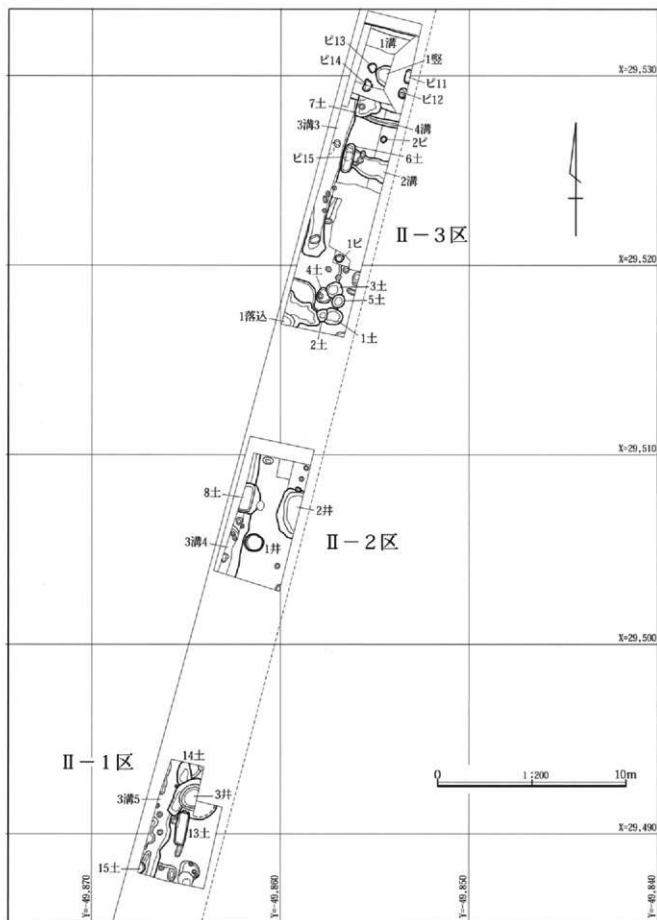
重複関係：6号土坑を掘り込む。

規模と形状：11～13号ピット同様、石が詰まった浅い穴とみられるが、掘り込みは明確ではなく、石の集積が確認できた程度であった。規模や形状、位置などから見て11～14号ピット同様の機能を呈したものと考えられる。南北に長い楕円形状を呈する。長径0.67m・短径0.34m。 遺物：なし。 時期：不明。

## 5. 地下式坑

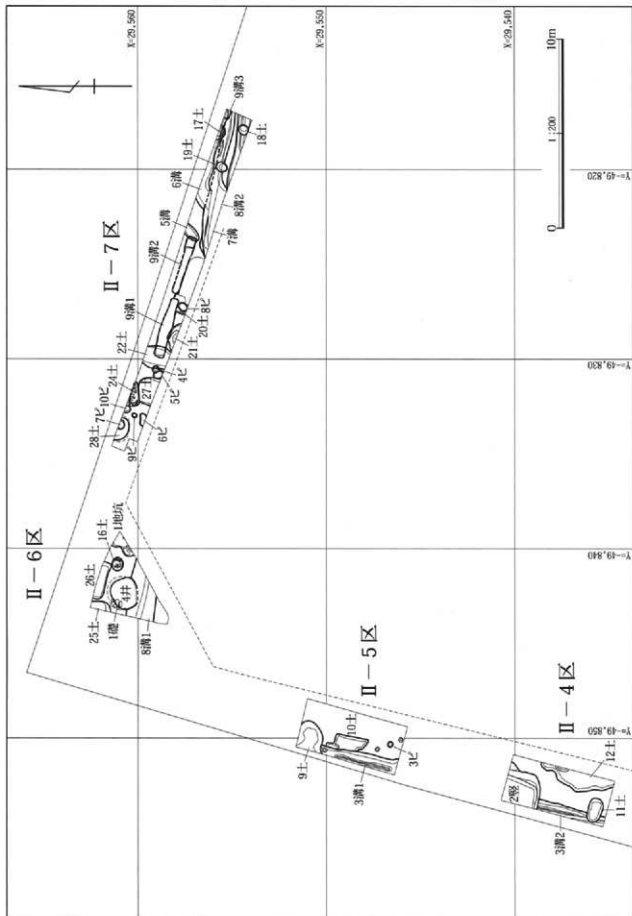
II-6区において地下式坑が1基検出されている。

分布 地下式坑は関東地方を中心に中世後半頃に盛行する屋敷周辺に掘削された地下室で、地表から縦坑を掘り、そこから横方向に広げて室部を作る構造の施設であり、その用途や機能については不明な点が多く、未だ統一し



第6図 II-1～3調査区遺構検出状況

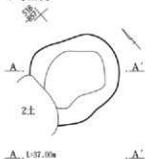




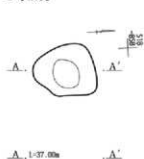
第7図 II-4～7調査区遺構抽出状況

第3章 調査の成果

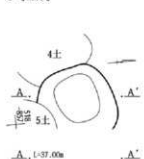
1号土坑



2号土坑



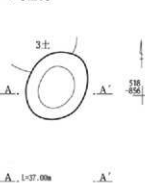
3号土坑



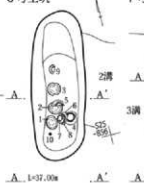
4号土坑



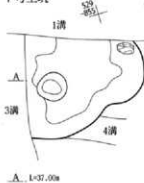
5号土坑



6号土坑



7号土坑



8号土坑



6号土坑A-A'

- 1層 暗褐色(10YR5/3)  $\phi$  5mmの炭化物少量含む。
- 2層 黒褐色(10YR2/3)炭化物多く含む。
- 3層 濃い黄褐色(10YR4/3)少量の炭化物とローム粒含む。

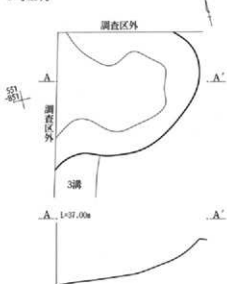
7号土坑A-A'

- 1層 濃い黄褐色(10YR5/3)  $\phi$  0.5~10mmのローム粒含む。
- 2層 明灰褐色(7.5YR7/1)ローム粘土ブロック含む。

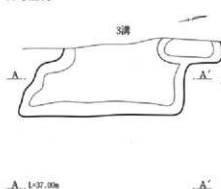
8号土坑A-A'

- 1層 黒褐色(10YR3/1)  $\phi$  1cmのロームブロック含む。
- 2層 褐灰(10YR4/1)ローム粘土ブロック多く含む。

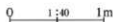
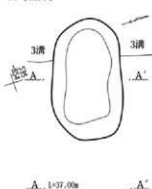
9号土坑



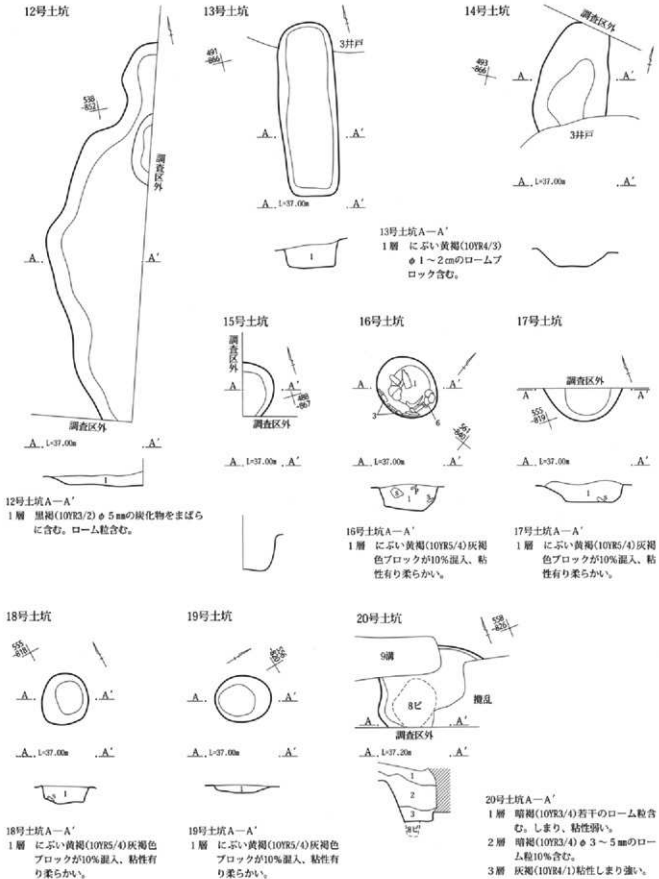
10号土坑



11号土坑



第8図 II区1~11号土坑平面図・断面図



第9図 II区12~20号土坑平面図・断面図

第3章 調査の成果

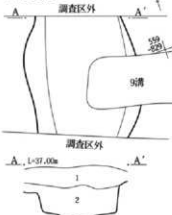
21号土坑



21号土坑A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/4)若干のローム粒含む。しまり、粘性弱い。
- 2層 におい黄褐(10YR3/4)粘性しまり弱い。
- 3層 黒褐(10YR3/2)φ3~5mmの灰白色ブロック30%含む。

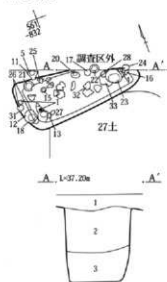
22号土坑



22号土坑A—A'

- 1層 褐(10YR4/4)粘性有り。しまり強い。砂質。
- 2層 暗褐(10YR3/4)φ1cmのロームブロック20%、炭化物含む。

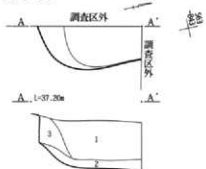
24号土坑



24号土坑A—A'

- 1層 褐(10YR4/4)粘性有り。しまり強い。砂質。
- 2層 暗褐(10YR3/4)炭化物20%含む。
- 3層 褐(10YR4/4)灰白色粘土ブロック、炭化物含む。

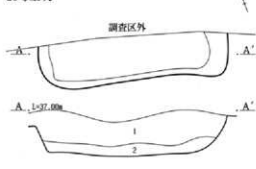
25号土坑



25号土坑A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ3~5cmのロームブロック含む。粘性有り。
- 2層 黄褐(10YR5/6)ローム粒30%含む。
- 3層 暗褐(10YR3/3)φ3~5mmローム粒30%含む。

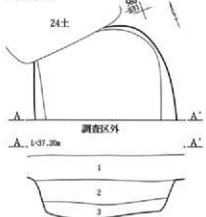
26号土坑



26号土坑A—A'

- 1層 黒(10YR7/2)φ3~5mmのローム粒少量混じる。
- 2層 黄褐(10YR5/6)ローム粒30%含む。

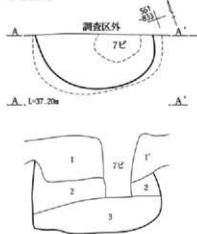
27号土坑



27号土坑A—A'

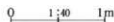
- 1層 褐(10YR4/4)粘性有り。しまり弱い。砂質。
- 2層 暗褐(10YR3/3)ローム50%混じる。
- 3層 暗褐(10YR3/4)炭化物20%含む。

28号土坑

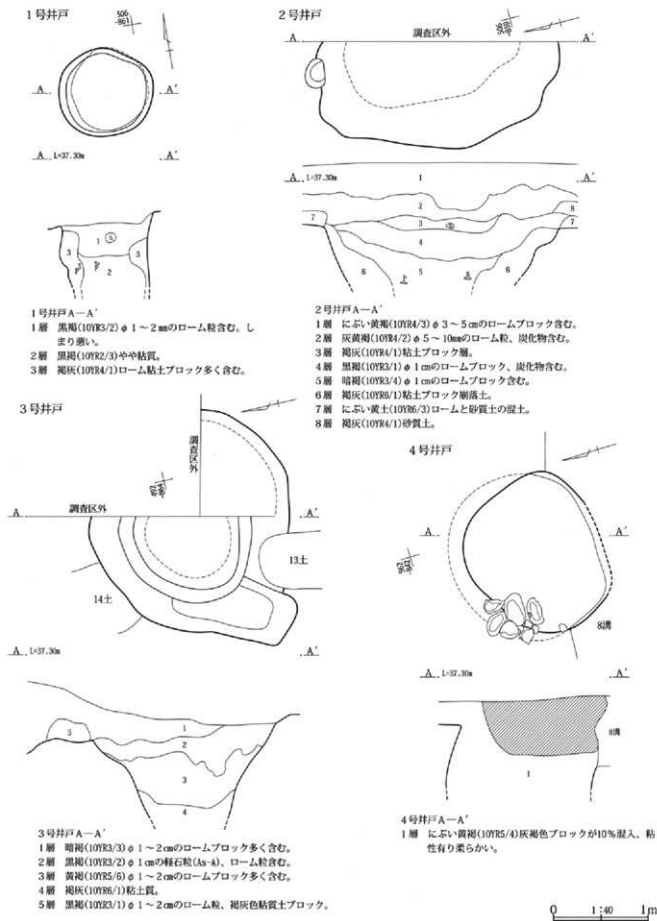


28号土坑A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/4)炭化物20%含む。
- 1'層 暗褐(10YR3/3)ローム50%混じる。
- 2層 明黄褐(10YR3/3)地山の灰色土と褐色土が混じる天井崩落土。粘性しまり強い。
- 3層 暗褐(10YR3/3)φ3~5cmのロームブロック30%含む。粘性しまり強い。



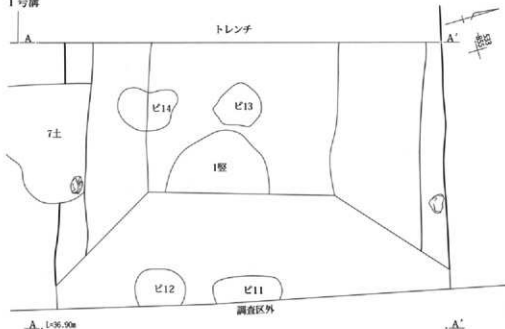
第10図 II区21・22・24～28号土坑平面図・断面図



第11図 II区1~4号井戸平面図・断面図

### 第3章 調査の成果

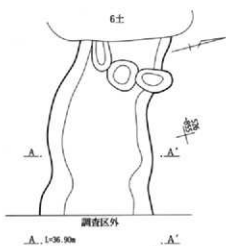
1号溝



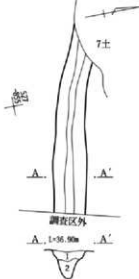
1号溝 A-A'

- |   |  |
|---|--|
| 1層 暗褐色(10YR3/4) 5cmのロームブロック含む。しまり弱く粘質。  | 6層 暗褐色(10YR3/4) φ 2~3cmのロームブロック多く含む。   |
| 2層 褐灰(10YR4/1) 灰色ブロックとφ 1cmの炭化物を含む。     | 7層 黒褐色(10YR3/1) φ 1~2cmのロームブロック、砂粒を含む。 |
| 3層 褐色(10YR4/6) φ 5cmのロームブロック含む。しまり弱く粘質。 | 8層 黒褐色(10YR2/3) 灰色粘土と黒褐色土混じり。          |
| 4層 黒褐色(10YR3/2) 粘質土。                    | 9層 黒褐色(7.5YR3/2) 若干のロームを含む。            |
| 5層 灰黄褐色(10YR4/2) 砂粒混じり。                 | 10層 褐色(10YR4/4) ローム混じり土。               |

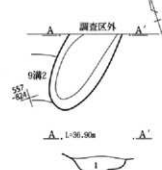
2号溝



4号溝



5号溝

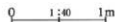


4号溝 A-A'

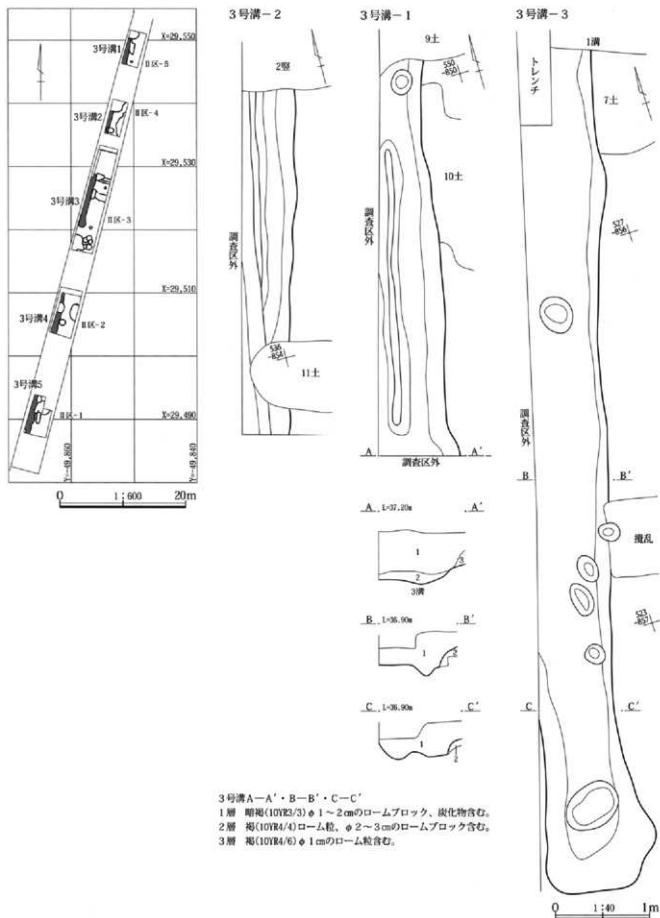
- |                                    |
|------------------------------------|
| 1層 暗褐色(10YR3/4) ローム粒混じり。           |
| 2層 黒褐色(10YR2/3) φ 1~2cmのロームブロック含む。 |

5号溝 A-A'

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1層 黒(10YR7/2) φ 1~2mmのローム粒少量混じり。 |
|----------------------------------|



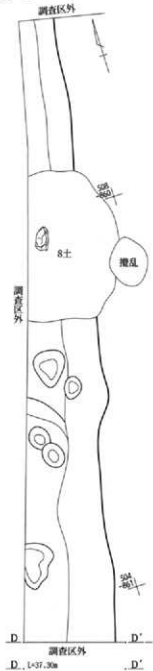
第12図 II区 1・2・4・5号溝平面図・断面図



第13図 II区3号溝平面図・断面図

第3章 調査の結果

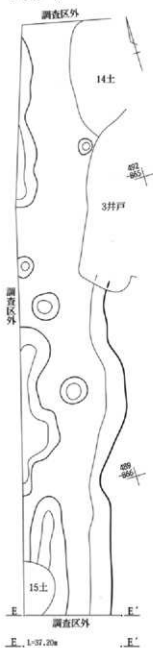
3号溝-4



3号溝D-D'

- 1層 ぶい黄褐(10YR4/3)  $\phi$  3~5cmのロームブロック含む。しまり弱く粘質。
- 2層 暗褐(10YR3/3)  $\phi$  5mmのロームブロック含む。
- 3層 暗褐(10YR3/4)少量のローム含む。
- 4層 黄褐(10YR5/6)ロームブロック。
- 5層 ぶい黄褐(10YR5/4)ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 6層 明黄褐(10YR5/6)ローム凝結層。

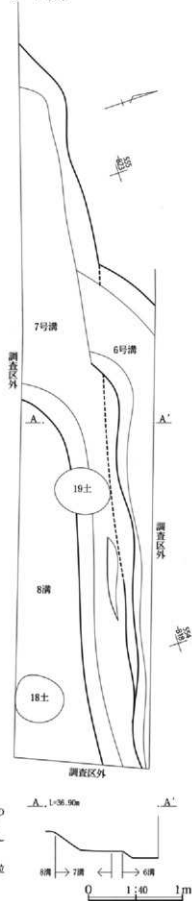
3号溝-5



3号溝E-E'

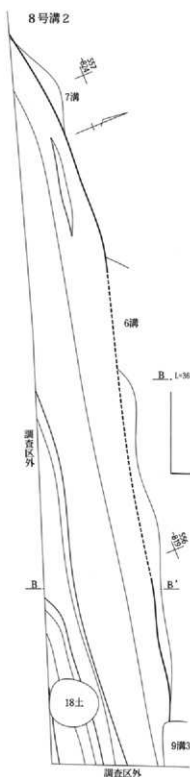
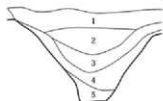
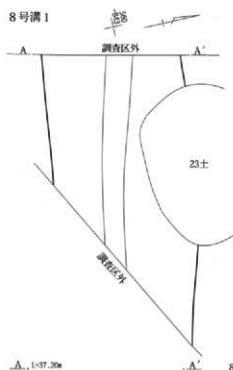
- 1層 暗褐(10YR3/3)  $\phi$  1~2cmのロームブロック、炭化物含む。
- 2層 褐(10YR4/4)ローム粒、 $\phi$  2~3cmのロームブロック含む。
- 3層 褐(10YR4/5)  $\phi$  1cmのローム粒含む。

6・7号溝



第14図 II区3・6・7号溝平面図・断面図



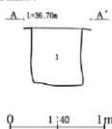
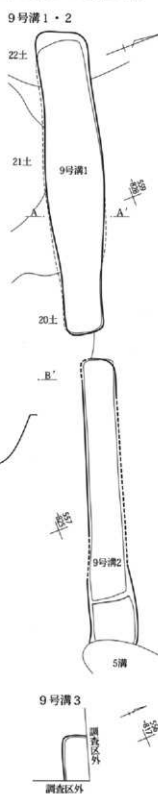


8号溝 A-A'

- 1層 暗褐色(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック含む。粘性有り。
- 2層 黒褐色(10YR3/1)φ5mmのローム粒30%含む。粘性しまり強い。
- 3層 灰黄褐色(10YR4/2)φ3~5mmのローム粒30%含む。
- 4層 褐色(10YR4/4)灰白色粘にまばらに入る。粘性しまり強い。
- 5層 褐色(10YR4/1)灰白色粘土50%混じる。粘性しまり強い。

9号溝 A-A'

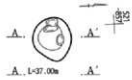
- 1層 灰黄褐色(10YR5/2)φ5~10mmの灰白色ブロック10%含む。粘性有り、しまり弱い。人為的埋没。



第15図 II区8・9号溝平面図・断面図

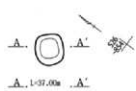
第3章 調査の成果

1号ビット



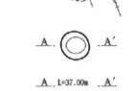
1号ビットA-A'  
1層 褐(7.5YR4/4)φ5~10mmの  
ロームブロック含む粘質土。

2号ビット



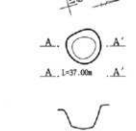
2号ビットA-A'  
1層 暗褐(10YR3/4)φ2~3mm  
の炭化物、ローム粒含む。  
しまり悪い。

3号ビット



3号ビットA-A'  
1層 にぶい黄褐(10YR4/3)  
ローム粒含む。しまり悪い。

4号ビット



5号ビット



5号ビットA-A'  
1層 暗褐(10YR3/4)φ1cmのロームブロック20%含む。炭化物含む。  
2層 暗褐(10YR3/3)ローム粒50%混じる。  
3層 暗褐(10YR3/3)ローム極少量混じる。

6号ビット



7号ビット



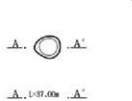
7号ビットA-A'  
1層 暗褐(10YR3/4)φ1~2cmの  
ロームブロック20%含む。

8号ビット



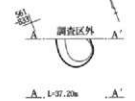
8号ビットA-A'  
1層 暗赤褐(5YR2/3)少量の灰白色  
粒含む。

9号ビット



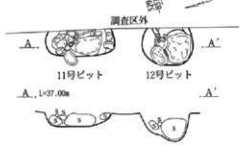
9号ビットA-A'  
1層 にぶい黄褐(10YR5/4)ロームが  
のり状に入る。人為的埋没。

10号ビット

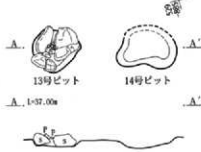


10号ビットA-A'  
1層 褐(10YR4/4)粘性有り。しまり悪い、砂質。  
2層 暗褐(10YR3/3)ローム粒50%混じる。  
3層 暗褐(10YR3/4)φ1cmのロームブロック20%、炭化物含む。

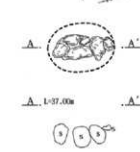
11・12号ビット



13・14号ビット

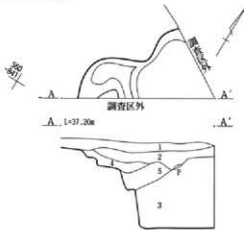


15号ビット



第16図 II区1~12号ビット平面図・断面図

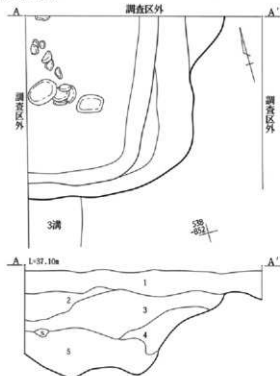
1号地下式坑



1号地下式土坑A—A'

- 1層 暗褐色(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック含む。粘性有り。
- 2層 黒褐色(10YR3/1)φ1~2cmの小礫含む。粘性有り。
- 3層 暗褐色(10YR7/1)粘土質。
- 4層 褐(10YR4/3)やや粘質。
- 5層 明黄褐色(10YR6/8)ローム崩落土。

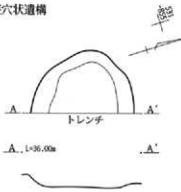
2号竪穴状遺構



2号竪穴状遺構A—A'

- 1層 暗褐色(10YR3/3)少量の炭化物、φ2cmのロームブロック含む。
- 2層 暗褐色(10YR3/4)φ1cmのロームブロック含む。
- 3層 褐(10YR4/4)φ1~3cmのロームブロックが鹿の子状に入る。
- 4層 黒褐色(10YR3/1)φ1~3cmのロームブロック含む。
- 5層 黒褐色(10YR3/2)φ1~3cmのロームブロック多量に含む。

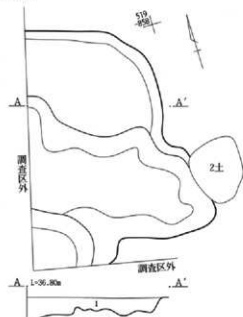
1号竪穴状遺構



1号礎石



1号落ち込み



1号落ち込みA—A'

- 1層 暗褐色(7.5YR3/4)少量の炭化物、φ2~5mmの軽石、ローム粒含む。

0 1:40 1m

第17図 II区1号地下式坑、1・2号竪穴状遺構、1号礎石、1号落ち込み平面図・断面図

た結論を得るには至っていないのが現状である。

関東地方の中世後半頃の一般的な屋敷跡の周辺からは、ほとんど検出されると言っても過言ではないほど普遍的な遺構で、関東地方以外では九州北部にやや多く分布しており、その他、東海・北陸・中国地方の一部からも若干検出されている。また、東北地方などでも地下式坑と似た施設が存在が報告されており、類似した後世の室との識別が困難な施設も含めると、散在的ではあろうが、もっと多くの事例が広範囲に分布する可能性が高い。

**機能** 地下式坑の機能に関する現時点における代表的な説としては、穀物類等の農産物を主とした貯蔵施設説、戦災、自然災害等からの一時避難施設説(シェルター説)、隠匿施設説(トランクルーム説)、葬送関連施設説、ないしはこれらの複数の機能を合わせ持つ多機能説等が提示されている。

**貯蔵施設説** 穀物類の貯蔵施設説は、室内から多量の炭化した穀類が出土した事例と、遺跡が台地上の湿気の籠り難い場所、主にローム層堆積地に営まれているという点を根拠としている。

**シェルター or トランクルーム説** シェルターないしはトランクルーム説は、それらの多くが戦国期の所産であるということや、建物周辺に設けられるケースが多いという点や形状を根拠に唱えられている。

**葬送・宗教関連施設説** 葬送に伴う施設説は、竪坑や室内から人骨や板碑等が出土するケースが多々見られることによる。の中には、具体的に禪宗の葬法であるとの説や、またムロ内で遺体を骨化するための一次葬施設であるとの見方、さらには真言密教立川流の儀礼に基づき、遺体を室内で骨化し、得られた團體を加工して秘儀を行う場であると想定する説すらある。

各説とも説得的な面はあるが、反面否定的資料にも事欠かないのが現状で、決め手を欠いている。

各遺跡から検出される地下式坑の総数は、単基から百基前後まで、遺跡によって多寡がある。(参考:今井忠昭「地下式坑が作られた時代」『新訳史学』82号 2014)

#### (1) 1号地下式坑(第17・73図、PL. 8)

**位置:** II-6 調査区の北東端に位置する。16号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,538 ~ 29,540、Y=-49,851 ~ -49,853。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 東・北側が調査区外に出るため、全容は不明であるが、北側に階段を伴う入り口が設けられ、坑内の床面はフラットである。検出長径1.9m・検出短径1.74m・深さ0.87m。

**埋土:** 上層暗褐色土・黒褐色土・褐色土・明黄褐色土、坑内暗褐色土。 **遺物:** 肥前磁器染付皿1点、在地系土器香炉片1点。 **時期:** 近世末期。

### 6. 竪穴状遺構

II区では2基の竪穴建物状が検出されている。II-3区から1号竪穴状遺構が、II-4区から2号竪穴状遺構がそれぞれ検出されている。

昨年度調査された1区からも竪穴状遺構の検出はなく、本遺跡では、現在の所、竪穴状遺構はII区からのみの検出である。

これらの竪穴状遺構は、先史・古代の竪穴住居ではなく、また、中世都市や城郭である鎌倉、博多、下古館遺跡(栃木県下野市)、新平田遺跡(鹿児島県大口市)、浪岡城跡(青森県青森市)などで検出されている中世竪穴建物とも異なる様相であり、部分的にしか検出できなかったこともあって、遺構の用途や機能は不明である。

#### (1) 1号竪穴状遺構(第17・73図、PL. 8)

**位置:** II-3 調査区の北端寄りに位置する。X=29,529 ~ 29,530、Y=-49,854。

**重複関係:** 1号溝の底面に掘り込む。

**規模と形状:** 東側が深度掘削のための法面の中に入るため、全容は不明である。竪穴状遺構の西端が検出されている。検出長径1.1m・検出短径0.67m。 **遺物:** 制作地不詳染付土瓶1点、制作地不詳灰釉台付灯明油皿1点、軒椀瓦片1点、銅銭1点(文久永宝:文久3(1863)年2月から慶応3(1867)年まで鑄造)、石鉢1点。 **時期:** 近世末期~近代初頭。

#### (2) 2号竪穴状遺構(第17・75図、PL. 8)

**位置:** II-4 調査区の北西隅に位置する。12号土坑の北西側に近接する。X=29,538 ~ 29,540、Y=-49,851 ~ -49,853。

**重複関係:** 3号溝の北端部を掘り込む。

**規模と形状**：北側及び西側が大きく調査区外に出るため詳細は不明である。検出長径1.9m・検出短径1.74m・検出深度約0.87m。

**埋土**：上層暗褐色土、中層暗褐色土・褐色土・黒褐色土、下層黒褐色土。**遺物**：皿と鉄製品釘各1点。**時期**：近世末期。

## 7. 礎石

II区では調査時に「礎石」という遺構名称が付された遺構は、II-6区で検出された1基のみであるが、ピットの項で述べたように11～15号ピット及びその西の壁際でごく一部が検出されたピット群も礎石であると考えられる。

### (1) 1号礎石(第17図、PL. 8)

**位置**：II-6調査区の中央よりやや北側、西端寄りに位置する。25号土坑のすぐ南西側、8号溝のすぐ北側に隣接する。X=29,561～29,562、Y=-49,843～-49,844。

**重複関係**：4号井戸埋没後にその縁辺部にかかる位置に構築される。

**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。確認面に集積が見られた状態であり、掘り込みは全く確認できなかった。構造から何らかの建物の柱跡と考えられるが、相対する礎石は調査範囲内からは見つからなかった。竪穴状遺構の西端が検出されている。長径0.7m・短径0.5m。**遺物**：なし。**時期**：近世末期～近代初頭か。

## 8. その他の遺構

### (1) 1号落ち込み(第17図)

**位置**：II-3調査区の南西隅に位置する。1・4号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,517～29,520、Y=-49,857～-49,860。

**重複関係**：2号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：南・西辺が調査区外に出るため全容は不明である。不整形。底部は起伏が大きい、どちらかの方向に傾斜しているわけではない。人為的な掘り込みであるのか、自然に形成された窪地なのかは不明である。検出長径2.51m・検出短径1.9m・深さ0.2m。

**埋土**：暗褐色土。**遺物**：染付碗1点。**時期**：近世末期。

## 9. 遺構外一括出土遺物

遺構外出土遺物を観察表及び第75・76図に掲載した。

なお、「遺構外出土遺物」と「一括」は同意であり、「落ち込み出土」遺物1点も含む。

## 第3節 III区で検出された遺構と遺物

III区は、主要地方道大間々・深谷線の世良田交差点以南の西側と、世良田交差点の西側、国道354号線沿いの南側の部分にあたる。

調査区は5箇所に分かれ、主要地方道大間々・深谷線の西側拡幅部分を南からIII-1調査区、III-2調査区、III-3調査区とし、主要地方道大間々・深谷線が世良田交差点にかかる、交差点南西側拡幅部分を含む一角をIII-4調査区、国道354号線の南側拡幅部分をIII-5調査区とした。

III区で検出された遺構は、土坑60基、井戸3基、溝5条、ピット30基、礎石8基、配石2基である。土坑と礎石の検出件数は、全調査区内で最多である。

III-1調査区は、主要地方道大間々・深谷線の西側拡幅区の南の端にあたり、X=29,480～29,500・Y=-49,875～-49,885に位置する。主要地方道大間々・深谷線を挟んだ東側にはII-2調査区が存在する。土坑1基、溝1条が検出された。

III-2調査区は、主要地方道大間々・深谷線の西側拡幅区にかかるIII区において南から2番目の調査区で、X=29,520～29,530・Y=-49,865～-49,875に位置する。主要地方道大間々・深谷線を挟んだ東側にはII-3調査区が存在する。土坑7基、溝1条が検出された。

III-3調査区は、主要地方道大間々・深谷線の西側拡幅区にかかるIII区において南から3番目の調査区で、X=29,535～29,550・Y=-49,860～-49,870に位置する。主要地方道大間々・深谷線を挟んだ東側にはII-4調査区が存在する。検出された遺構は、土坑3基、溝2条、配石が2基である。

III-4調査区は、世良田交差点の南側、主要地方道大間々・深谷線が世良田交差点に達する部分の、西側の拡幅区と世良田交差点そのものの南西側拡幅箇所にあたる。X=29,550～29,565、Y=-49,855～-49,865。土

坑21基、井戸2基、溝3条、ピット19基、礎石6基が検出された。土坑・ピットの検出数はⅢ区最多である。

Ⅲ-5調査区は、国道353号線の南側拡幅部分にあたる調査区で、交差点部分にあたるⅢ-4調査区の北側と本調査区とが、Ⅲ区では国道353号線に面した調査区ということになる。Ⅲ区の中で最も調査面積が大きい調査区である。土坑28基、井戸1基、溝1条、ピット11基、礎石2基が検出された。

## 1. 土坑

Ⅲ区では60基の土坑が検出された。Ⅰ区では14基、Ⅱ区では27基、Ⅳ区では45基であるから、調査区別では圧倒的に最多である。

主要地方道太田・大間々線に面し、Ⅲ区の最南端にあたるⅢ-1調査区では1基、その北側に位置するⅢ-2調査区では7基、さらにその北側にあたるⅢ-3調査区では3基、世良田交差点にかかるⅢ-4調査区では21基、国道353号線の南側に面したⅢ-5調査区では28基が検出された。世良田交差点に面したⅢ-4調査区と国道353号線の南側に面したⅢ-5調査区とに集中して出土している。

他の調査区においても、南端部や北端部に比べて、世良田交差点に近い箇所や国道353号線に面した調査区において、より多くの土坑が検出されるような傾向が窺える。ただし、用途・機能が明確に判明するものは皆無であった。

### (1) 1号土坑(第20・77図、PL.10)

**位置:**Ⅲ-5調査区最西端付近に位置する。1号礎石の東側、2号礎石の西側に位置する。X=29,584、Y=-49,894～-49,895。

**重複関係:**なし。

**方向:**N-110°-E。

**規模と形状:**北西-南東方向に長い不整形円形を呈する小規模な土坑。長径0.8m・短径0.4m・深さ0.25m。

**埋土:**黒褐色土。 **遺物:**在地系土器鉢片1点。 **時期:**中世。

### (2) 2号土坑(第20図、PL.10)

**位置:**Ⅲ-5調査区最西端付近に位置する。1号井戸

のすぐ北側に、2号礎石のすぐ南側に隣接する。X=29,582～29,583、Y=-49,893。

**重複関係:**なし。

**方向:**N-20°-W。

**規模と形状:**南北にやや長い楕円形状を呈する小規模な土坑。長径0.42m・短径0.36m・深さ0.31m。

**埋土:**灰黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

### (3) 3号土坑(第20図、PL.10)

**位置:**Ⅲ-5調査区最西端よりやや中央寄りの南壁際。2号礎石の東側、4号土坑の西側に位置する。X=29,580～29,581、Y=-49,891～-49,892。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、方形ないし長方形の掘方を有するものと考えられる。検出長径0.88m・検出短径0.44m・深さ0.14m。

**埋土:**褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

### (4) 4号土坑(第20・77図、PL.10)

**位置:**Ⅲ-5調査区最西寄りに位置する。3号土坑の東、9号土坑の西側に位置する。X=29,580～29,581、Y=-49,891～-49,892。

**重複関係:**2号礎石に北側を、1号溝に東側を掘り込まれる。

**規模と形状:**北側を2号礎石に、東側を1号溝に掘り込まれ、南側は調査区外に出るため全容は不明であるが、不整形形状を呈する大きな土坑である。検出長径1.84m・検出短径1.5m・深さ0.12m。

**埋土:**上層暗褐色土、中層黒褐色土、下層褐土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗1点、肥前磁器染付小杯1点、京・信楽系灰釉灯明油皿片1点、瀬戸・美濃陶器乗燭片2点、円盤形土製品1点、在地系土器皿1点、在地系土器始烙片1点、在地系土器置燭片1点。 **時期:**近世末期。

### (5) 5号土坑(第20図、PL.10)

**位置:**Ⅲ-5調査区最西端付近に位置する。南壁に掛かる。1号井戸の西側に位置する。X=29,582～29,583、Y=-49,896～-49,897。

**重複関係:**1号礎石に中央部を掘り込まれる。

**規模と形状:**中央部を1号礎石に掘り込まれ、南側が大

大きく調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈する大きな土坑である。検出長径2.02m・検出短径0.8m・深さ0.3m。遺物：なし。時期：不明。

#### (6) 6号土坑(第20図、PL.10)

位置：Ⅲ-5調査区の西端、西北隅に掛かる。1号土坑の西側、5号土坑の北西側に位置する。X=29,584～29,585、Y=-49,897～-49,898。

重複関係：1号礎石に中央部を掘り込まれる。

規模と形状：中央部を1号礎石に掘り込まれ、北及び西側が大きく調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈する大きな土坑である。検出長径1.74m・検出短径1.44m・深さ0.39m。

遺物：なし。時期：不明。

#### (7) 7号土坑(第20・77図、PL.10)

位置：Ⅲ-3調査区の中央部からやや北東の位置。2号配石のすぐ東側に隣接する。X=29,542～29,543、Y=-49,863～-49,864。

重複関係：なし。

方向：N-13°-E。

規模と形状：南北に若干長い楕円形状を呈する。長径1.04m・短径0.88m・深さ0.2m。

埋土：褐灰色砂質土。遺物：2点を取り上げた。軒丸瓦片1点、在地系土器鉢片1点。時期：近世末期。

#### (8) 8号土坑(第20図、PL.10)

位置：Ⅲ-3調査区のほぼ中央。7号土坑のすぐ南側に位置する。X=29,541～29,542、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に若干長い楕円形状を呈する。長径0.94m・短径0.92m・深さ0.17m。

埋土：褐灰色砂質土。遺物：なし。時期：不明。

#### (9) 9号土坑(第21・77・78図、PL.10)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部からやや西寄りの位置。1号溝の東側に近接する。X=29,578～29,580、Y=-49,884～-49,887。

重複関係：なし。

方向：N-118°-E。

規模と形状：南側が調査区外に出るが東西に長い楕円形状を呈する巨大な土坑。本遺跡で検出された土坑の中で最大規模である。長径2.7m・検出短径2.2m・検出深度0.46m

埋土：上層褐色土、中層黒褐色土、下層暗褐色土。遺物：在地系土器鉢片1点、在地系土器内耳銅片1点、在地系土器焙烙片1点、常滑陶器裏片4点。時期：中世。

#### (10) 10号土坑(第20図、PL.11)

位置：Ⅲ-3調査区の南西隅。X=29,537～29,538、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：西端が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に若干長い楕円形状を呈する。検出長径0.94m・短径0.92m・深さ0.17m。

埋土：黒褐色土。遺物：なし。時期：不明。

#### (11) 11号土坑(第20・78図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。14号土坑の北側。X=29,576～29,577、Y=-49,875～-49,876。

重複関係：2号礎石に掘り込まれる。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。検出長径1.1m・検出短径0.7m・深さ0.62m。

埋土：上層暗褐色土、中層鈍い黄褐色シルト質土、下層暗褐色砂質土。遺物：龍泉窯青磁皿片1点、瀬戸・美濃陶器碗片1点。時期：中世。

#### (12) 12号土坑(第21図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の東寄りの位置。17号土坑の東側、16号土坑の北西側に近接する。X=29,575～29,576、Y=-49,873。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.5m・検出短径0.1m・深さ0.31m。

埋土：暗褐色砂質土。遺物：なし。時期：不明。

#### (13) 13号土坑(第21・78図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区的最東端寄りの位置。南壁に掛かる。

X=29,572～29,573、Y=-49,868～49,869。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**南側大半が調査区外に出るため全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.7m・検出短径1.2m・深さ0.33m。

**埋土:**灰黄褐色砂質土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗1点、瀬戸・美濃陶器徳利片1点、堺・明石陶器すり鉢片1点。

**時期:**近世末期。

#### (14)14号土坑(第21図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。南壁に掛かる。X=29,575、Y=-49,876。

**重複関係:**60号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:**南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西にやや長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.8m・検出短径0.3m・深さ0.19m。

**埋土:**灰黄褐色砂質土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

#### (15)15号土坑(第21図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-5調査区の東端寄り。北壁に掛かる。2・3号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,573、Y=-49,870。

**重複関係:**19号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**南側が調査区外に出るが、南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。検出長径0.7m・検出短径0.66m・深さ0.15m。

**埋土:**灰黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

#### (16)16号土坑(第21・78図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-5調査区の東寄り。南壁に掛かる。12号土坑の南東側に、19号土坑の南西側に隣接する。X=29,573～29,574、Y=-49,872～-49,873。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**南側が調査区外に出るが、東西に長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.78m・検出短径0.84m・深さ0.13m。

**埋土:**灰黄褐色土、鈍い黄褐色土。 **遺物:**古瀬戸陶器盤類片1点。 **時期:**中世か。

#### (17)17号土坑(第22図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-5調査区の東寄り。11号土坑の南東側に、12号の南西側に、14号土坑の北東側に、16号土坑の西側に近接する。X=29,575、Y=-49,874～-49,875。

**方向:**N-98°-E。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**東西に長い不整楕円形状を呈する。長径1.3m・短径1.04m・深さ0.38m。

**埋土:**上層鈍い黄褐色砂質土、下層鈍い黄褐色シルト質土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

#### (18)18号土坑(第22図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-5調査区的最東端。東壁に掛かる。X=29,572～29,573、Y=-49,866～-49,867。

**重複関係:**5・6号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状:**東側が大きく調査区外に出るため全容は不明であるが、西北西-東南東方向に長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.02m・検出短径0.8m・深さ0.46m。

**埋土:**上層暗褐色砂質土、下層鈍い黄褐色シルト質土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

#### (19)19号土坑(第21図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-5調査区的最東端寄り。北壁に掛かる。13号土坑の北西側に。16号土坑の北東側、2・3号ピットの西側に近接する。X=29,573～29,574、Y=-49,869～-49,871。

**重複関係:**15号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:**北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.78m・検出短径0.5m・深さ0.36m。

**埋土:**上層暗褐色粘質土、中層褐色粘質土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

#### (20)20号土坑(第22図、PL.11)

**位置:**Ⅲ-2調査区的最北端。北壁に掛かる。24号土坑の東側、4号溝の西側に位置する。X=29,526、Y=-49,868～-49,869。

**重複関係:**24・25号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径



0.49m・検出短径0.18m・深さ0.19m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(21)21号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の北西端。北壁及び西壁に掛かる。25号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,526、Y=-49,869～-49,870。

重複関係：なし。

規模と形状：北側及び西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1m・検出短径0.5m・深さ0.43m。

埋土：上層鈍い黄褐色土、中下層暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(22)22号土坑(第22・78図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の南寄りの位置。西壁に掛かる。X=29,523～29,524、Y=-49,870～-49,871。

重複関係：26号土坑を掘り込む。

規模と形状：西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈する大きな土坑と思われる。検出長径1.2m・検出短径1.16m・深さ0.35m。

埋土：暗褐色土。 遺物：肥前磁器染付筒形小坏1点、肥前磁器染付小坏1点、肥前磁器染付碗1点、肥前磁器染付丸碗片1点、瀬戸・美濃陶器絵徳利1点、制作地不詳徳利1点、常滑焼陶器甕片1点、在地系土器Ⅲ2点、在地系土器置電片1点、在地系土器焙烙片1点。なお、瀬戸・美濃陶器絵徳利の底部蛇目高台部に「大町井筒屋」という文字と家号(菱囲い内に「舞」)が墨書されたものがある。 時期：近世末期。

(23)23号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部。22号土坑のすぐ北東側に隣接する。X=29,524、Y=-49,869。

方向：N-12°-E。

重複関係：24・25号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.02m・短径0.7m・深さ0.56m。

埋土：灰黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(24)24号土坑(第22・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部。X=29,525～29,526、Y=-49,868～-49,869。

重複関係：23号土坑を掘り込む。25号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長径1.42m・検出短径0.7m・深さ0.32m。

埋土：暗褐色土。 遺物：肥前磁器染付丸碗片1点。

時期：近現代。

(25)25号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部からやや西側の位置。X=29,524～29,526、Y=-49,869～-49,870。

重複関係：23・24号土坑を掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長径2.74m・検出短径0.56m・深さ0.31m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(26)26号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部からやや南寄りの位置。X=29,522～29,524、Y=-49,869～-49,870。

重複関係：20号土坑に掘り込まれる。4号溝を掘り込む。

規模と形状：不整形。検出長径1.8m・検出短径0.5m・深さ0.21m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(27)27号土坑(第22・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部。南壁に掛かる。28号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,576～29,577、Y=-49,880～-49,881。

重複関係：54号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明である。不整形を呈するものと思われる。検出長径1.34m・検出短径1.2m・深さ0.43m。

埋土：灰黄褐色砂質土。 遺物：銅銭2点(泉文解説不能)。

時期：近世末期。

(28)28号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部。南壁に掛かる。27号土坑のすぐ西側に、29号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,576～29,577、Y=-49,881～-49,882。

重複関係：なし。

**規模と形状**：南側が調査区外に出るため全容は不明である。不整形を呈するものと思われる。検出長径0.84m・検出短径0.8m・深さ0.1m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(29)29号土坑(第23図、PL.12)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部。南寄りの位置。28号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,577、Y=-49,882。

**方向**：N-59°-E。

重複関係：なし。

**規模と形状**：北東-南西方向に長い不整形を呈する。検出長径0.88m・検出短径0.44m・深さ0.54m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(30)30号土坑(第23・79図、PL.12)

**位置**：Ⅲ-4調査区の北端寄りの位置。北西壁際。44号土坑の西側に近接する。X=29,565～29,566、Y=-49,861～-49,862。

重複関係：47号土坑、8号礎石に掘り込まれる。

**規模と形状**：北西-南東方向に長い不整形円形を呈する。検出長径1.2m・検出短径1.08m・深さ0.1m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(31)31号土坑(第23・79図、PL.12)

**位置**：Ⅲ-4調査区の北西端。北西壁に掛かる。X=29,568、Y=-49,862～-49,863。

重複関係：37号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状**：北北側及び西側が調査区外に大きく出るため、全容は不明である。検出長径1.2m・検出短径1.08m・深さ0.1m。

**埋土**：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土、暗褐色土。

**遺物**：在地系土器内耳鍋1点。 **時期**：中世。

(32)32号土坑(第23・79図、PL.12)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部。やや北寄りの位置。27・53・54号土坑のすぐ北側、2号礎石のすぐ南側に隣接する。X=29,577～29,578、Y=-49,878～-49,881。

**方向**：N-118°-E。

重複関係：52号土坑を掘り込む。58号土坑に掘り込まれ

る。

**規模と形状**：東-西に長い隅丸長方形を呈する。長径2.8m・短径0.56m・深さ0.32m。

**埋土**：上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：瀬戸・美濃陶器鉄軸乗燭1点。 **時期**：近世末期。

(33)33号土坑(第23図、PL.12)

**位置**：Ⅲ-4調査区の中央部よりやや北寄りの位置。東壁に掛かる。34号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,561～29,562、Y=-49,857～-49,858。

重複関係：3号溝を掘り込む。

**規模と形状**：東側が調査区外に大きく出るため、全容は不明である。検出長径1.2m・検出短径0.2m・深さ0.1m。

**埋土**：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(34)34号土坑(第23図、PL.13)

**位置**：Ⅲ-4調査区の中央部よりやや北寄りの位置。東壁際。33号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,562～29,563、Y=-49,857～-49,858。

重複関係：3号溝を掘り込み、3号井戸を掘り込む。

**方向**：N-10°-E。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形を呈する。長径3.08m・短径0.44m・深さ0.62m。

**埋土**：上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物**：なし。

**時期**：不明。

(35)35号土坑(第23・79図、PL.13)

**位置**：Ⅲ-4調査区の中央部よりやや北寄りの位置。東壁にかかると。7号ピットの東側に近接する。X=29,558～29,559、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：3号溝を掘り込む。

**規模と形状**：東側が調査区外に出るが、南北に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。検出長径2.38m・検出短径0.42m・深さ0.53m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：肥前磁器染付丸碗1点。

**時期**：近世末期。

(36)36号土坑(第23・79図、PL.13)

**位置**：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。44号土坑、11号ピットの東側、8号ピットの西側に近接する。X=29,564、

Y = -49,858 ~ -49,859。

**重複関係**：3号井戸、48号土坑を掘り込む。

**方向**：N-20°-W。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形を呈する。長径1.78m・検出短径0.6m・深さ0.56m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：常滑陶器破片1点。 **時期**：中世

#### (37)37号土坑(第23図、PL.12)

**位置**：III-4調査区の中央部よりやや北寄りの位置。7・18号ピットのすぐ北側に隣接し、49号土坑の東側に近接する。X = 29,560 ~ 29,561、Y = -49,858 ~ -49,859。

**重複関係**：3号溝に掘り込まれる。

**方向**：N-20°-W。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形を呈する。検出径0.7m・深さ0.18m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (38)38号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の中央部。35号土坑の西側に置する。X = 29,568、Y = -49,860。

**重複関係**：なし。

**方向**：N-10°-W。

**規模と形状**：南北にやや長い不整形円形を呈する。長径0.7m・短径0.5m・深さ0.33m。

**埋土**：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (39)39号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の北端部付近。46号土坑のすぐ東側に隣接する。X = 29,568、Y = -49,857 ~ -49,858。

**重複関係**：10号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状**：東西に長い長円形を呈する。長径1.48m・短径0.46m・深さ0.13m。

**埋土**：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (40)40号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の北端部。北壁に掛かる。X = 29,570、Y = -49,858 ~ -49,859。

**重複関係**：41号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：東北側が調査区外に出るため、全容は不明

である。検出径0.7m・深さ0.08m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (41)41号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の北端部。北壁に掛かる。X = 29,569 ~ 29,570、Y = -49,857 ~ -49,858。

**重複関係**：40号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：東北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.9m・検出短径0.4m・深さ0.18m。

**埋土**：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (42)42号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の北端部付近。44号土坑のすぐ北側に隣接する。X = 29,587 ~ 29,588、Y = -49,859 ~ -49,860。

**重複関係**：12・14号ピットに掘り込まれる。43号土坑、14号ピットを掘り込む。

**方向**：N-10°-E。

**規模と形状**：不整形円形を呈する。長径0.7m・短径0.6m・深さ0.3m。

**埋土**：暗褐色土、底部一部鈍い黄褐色土。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (43)43号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の北端部付近。44号土坑のすぐ北側に隣接する。X = 29,587 ~ 29,588、Y = -49,859 ~ -49,860。

**重複関係**：42号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：東西に長い不整形長円形を呈する。検出長径1.5m・短径0.42m・深さ0.24m。

**埋土**：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (44)44号土坑(第24図、PL.13)

**位置**：III-4調査区の北端部付近。42・43号土坑のすぐ南側に隣接する。3号井戸、36号土坑の西側に位置する。X = 29,565 ~ 29,566、Y = -49,860。

**重複関係**：11号ピットに掘り込まれる。45号土坑と合体するが新旧関係は不明である。

**規模と形状**：東西に長い隅丸長方形の44号土坑と南北に長い隅丸長方形の45号土坑とが合体したような逆

### 第3章 調査の成果

L字型の形状を呈する。長径1.5m・短径0.72m・深さ0.13m。

埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (45)45号土坑(第24図、PL.43)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。42・43号土坑のすぐ南側に隣接する。2号井戸、36号土坑の西側に位置する。X=29,565～29,566、Y=-49,860。

重複関係：15号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形の44号土坑と南北に長い隅丸長方形の45号土坑とが合体したような逆L字型の形状を呈する。長径1.48m・短径0.68m・深さ0.2m。埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (46)46号土坑(第24図、PL.13)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。39号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,568～29,569、Y=-49,859～-49,861。

重複関係：13号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：西側が調査区外に出るが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。検出長径2.06m・短径0.86m・深さ0.08m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (47)47号土坑(第24・79図、PL.13)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。西壁際。X=29,565、Y=-49,862。

重複関係：30号土坑を掘り込む。

方向：N-30°-W。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い不整楕円形状を呈する。平面形態は小規模な割に非常に深く、底部を検出することが出来なかった。非常に小規模ながら、井戸である可能性がある。長径0.86m・短径0.66m・調査最大深度1.25m。

埋土：上層褐色土、下層暗褐色土。 遺物：円盤型加工土製品1点、在地系土器火鉢片1点、軒平瓦片1点、在地系土器植木鉢片1点。 時期：近世末期～近代初頭。

#### (48)48号土坑(第24図、PL.14)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。39号土坑の南側、43・

44号土坑の東側に位置する。X=29,566～29,567、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：36号土坑、3号井戸に掘り込まれる。

規模と形状：円形状を呈する。検出径0.88m・深さ1m

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：中世。

#### (49)49号土坑(第24図)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部より北寄りの位置。50号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,560～29,561、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：2号井戸に掘り込まれる。

方向：N-102°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形を呈する。長径1.8m・短径0.6m・深さ0.93m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (50)50号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部より北寄りの位置。西壁に掛かる。49号土坑、19・20号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,562～29,564、Y=-49,859～-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：大部分が西側調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径2.1m・検出短径0.34m・深さ0.3m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (51)51号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部よりやや北寄りの位置。26号ピットのすぐ北側に隣接し、23号ピットの東側に位置する。X=29,578、Y=-49,882。

重複関係：52号土坑を掘り込む。

方向：N-56°-E。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.64m・検出短径0.5m・深さ0.23m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (52)52号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部よりやや北寄りの位置。28・29号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,577～29,579、Y=-49,881～-49,882。

重複関係：51号土坑、30・32号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状**：北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径1.4m・検出短径1.34m・深さ0.21m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(53)53号土坑(第22図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-5調査区のほぼ中央部。南壁に掛かる。X=29,575～29,576、Y=-49,879。

**重複関係**：54号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：南側が調査区外に出、西側を54号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。検出長径0.2m・検出短径0.14m・深さ0.35m。

**埋土**：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(54)54号土坑(第22図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-5調査区のほぼ中央部。南壁に掛かる。X=29,576～29,577、Y=-49,879～-49,880。

**重複関係**：27号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南側を53号土坑に掘り込まれ、さらに攪乱され、破壊されているため全容は不明である。検出長径1.1m・検出短径0.9m・深さ0.61m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(55)55号土坑(第25図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。北壁際。X=29,576～29,578、Y=-49,877～-49,878。

**重複関係**：2号礎石に掘り込まれる。32・57号土坑を掘り込む。

**方向**：N-134°-E。

**規模と形状**：東西に長い不整形円形を呈する。長径2m・短径1.4m・深さ0.29m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(56)56号土坑(第25図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。北壁に掛かる。X=29,576～29,577、Y=-49,877。

**重複関係**：2号礎石、11・14号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：東北側が調査区外に出、東側が削平されているために全容は不明である。検出長径1.5m・検出短径0.4m・深さ0.12m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(57)57号土坑(第25図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。X=29,576、Y=-49,878。

**重複関係**：北側を55号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：北側が55号土坑に掘り込まれている。南北に長い長楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.14m・検出短径0.46m・深さ0.27m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(58)58号土坑(第23図、PL.12)

**位置**：Ⅲ-4調査区の北西端。北西壁に掛かる。27・28号ピットの北西側に位置する。X=29,568～29,569、Y=-49,882～-49,883。

**重複関係**：31号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状**：大部分が北・西側調査区外に出るため、全容は不明である。検出径0.82m・深さ0.9m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(59)59号土坑(第25図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-1調査区の最南端のやや西寄りの位置。南壁に掛かる。X=29,483～29,484、Y=-49,880。

**重複関係**：4号溝に掘り込まれる。

**規模と形状**：大部分が南側調査区外に出るため、全容は不明である。検出径0.6m・深さ0.59m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(60)60号土坑(第25図、PL.14)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。南壁に掛かる。56号土坑の南側に近接する。X=29,574～29,575、Y=-49,876～-49,877。

**重複関係**：14号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.6m・検出短径0.46m・深さ0.59m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

## 2. 井戸

Ⅲ区では3基の井戸が検出されている。Ⅲ-4区で2基、Ⅲ-5区で1基であった。なお、Ⅲ-4区で検出された47号土坑も井戸である可能性がある。

本遺跡では、昨年度に報告したⅠ区を含めて、すべて

の調査区において井戸が検出されている。Ⅲ区で検出された井戸の数は、昨年度報告したⅠ区を含めて、本遺跡で最少である。

Ⅲ区で検出されたのは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区で検出されたのと同様、いずれも素堀の井戸であり、また、径も比較的小さかったことや、現状で、いずれも交通量が激しい道路に面した箇所での調査であり、調査区が民家とも隣接していたため、安全を最優先し、底面までの完掘はいずれも断念せざるを得なかった。

Ⅲ区で検出された井戸は、出土遺物からいずれも中世のものと考えられる。

(1) 1井戸(第26・79図、PL.15)

**位置:**Ⅲ-5調査区の最西端寄りの位置。南壁に掛かる。2号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,581～29,582、Y=-49,893～-49,894。

**重複関係:**2号礎石に掘り込まれる。

**規模と形状:**南側が大きく調査区外に出てしまっているが、不整形形状を呈するものと思われる。断面は漏斗状を呈する。検出長2m・検出幅1.23m・調査深度約1.3m。  
**埋土:**上層暗褐色土・鈍い黄褐色土、中層暗褐色土・褐色土。  
**遺物:**在地系土器内耳銅片1点、常滑陶器甕片1点、砥石片1点。  
**時期:**中世。

(2) 2号井戸(第26・80図、PL.15)

**位置:**Ⅲ-4調査区の中央部よりやや北東寄りの位置。37号土坑、7・18号ピットのすぐ西側、50号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,580～29,588、Y=-49,860～-49,861。

**重複関係:**49号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**不整形形状を呈する。長径2.28m・短径2.2m・調査深度約1m。

**埋土:**上層暗褐色土、中層黒褐色土・暗褐色土、壁際褐色土。  
**遺物:**在地系土器片口鉢片1点、在地系土器始地片1点、常滑陶器甕片1点。

**時期:**中世。

(3) 3号井戸(第26・80図、PL.15)

**位置:**Ⅲ-4調査区の北東寄り。44号土坑、11号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,564～29,566、Y=-

49,857～-49,859。

**重複関係:**34・48号土坑を掘り込む。36号土坑、8・9号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状:**不整形形状を呈する。長径2m・短径1.9m・調査深度約0.78m。

**埋土:**上層鈍い黄褐色土・暗褐色土、中層灰黄褐色土・鈍い黄褐色土。  
**遺物:**青白磁瓶片1点、常滑陶器甕片1点。  
**時期:**中世。

3. 溝

Ⅲでは5条の溝が検出されている。Ⅱ区で検出されたⅡ区3・8号溝のような調査区を越えて検出されたような大規模な溝が、Ⅲ区でも検出されている。これらの大規模な溝は、主要地方道世良田・深谷線の前身道路の側溝である可能性が考えられる。

いずれの類別においても、水が流れた痕跡はなく、用水路のようなものではなく、何らかの区画をするための溝であった可能性が高い。

(1) 1号溝(第27図、PL.15)

**位置:**Ⅲ-5調査区のほぼ中央部より西寄りの位置を南北方向に流れる。9号土坑の西側に位置する。X=29,580～29,582、Y=-49,887～-49,888。

**重複関係:**2号礎石に掘り込まれる。4号土坑の西側を掘り込む。

**規模と形状:**南北方向に流れる浅い溝。南北両端は調査区外に出る。検出長2.2m・検出上幅0.8m・検出下幅0.12m・深さ0.6m。  
**遺物:**なし。  
**時期:**近世末期。

(2) 2号溝(第29・80図、PL.9)

**位置:**Ⅲ-4調査区の南端近く。6・7号礎石の北側、4・5号礎石の南側。X=29,553～29,558、Y=-49,860～-49,863。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**断面でかろうじて検出された程度。東西方向に流れるものと思われる。検出長2.6m・検出幅0.38m・深さ0.42m。

**埋土:**上層暗褐色土、中層黒褐色土、下層褐色土。  
**遺物:**銅銭1点(寛永通宝)。  
**時期:**近世末期。

**(3) 3号溝(第27・80図、PL.15)**

**位置:**Ⅲ-3調査区の中央部より南西寄りの位置から発し、Ⅲ-4調査区の東寄りにかけて南北方向に流れる。北端はⅢ-4調査区の東壁から調査区外に出るため、全容は不明である。Ⅲ-4調査区の南側では削平を受けたため検出されなかった。X=29,540～29,567、Y=-49,864～-49,859。

**重複関係:**Ⅲ-3調査区では2号配石を掘り込む。Ⅲ-4調査区では33・34・35号土坑を掘り込まれ、37号土坑、7号ピットを掘り込む。

**規模と形状:**Ⅲ-3・4調査区を南北方向に流れる長大な溝。Ⅲ-4調査区の北側で調査区外に出る。主要地方道世良田・深谷線に先行する道路跡の西側溝になる可能性がある。検出総延長294m・幅0.64m・深さ0.3m。

**埋土:**上層黒褐色土、下層褐色土。 **遺物:**瀬戸・美濃磁器碗1点、瀬戸・美濃陶器志野丸皿片1点、石製品砥石1点。 **時期:**近現代。

**(4) 4号溝(第28・80・81図、PL.16)**

**位置:**Ⅲ-1～3調査区の東側を南北方向に流れる長大な溝。X=29,483～29,546、Y=-49,865～-49,876。

**重複関係:**Ⅲ-1調査区では59号土坑を掘り込む。Ⅲ-2調査区では26号土坑に、Ⅲ-3調査区では7・8号土坑、1号配石を掘り込まれ、2号配石を掘り込む。

**規模と形状:**Ⅲ-1～4調査区にかけて南北方向に流れる長大な溝。南北両端及び東側が調査区外に出るため全容は不明である。3号溝同様、主要地方道世良田・深谷線に先行する道路跡の西側溝になる可能性があるが、3号溝に比べて格段に規模が大きい。検出総延長200m・幅0.5m・深さ0.1m。

**埋土:**上層暗褐色土・鈍い黄褐色土・褐色土、中層黄褐色土・褐色土・黒褐色土・暗褐色土、下層黒褐色土・灰黄褐色土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗片1点、肥前磁器猪口1点、瀬戸・美濃陶器天目茶碗1点、円盤型加工土製品6点、常滑陶器甕片5点、瀬美陶器甕片2点、在地系土器皿1点、在地系土器おろし皿1点、在地系土器片口鉢片2点、在地系土器内耳鍋片1点、在地系土器焙烙片4点、在地系土器片1点、羽口1点、砥石片2点。 **時期:**近世末期。

**(5) 5号溝(第29図、PL.16)**

**位置:**Ⅲ-4調査区の北東端付近を南北方向に流れる。X=29,565～29,569、Y=-49,856～-49,858。

**重複関係:**34号土坑、3号井戸、3号溝、8・9号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状:**3号溝の西側を並行するように南北方向に流れる浅い溝。北端が調査区外に出る。東側を3号溝に掘り込まれており、当然、3号溝より新しい。検出長3.5m・検出幅1.4m・深さ0.35m。

**埋土:**鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

**4. ピット**

Ⅲ区では30基のピットが検出されている。I区で44基、II区で14基、Ⅲ区で30基、IV区で72基が検出されているがいずれも用途不明の小穴である。

検出されたのは、Ⅲ-4調査区から17基、Ⅲ-5調査区から13基で、Ⅲ-1～Ⅲ調査区からは検出されなかった。

**(1) 1号ピット(第30図)**

**位置:**Ⅲ-5調査区の東寄りに位置する。2号礎石の南側、3号土坑の北側に位置する。X=29,582、Y=-49,892。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.24m・深さ0.28m。

**遺物:**なし。 **時期:**不明。

**(2) 2号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-5調査区の東端付近。13号土坑の北側、3号ピットの南側に位置する。X=29,573、Y=-49,906。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**不整楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.26m・深さ0.44m。

**埋土:**上層暗褐色土、下層褐色土・明黄褐色土。 **遺物:**瀬戸陶器灰釉小香炉口縁片1点。 **時期:**近世末期。

**(3) 3号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-5調査区の東端付近。15・19号土坑のすぐ東側、2号ピットの北側に位置する。X=29,574、Y=-

49,869。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**隅丸方形を呈する。3～5号ピットはいずれも同規模、同形であり、一直線に並ぶ。心々間の距離は約1mであり、いずれも小規模ながらしっかりとした掘方を有している。あるいは3点セットで、欄柵や障壁などの柱穴になる可能性がある。長径0.2m・短径0.18m・深さ0.21m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

**(4) 4号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-5調査区の東端付近。X=29,573、Y=-49,868。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**隅丸方形を呈する。長径長径0.18m・短径0.16m・深さ0.65m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

**(5) 5号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-5調査区の東端付近。6号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,573、Y=-49,867。

**重複関係:**18号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**隅丸方形を呈する。長径0.24m・短径0.2m・深さ0.59m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

**(6) 6号ピット(第30・82図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-5調査区の東端付近。5号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,572～29,573、Y=-49,867。

**重複関係:**18号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.5m・短径0.45m・深さ0.4m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**堺・明石陶器すり鉢片1点、在地系土器鉢片1点。 **時期:**近世末期。

**(7) 7号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-4調査区の中央部、東寄りの位置。35号土坑の西側に位置し、37号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,560、Y=-49,859。

**重複関係:**18号ピット、3号溝に掘り込まれる。

**規模と形状:**不整楕円形状を呈する。長径0.4m・短径0.38m・深さ0.55m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

**(8) 8号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。36号土坑のすぐ東側に隣接し、34号土坑の北西側に位置する。8・9・11号ピットは東西にほぼ一列に並ぶが、配置やそれぞれの深さ、掘方の様相から見て何らかの構造物を構成する一連の柱穴とはみなしがたい。X=29,565、Y=-49,859。

**重複関係:**9号ピット、3号井戸を掘り込む。

**規模と形状:**不整楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.4m・深さ0.2m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

**(9) 9号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-4調査区の北東寄りの位置。X=29,565、Y=-49,857～49,860。

**重複関係:**8号ピットに掘り込まれる。3号井戸を掘り込む。

**規模と形状:**不整楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.4m・深さ0.2m。

**埋土:**暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

**(10) 10号ピット(第30図、PL.17)**

**位置:**Ⅲ-4調査区の北端寄りの位置。41号土坑の南側、46号土坑の東側に位置する。X=29,568～29,569、Y=-49,858。

**重複関係:**39号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**東西に長い楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.32m・深さ0.25m。

**埋土:**上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

**(11) 11号ピット(第30図)**

**位置:**Ⅲ-4調査区の中央部、北寄りの位置。38号土坑、3号井戸の西側に近接する。X=29,568、Y=-49,859～49,860。

**重複関係:**44号土坑を掘り込む。

**規模と形状:**南北に長い楕円形状を呈する。長径0.34m・



短径0.28m・深さ0.12m。

埋土：暗褐色土 遺物：なし。 時期：不明。

(12)12号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部、北寄りの位置。45号土坑のすぐ北側、14号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,567、Y=-49,860。

重複関係：42号土坑、15号ピットを掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.34m・短径0.28m・深さ0.38m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(13)13号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近、北東寄りの位置。40号土坑の南側に位置する。X=29,569、Y=-49,859。

重複関係：46号土坑、15号ピットを掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.48m・短径0.38m・深さ0.55m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(14)14号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。29号ピットのすぐ南側、12号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,567～29,568、Y=-49,860。

重複関係：42・43号土坑を掘り込む。

規模と形状：円形状を呈する。長径0.34m・短径0.32m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(15)15号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。42・43号土坑、14号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,567、Y=-49,860～-49,861。

重複関係：45号土坑、12号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：円形状を呈する。長径0.42m・短径0.4m・深さ0.44m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(16)16号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。44号土坑の南側に

位置する。X=29,564、Y=-49,860。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い不整楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.32m・短径0.24m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(17)17号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。45号土坑のすぐ西側に隣接し、8号礎石の北側に位置する。X=29,567、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する小規模なピット。長径0.2m・短径0.14m・深さ0.34m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(18)18号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部からやや北東寄りの位置。2号井戸のすぐ東側に隣接する。X=29,560、Y=-49,859。

重複関係：7号ピットを掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.36m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(19)19号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北西寄りの位置。50号土坑のすぐ東側、20号ピットのすぐ南側に隣接し、49号土坑の北側に位置する。X=29,562、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.3m・深さ0.24m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(20)20号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北西寄りの位置。50号土坑のすぐ東側、19号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,563、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。北側が深く掘り込まれ、南側の不整形のピットと南北に長い楕

### 第3章 調査の成果

円形状のピットとがあたかも合体したような形状を呈している。長径0.38m・短径0.3m・深さ0.17m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (21)21号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の北西寄りの位置。9号土坑のすぐ東側、24号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,563、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.3m・深さ0.17m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (22)22号ピット(第31図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部付近。25号ピットのすぐ南西側に隣接する。X=29,578、Y=-49,883～-49,884。

重複関係：24号ピットを掘り込む。

規模と形状：北東-南西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.34m・短径0.3m・深さ0.44m。

埋土：暗褐色土、底部壁際鈍い黄褐色土。 遺物：なし。

時期：不明。

#### (23)23号ピット(第31図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部付近。X=29,578、Y=-49,883。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.21m・深さ0.27m。

埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (24)24号ピット(第31図、PL.18)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部付近。X=29,578、Y=-49,883。

重複関係：22・25号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.25m・深さ0.52m。

埋土：上層灰黄褐色土、壁際及び下層鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (25)25号ピット(第31図、PL.18)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部付近。X=29,578、Y=-49,883。

重複関係：24号ピットを掘り込む。

規模と形状：不整楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.18m・短径0.16m・深さ0.25m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (26)26号ピット(第31図)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部付近。51号土坑の南側、29号土坑の北側に近接する。X=29,578、Y=-49,882。

重複関係：52号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：不整形形状を呈する小規模ながらもしっかりとした掘方を有するピット。長径0.3m・短径0.28m・深さ0.5m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (27)27号ピット(第31図、PL.18)

位置：Ⅲ-4調査区の北西端付近。西・南壁に掛かる。58号土坑の南側に位置する。X=29,568、Y=-49,863～-49,864。

重複関係：31号土坑を掘り込む。

規模と形状：西側と南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.4m・検出短径0.2m・深さ0.59m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (28)28号ピット(第31図)

位置：Ⅲ-4調査区の北西端付近。31号土坑の東側に位置する。X=29,567、Y=-49,862～-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：西側と南側が調査区外に出るため、東西にやや長い不整楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.32m・短径0.24m・深さ0.1m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

#### (29)29号ピット(第31図)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近、西寄りの位置。46号土坑のすぐ南側、42・43号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,568、Y=-49,860。

重複関係：なし。

**規模と形状**：東北西-南東方向にやや長い不整隅丸長方形を呈する小規模なピット。長径0.26m・短径0.24m・深さ0.18m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

### (30)30号ピット(第31図)

**位置**：Ⅲ-5調査区の中央部付近。52号土坑の南側、28号土坑の北側に位置する。X=29,578、Y=-49,881。

**重複関係**：52号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：隅丸方形を呈する小規模ながらもしっかりとした掘方を有するピット。径0.18m・深さ0.056m。

**埋土**：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

## 5. 礎石

本遺跡では礎石という遺構名称が付されたものは14基が検出されている。

Ⅲ区では8基が検出されている。Ⅲ-4調査区とⅢ-5調査区からの検出に限られる。

Ⅱ区では、調査時に礎石という遺構名称が付された遺構は1基のみであるが、11～15号ピット及びその西の壁際でごく一部が検出されたピット群も礎石であると考えられる。

Ⅳ区では、Ⅳ-5調査区から1・2号の2基、Ⅳ-4調査区から3～5号の3基が検出された。

なお、Ⅰ区では礎石は検出されていない。

これら本遺跡において検出された礎石は、いずれも同じような規模・構造であり、いずれも同時期のものと考えられるが、Ⅲ-5調査区で検出された1・2号礎石及びⅢ-4調査区で検出された3号礎石のみは特異な形状である。

### (1)1号礎石(第31・82図、PL.18)

**位置**：Ⅲ-5調査区の最西端寄り。西壁及び南壁に掛かる。X=26,583～26,585、Y=-49,896～-49,898。

**重複関係**：5・6号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南西側大部分が調査区外に出るため全容は不明であるが、浅い溝状の彫り込みの上に川原石大の礎が何層にも敷き詰められた遺構が、北壁に沿って東西方向に約2.6mの地点で直角に南に曲がって約2.5mで南壁に達している。平面形態を一見すると暗渠のように見え

なくもないが、断面が、石が詰まった構造体であり、暗渠ではなく、建物の基礎部分の礎石と考えられる。検出長0.8m・検出幅0.28m・深さ0.055m。

**遺物**：瀬戸陶器灯明受皿1点、瀬戸・美濃陶器鉄袖袴腰形香が片1点。 **時期**：近世末期。

### (2)2号礎石(第32・82図、PL.18)

**位置**：Ⅲ-5調査区の西寄りの部分から北壁に沿って中央部東寄りの部分まで一直線に検出された。X=26,576～26,588、Y=-49,875～-49,893。

**重複関係**：4・11・52・55・56号土坑、1号溝、1号井戸を掘り込む。

**規模と形状**：Ⅲ-5調査区西寄りに部分から中央部までは、北側が調査区外に出る。調査区中央部から中央部の東寄りの位置にかけては、北壁際を一直線に東西方向に伸びる。調査区東寄りの部分では調査区外に出るため検出されなかった。1号礎石同様、浅い溝状に掘り窪めた中に川原石大の石が何層にも敷き詰められて構成されている。1号礎石とはほぼ同じ構造である。調査区内の西端寄り。南側に南北に延びる部分が検出されており、調査区よりも南側に展開した建物の礎石と考えられる。現在、この調査区にあたる場所の南側には、世良田交差点の南西角にあたる住宅の長屋門が存在するが、現在の長屋門は、国道354号線の拡幅にともなって南側に移動しており、この礎石が本来あった長屋門の基礎である可能性が高い。検出南北長1m・検出東西長180m・幅0.4m・深さ0.35m。

**埋土**：上層暗褐色土、下層黄褐色土。 **遺物**：肥前磁器碗片1点、肥前磁器猪口片1点、肥前磁器筒型湯呑1点、肥前磁器染付重鉢1点、肥前磁器染付広東碗片2点、肥前磁器染付皿片1点、瀬戸・美濃陶器緑釉皿片1点、瀬戸・美濃陶器灰釉梅文皿1点、瀬戸・美濃陶器鉄袖灯明油皿1点、常滑陶器裏片2点、在地系土器焙烙片2点、同種木鉢片1点、有孔石製品4点。 **時期**：近世末期。

### (3)3号礎石(第32図、PL.18)

**位置**：3～7号礎石はⅢ-4調査区の中央部から南寄りの位置から南端部にかけて検出され、南北に長大な3号礎石と単体の礎石である4～7号礎石からなる。4～7号礎石は配置から見て一つの建物を構成した礎石の可能

性があるが、3号礎石がこれら他の礎石と同様の一つの建物に関わる遺構であるかはよくわからなかった。本3号礎石はⅢ-4調査区の中央部から南寄りの位置の東壁に掛かる。4号礎石のすぐ東側に隣接する。X=26,553~26,585、Y=-49,896~-49,898。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** Ⅲ-4調査区の西壁に掛かる位置を南北方向に長く伸びる。溝状に掘り窪めた中に川原石大の石が何層にも敷詰められて構成され、Ⅲ-5調査区で検出された1・2号礎石に類似した形状・構造であり、本来は、長大な建物の基礎になるものと考えられる。ただし1・2号礎石に較べて、しっかりとした掘方を有している。なお、北側が調査区外に出てしまうため、全容は不明である。検出長4.22m・検出幅0.61m・深さ0.65m。遺物: なし。時期: 不明。

#### (4) 4号礎石(第32・84図、PL.18・19)

**位置:** Ⅲ-4調査区の南寄りの位置。3号礎石のすぐ西側に隣接する。X=26,555~26,556、Y=-49,860~-49,861。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 4~7号礎石は、Ⅲ-4調査区の南寄りから南端にかけて4基検出された礎石群である。5号礎石以外の3基はいずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、4号と6号の間がほぼ4m、6号と7号の間が1.8mである。本礎石は東西にやや長い隅丸形状を呈しており、長径1.04m・短径0.96m・石の上面から掘方底部までの深さは0.52mである。

**遺物:** 肥前磁器丸碗1点、肥前磁器筒型湯呑1点、瀬戸・美濃陶器鉄軸灯明油皿1点、在地系土器焙烙片1点。

**時期:** 近世末期。

#### (5) 5号礎石(第31図、PL.19)

**位置:** Ⅲ-4調査区の南寄りに位置する。X =

26,555、Y=-49,862~-49,863。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4~7号礎石群の中では、他の礎石とは異なる形状を呈し、東西に長く南北に扁平な平面形態を有する掘方が検出された。この特異な形状は、後世の削平や攪乱によるものではないと考えられる。東西に長い隅丸長方形形状の掘方の中に川原石大の石が何層にも敷き詰められ構成されているが、川原石の数も他の礎石に較べると格段に少なく、柱の当たりが意識された構造も確認できなかった。あるいは東柱を受ける礎石であるなど、他の礎石とは用途・機能が異なる可能性が考えられる。長径0.95m・短径0.5m・石の上面から掘方底部までの深さは0.7mである。遺物: なし。時期: 近世末期。

#### (6) 6号礎石(第31・84・85図、PL.18・19)

**位置:** Ⅲ-4調査区の南端付近のほぼ中央に位置する。7号礎石の東側に位置する。X=26,551~26,552、Y=-49,861~-49,862。

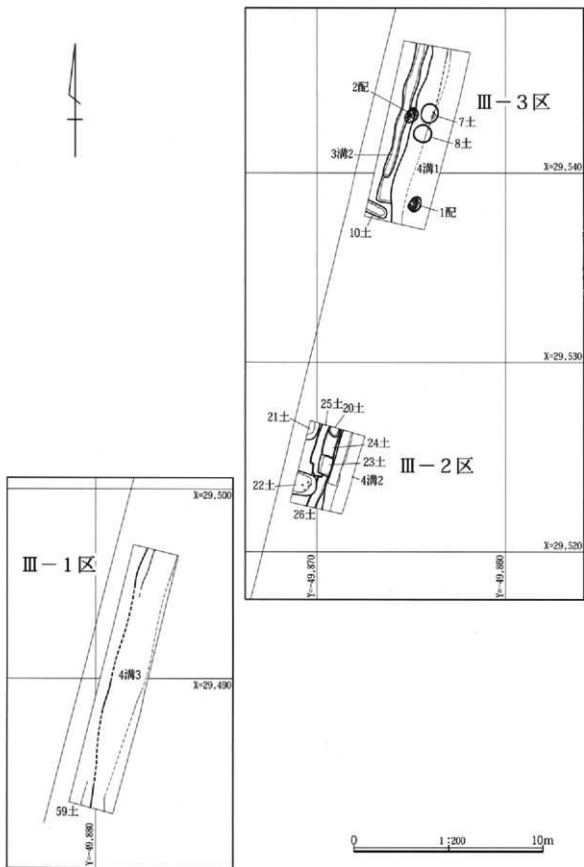
**重複関係:** 遺構ではないが1号遺物集中と名付けられた遺物集中出土箇所範囲に入っている。

**規模と形状:** Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4~7号礎石群の中で、4・6・7号礎石は、ほぼ同規模・同構造の礎石で、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、4号と6号の間がほぼ4m、6号と7号の間が1.8mである。径1.08m・石の上面から掘方底部までの深さは0.6mである。

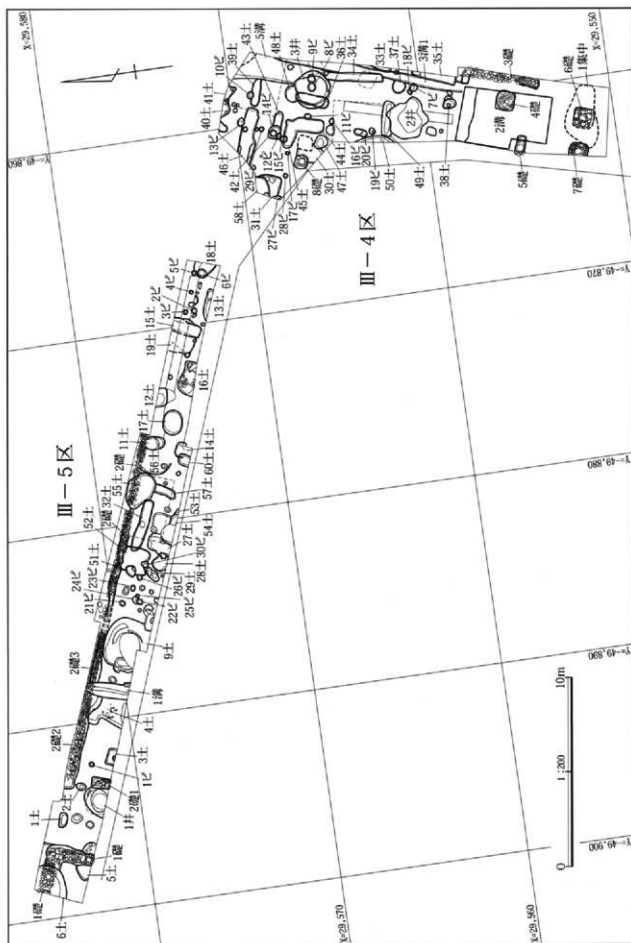
**遺物:** 肥前磁器丸碗2点、肥前磁器小広東碗1点、肥前磁器宏東碗蓋1点、円盤型加工土製品1点、瀬戸・美濃陶器大鉢片1点、常滑陶器甕片1点、在地系土器焙烙片3点、在地系土器皿1点、平瓦片1点。時期: 近世末期。

#### (7) 7号礎石(第31・85図、PL.19)

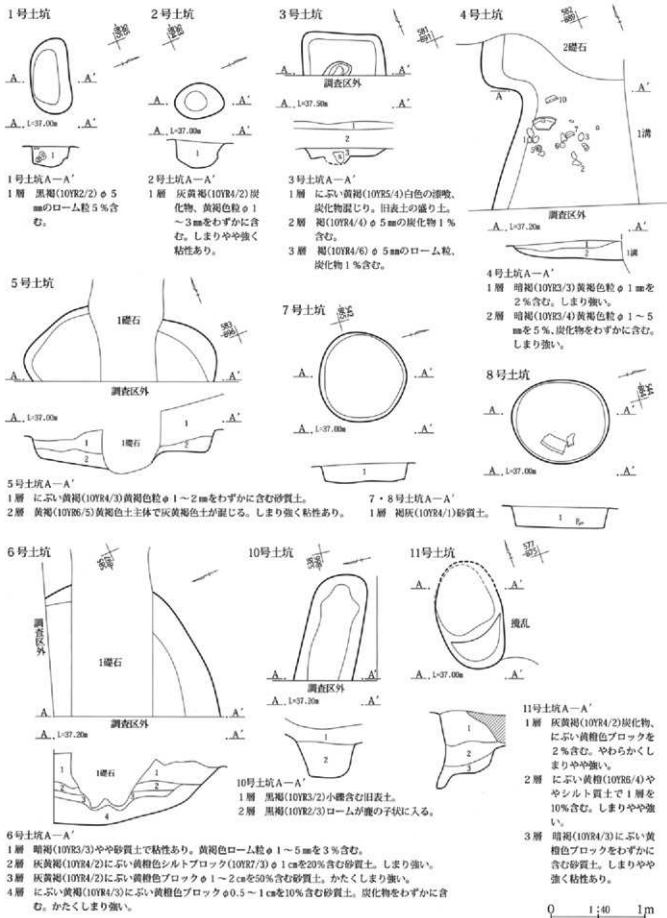
**位置:** Ⅲ-4調査区の南端付近の西寄りに位置する。西壁に掛かる。6号礎石の西側に位置する。X=26,551



第18図 III-1～3調査区遺構検出状況



第19図 III-4・5調査区遺構検出状況



第20図 Ⅲ区1~8・10・11号土坑平面図・断面図

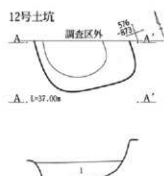
第3章 調査の成果

9号土坑



- 9号土坑A-A'
- 1層 埴(10YR4/4)
  - 2層 黒埴(10YR3/1)
  - 3層 暗埴(10YR3/4)ややしまり悪い。

12号土坑



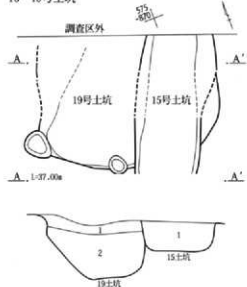
- 12号土坑A-A'
- 1層 暗埴(10YR4/3)にふい黄褐色ブロックをわずかに含む砂質土。しまりやや強く粘性あり。

13号土坑



- 13号土坑A-A'
- 1層 灰黄埴(10YR4/2)にふい黄褐色ブロックφ0.5~1cmを7%含む砂質土。しまり強い。

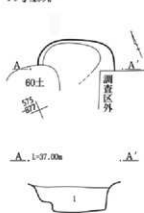
15・19号土坑



- 15号土坑A-A'
- 1層 灰黄埴(10YR4/2)にふい黄褐色ブロックφ1~2cmを2%、炭化物をわずかに含む。かたくしまり強い。

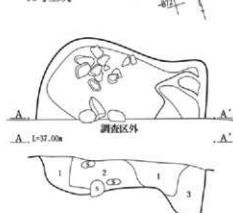
- 19号土坑A-A'
- 1層 暗埴(10YR3/4)粘質土。
  - 2層 埴(10YR4/4)粘質土。

14号土坑



- 14号土坑A-A'
- 1層 灰黄埴(10YR4/2)にふい黄褐色ブロックφ0.5~1cmを7%含む砂質土。しまり強い。

16号土坑

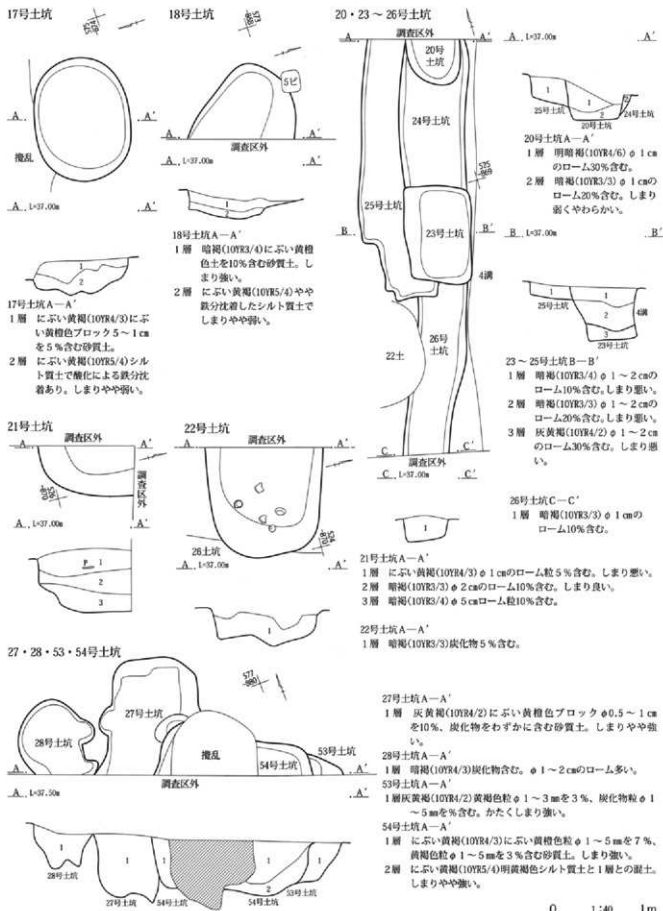


- 16号土坑A-A'
- 1層 灰黄埴(10YR4/2)にふい黄褐色粒φ1~5mmをわずかに含む。やわらかくしまりやや強い。
  - 2層 灰黄埴(10YR5/2)灰色シルト質土を50%含む。しまりやや弱い。
  - 3層 にふい黄埴(10YR4/3)明黄褐色ブロック(10YR6/6)を10%含む。



第21図 Ⅲ区9・12~16・19号土坑平面図・断面図



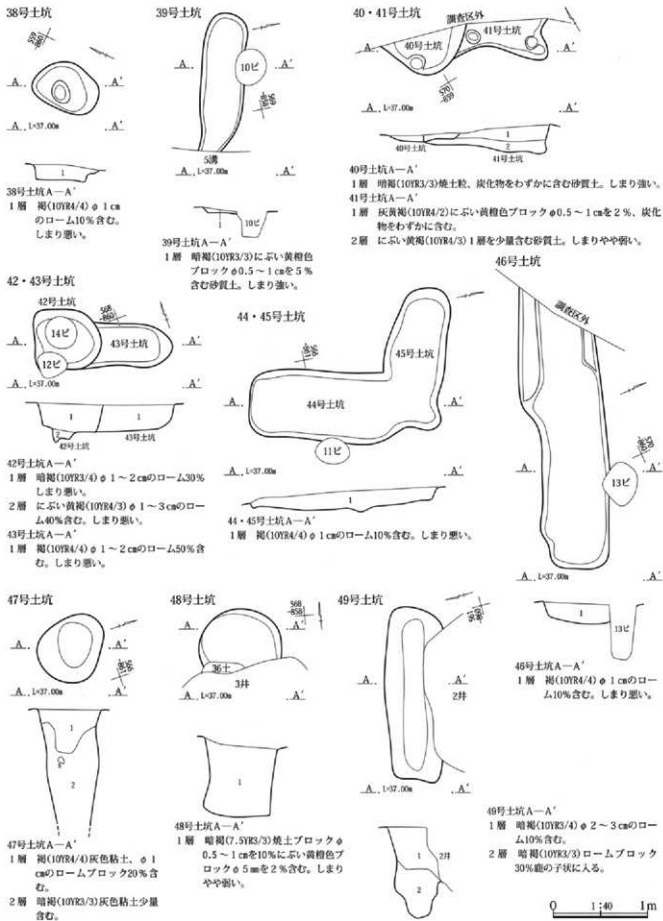


第22図 Ⅲ区17・18、20～28、53・54号土坑平面図・断面図

第3章 調査の成果



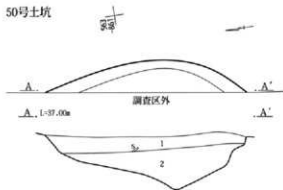
第23図 Ⅲ区29~37・58号土坑平面図・断面図



第24図 III区38~49号土坑平面図・断面図

第3章 調査の成果

50号土坑



50号土坑A-A'

1層 暗褐色(10YR4/3)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cmを5%含む。かたしまり強い。

2層 暗褐色(10YR3/3)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cmを2%、炭化物粒 $\phi$ 0.5mmをわずかに含む。しまり強い。

55・56号土坑



55号土坑A-A'

1層 明黄褐色(10YR6/6)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~2cmを15%含むシルト質土。しまり強い。

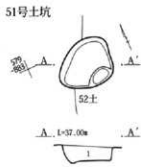
2層 明黄褐色(10YR6/8)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 1~2cmを10%、暗褐色ブロック $\phi$ 2~3cmを5%含む。しまりやや強く粘性あり。

56号土坑A-A'

1層 にぶい黄褐色(10YR4/3)黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cm、にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cmを合わせて20%含む。しまり強い。

2層 明黄褐色(10YR6/6)シルト質土にぶい黄褐色土と1層との混土。しまりやや強い。

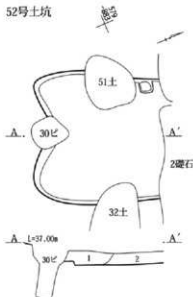
51号土坑



51号土坑A-A'

1層 暗褐色(10YR4/3)炭化物を含む。 $\phi$ 1~2cmのローム多い。

52号土坑

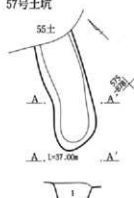


52号土坑A-A'

1層 暗褐色(10YR3/3)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5mmをわずかに含む。しまりやや弱く粘性あり。

2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)土質均一でわずかににぶい黄褐色粒 $\phi$ 1~3mmを含む。まりやや弱く粘性あり。

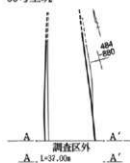
57号土坑



57号土坑A-A'

1層 灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cmを2%含む。しまりやや強く粘性あり。

59号土坑



59号土坑A-A'

1層 にぶい黄褐色(10YR4/3) $\phi$ 1cmのロームブロック50%含む。

2層 黒褐色(10YR2/3)粘質土。

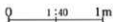
60号土坑



60号土坑A-A'

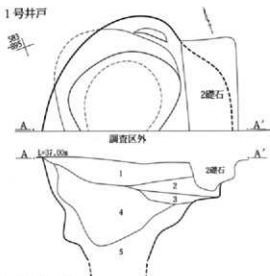
1層 にぶい黄褐色(10YR5/3)にぶい黄褐色粒 $\phi$ 1~2mm、ブロック $\phi$ 0.5~1cmを10%含む。やわらかく粘性のある砂質土。

2層 にぶい黄褐色(10YR6/4)明黄褐色粒 $\phi$ 1~2mmを10%含む。土質粗くしまりやや弱い。



第25図 Ⅲ区50~52・55~57・59・60号土坑平面図・断面図

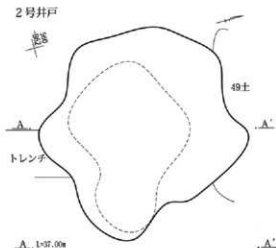
1号井戸



1号井戸A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)黄褐色粒 $\phi$ 1~5mmを2%含む。かたくしまり強い。
- 2層 暗褐(10YR3/3)黄褐色粒 $\phi$ 1~5mmを7%、炭化物をわずかに含む。しまり強い。
- 3層 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト状の黄褐色土が帯状に入る。
- 4層 暗褐(10YR3/3)炭化物、赤褐色粒 $\phi$ 1~5mmと黄褐色粒 $\phi$ 1~3mmを合わせて5%含む。しまり強い。
- 5層 褐(10YR4/6)黄褐色土主体で4層が少量混じるシルト質土。しまり強く粘性あり。

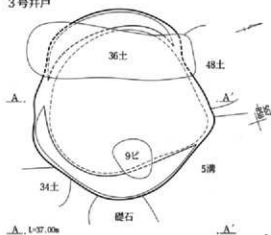
2号井戸



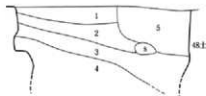
2号井戸A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3) $\phi$ 1~2cmの小礫少量含む。
- 2層 暗褐(10YR4/3) $\phi$ 0.5~10cmの礫、 $\phi$ 1cmのローム粒。
- 3層 黒褐(10YR3/1)炭化物、焼土粒含む。
- 4層 褐灰(10YR)灰色粘土20%含む。
- 5層 暗褐(10YR2/2)粘質土。

3号井戸



A-A' 1.37.00m



3号井戸A-A'

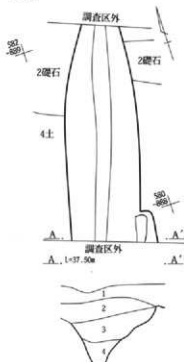
- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cmを5%、炭化物をわずかに含む。しまり強い。
- 2層 暗褐(10YR3/3)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 0.5~1cmをわずかに含む。しまり強い。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)褐灰色シルトブロック $\phi$ 1~2cmを10%、炭化物粒を2%含む砂質土。しまりやや強い。
- 4層 灰黄褐(10YR5/2)褐灰色シルト質土を30%含む。しまりやや強い。
- 5層 にぶい黄褐(10YR4/3)にぶい黄褐色ブロック $\phi$ 1~3cmを50%含む。土質粗くしまりやや強い。

0 1:40 1m

第26図 III区1~3号井戸平面図・断面図

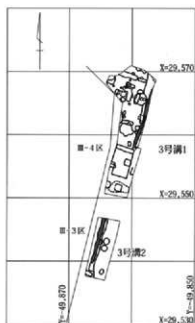
### 第3章 調査の成果

1号溝

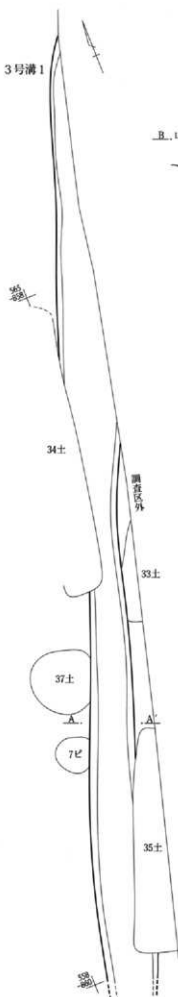


1号溝A-A'

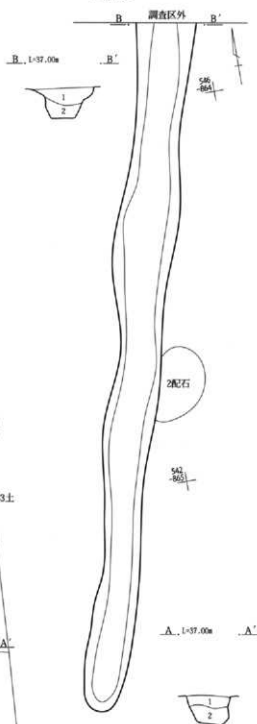
- 1層 褐(10YR3/1)砂質土、若干のローム粘混じる。
- 2層 黒褐(10YR3/1)固くしまる。
- 3層 暗褐(10YR3/4)
- 4層 黄褐(10YR5/6)粘質土、ローム主体。



3号溝1



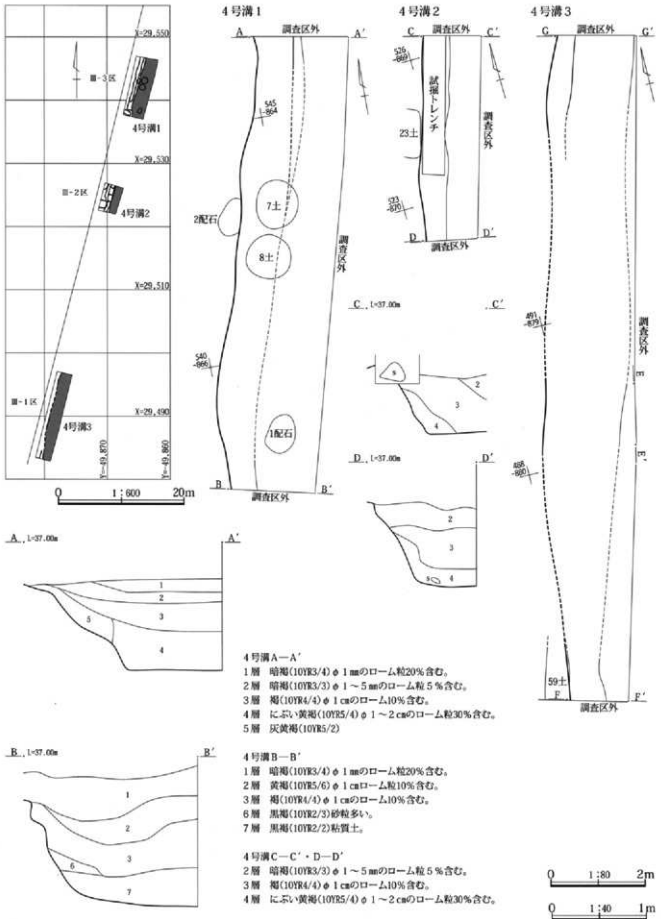
3号溝2



3号溝A-A'

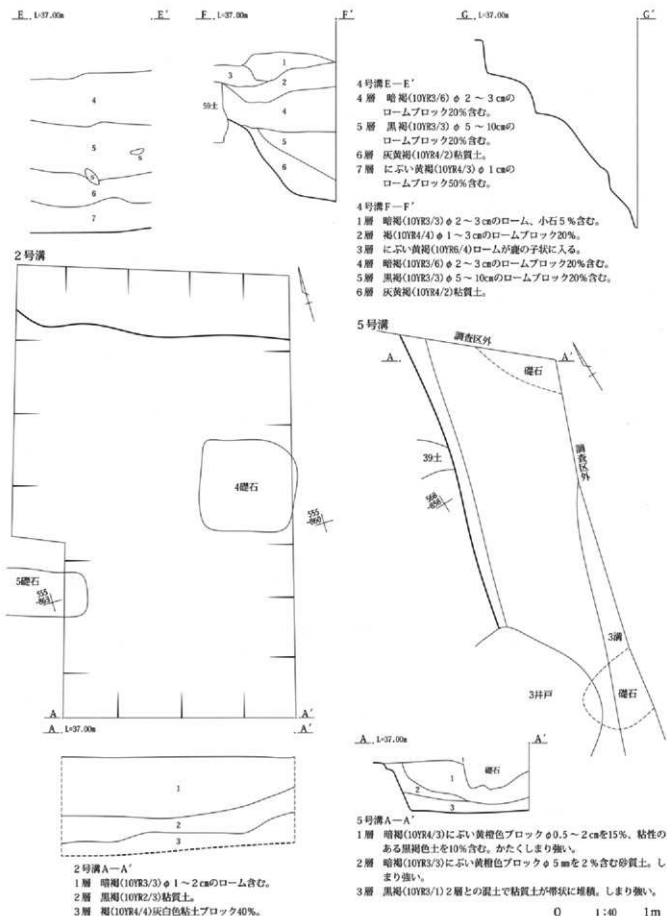
- 1層 黒褐(10YR3/2)焼土ブロックφ0.3~1cmを2%含む。しまり強く粘性あり。
- 2層 褐灰(7.5YR4/2)やや粗い砂質土と1層との互層。焼土ブロックをわずかに含む。しまり強い。

第27図 Ⅲ区1・3号溝平面図・断面図



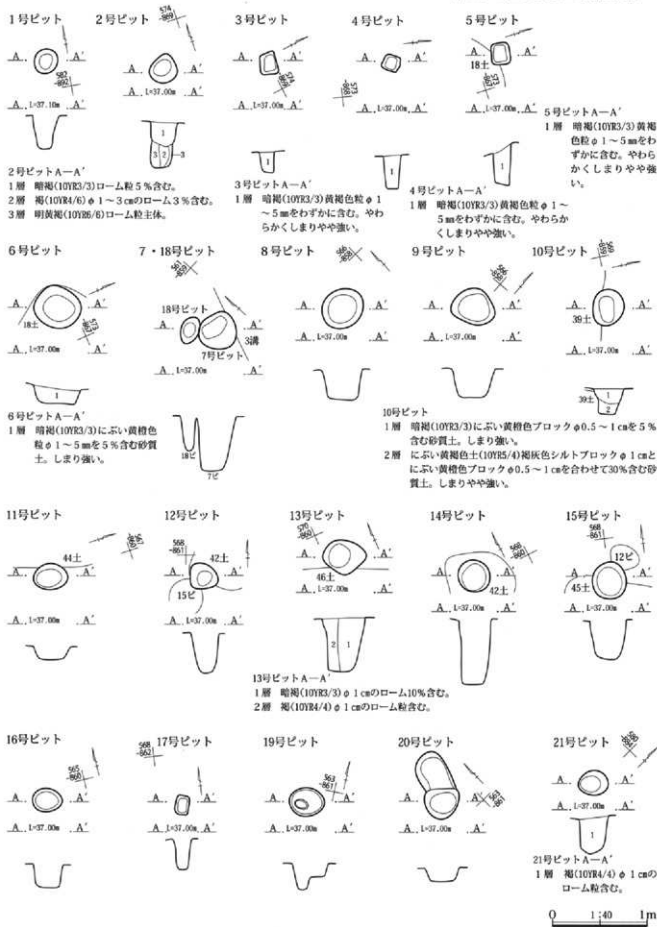
第28図 III区4号溝平面図・断面図

第3章 調査の成果



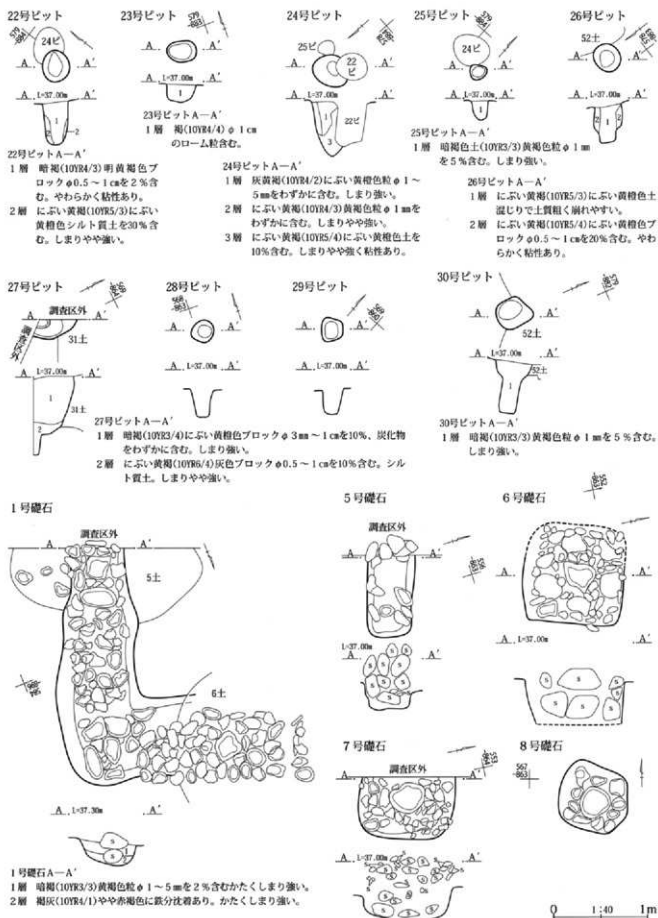
第29図 Ⅲ区2・5号溝平面図・断面図



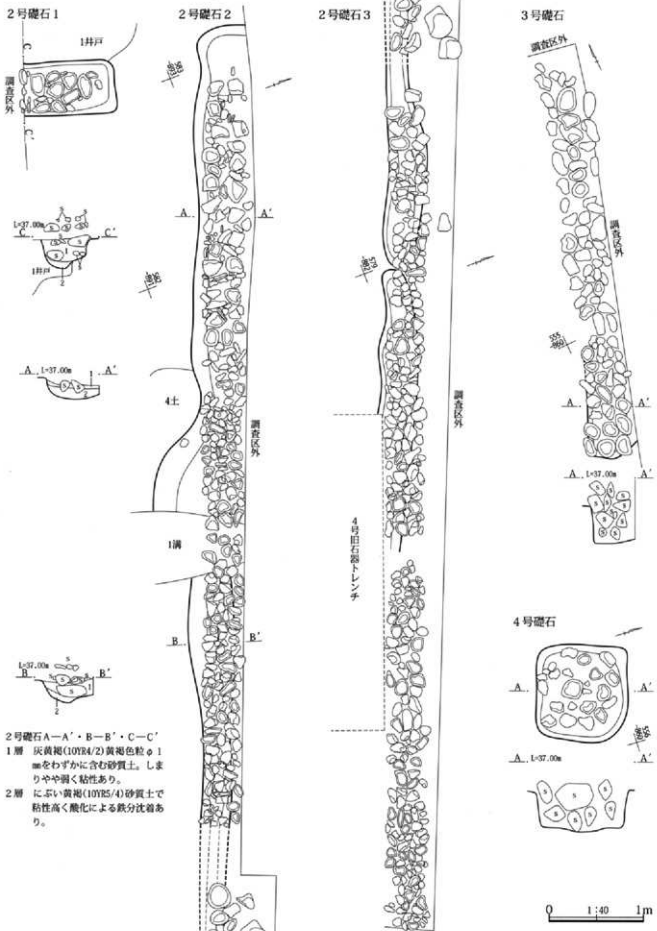


第30図 Ⅲ区1~21号ピット平面図・断面図

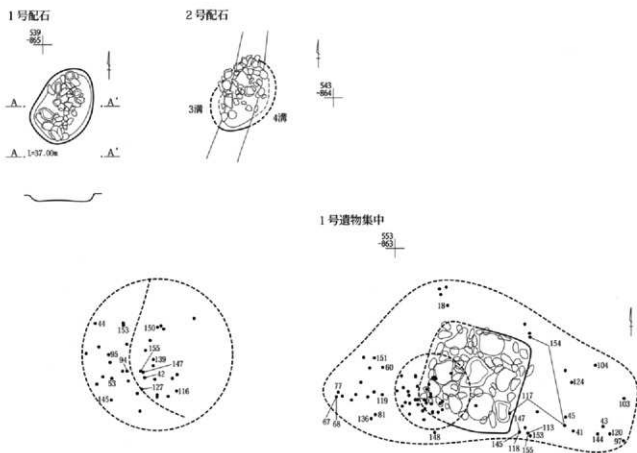
### 第3章 調査の成果



第31図 Ⅲ区22~30号ピット、1・5~8号礎石平面図・断面図



第32図 III区2～4号礎石平面図・断面図



第33図 Ⅲ区1～2号配石平面図、断面図、1号遺物集中箇所平面図

～26,552、Y=-49,863。

**重複関係：**遺構ではないが1号遺物集中と名付けられた遺物集中出土箇所の範囲に一部がかかっている。

**規模と形状：**Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4～7号礎石群の中で、本礎石は西側が調査区外に出るため、正確な全容は不明であるが、4・6号礎石と、ほぼ同規模・同構造の礎石で、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、4号と6号の間がほぼ4m、6号と7号との間が1.8mである。検出長さ1.1m・検出短径0.66m・石の上面から掘方底部までの深さは0.69mである。

**遺物：**肥前磁器碗片1点、肥前磁器深皿1点、瀬戸・美濃陶器灰軸端反皿片1点、瀬戸・美濃陶器染付皿片2点、

在地系土器皿片1点、燧石1点。 時期：近世末期。

(8) 8号礎石(第31図、PL.19)

**位置：**Ⅲ-4調査区の北西端部寄りに位置する。17号ビットの南側に位置する。X=26,556～26,567、Y=-49,862。

**重複関係：**30号土坑を掘り込む。

**規模と形状：**Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4～7号礎石群やⅣ-4・5調査区で検出された礎石群に類似する構造の礎石で、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅲ-4調査区南側で検出された4・6・7号礎石に較べるとやや小規模ではあるが、Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石とも類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。Ⅲ-4調査区北西端部において単独で1基検出されているように見受け

られなくもないが、すぐ東側に隣接して長径0.9m・短径0.74mの東西に長い長方形を呈した礎石の痕跡があり、また、Ⅲ-4調査区北部の東壁際にも2箇所(北側のものは東壁に掛かる)礎石の痕跡が見られ、これらの礎石痕跡と一連のものとして建物の礎石を構成していた可能性がある。8号礎石と、そのすぐ東側に隣接する隅丸長方形の礎石痕跡との心々間は約1mで、一直線上にある東壁に掛かる礎石痕跡との間の心々間距離は約4.2mである。また、東壁際に位置する南北両礎石痕跡の心々間距離は約3mである。長径0.74m・短径0.68mである。

**遺物:** なし。 **時期:** 近世末期。

## 6. 配石

本遺跡では配石という遺構名称が付されたものはこのⅢ-3区で検出された2基のみである。

先に述べた礎石とは明らかに異なる特質を有する遺構群で、礎石は川原石大の大きさの礎を使用して構成されていたが、この遺構ではより細かな礎が、浅く掘り窪められた中に敷き詰められている。ただし、敷き詰められた石の密度は、礎石ほどに密ではなく、また、何層にも亘って石が積み上げられたような痕跡もない。掘り窪められた範囲も、礎石が方形ないし長方形であるのに対して、楕円形状であり、この点も状況は異なる。

また、検出された礎も焼けているわけではなく、焼土の検出も皆無であり、工房に伴う灰、あるいは囲炉裏や竈の一部ということでもないようである。

少なくとも、本遺跡で検出されている礎石とは異なる性格の遺構と見られるものの、具体的な機能や用途については解明することができなかった。

### (1) 1号配石(第33・85・86図、PL.19)

**位置:** Ⅲ-3調査区の中央部からやや北西寄りに位置する。7・8号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,539、Y=-49,864~-49,865。

**重複関係:** 3号溝を掘り込む。

**規模と形状:** 南北に長い浅い楕円形状の窪みに小礫が敷き詰められている。長径0.8m・短径0.5m・深さ0.12m。

**遺物:** 常滑陶器灯片口鉢片1点、瀬戸陶器すり鉢片1点、在地系土器焙烙片2点、円盤状加工土製品2点。 **時期:**

近世末期。

### (2) 2号配石(第33・86図、PL.19)

**位置:** Ⅲ-3調査区南端部の東寄り。7・8号土坑の西側に位置する。X=26,542~26,543、Y=-49,864~-49,865。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 1号配石同様南北に長い浅い楕円形状の窪みに小礫が敷き詰められている。規模、形状ともに1号配石に非常に類似している。長径0.82m・短径0.6m・深さ0.07m。 **遺物:** 在地系土器破片1点。 **時期:** 近世末期。

## 7. その他の遺構

### (1) 1号遺物集中箇所(第33・86~97図)

**位置:** Ⅲ-4調査区の南端付近のほぼ中央に位置する。7号礎石の東側に位置する。X=26,551~26,552、Y=-49,861~-49,862。6号礎石の周辺。

**重複関係:** 6号礎石。

**規模と形状:** Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4~7号礎石群の中で、4・6・7号礎石は、ほぼ同規模・同構造の礎石で、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、6号礎石はそれらとほぼ同時期の所産であると考えられ、それに被る1号遺物集中箇所は、それよりも新しい時期のものと考えられる。

**遺物:** 遺物観察表及び86~97図参照。 **時期:** 近世末期~近代。

## 8. 遺構外一括出土遺物

遺構外出土遺物を観察表及び第98~107図に掲載した。

## 第4節 IV区で検出された遺構と遺物

IV区は、主要地方道太田・大間々線の世良田交差点以北の西側と、世良田交差点の西側、国道354号線の北側にあたる。

調査区は5箇所に分かれ、主要地方道太田・大間々線

### 第3章 調査の成果

の西側拡幅部分を北からⅣ-1調査区、Ⅳ-2調査区、世良田交差点の西側拡幅部分をⅣ-3調査区、国道354号線の北側拡幅部分を東からⅣ-4調査区、Ⅳ-5調査区とした。

Ⅳ区で検出された遺構は、土坑45基、井戸13基、溝4条、ピット72基、礎石5基である。

Ⅳ-1調査区は、主要地方道太田・大間々線に面し、Ⅳ区の最北端にあたり、 $X=29,620 \sim 29,635$ 、 $Y=-49,840 \sim -49,850$ に位置する。土坑9基、井戸3基、溝1条、ピット13基が検出された。

Ⅳ-2調査区は、Ⅳ区の北から2番目の場所で、 $X=29,605 \sim 29,620$ 、 $Y=-49,845 \sim -49,855$ に位置する。土坑2基、井戸2基、ピット4基が検出された。

Ⅳ-3調査区は、世良田交差点を西側に拡幅する場所で、 $X=29,580 \sim 29,600$ 、 $Y=-49,845 \sim -49,870$ に位置し、Ⅳ区で最も調査面積が広い調査区である。世良田交差点を挟んで東側にはⅠ-4調査区、南東側にはⅡ-6調査区、南側にはⅢ-4・5調査区が位置する。土坑24基、井戸7基、ピット39基が検出された。

Ⅳ-4調査区は、国道354号線に面し、国道を挟んだ南側にはⅢ-5調査区が位置する。 $X=29,590 \sim 29,500$ 、 $Y=-49,875 \sim -49,895$ に位置する。土坑9基、井戸1基、溝1条、ピット9基、礎石2基が検出された。

Ⅳ-5調査区は、国道354号線に面した、Ⅳ-4調査区のさらに西側に位置する調査区である。 $X=29,600 \sim 29,605$ 、 $Y=-49,900 \sim -49,915$ に位置する。土坑1基、溝2条、ピット7基、礎石4基などが検出された。

#### 1. 土坑

Ⅳ区では45基の土坑が検出された。主要地方道太田・大間々線に面し、Ⅳ区の最北端にあたるⅣ-1調査区では9基、その南側に位置するⅣ-2調査区では2基、世良田交差点にかかるⅣ-3調査区では24基、国道353号線に面した東側のⅣ-4調査区では9基、Ⅳ区最西端のⅣ-5調査区では1基である。

##### (1) 1号土坑(第36図、PL.20)

**位置:**Ⅳ-3調査区の西端附付近に位置する。4号土坑の西側に近接し、13・14号ピットのすぐ東側に隣接する。 $X=29,587$ 、 $Y=-49,863$ 。

**重複関係:**3号土坑の北側を掘り込む。

**方向:** $N-120^{\circ}-E$ 。

**規模と形状:**北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.42m・検出短径0.42m・深さ0.78m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土:**上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物:**なし。

**時期:**不明。

##### (2) 2号土坑(第36・107～110図、PL.20)

**位置:**Ⅳ-5調査区の最西端に位置する。 $X=29,602 \sim 29,604$ 、 $Y=-49,908 \sim -49,910$ 。

**重複関係:**1号礎石に掘り込まれる。

**規模と形状:**北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈するものと考えられる。検出長3.1m・検出幅1.2m・深さ1.05m。確認面から多量の礫、遺物がまとめて出土した。

**埋土:**上層暗褐色土、中層黒褐色土・鈍い黄褐色土、下層黒褐色土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗8点、肥前磁器染付小碗2点、肥前磁器染付広東碗4点、肥前磁器染付小広東碗1点、肥前磁器小瓶片1点、肥前磁器染付端反碗1点、肥前磁器染付皿3点、瀬戸・美濃陶器腰踏茶碗1点、瀬戸・美濃陶器蓋1点、瀬戸・美濃陶器鉢鉢片2点、瀬戸・美濃陶器汁次片1点、瀬戸・美濃陶器水裏片1点、瀬戸・美濃陶器半胴裏片1点、瀬戸・美濃磁器染付端反碗1点、古瀬戸陶器平碗片1点、在地土器焙烙片1点、在地土器手水鉢片1点、在地土器焙烙片1点、平瓦片1点、有孔石製品1点。なお、肥前磁器皿の1点の底部蛇目高台部に「せら田志ミスや(しみずや)」の文字と屋号が焼継されたものがある。 **時期:**近世末期。

##### (3) 3号土坑(第36・110図)

**位置:**Ⅳ-3調査区の西端附付近に位置する。4号土坑の西側に近接し、13・14号ピットのすぐ東側に隣接する。 $X=29,583 \sim 29,586$ 、 $Y=-49,863$ 。

**重複関係:**1号土坑に北側を掘り込まれる。

**規模と形状:**北側を1号土坑に掘り込まれるため全容は不明であるが、南北に長い長楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.5m・検出短径0.4m・深さ0.35m。しっかりとした掘方を有する。**埋土:**上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物:**平瓦片1点。 **時期:**近世末期。

## (4) 4号土坑(第36図、PL.21)

**位置:** IV-3 調査区の西端隅付近に位置する。1・3号土坑の東側に近接し、11号ピットのすぐ東側に隣接する。  
X=29,586 ~ 29,587、Y=-49,862 ~ -49,863。

**重複関係:** 9号ピットの東側を掘り込む。

**規模と形状:** 北側を1号土坑に掘り込まれるため全容は不明であるが、南北に長い長楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.5m・検出短径0.4m・深さ0.35m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土:** 表土暗褐色土、上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。

**遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (5) 5号土坑(第36図、PL.21)

**位置:** IV-1 調査区の北西隅にかかると。28号ピットのすぐ北西側に隣接する。X=29,631 ~ 29,632、Y=-49,845。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** IV-1 調査区の北西隅にかかり、北側及び西側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長0.6m・幅0.27m・深さ0.45m。

**埋土:** 鈍い黄褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (6) 6号土坑(第36図、PL.21)

**位置:** IV-1 調査区の北西寄りに位置する。3号井戸の南西側、5号土坑の南側、7号土坑の北側にある。X=29,631 ~ 29,632、Y=-49,856。

**重複関係:** 32号ピットに掘り込まれる。

**規模と形状:** 西側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.6m・検出幅0.27m・深さ0.45m。

**埋土:** 鈍い黄褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (7) 7号土坑(第36図、PL.22)

**位置:** IV-1 調査区の中央部、西壁にかかると。3号溝のすぐ北側に近接する。6・9号溝の西側にある。X=29,629 ~ 29,630、Y=-49,856。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 西側が調査区外に大きく出るため全容は不明である。検出長1.25m・深さ0.25m。

**埋土:** 鈍い黄色褐色土、下層に明灰褐色土の堆積が見られた。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (8) 8号土坑(第36図、PL.21・22)

**位置:** IV-1 調査区の南西隅付近に位置する。9号土坑のすぐ南側、21号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,626、Y=-49,845 ~ -49,846。

**重複関係:** 10号土坑を掘り込む。13号土坑に南東隅部を掘り込まれる。

**方向:** N-100°-E。

**規模と形状:** 西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、13号土坑同様、東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。検出長1.28m・幅0.58m・深さ0.6m。

**埋土:** 鈍い黄褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (9) 9号土坑(第36図、PL.21)

**位置:** IV-1 調査区の中央部からやや西南寄りに位置している。8号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,626 ~ 29,629、Y=-49,844 ~ -49,845。

**重複関係:** 3号溝の東部、12号土坑、5号井戸の西部を掘り込む。

**方向:** N-16°-E。

**規模と形状:** 南北に長い長大な長方形形状を呈する。深さはさほどではない。長さ3.03m・幅0.63m・深さ0.22m。

**遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (10) 10号土坑(第36図、PL.21)

**位置:** IV-1 調査区の南西隅付近に位置する。3号溝のすぐ南側に隣接する。X=29,626 ~ 29,627、Y=-49,846。

**重複関係:** 8号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:** 西側が調査区外に出るため全容は不明である。掘方の形状から井戸である可能性もある。検出長0.7m・検出幅0.56m・深さ0.9m。

**埋土:** 褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

## (11) 11号土坑(第37図、PL.21)

**位置:** IV-1 調査区の中央部から西南寄りに位置し、12号土坑の南側に近接する。X=29,626、Y=-49,845。

**重複関係:** 8号土坑西に西辺を、13号土坑に南辺を、23号ピットに東辺を、5号井戸に北辺をそれぞれ掘り込まれる。

**規模と形状:** 南北に長い楕円形状を呈する。検出長

### 第3章 調査の成果

0.88m・幅0.75m・深さ0.65m。

**埋土**：上層暗褐色土、下層褐色土。**遺物**：なし。**時期**：近世末期。

#### (12)12号土坑(第37・110図、PL.21)

**位置**：IV-1調査区の中央部からやや東寄りに位置し、24～26、31・33号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,626、Y=-49,945。

**重複関係**：西辺を9号土坑に掘り込まれる。5号井戸を掘り込む。

**方向**：N-30°-W。

**規模と形状**：不整楕円形状を呈する。長さ0.84m・幅0.75m・深さ0.65m。

**埋土**：上層灰黄褐色土。下層鈍い黄褐色土。**遺物**：肥前磁器染付丸碗1点、在地系土器皿2点、懷妊1点、銅銭1点(寛永通宝)。**時期**：近世末期。

#### (13)13号土坑(第37・111図、PL.21)

**位置**：IV-1調査区の南端付近に位置し、22号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,625、Y=-49,844～49,845。

**重複関係**：8号土坑の南東隅部、11号土坑の南端部を掘り込む。

**方向**：N-97°-E。

**規模と形状**：東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、東端は調査区外に出る。検出長1.45m・幅1.6m・深さ0.25m。

**埋土**：鈍い黄褐色土。**遺物**：常滑陶器裏片1点、石製品砥石1点。**時期**：近世末期。

#### (14)14号土坑(第37図、PL.21)

**位置**：IV-4調査区の北西端付近に位置し、34号土坑・9号井戸・3号礎石の東側に近接する。X=29,595～29,596、Y=-49,889～49,890。

**重複関係**：30号土坑の東辺を掘り込む。

**方向**：N-30°-E。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、北側が調査区外に出るため、全容は不明である。14～16・20号土坑のような隅丸長方形形状を呈する土坑は、形状から見て、伸展葬の木棺墓である可能性が

考えられるが、これらの土坑では、墓葬であること示すような痕跡や遺物は出土していない。検出長1.26m・幅0.55m・深さ1m。

**埋土**：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (15)15号土坑(第37図、PL.21)

**位置**：IV-4調査区の東寄りに位置し、38号ピットのすぐ西側に隣接し、19号土坑・37号ピットの北側に位置する。X=29,592～29,593、Y=-49,880～49,881。

**重複関係**：なし。

**方向**：N-20°-E。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.93m・幅0.5m・深さ0.85m。

**埋土**：上層鈍い黄褐色土、中層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (16)16号土坑(第37図、PL.22)

**位置**：IV-4調査区のほぼ中央に位置し、17号土坑の東側に近接する。X=29,593～29,594、Y=-49,884～49,886。

**重複関係**：中央部を4号溝に掘り込まれる。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.85m・幅0.85m・深さ0.15m。

**埋土**：黒褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (17)17号土坑(第37図、PL.22)

**位置**：IV-4調査区の中央部よりやや西寄りに位置し、16号土坑の東側に位置する。X=29,593～29,594、Y=-49,885～49,887。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北側が調査区外に出るため全容は不明である。

**埋土**：鈍い黄褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (18)18号土坑(第37・111図、PL.22)

**位置**：IV-4調査区の東寄りに位置し、20号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,591～29,592、Y=-49,878



～49,879。

**重複関係**：西側を27号土坑に掘り込まれる。

**方向**：N-20°-E。

**規模と形状**：北南北両辺とも調査区外に出るが、南北に長い不整形円形状を呈するものと考えられる。検出長1.73m・幅0.75m・深さ0.52m。

**埋土**：上層鈍い黄褐色土・黄褐色土、中層暗褐色土、下層黒褐色土。**遺物**：瀬戸・美濃磁器端反小坏1点、常滑陶器裏片2点、渥美陶器裏片1点、在地系土器片口鉢片1点、在地系土器火鉢片1点、平瓦片1点、丸瓦片1点。**時期**：近代。

#### (19)19号土坑(第38図)

**位置**：IV-4調査区の東寄りに位置する。36・37号ピットのすぐ東側に隣接し、15号土坑の南側に位置する。X=29,590～29,592、Y=-49,819～-49,820。

**重複関係**：27号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.63m・検出最大幅0.42m・深さ0.28m、浅い。

**埋土**：暗褐色土・褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (20)20号土坑(第38図)

**位置**：IV-4調査区の東寄りに位置する。38・39号ピットのすぐ東側に、18号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,592、Y=-49,879～-49,880。

**重複関係**：なし。

**方向**：N-20°-E。

**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。長さ0.71m・幅0.4m・深さ0.18m。

**埋土**：明暗褐色土・暗褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (21)21号土坑(第38図、PL.22)

**位置**：IV-3調査区の北東寄りの位置。40～42号ピットの東側に位置し、24号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,595～29,596、Y=-49,851。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東側を試掘トレンチで大きく掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。検出長1.25m・検出幅0.53m・深さ0.2m。

**埋土**：暗褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (22)22号土坑(第38・111図、PL.22)

**位置**：IV-3調査区の北東寄りの位置、21号土坑のすぐ南側。X=29,593～29,594、Y=-49,851。

**重複関係**：23・24号土坑、7号井戸に掘り込まれる。

**方向**：N-12°-E。

**規模と形状**：南北両端が調査区外に出るため全容は不明である。現存長1.26m・現存幅1.03m・深さ0.53m。

**埋土**：暗褐色土。**遺物**：肥前磁器染付丸碗片1点、京・信楽系小杉碗片1点、瀬戸・美濃陶器半胴裏1点、在地系土器焙烙片1点。**時期**：近世末期。

#### (23)23号土坑(第38図、PL.22)

**位置**：IV-3調査区の東寄りの位置。29号土坑の北側に位置する。X=29,593～29,594、Y=-49,851～-49,852。

**重複関係**：22・24・25号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：東側を試掘トレンチで破壊されているため、全容は不明である。検出長0.55m・検出幅0.24m・深さ0.1m。

**埋土**：上層褐色土、中層暗褐色土、下層褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

#### (24)24号土坑(第38図)

**位置**：IV-3調査区の東寄りの位置。21号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,594、Y=-49,851。

**重複関係**：23・25号土坑に掘り込まれる。22号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南側を22・25号土坑に掘り込まれ、東側を試掘トレンチによって破壊されているため全容は不明である。検出長0.27m・検出幅0.25m・深さ0.15m。

**埋土**：暗褐色土。**遺物**：なし。**時期**：近世末期。

#### (25)25号土坑(第38・112図、PL.22)

**位置**：IV-3調査区の東寄りの位置。X=29,593、Y=-49,851～-49,852。

**重複関係**：23・29号土坑に掘り込まれる。23号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南側を29号土坑に掘り込まれ、東側を試掘

トレンチによって破壊されているため全容は不明である。検出長0.8m・検出幅0.65m・深さ0.3m。

**埋土:** 上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。 **遺物:** 銅銭2点(寛永通宝)。 **時期:** 近世末期。

(26) 26号土坑(第38・118図、PL.22)

**位置:** IV-3 調査区の東寄りの位置。X=29,592~29,595、Y=-49,850。

**重複関係:** 7号井戸を掘り込む。

**規模と形状:** 東側を試掘トレンチによって破壊されているため全容は不明である。検出長2.52m・検出幅0.33m・深さ0.45m。

**埋土:** 褐色土。 **遺物:** 肥前磁器筒型湯呑1点、在地系土器手水鉢片1点、丸瓦片1点。 **時期:** 近世末期。

(27) 27号土坑(第38図)

**位置:** IV-4 調査区の東寄りの位置。X=29,591~29,592、Y=-49,879~-49,880。

**重複関係:** 19・20号土坑に掘り込まれる。18号土坑を掘り込む。

**規模と形状:** 全容は不明である。検出長2.52m・検出幅0.33m・深さ0.45m。

**埋土:** 褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 近世末期。

(28) 28号土坑(第38・112図、PL.22)

**位置:** IV-3 調査区の中央から東寄りの位置。X=29,588~29,589、Y=-49,851~-49,852。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 東側が調査区外に出るが、不整形円状を呈するものと考えられる。検出長0.9m・検出幅0.75m・深さ0.45m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土:** 褐色土。 **遺物:** 5点を取り上げた。在地系土器鉢片1点、銅銭4点(寛永通宝)。 **時期:** 近世末期。

(29) 29号土坑(第38・112~114図、PL.22・23)

**位置:** IV-3 調査区の北東寄りの位置。22号土坑の南西側、31号土坑の北側、53号ピットの東側に近接。X=29,592~29,593、Y=-49,852~-49,853。

**重複関係:** 25号土坑を掘り込む。

**規模と形状:** 東側が試掘トレンチで破壊されているが、

不整形円形状を呈するものと考えられる。検出長1.31m・検出幅1.1m・深さ0.4m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土:** 上層鈍い黄褐色土、下層灰褐色土。 **遺物:** 肥前磁器染付丸碗3点、肥前磁器染付広東碗1点、肥前磁器染付猪口1点、肥前磁器染付皿3点、肥前磁器赤絵火入れ1点、肥前磁器片1点、瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油皿1点、軟質施釉陶器カンテラ1点、円盤形加工土製品2点、在地系土器焙烙3点、在地系土器磁瓶1点、鉄製品1点。

鉄製品は、L字型の細い板状鉄製品で、木製桁の緑金と考えられるが、木質の残存がわずかなため断定はできない。

特筆すべきは、カンテラ片が出土していることである。カンテラは、本遺構以外にもⅢ区から、4点見つかっており、そちらの方が残存状態はよいが、本例は、遺構からの出土と言うことで重要性が高い。カンテラは、18世紀後半以降に江戸で使われるようになるが、それでも使用例は僅少であり、その他の地域での出土例はほとんど無いとされてきた。当時の江戸でもまれてあったカンテラが、なぜ、この世良田地でこれほど出土するのかについて、今のところ明確な答えはないが、この地が中世以来の「新田荘」の中心地であり、近世には徳川将軍家が出自の地とした徳川郷に隣接する地域として、また、新田荘に関わる長楽寺や、徳川氏発祥の聖地に設けられた東照宮の門前町として栄えてきたという、この地の豊かさ故に、このような地方では希少な道具が持ち込まれ、使用されていたと考えることは可能であろう。

また、肥前磁器香炉の見込部に「お仁□」と墨書されたものがある。 **時期:** 近世末期。

(30) 30号土坑(第39図、PL.23)

**位置:** IV-4 調査区の西端寄りの位置。4号礎石の西側に位置する。X=29,594~29,596、Y=-49,889~-49,890。

**重複関係:** 14号土坑に掘り込まれる。

**方向:** N-25°-E。

**規模と形状:** 南側が調査区外に出るが、北東-南西方向に長い楕円長方形状を呈する。このようなスタイルをとる土坑はIV-4 調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1 調査区、IV-2 調査区でも検出されており、

形状から見て伸展葬の墓墳である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにても検出することは出来なかった。検出長1.31m・検出幅0.73m・深さ0.83m。しっかりとした掘方を有する。  
**埋土**: 上層暗褐色土、中層鈍い黄色土、下層灰黄褐色土。  
**遺物**: なし。 **時期**: 不明。

## (31) 31号土坑(第38・115図)

**位置**: IV-3調査区の中央部より北東寄りの位置。29号土坑の南側に近接する。X=29,591、Y=-49,889～-49,890。

**重複関係**: なし

**方向**: N-30°-W。

**規模と形状**: 北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.62m・幅0.54m・深さ0.27m。しっかりとした掘方を有する。

**遺物**: 瀬戸・美濃磁器皿1点、制作地不詳徳利1点、制作地不詳ミニチュア1点、在地系土器焙烙1点、在地系土器植木鉢1点。 **時期**: 近世末期。

## (32) 32号土坑(第39・115図、PL.23)

**位置**: IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置、北壁際。8号井戸、44号ピットのすぐ西側に、11号井戸のすぐ東側に近接する。X=29,590～29,592、Y=-49,855～-49,857。

**重複関係**: なし。

**方向**: N-0°-W。

**規模と形状**: 北西端が調査区外に出るが、南北にやや長い楕円形状を呈する。検出長0.95m・幅0.73m・深さ0.3m。

**埋土**: 上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**: 肥前磁器碗1点、在地系土器皿1点、銅銭1点(寛永通宝)。  
**時期**: 近現代。

## (33) 33号土坑(第39・115図、PL.23)

**位置**: IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。39号土坑のすぐ西側、36号土坑のすぐ東側、56・57号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,588～29,590、Y=-49,853～-49,854。

**重複関係**: 35号土坑を掘り込む。

**方向**: N-0°-W。

**規模と形状**: 不整形を呈する。長さ1.51m・幅1.4m・深さ0.25m。

**埋土**: 上層暗褐色土、下層黒褐色土。 **遺物**: 瀬戸・美濃陶器灰釉碗1点。 **時期**: 近世末期。

## (34) 34号土坑(第39図、PL.23)

**位置**: IV-4調査区の最西端。14号土坑の西側に近接。X=29,595～29,596、Y=-49,890～-49,891。

**重複関係**: 3号礎石、9号井戸に掘り込まれる。

**規模と形状**: 北側が調査区外に出るが、南北に長い隅丸長方形形状を呈する。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにV-1調査区、IV-1調査区、IV-2調査区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓墳である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにても検出することは出来なかった。検出長1.33m・幅0.52m・深さ0.58m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土**: 黒褐色土。 **遺物**: なし。 **時期**: 近世末期。

## (35) 35号土坑(第39図)

**位置**: IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。39号土坑のすぐ西側、36号土坑のすぐ東側、56・57号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,588～29,589、Y=-49,853～-49,854。

**重複関係**: 33号土坑に上面を掘り込まれる。36号土坑を掘り込む。

**規模と形状**: 不整形楕円形状を呈する。長さ1.35m・幅1.1m・深さ0.5m。

**埋土**: 上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**: なし。 **時期**: 近世末期。

## (36) 36号土坑(第39・115図、PL.23)

**位置**: IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。40号土坑のすぐ南側、44・54・56号ピットのすぐ東側、33号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,589～29,590、Y=-49,854～-49,855。

**重複関係**: 33号土坑に東辺を掘り込まれる。37号土坑を掘り込む。

方向：N-22°-E。

**規模と形状**：不整形円形状を呈する。長さ1.63m・検出幅1.23m・深さ0.53m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土**：上中層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：白京・信楽系陶器碗片1点、砥石片1点。 **時期**：近世末期。

(37)37号土坑(第39図、PL.23)

**位置**：IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。55号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,589～29,590、Y=-49,854～-49,855。

**重複関係**：36号土坑に北から大半を掘り込まれる。

**規模と形状**：大半を36号土坑に掘り込まれるため、詳細は不明である。検出長0.86m・検出幅0.45m・深さ0.2m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土**：褐灰色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(38)38号土坑(第39・116図、PL.23)

**位置**：IV-3調査区の中央部より西南寄りの位置。41号土坑の東側、43号土坑の北側に近接する。X=29,588～29,589、Y=-49,855。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東西に並存する2基の長径約0.9m前後のほぼ同規模の浅い土坑と、並存する2基の土坑の南側中央部に掘削された径約0.4mの小規模でやや深いピット状の遺構からなる。東西に並存する浅い土坑は、西側のものが長径0.9m・短径0.85m・深さ0.35m、東側のものが長径0.85m・短径0.7m・深さ0.3mで、いずれも南北にやや長い楕円形状を呈しており、それぞれ北側の縁の約半分に粘土の貼り付けが検出された。また、それぞれ底部には鉄分の沈着が顕著であり、東側の土坑により顕著であった。ただし、焼土等の検出はなく、鍛冶炉のようなものではないと発掘調査時に判断されている。これら両土坑の中心の南側に位置する小規模なピットは、長径0.45m・短径0.3m・深さ0.55mで、東西に長い楕円形状を呈する。この土坑の用途及び機能は不明であるが、焼土の検出はないものの、近世家屋の囲炉裏跡である可能性も考えられる。

**埋土**：上層褐色土、中層及び東側土坑下層暗褐色土、西側土坑下層褐色土。 **遺物**：肥前磁器染付皿片1点、瀬

戸・美濃系陶器灰釉皿1点、在地系土器皿1点、石白片1点。 **時期**：近世末期。

(39)39号土坑(第39図、PL.23)

**位置**：IV-3調査区の中央部より南東寄りの位置。33・35号土坑、56・57号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,587～29,588、Y=-49,853。

**重複関係**：58号ピットを掘り込む。

**方向**：N-30°-E。

**規模と形状**：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1、IV-2調査区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓壇である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにしても検出することは出来なかった。長さ1.42m・幅0.57m・深さ0.62m。しっかりとした掘方を有する。

**埋土**：黒褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(40)40号土坑(第40図、PL.23)

**位置**：IV-3調査区の中央部より北東寄りの位置。39号土坑、44・59号ピットのすぐ北側、45・47・48号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,590～29,592、Y=-49,854～-49,855。

**重複関係**：8号井戸に西側を掘り込まれる。

**方向**：N-110°-E。

**規模と形状**：東側を8号井戸に掘り込まれ、破壊されているが、南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1、IV-2区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓壇である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにしても検出することは出来なかった。検出長1.42m・幅0.53m・深さ0.3m。

**埋土**：上中層鈍い黄褐色土、底部付近一部黄褐色土。

**遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(41)41号土坑(第40図、PL.24)

**位置**：IV-3調査区の中央部より西寄りの位置。38号土

坑の西側、64号ピットの東側に位置する。X=29,586  
~29,592、Y=-49,859~49,880。

重複関係：なし。

方向：N-20°-E。

規模と形状：不整形円形状を呈する。北辺と東辺に小規模な掘り込みがみられる。長さ1.65m・幅1.65m・深さ0.32m。浅い。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。遺物：なし。

時期：不明。

#### (42)42号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-3調査区のほぼ中央部。38号土坑の北東側、55号ピットの西側に位置する。X=29,586~29,588、Y=-49,856。

重複関係：中央部を若干攪乱されている。

方向：N-10°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1、IV-2調査区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓塚である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにしても検出することは出来なかった。不整形円形状を呈する。北辺と東辺に小規模な掘り込みがみられる。長さ1.73m・幅0.4m・深さ0.2m。浅い。

埋土：暗褐色土。遺物：なし。時期：不明。

#### (43)43号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-3調査区の西寄り。南端。38号土坑の南側、63号ピットの南東側に位置する。X=29,583~29,585、Y=-49,858~49,859。

重複関係：なし。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明であるが、南北に長い不整形円形状を呈するものと思われる。検出長1.95m・幅1.85m・深さ0.6m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層暗褐色土。遺物：なし。

時期：不明。

#### (44)44号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-2調査区の中央部からやや南東寄り。X=

29,610~29,611、Y=-49,847~49,848。

重複関係：なし。

方向：N-2°-E。

規模と形状：南北に長い不整形円形状を呈する。長さ0.99m・幅0.72m・深さ0.12m。浅い。

埋土：暗褐色土。遺物：なし。時期：不明。

#### (45)45号土坑(第40図)

位置：IV-2調査区の北東端部。70号ピットの東側。X=29,813~29,814、Y=-49,846。

重複関係：13号井戸に掘り込まれる。

方向：N-2°-E。

規模と形状：東側と北側が調査区外に出、南西隅部を13号井戸に掘り込まれ、破壊されるため、全容は不明である。検出長1.22m・検出幅0.55m・深さ0.25m。浅い。

埋土：上層暗褐色土、下層明黄褐色土。

遺物：なし。時期：不明。

## 2. 井戸

IV区では13基の井戸が検出されている。IV-1調査区で3基、IV-2調査区で2基、IV-3調査区で7基、IV-4調査区で1基であった。なお、IV-5調査区で検出された1号礎石も井戸である可能性がある。

本遺跡では、昨年度に報告したI区を含めて、すべての調査区において井戸が検出されている。とりわけ、このIV区では、昨年度報告したI区を含めて、検出された井戸の数は、本遺跡で最多である。

IV区で検出されたのは、II区で検出されたのと同様、いずれも素堀の井戸であり、また、径も比較的小さかったことや、現状で、いずれも交通量が激しい道路に面した箇所での調査であり、調査区が民家とも隣接していたため、安全を最優先し、底面までの完掘はいずれも断念せざるを得なかった。

なお、III区で検出された井戸同様、本調査区において検出された井戸の多くは、出土遺物から中世のものと思われる。

#### (1)1号井戸(第40・116図、PL.24)

位置：IV-3調査区の最西端、南壁と西壁に掛かる。2号井戸の南側、15~19号ピットの西側に位置する。

X=29.586～29.587、Y=-49.865～49.866。

重複関係：なし。

規模と形状：西側と南側とが大きく調査区外に出てしまっているので、全容は不明である。検出長0.92m・出幅0.88m・調査深度約1.4m。

埋土：上層褐色土、中層黒褐色土、壁際褐色土。遺物：古瀬戸陶器緑釉小皿1点、常滑陶器裏片2点。時期：中世。

(2) 2号井戸(第40図、PL.24)

位置：IV-3調査区の最西端、北壁に掛かる。1号井戸、15号ピットの北側に位置する。X=29,587～29,588、Y=-49,865～-49,866。

重複関係：なし。

規模と形状：北側と南側とが大きく調査区外に出てしまっているため、全容は不明である。検出長1.7m・検出幅0.3m・調査深度約0.85m。

埋土：上層暗褐色土、中層黄褐色土、壁際黒褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(3) 3号井戸(第41・116図、PL.24)

位置：IV-1調査区の北端寄り。29号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,630～29,631、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い不整楕円形状を呈する。長さ1.04m・幅0.98m・調査深度約0.75m。

埋土：上層褐色土、中層灰黄褐色土・暗褐色土。遺物：常滑陶器裏片1点、平瓦片1点。時期：中世。

(4) 4号井戸(第41・116図、PL.24)

位置：IV-1調査区の南東端。13号土坑の南側に近接する。X=29,624～29,625、Y=-49,843～-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：東南及び東側大部分が調査区外に出るため全容は不明である。検出長1.04m・検出幅0.4m・調査深度約0.8m。

埋土：上層灰黄褐色土・暗褐色土、中層暗褐色土。遺物：常滑陶器裏片3点。時期：中世。

(5) 5号井戸(第41図、PL.21)

位置：IV-1調査区の中央部より南寄りに位置する。X=29,606～29,607、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：11号土坑を掘り込む。12号土坑に北東辺を掘り込まれる。東辺を31号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.9m・幅0.88m・調査深度約0.8m。

埋土：上層鈍い黄褐色土・黄褐色土、中層暗褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(6) 6号井戸(第41・117図、PL.24)

位置：IV-3調査区の最北西端、西壁に掛かる。42号ピットの北側に位置する。X=29,597～29,599、Y=-49,851～-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が大きく調査区外に出てしまっているため、全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと思われる。検出長2.2m・検出幅0.88m・調査深度約0.75m。

埋土：上層暗褐色土、中層黒褐色土。遺物：常滑陶器裏片1点、平瓦片3点。時期：中世。

(7) 7号井戸(第41・117図、PL.24)

位置：IV-3調査区の北端寄りの位置。21・23～25号土坑の東側に位置する。X=29,593～29,596、Y=-49,850～-49,851。

重複関係：22号土坑を掘り込む。26号土坑に南側を大きく掘り込まれる。

規模と形状：東側が大きく調査区外に出てしまっているため、全容は不明であるが、南北に長い楕円形状を呈するものと思われる。検出長2.5m・検出幅1.14m・調査深度約0.45m。

埋土：上層暗褐色土、壁際灰黄褐色土。遺物：砥石1点。時期：不明。

(8) 8号井戸(第41・117図、PL.25)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄りの北壁際。32号土坑のすぐ東側に、44・46・59号ピットのすぐ北側に、54号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,591～29,592、Y=-49,854～-49,855。

重複関係：40号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：北側が大きく調査区外に出てしまっている  
ので、全容は不明であるが不整楕円形状を呈するもの  
と思われる。検出長2.16m・検出幅0.78m・調査深度約  
0.45m。

**埋土**：上層暗褐色土、壁際灰黄褐色土。

**遺物**：肥前磁器染付丸碗1点、砥石1点。 **時期**：近代。

#### (9) 9号井戸(第42図、PL.25)

**位置**：IV-4調査区の最西端。14号土坑の西側に位置  
する。IV-4区で検出された唯一の井戸である。X =  
29,595 ~ 29,596、Y = -49,890 ~ -49,891。

**重複関係**：34号土坑を掘り込む。3号礎石に掘り込ま  
れる。

**規模と形状**：西辺が調査区外に出てしまっている  
ので、全容は不明であるが概ね不整円形状を呈するもの  
と思われる。検出長0.9m・検出幅0.88m・調査深度約0.98m。

**埋土**：上層灰黄褐色土、中層黒褐色土・鈍い黄褐色土。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

#### (10) 10号井戸(第42・117図、PL.25)

**位置**：IV-3調査区の中央部、南壁際。58号ピットのす  
ぐ西側に隣接する。X = 29,586 ~ 29,587、Y = -49,853  
~ -49,854。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南側が調査区外に出てしまっている  
ので、全容は不明であるが概ね不整円形状を呈するもの  
と思われる。検出長0.84m・検出幅0.6m・調査深度約0.9m。

**埋土**：上層黄褐色土、中層鈍い黄褐色土。 **遺物**：在地  
系土器片口鉢片1点。 **時期**：中世。

#### (11) 11号井戸(第42・117図、PL.25)

**位置**：IV-3調査区の中央部、北壁際。32号土坑のすぐ  
西側に隣接する。X = 29,589 ~ 29,590、Y = -49,857  
~ -49,859。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北側が調査区外に出てしまっている  
ので、全容は不明であるが、南北に長い不整楕円形状を呈する  
ものと思われる。検出長1.34m・検出幅1.68m・調査深  
度約1.05m。

**埋土**：上層暗褐色土・褐色土、中層黒褐色土。 **遺物**：

瀬戸・美濃陶器腰鉋茶碗片1点、常滑陶器甕片1点、平  
瓦片1点。 **時期**：中世。

#### (12) 12号井戸(第42・118図、PL.25)

**位置**：IV-2調査区の南寄りの位置、西壁際。44号土坑  
の西側に位置する。X = 29,610 ~ 29,611、Y = -49,848  
~ -49,849。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：西側が調査区外に出てしまっている  
ので、全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するものと思  
われる。検出長1.6m・検出幅1m・調査深度約1.1m。

**埋土**：上層暗褐色土・明黄褐色土、中層灰黄褐色土。

**遺物**：瀬戸・美濃磁器小碗片1点、古瀬戸陶器盤類片1  
点、常滑陶器狭か壺片1点、在地系土器皿片1点。 **時  
期**：近代。

#### (13) 13号井戸(第42・118図、PL.25)

**位置**：IV-2調査区の北端。70号ピットのすぐ南  
側、72号ピットのすぐ東側に隣接する。X = 29,612 ~  
29,614、Y = -49,846 ~ -49,848。

**重複関係**：48号土坑の南西隅を掘り込む。71号ピットに  
北西隅を掘り込まれる。

**規模と形状**：東西に長い不整楕円形状を呈する。長さ2.22  
m・幅1.64m・調査深度約0.65m。

**埋土**：上層暗褐色土・明黄褐色土、中層灰黄褐色土。埋  
土中に多量の川原石大の礫の混入がみられた。埋め戻し  
の際に入れられたものか。 **遺物**：在地系土器火鉢片1  
点。 **時期**：近世末期。

### 3. 溝

IV区では4条の溝が検出されている。IV-1調査区か  
ら1条、IV-4調査区から1条、IV-5調査区から2条  
である。II区で検出されたII区8号溝のような調査区を  
越えて検出されたような大規模な溝は、IV区では全く検  
出できなかった。

いずれも幅が短く、浅い小規模な溝である。また、I  
~ III区で検出された溝同様、調査できた範囲が小さく、  
詳細は明らかに出来なかった。いずれの類例においても、  
水が流れた痕跡はなく、用水路のようなものではなく、  
何らかの区画をするための溝であった可能性が高い。

(1) 1号溝(第43図、PL.26)

**位置:**IV-5調査区のほぼ中央を南北方向に流れる。2・3号ピットの西側に近接する。X=29,602~29,603、Y=-49,906~49,907。

**重複関係:**1号ピットを掘り込む。

**規模と形状:**南北方向に流れる浅い溝。南北両端は調査区外に出る。検出長1.5m・幅0.6m・深さ0.45m。

**埋土:**上層灰黄褐色土、中層暗褐色土・鈍い黄褐色土、下層褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(2) 2号溝(第43図、PL.26)

**位置:**IV-5調査区の南東隅を東西方向に流れる。7号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,600~29,601、Y=-49,903~49,905。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**東西方向に流れる浅い溝。南側及び東側が調査区外に出る。検出長2.6m・検出幅0.38m・深さ0.42m。

**埋土:**上層灰黄褐色土・鈍い黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(3) 3号溝(第43図、PL.26)

**位置:**IV-1調査区の南寄りの位置を東西方向に流れる。10号土坑のすぐ北側、7号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,622、Y=-49,845~49,846。

**重複関係:**東端を9号土坑に掘り込まれる。

**規模と形状:**東西方向に流れる浅い溝。西側が調査区外に出る。東側を9号土坑に掘り込まれる。9号土坑を越えてさらに東側には延びてはいない。9号土坑と交差する位置で止まるか。検出長0.7m・幅0.46m・深さ0.42m。

**埋土:**鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

(4) 4号溝(第43図、PL.26)

**位置:**IV-4調査区の中央部を南北方向に流れる。5号礎石の西側、17号土坑の東側に近接する。X=29,593~29,594、Y=-49,884。

**重複関係:**16号土坑の中央部を南北に掘り込む。

**規模と形状:**南北方向に流れる浅い溝。南北両端が調査区外に出る。検出長1.7m・幅0.5m・深さ0.1m。

**埋土:**鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

## 4. ピット

IV区では72基のピットが検出されている。I区で44基、II区で14基、III区で30基が検出されているから、その多さがわかる。いずれも用途不明の小穴である。検出されたのは、IV-1調査区から13基、IV-2調査区から4基、IV-3調査区から39基、IV-4調査区から9基、IV-5調査区から7基である。

(1) 1号ピット(第35図)

**位置:**IV-5調査区のほぼ中央部から南寄りに位置する。2~4号ピットの西側。X=29,602、Y=-49,906~49,907。

**重複関係:**西側を1号溝に掘り込まれる。

**規模と形状:**東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.34m・短径0.264m・深さ約0.2m。

**遺物:**なし。 **時期:**不明。

(2) 2号ピット(第35図)

**位置:**IV-5区のほぼ中央部から東寄りに位置する。3号ピットのすぐ北側、2号礎石のすぐ南側に隣接する。X=29,602、Y=-49,906。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**不整丸正方形形状を呈する。径0.26m・深さ約0.17m。

**遺物:**なし。 **時期:**不明。

(3) 3号ピット(第35・118図)

**位置:**IV-5区のほぼ中央部から東寄りに位置する。2号ピットのすぐ南側、4号ピットのすぐ北西側に隣接する。X=29,602、Y=-49,906。

**重複関係:**なし。

**規模と形状:**東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.45m・短径0.36m・深さ約0.49m。しっかりとした掘方を有する。

**遺物:**在地系土器皿1点。 **時期:**近世。

(4) 4号ピット(第35図、PL.26)

**位置:**IV-5調査区のほぼ中央部、東南寄りの南壁際に位置する。3号ピットのすぐ南東側、2号溝のすぐ西側



に隣接する。X=29,601、Y=-49,906。

重複関係：なし。

規模と形状：南辺が調査区外に出る。東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.58m・短径0.5m・深さ約0.54m。しっかりとした掘方を有する。

遺物：なし。 時期：不明。

(5) 5号ピット(第35図、PL.26)

位置：IV-5調査区の東寄り、北壁際に位置する。2号溝の北側に位置する。X=29,602、Y=-49,904～-49,905。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.38m・深さ0.26m。

遺物：なし。 時期：不明。

(6) 6号ピット(第35図、PL.27)

位置：IV-5調査区の北東端部、北壁際に位置する。7号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,601、Y=-49,903。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向に長い不整形形状を呈する。長径0.32m・短径0.3m・深さ0.35m。

遺物：なし。 時期：不明。

(7) 7号ピット(第43図、PL.27)

位置：IV-5調査区の北東端部、東壁際に位置する。2号溝のすぐ北側に隣接する。X=29,600～29,601、Y=-49,903。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向に長い不整形形状を呈する。長径0.45m・短径0.3m・深さ0.4m。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(8) 8号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。20号ピットのすぐ西側、10号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,55～29,586、Y=-49,863～-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：8～20号ピットは、IV-4区の西端のブロックに集中して存在するピット群であるが、まとまって存在しているにもかかわらず、建物の柱痕であるような兆候は全く見いだすことが出来なかった。南北に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.32m・深さ0.53m。

遺物：なし。 時期：不明。

(9) 9号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。20号ピットのすぐ北側、10号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：4号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：東側を4号土坑に大きく掘り込まれているため、全容は不明である。検出長径0.24m・検出短径0.16m・深さ0.08m。

遺物：なし。 時期：不明。

(10) 10号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。8号ピットのすぐ北側、9号ピットのすぐ西側、12号ピットに隣接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.45m。

遺物：なし。 時期：不明。

(11) 11号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。4号土坑のすぐ西側、9号ピットの北側、10号ピットの北東側に近接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.2m・深さ0.45m。

遺物：なし。 時期：不明。

(12) 12号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。10号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,586、Y=-49,864。

重複関係：なし。

**規模と形状**：北東—南西方向に長い楕円形状を呈する。  
長径0.32m・短径0.28m・深さ0.57m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(13) 13号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近に位置する。1・3号土坑のすぐ西側、14号ビットのすぐ南側に隣接する。X=29,587、Y=-49,864。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東西に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.2m・深さ0.31m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(14) 14号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近の北壁際に位置する。1号土坑のすぐ西側、13号ビットのすぐ北側に隣接する。X=29,587、Y=-49,864。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東西に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.24m・深さ0.12m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(15) 15号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近に位置する。18・19号ビットのすぐ北側に隣接し、1号井戸の東側に近接する。X=29,587、Y=-49,864。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.3m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(16) 16号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近に位置する。18・19号ビットの南側、17号ビットの北側に近接し、1号井戸の東側に位置する。X=29,586、Y=-49,865。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北東—南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.18m・深さ0.32m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(17) 17号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近の南壁際に位置する。16号ビットの南側、1号井戸の東側に位置する。X=29,585～29,586、Y=-49,865。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.2m・深さ0.21m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(18) 18号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近、15号ビットのすぐ南側、16号ビットのすぐ北側に隣接する。X=29,586、Y=-49,865。

**重複関係**：西側を19号ビットに掘り込まれる。

**規模と形状**：東西に長い楕円形状を呈する。検出長径0.3m・検出短径0.24m・深さ0.11m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(19) 19号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近、15号ビットのすぐ南側、16号ビットのすぐ北側に隣接する。X=29,586、Y=-49,865。

**重複関係**：18号ビットの西側を掘り込む。

**規模と形状**：不整形形状を呈する。径0.28m・深さ0.28m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(20) 20号ビット(第34図)

**位置**：IV-3調査区の西端部付近、4号土坑、9号ビットのすぐ南側、8号ビットのすぐ東側に隣接する。X=29,586、Y=-49,863。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.28m・深さ0.28m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(21) 21号ビット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南西端部付近、8号土坑のすぐ南側に隣接し、13号土坑の西側に位置する。X=29,525、Y=-49,846。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南北にやや長い楕円形状を呈する。21～33号ピットは、いずれもIV-1調査区で検出されており、21・28・29・32号ピットを除いては、いずれも調査区の南東寄りに位置しているが、建物の柱穴を構成するような要素は全く発見できなかった。長径0.24m・短径0.22m・深さ0.28m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(22)22号ピット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南寄りの位置。11号土坑のすぐ東側、13号土坑のすぐ北側、23号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,626、Y=-49,844。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.24m・深さ0.3m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(23)23号ピット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南寄りの位置。30号ピットのすぐ南西側、13号土坑のすぐ北側、23号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,626、Y=-49,844。

**重複関係**：11号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.3m・深さ0.38m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(24)24号ピット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南寄りの位置。31号ピットのすぐ西側、9号土坑のすぐ東側に隣接する。X=26,627、Y=-49,844～-49,845。

**重複関係**：5号井戸を掘り込む。

**規模と形状**：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.32m・径0.22m・深さ0.21m。

**遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(25)25号ピット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南東寄りの位置、東壁際。12号土坑・26号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,627、Y=-49,843。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.3m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(26)26号ピット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南東寄りの位置。12号土坑の南東に近接し、25号ピットのすぐ南西側に、33号ピットのすぐ北東側に隣接する。X=26,626～26,627、Y=-49,843。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.3m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(27)27号ピット(第34図・PL.27)

**位置**：IV-1調査区の南東寄りの位置。4号井戸の北に位置する。X=26,625、Y=-49,844。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.2m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(28)28号ピット(第34図)

**位置**：IV-1調査区の北西隅付近。2号土坑のすぐ南東側、29号ピットのすぐ北側に隣接する。X=26,631、Y=-49,845。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.24m・深さ0.29m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(29)29号ピット(第34図)

**位置**：IV-1調査区の北西隅付近。3号井戸のすぐ西側、28号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,630～26,631、Y=-49,845。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：不整楕円形状を呈する。長径0.24m・短径0.22m・深さ0.39m。

**遺物**：なし。 **時期**：不明。

(30)30号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南東部。33号ピットのすぐ南側、23号ピットのすぐ北東側に隣接する。X=26,625、Y=-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.28m・深さ0.35m。

遺物：なし。 時期：不明。

(31)31号ピット(第34図・PL.37)

位置：IV-1調査区の南東部。24号ピットのすぐ東側、33号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,626～26,627、Y=-49,844。

重複関係：5号井戸を掘り込む。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.28m・深さ0.35m。

遺物：なし。 時期：不明。

(32)32号ピット(第34図)

位置：IV-1調査区の中央よりやや北寄りの位置。西壁際。1号土坑の北側、5号土坑の南側に位置する。X=26,629～26,630、Y=-49,845。

重複関係：6号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北に若干長い楕円形状を呈する。長径0.24m・短径0.22m・深さ0.37m。

遺物：なし。 時期：不明。

(33)33号ピット(第34図)

位置：IV-1調査区の南東部。23号ピットのすぐ北側に接し、26号ピットのすぐ西側に、31号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,626、Y=-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.26m・深さ0.44m。

遺物：なし。 時期：不明。

(34)34号ピット(第43図、PL.27)

位置：IV-4調査区の中央部よりやや東寄りの位置。北壁際。X=26,593、Y=-49,881。

重複関係：東側を35号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長径0.4m・検出短径0.2m・深さ0.47m。

埋土：上層褐色土、下層暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(35)35号ピット(第43図)

位置：IV-4調査区の中央部よりやや東寄りの位置。北壁際。X=26,593、Y=-49,881。

重複関係：35号ピットの東側を掘り込む。

規模と形状：不整形。検出長径0.4m・検出短径0.2m・深さ0.4m。

埋土：上層褐色土、下層鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(36)36号ピット(第43図、PL.27)

位置：IV-4調査区の中央部よりやや東寄りの位置。南壁際。37号ピットのすぐ南側、19号土坑のすぐ東側に隣接する。X=26,592、Y=-49,881。

重複関係：なし。

規模と形状：南側大半が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.3m・検出短径0.3m・深さ0.4m。

遺物：なし。 時期：不明。

(37)37号ピット(第43図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部よりやや東寄りの位置。南壁寄り。36号ピットのすぐ北側、19号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,592、Y=-49,881。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。検出長径0.4m・検出短径0.3m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土、底部に褐色土塊を含む。 遺物：なし。 時期：不明。

(38)38号ピット(第43図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部より東寄りの位置。北壁際。39号ピットのすぐ北側、15号土坑のすぐ東側、20号土坑のすぐ北西側に隣接する。X=26,593、Y=-49,880。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.3m・検出短径0.25m・深さ0.22m。

遺物：なし。 時期：不明。

(39)39号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部より東寄りの位置。北壁寄り。38号ピットのすぐ南側、15号土坑のすぐ東側、20号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,592、Y=-49,880。  
重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向にやや長い楕円形状を呈する。検出長径0.3m・検出短径0.25m・深さ0.17m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(40)40号ピット(第44・118図、PL.28)

位置：IV-3調査区の北東端部寄りの位置。西壁際。41号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,594～26,595、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：IV-3調査区北東端部の西壁にかかって南北に3基並ぶ40号～42号ピットは、いずれも西側が調査区外に出るため形状の全容は不明であるが、検出された範囲においては東西に長い長楕円形状を呈しており、一見するとあたかも畚の椀のように見えなくもないが、そうだとすると連続性に乏しい。検出長径0.7m・検出短径0.55m・深さ0.4m。

埋土：上層暗黄褐色土、下層暗褐色土。 遺物：在地系土器大鉢片1点。 時期：近世。

(41)41号ピット(第44・118図、PL.28)

位置：IV-3調査区の北東端部寄りの位置。西壁際。40号ピットのすぐ北側、42号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,595、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が調査区外に出るため形状の全容は不明であるが、検出された範囲においては東西に長い長楕円形状を呈する。検出長径0.45m・検出短径0.45m・深さ0.47m。

埋土：上層暗黄褐色土、下層暗褐色土。 遺物：軒丸瓦片1点。 時期：近世。

(42)42号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の北東端部寄りの位置。西壁際。41

号ピットのすぐ北側に隣接し、6号井戸の南側に位置する。X=26,596、Y=-49,852～-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、検出された範囲においては東西に長い長楕円形状を呈する。検出長径0.8m・検出短径0.4m・深さ0.2m。

埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(43)43号ピット(第44図)

位置：IV-4調査区の東端部。X=26,590～26,591、Y=-49,876。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.47m・深さ0.45m。

埋土：上層褐色土。中央部に黒褐色土の陥入あり。下層鈍い黄褐色土。本遺跡で検出されたピットの中では、63号ピットとならんでただ二つ柱穴状の土層堆積状況を呈する。中央部に縦に陥入する黒褐色土が柱痕となるか。ただし、本ピットを柱穴と見ると周辺には他に対応する柱穴がない。 遺物：なし。 時期：不明。

(44)44号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より北東寄り。32号土坑のすぐ東側、8号井戸のすぐ南側、59号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,600、Y=-49,856。重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.32m・短径0.26m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(45)45号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。46号ピットのすぐ南東側、48号ピットのすぐ南西側に隣接する。本45号ピットから53号ピットまでは、IV-3区の中央部から東寄りの位置に集中する比較的小規模なピットである。まとまって存在するが、いずれも建物を構成する柱穴とは考えられない。X=26,601、Y=-49,854。

重複関係：40号土坑を掘り込む。

規模と形状：楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.2m・深さ0.24m。

遺物：なし。 時期：不明。

(46)46号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。8号井戸のすぐ東側、45号ピットのすぐ北西側、48号ピットのすぐ南西側に隣接する。X=26,601、Y=-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.26m・深さ0.2m。

遺物：なし。 時期：不明。

(47)47号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。48号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,601、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.2m・短径0.18m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(48)48号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。47号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,601、Y=-49,853～-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.21m。

遺物：なし。 時期：不明。

(49)49号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。33・35号土坑のすぐ北側に隣接する。X=26,600、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.3m・深さ0.28m。

遺物：なし。 時期：不明。

(50)50号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。X=26,600、Y=-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.42m・短径0.36m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(51)51号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。北壁際。8号井戸のすぐ東側に隣接する。X=26,600、Y=-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.42m・短径0.36m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(52)52号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の東北寄り。東壁にかかる。29号土坑の西側に位置する。X=26,600、Y=-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：北西側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.53m・検出短径0.18m・深さ0.72m。しっかりとした掘方を有する。

遺物：なし。 時期：不明。

(53)53号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の東北寄り。29号土坑の西側に位置する。X=26,593、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い隅丸方形形状を呈する。長径0.16m・短径0.15m・深さ0.11m。

遺物：なし。 時期：不明。

(54)54号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。36号土坑のすぐ東側に隣接する。54～59号土坑は、IV-3調査区の中央部に点在する。45～53号ピットよりもさらに調査区の中央部に近い位置である。これらのピットも建物の柱穴を構成するような要素は見いだすことが出来なかった。X=26,589、Y=-49,856。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.4m・短径0.26m・深さ0.46m。

遺物：なし。 時期：不明。

## (55)55号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。42号土坑の東側、37号土坑の南側に近接する。X=26,588、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.35m・短径0.25m・深さ0.5m。しっかりとした掘方を有する。

遺物：なし。 時期：不明。

## (56)56号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。33・35号土坑の南側、37号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,588、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：不整形円形状を呈する。長径0.38m・短径0.32m・深さ0.39m。

遺物：なし。 時期：不明。

## (57)57号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。33・35号土坑の南側、36号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,588、Y=-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.56m・短径0.5m・深さ0.13m。

遺物：なし。 時期：不明。

## (58)58号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。南東壁際。39号土坑のすぐ南西側に接し、10号井戸のすぐ東側に隣接する。X=26,588、Y=-49,853～-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.48m・短径0.4m・深さ0.52m。

遺物：なし。 時期：不明。

## (59)59号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。北壁寄り。8号井戸のすぐ南側、36号土坑のすぐ北側、44号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,600、Y=-

49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.22m・深さ0.3m。

遺物：なし。 時期：不明。

## (60)60号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区のほぼ中央部。北壁にかかる。5号礎石の北側に位置する。60～62号ピットは、いずれもIV-4調査区の北壁にかかる位置で検出された。X=26,595、Y=-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.5m・検出短径0.14m・深さ0.47m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

## (61)61号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部から西寄りの位置。北壁にかかる。62号ピットのすぐ東側、4号礎石のすぐ北側に隣接する。X=26,595、Y=-49,886～-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.38m・検出短径0.26m・深さ0.43m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

## (62)62号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部から西寄りの位置。北壁にかかる。61号ピットのすぐ西側、4号礎石のすぐ北側に隣接する。X=26,595、Y=-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.6m・検出短径0.2m・深さ0.42m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

## (63)63号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の中央部から西寄りの位置。南西壁際。42号土坑、65号ピットの西側に位置する。本ピットでは、43号ピット同様、柱穴状の土層堆積が検出できた。ただし、本ピットと対になって建物の柱穴を構成す

るようなピットは、周囲では全く検出されなかった。63～68号ピットは、いずれもIV-3調査区の中央部から西寄りにかけての地域に点在する。本遺跡から発見されたピット群の中では、これらの中には珍しく比較的大型のものがあるが、それらの用途・機能が明らかに出来たものはない。X=26,584、Y=-49,887。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 南北に長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.25m・深さ0.52m。

**埋土:** 柱痕層黒褐色土、埋土層鈍い黄褐色土、壁層層暗褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(64)64号ピット(第44図、PL.28)

**位置:** IV-3調査区の中央部から西寄りの位置。北西壁際。41号土坑の北西側に位置する。X=26,588、Y=-49,860。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 北東-南西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.58m・短径0.43m・深さ0.65m。しっかりと掘方をする。

**埋土:** 褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(65)65号ピット(第44図、PL.28)

**位置:** IV-3調査区の中央部から南西寄りの位置。43号土坑のすぐ東側に隣接する。X=26,588、Y=-49,860。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 北東-南西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.58m・短径0.43m・深さ0.65m。しっかりと掘方をする。

**埋土:** 暗褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(66)66号ピット(第44図、PL.28)

**位置:** IV-3調査区の中央部からやや西寄りの位置。X=26,587～26,589、Y=-49,857～-49,858。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 東西にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.25m・深さ0.38m。

**埋土:** 暗褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(67)67号ピット(第44図、PL.28)

**位置:** IV-3調査区のほぼ中央部。43号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,588、Y=-49,856。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 不整円形状を呈する。径0.45m・深さ0.65m。しっかりと掘方をする。

**埋土:** 暗褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(68)68号ピット(第44・118図、PL.28)

**位置:** IV-3調査区のほぼ中央部から南東寄りの位置。10号井戸の西側、24号土坑の東側に位置する。X=26,586、Y=-49,855。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.2m・短径0.18m・深さ0.16m。

**遺物:** 銅銭(寛永通宝)1点。 **時期:** 不明。

(69)69号ピット(第44図、PL.28)

**位置:** IV-2調査区の南端寄りの西側。X=26,609～26,610、Y=-49,849。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 北西-南東方向に長い平面水滴状を呈する。断面は、底部の中央部が一段更に深く掘り窪められており、柱穴の可能性も考えられなくはないが、埋土の土層断面から柱痕らしき土層は全く検出されなかった。69～72号ピットは、IV-2区調査区内に点在するが、それぞれの関連性を見いだすことは出来なかった。長径0.36m・短径0.3m・深さ0.32m。

**埋土:** 灰黄褐色土。 **遺物:** なし。 **時期:** 不明。

(70)70号ピット(第44・124図、PL.28)

**位置:** IV-2調査区の北端中央。北壁に掛かる。X=26,609～26,610、Y=-49,849。

**重複関係:** なし。

**規模と形状:** 北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.4m・検出短径0.3m・深さ0.56m。しっかりと掘方をする。**埋土:** 暗褐色土。 **遺物:** 古瀬戸陶器盤残片1点。 **時期:** 15世紀。

(71)71号ピット(第34図、PL.29)

**位置:** IV-2調査区の北寄り、西壁際。X=26,613～



26, 614, Y=-49,848。

**重複関係**：13号井戸を掘り込む。

**規模と形状**：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.44m・深さ0.26m。 **遺物**：なし。

**時期**：不明。

#### (72)72号ピット(第34図、PL.29)

**位置**：IV-2調査区の北寄り、西壁際。X=26,612～26,613, Y=-49,848。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.26m・深さ0.38m。 **遺物**：なし。

**時期**：不明。

## 5. 礎石

本遺跡では礎石という遺構名称が付されたものは、全部で14基が検出されている。IV区では、IV-5調査区から1・2号の2基が、IV-4調査区から3～5号の3基の計5基がそれぞれ検出されている。

II区では、調査時に「礎石」という遺構名称が付された遺構は1基のみであるが、ピットの項で述べたように11～15号ピット及びその西の壁際でごく一部が検出されたピット群も礎石であると考えられる。また、III区では8基が検出されている。なお、I区では礎石は検出されていない。

これら本遺跡において検出された礎石は、いずれも規模・構造が類似したものが多く、いずれも同時期のものと考えられる。

#### (1)1号礎石(第45・118図、PL.29)

**位置**：IV-5調査区の西端寄り。北壁に掛かる。1号溝の西側に位置する。X=26,603～26,604, Y=-49,908～-49,909。

**重複関係**：2号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：南北側大部分が調査区外に出るため全容は不明であるが、長方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。検出長径0.9m・検出短径0.28m。

**遺物**：有孔石製品1点。 **時期**：近世末期～近代初頭。

#### (2)2号礎石(第45図、PL.29)

**位置**：IV-5調査区の中央部からやや東寄り。北壁に掛かる。2号ピットのすぐ北側に隣接する。X=26,603～26,602, Y=-49,905。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：南北側大部分が調査区外に出るため全容は不明であるが、1号礎石同様、長方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。1号礎石とほぼ同規模であり、心々間の距離は約3mである。検出長径0.76m・検出短径0.34m。

**埋土**：上層暗褐色土、下層黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期～近代初頭。

#### (3)3号礎石(第45図、PL.29)

**位置**：IV-4調査区の最西端。14号土坑の西側に近接する。X=26,596, Y=-49,890～-49,891。

**重複関係**：9号井戸、14号土坑を掘り込む。

**規模と形状**：3～5号礎石は、IV-4調査区のほぼ中央部から西端にかけて、3基検出された礎石である。いずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。中央部には、南北方向に長い縦長の石や(4・5号)、上面が平坦な石が据えられ(3号)、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、3号と4号の間がほぼ3.6m、4号と5号との間が3.8mである。検出長径1.02m・検出短径1m。

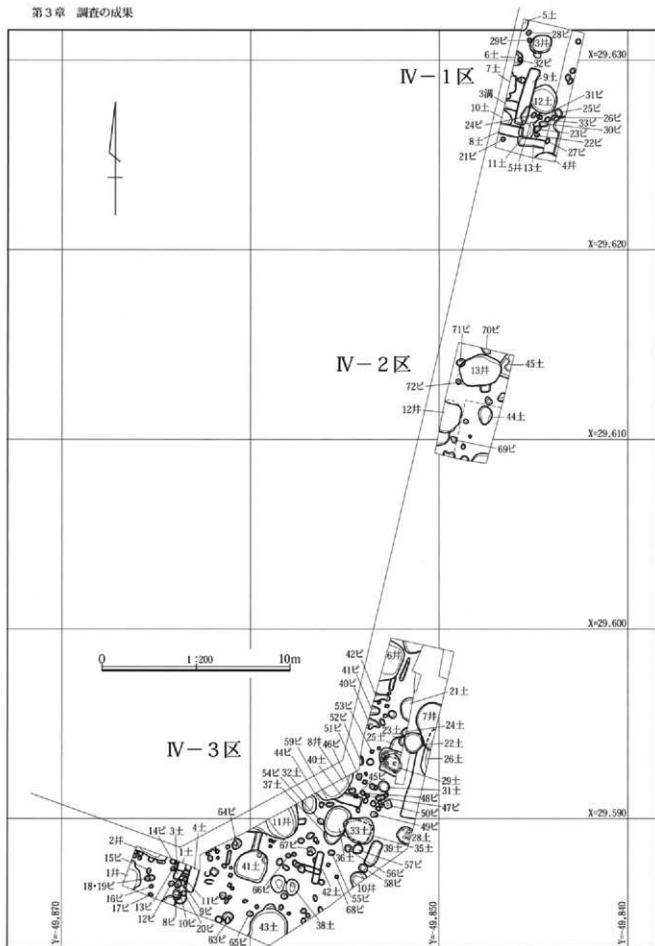
**遺物**：なし。 **時期**：近世末期～近代初頭。

#### (4)4号礎石(第45図、PL.29)

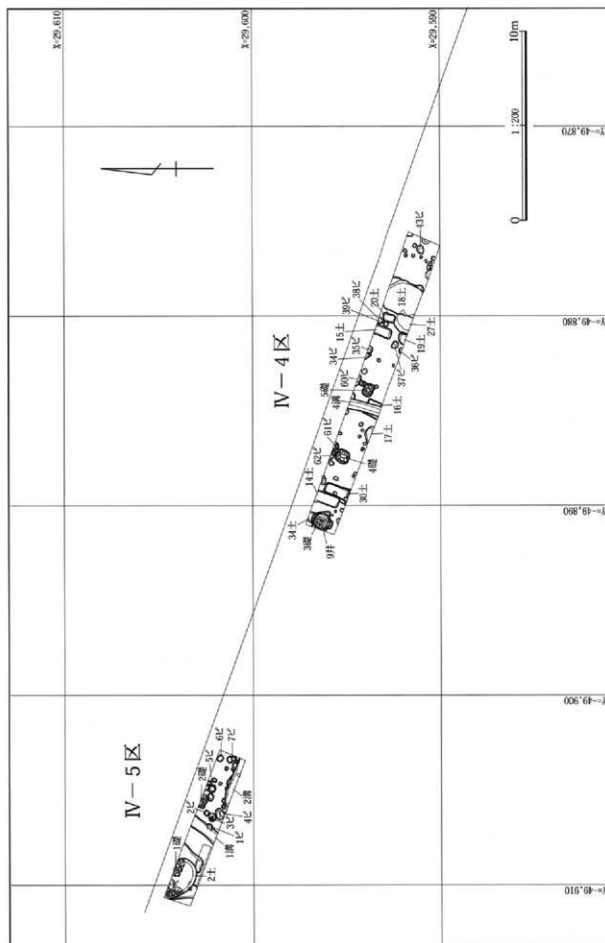
**位置**：IV-4調査区の西北寄りの位置。61・62号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,595, Y=-49,887。

**重複関係**：なし。

**規模と形状**：3～5号礎石は、IV-4調査区のほぼ中央部から西端にかけて、3基検出された礎石である。いずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。中央部には、南北方向に長い縦長の石が据えられ、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、3号と4号の間がほぼ3.6m、4号と5号との間が3.8mである。検出長径0.72m・検出短径0.7m。

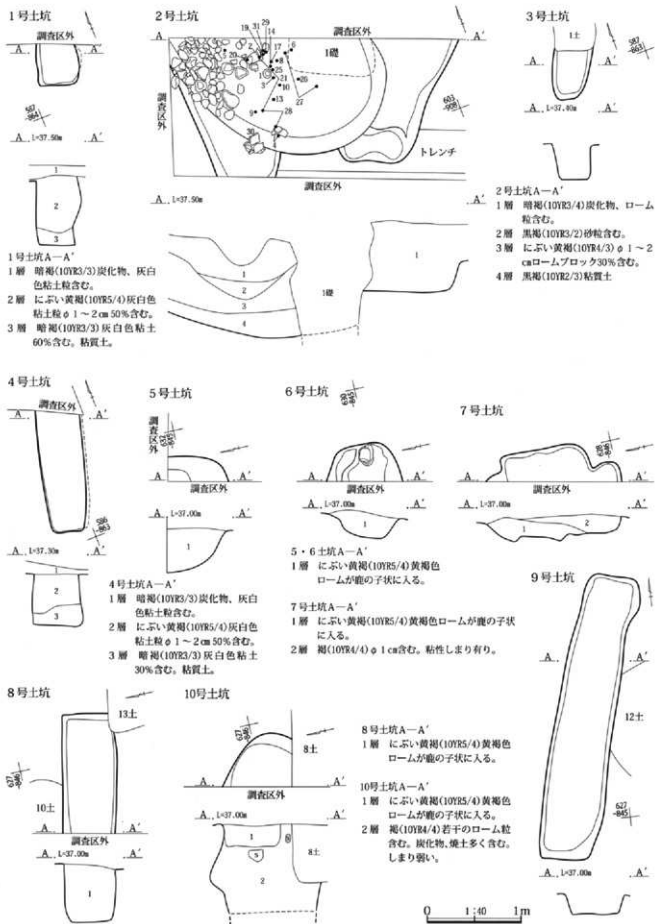


第34图 IV-1~3調査区遺構検出状況



第35図 IV-4・5調査区遺構検出状況

第3章 調査の結果



第36図 IV区1~10号土坑平面図、断面図

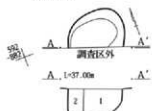


第37図 IV区11~18号土坑平面図、断面図

0 1:40 1m

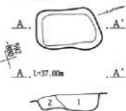
### 第3章 調査の結果

#### 19号土坑



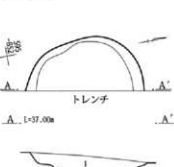
- 19号土坑A-A'
- 1層 暗褐(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック30%含む。
  - 2層 褐(10YR4/6)φ5mmのロームブロック5%含む。やや粘質。

#### 20号土坑



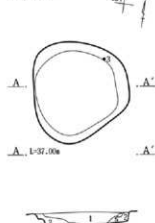
- 20号土坑A-A'
- 1層 暗褐(10YR3/4)砂質土。
  - 2層 褐色(10YR4/6)ローム含む砂質土。

#### 21号土坑



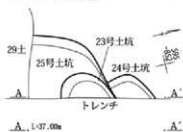
- 21号土坑A-A'
- 1層 暗褐(10YR3/3)灰白色粘土ブロックφ2~5cm10%含む。

#### 22号土坑



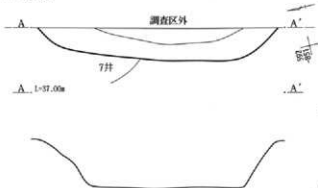
- 22号土坑A-A'
- 1層 暗褐(10YR3/3)炭化物をわずかに含む砂質土。粘性高い。
  - 2層 灰黄褐(10YR5/2)にふい黄褐色土ブロックφ0.5~1cmを30%含む。粘性高い。

#### 23・24・25号土坑



- 23号土坑A-A'
- 1層 にふい黄褐(10YR5/3)黄褐色土ブロックと暗褐色土との混土。シルト質土で土質粗くしまりやや強い。
- 24号土坑A-A'
- 1層 暗褐(10YR3/3)ローム粒をわずかに含む砂質土。しまり強い。
- 25号土坑A-A'
- 1層 暗褐(10YR3/3)炭化物をわずかに含む砂質土。粘性高い。
  - 2層 灰黄褐(10YR4/2)炭化物をわずかに含む粘質土。酸化による鉄分沈着あり。

#### 26号土坑

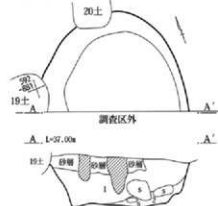


#### 28号土坑



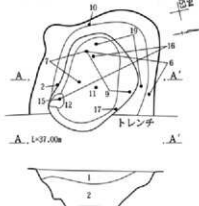
- 28号土坑A-A'
- 1層 褐(10YR4/4)φ1~2cmのロームブロック10%含む。
  - 2層 褐(10YR4/6)ロームブロック30%含む。やや砂質。

#### 27号土坑



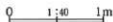
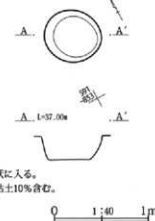
- 27号土坑A-A'
- 1層 灰黄褐(10YR4/2)にふい黄褐色ブロックφ1~2cmを7%含む砂質土。しまり強く粘性あり。
  - 2層 褐灰(10YR4/1)黄褐色ブロックφ5mmと炭化物粒φ1~5mmをわずかに含む。しまりやや強く粘性あり。

#### 29号土坑



- 29号土坑A-A'
- 1層 にふい黄褐(10YR4/3)灰白粘土30%ブロック状に入る。
  - 2層 灰黄褐(10YR4/2)φ1cmの炭化物含む。灰白粘土10%含む。

#### 31号土坑



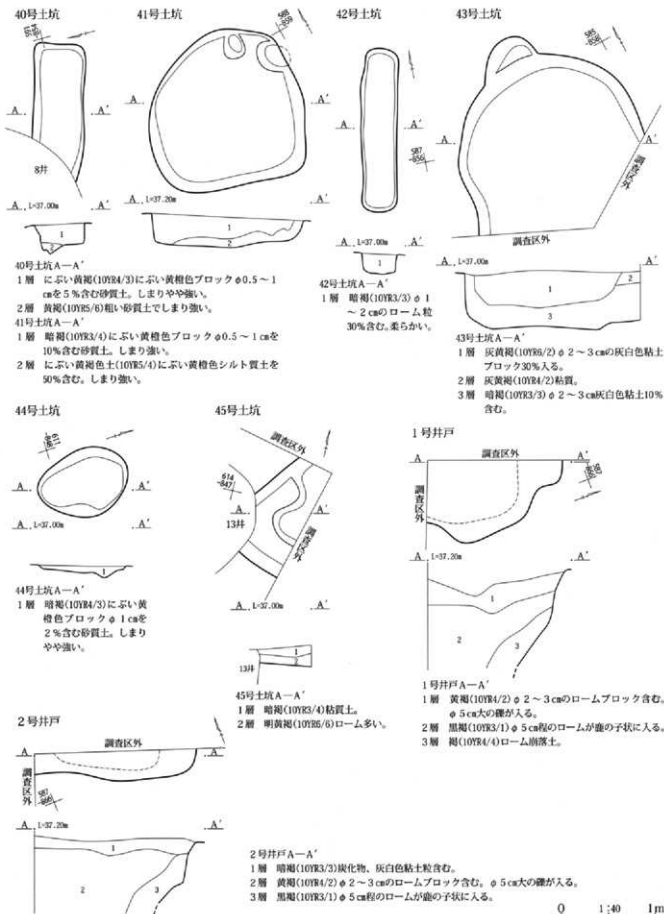
第38図 IV区19~29・31号土坑平面図、断面図



第39図 IV区30・32～39号土坑平面図、断面図

0 1:40 1m

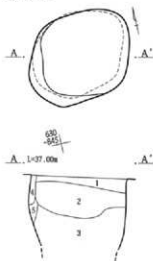
第3章 調査の結果



第40図 IV区40~45号土坑、1・2号井戸平面図、断面図



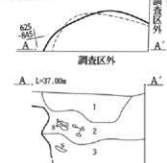
3号井戸



3号井戸A—A'

- 1層 陶(10YR4/6)白色軽石を含む。
- 2層 灰黄褐(10YR4/2)炭化物、ローム粒含む。粘性しまり強い。
- 3層 暗褐(10YR3/3)粘性しまり強い。
- 4層 黄褐(10YR5/5)ローム粒多く含む。
- 5層 にぶい黄褐(10YR4/3)φ1~2cmのローム粒20%含む。

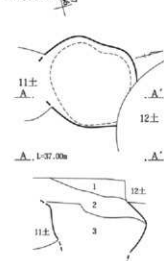
4号井戸



4号井戸A—A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)砂礫混じり現代の擾乱。
- 2層 暗褐(10YR3/3)φ1cmのローム粒30%含む。
- 3層 暗褐(10YR3/3)粘性しまり強い。

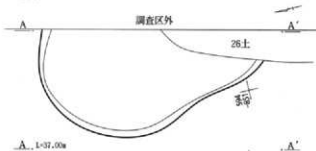
5号井戸



5号井戸A—A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性しまり強い。
- 2層 黄褐(10YR5/6)φ2~5cmのロームが塊の子状に入る。
- 3層 暗褐(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック20%含む。粘性強い。

7号井戸



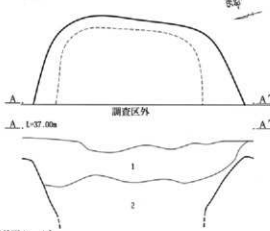
7号井戸A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)明黄褐色シルトブロックφ0.5~1cmを2%、炭化物をわずかに含む。しまりの強い砂質土。
- 2層 暗褐(10YR4/3)茶褐色に鉄分着色し、やや粘性のある砂質土。しまり強い。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)明黄褐色シルトブロック10%含む。鉄分沈着の多い砂質土でしまり強い。

8号井戸A—A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR5/4)灰白色ブロック1~2cmを20%含む。
- 2層 褐(10YR4/4)ロームが塊の子状に入る。
- 3層 褐(10YR4/6)φ1~2cmのロームブロック20%含む。
- 4層 暗褐(10YR3/4)粘質土。

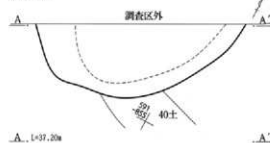
6号井戸



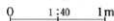
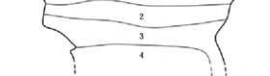
6号井戸A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック20%含む粘質土。
- 2層 黒褐(10YR2/3)φ5~10cmのロームブロック40%含む粘質土。

8号井戸



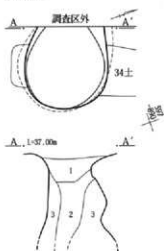
8号井戸A—A'



第41図 IV区3~8号井戸平面図、断面図

### 第3章 調査の成果

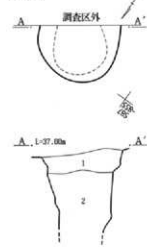
9号井戸



9号井戸 A—A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)φ1cmのローム5%含む。
- 2層 黒褐(10YR3/2)φ1cmのローム5%含む。
- 3層 深い黄褐(10YR4/3)粘質土。

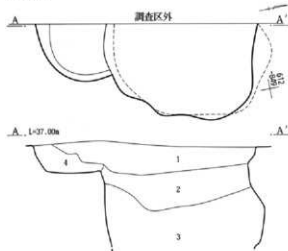
10号井戸



10号井戸 A—A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)砂粒、φ1cmのローム含む。
- 2層 暗褐(10YR3/3)灰白色粘土5%含む。

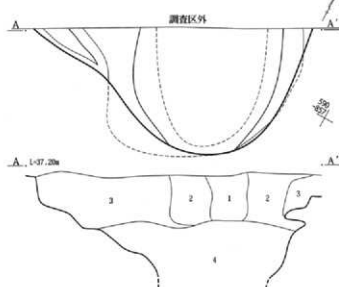
12号井戸



12号井戸 A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ1cmのローム粒30%含む。
- 2層 暗褐(10YR3/4)φ1cmのローム50%含む。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)ローム産の子状に入る。
- 4層 明黄褐(10YR6/5)ローム崩落土。

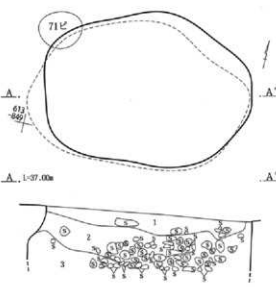
11号井戸



11号井戸 A—A'

- 1層 暗褐(10YR4/4)φ2~3cmの灰白色粘土ブロック30%含む。
- 2層 暗褐(10YR3/4)φ1cmの灰白色粘土10%含む。
- 3層 褐(10YR4/6)φ10cm大の黄褐色ロームブロック産の子状に入る。
- 4層 黒褐(10YR3/2)φ10cm大の黄色粘土多い、粘質強い。

13号井戸



13号井戸 A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ1cmのローム10%含む。
- 2層 暗褐(10YR3/4)粘質土。
- 3層 暗褐(10YR3/4)礫混じり。

0 1:40 1m

第42図 IV区9～13号井戸平面図、断面図



第43図 IV区1~4号溝、7・34~38号ビット平面図、断面図

0 1:40 1m

第3章 調査の成果

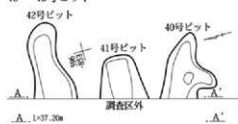
39号ビット



39号ビットA-A'

1層 ぶい黄褐(10YR5/4)ロームブロック主体。

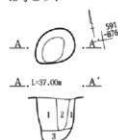
40～42号ビット



40・41・42号ビットA-A'

- 1層 暗黄褐(10YR6/6)φ1～2cmロームブロック50%含む。
- 2層 暗褐(10YR3/4)φ1～2cmロームブロック30%含む。
- 3層 褐(10YR4/4)φ1～2cmロームブロック20%含む。
- 4層 褐(10YR4/6)φ1～2cmロームブロック30%含む。
- 5層 褐(10YR4/6)φ1～2cmロームブロック50%含む。
- 6層 ぶい黄褐(10YR4/3)ロームブロックが腰の子状に入る。粘性しまり強い。

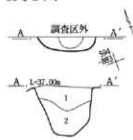
43号ビット



43号ビットA-A'

- 1層 褐(10YR4/4)黄褐色ブロックφ5～10mmを30%含む。かたくしまり強い。
- 2層 黒褐(10YR3/2)やわらかく粘性あり。炭化物を5%含む。
- 3層 ぶい黄褐(10YR4/3)砂質土でやや粘性あり。

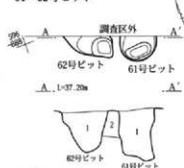
60号ビット



60号ビットA-A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)φ1cmのローム10%含む。
- 2層 ぶい黄褐(10YR4/3)粘質土。

61・62号ビット



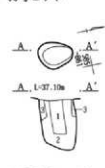
61号ビットA-A'

1層 ぶい黄褐(10YR4/2)ローム30%含む。

62号ビットA-A'

- 1層 ぶい黄褐(10YR4/2)ローム30%含む。
- 2層 ぶい黄褐(10YR6/3)灰色粘土主体。

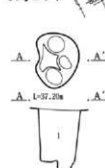
63号ビット



63号ビットA-A'

- 1層 黒褐色土A-A' (10YR3/2)土質均一でやわらかくしまりやや強い。
- 2層 ぶい黄褐色土(10YR5/4)土質粗く、ぶい黄褐色土、黄褐色ブロックと1層との混土。しまりやや強い。
- 3層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色粒φ1～5mmを5%含む砂質土。しまり強い。

64号ビット



64号ビットA-A'

1層 褐色土(10YR4/4)ぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを5%含む。しまり強い。

65号ビットA-A'

1層 暗褐(10YR3/4)φ5mmのローム粒10%入る。

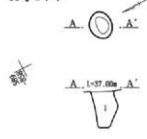
70号ビット



70号ビットA-A'

- 1層 暗褐色土(10YR4/3)ぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを10%含む。しまりやや強い。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3)ぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを15%含む。しまりやや強い。

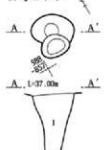
66号ビット



66号ビットA-A'

1層 暗褐(10YR3/4)φ5mmのローム粒10%入る。

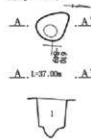
67号ビット



67号ビットA-A'

1層 暗褐(10YR3/4)φ5mmのローム粒10%入る。

69号ビット



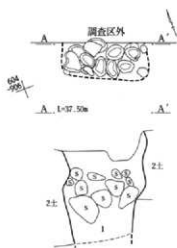
69号ビットA-A'

1層 灰黄褐色土(10YR4/2)ぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを5%と、鉄分比着した砂質土が混じる。しまりやや強い。



第44図 IV区39～43、60～70号ビット平面図、断面図

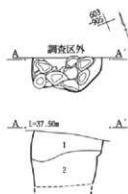
1号礎石



1号礎石A-A'

1層 濃い黄褐(10YR4/3)明黄褐色砂 φ1~5mmと炭化物をわずかに含む砂質土。かたくしまり強い。

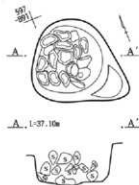
2号礎石



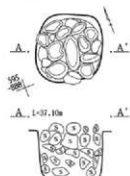
2号礎石A-A'

1層 暗褐(10YR3/3)礎石含む。  
2層 黄褐(10YR5/6)粘性しまり有。  
φ5cm大の礎石含む。

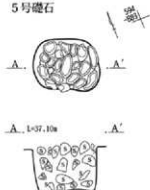
3号礎石



4号礎石

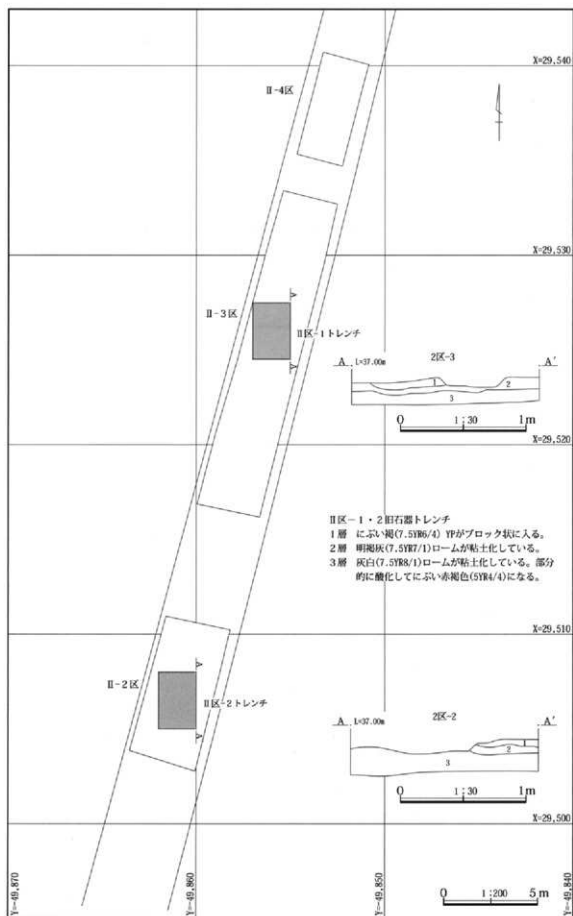


5号礎石

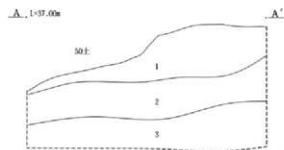
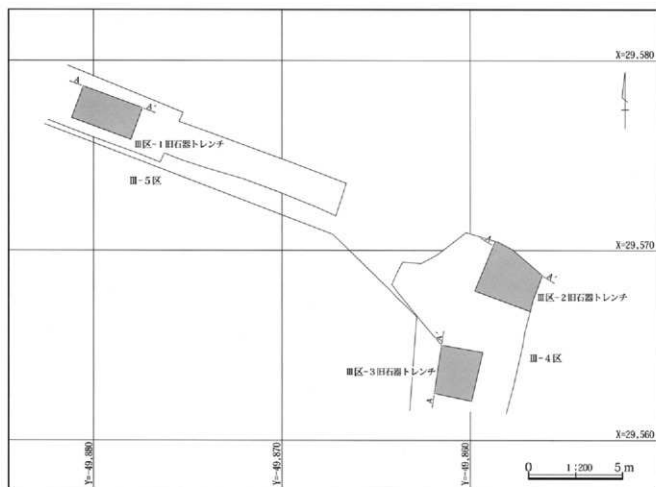


0 1:40 1m

第45図 IV区1~5号 礎石平面図、断面図

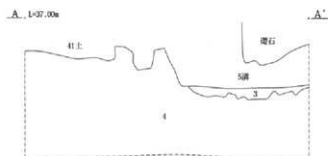


第46図 II区旧石器確認調査坑位置図、断面図



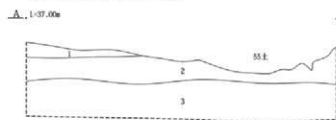
III区-1 旧石器トレンチ

- 1層 深い黄土(10YR7/2)砂質。
- 2層 灰白(10YR7/1)粘質土。
- 3層 灰白(10YR7/1)粘土と砂の互層。



III区-2 旧石器トレンチ

- 3層 深い黄土(10YR5/4)  $\phi$  1~5 cmのロームブロック含む。
- 4層 灰白(10YR7/1)砂層と粘土の互層。

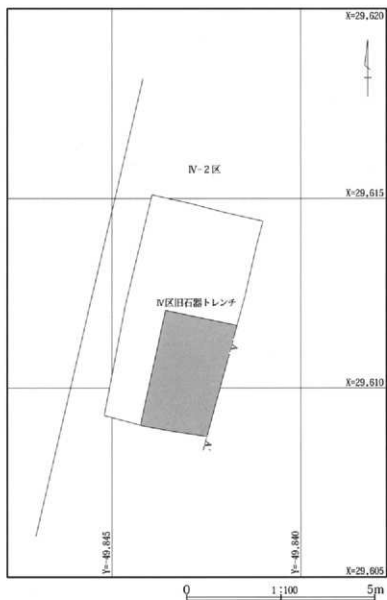


III区-3 旧石器トレンチ

- 1層 暗褐色(10YR3/3)  $\phi$  1~5 cmのローム粒 5%含む。
- 2層 灰白(10YR8/2)  $\phi$  2~3 cmの軽石含む。
- 3層 灰白(10YR1/1)粘質土と砂のラミナ層。



第47図 III区旧石器確認調査坑位置図、断面図



A, 1-37.00m

A'



IV区旧石器トレンチ

- 1層 にぶい黄土(10YR7/4)砂質土。
- 2層 灰白(10YR8/1)砂粒と粘土の混合土。
- 3層 褐灰(10YR4/1)灰白色粘土と褐色土のラミナ層。

第48図 IV区旧石器確認調査坑位置図、断面図



遺物：なし。 時期：近世末期～近代初頭。

#### (5) 5号礎石(第45図、PL.29)

位置：IV-4調査区のほぼ中央部に位置する。16号土坑のすぐ北東側に隣接し、4号溝の東側、60号ピットの南側に位置する。X=26,593～26,594、Y=-49,883～-49,884。

重複関係：なし。

規模と形状：3～5号礎石は、IV-4調査区のほぼ中央部から西端にかけて、3基検出された礎石である。いずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。中央部には、南北方向に長い縦長の石が据えられ、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、3号と4号の間がほぼ3.6m、4号と5号との間が3.8mである。本礎石は、北西-南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈しており、検出長径0.7m・検出短径0.54mである。

遺物：なし。 時期：近世末期～近代初頭。

### 6. 遺構外一括出土遺物

遺構外一括出土遺物を観察表及び第119・120図に掲載した。

## 第5節 旧石器の確認調査

II区で2箇所、III区で3箇所、IV区で1箇所、計6箇所において、旧石器の確認調査坑を設定し、確認調査を実施した。設定したのはII-2調査区、II-3調査区、III-4調査区2箇所、III-5調査区、IV-2調査区であり、基本土層におけるロームの検出状況等や調査範囲の大小を勘案して調査坑を設定した。

いずれの調査坑においても旧石器は全く確認されなかった。

調査坑の設定箇所及び平面図、土層断面図は以下の通りである。(第40～42図、PL.29)

## 第4章 調査成果のまとめ

### 第1節 出土した「文久永宝」について

Ⅱ区12・16号土坑、1号竪穴から出土した文久永宝は、1863(文久3)年2月から1867(慶応3)年まで鑄造され、幕末に流通した銭貨であり、鑄造の時期が非常に限られていることから、本遺跡における遺構の年代を知る上で、重要な手がかりになるとと思われる。故に、1節を設け、この銭貨の基本的な性格についてまとめておくことにしたい。

幕府の大老であった井伊直弼が榎田門外の変で暗殺されると、薩摩藩では、1862(文久2)年3月、藩主島津忠義の実父である久光が、朝廷・幕府・雄藩の政治的提携を企図し、公武合体運動を推進することを目的に兵を率いて京都へ上洛した。この薩摩藩の実質的リーダーである島津久光の朝廷に対する働きかけにより、同年5月、朝廷では「将軍家茂の上洛」、「沿海5大藩(薩摩・長州・土佐・仙台・加賀の各藩)で構成される五大老の設置」、「一橋徳川家当主慶喜の将軍後見職就任及び前越前福井藩主松平慶永の大老職就任」の「三事策」からなる幕政改革を要求するために勅使を江戸へ派遣することが決定され、久光は勅使随従を命じられて、勅使大原重徳と共に江戸に下向し、勅使とともに幕閣との交渉にあたり、一橋慶喜の将軍後見職就任及び松平慶永の政事総裁職(大老格)就任を実現させた。これが世に言う「文久の幕政改革」であり、新貨幣の鑄造は、この幕政改革による新時代の到来を象徴するものであった。

1860(万延元)年から鑄造が始まった寛永通寶精鉄4文銭の不評を受けて、4文銭を銅銭に戻すことにしたのである。しかしながら、銅産出量の絶対的不足から生じた地金の高騰により、現実的には、量目を減じざるを得なかったというのが実態であった。

こうした経緯によって鑄造された「文久永寶(宝)」は、銅製で、直径0.9寸(約2.7センチメートル)、規定量目は9分(約3.375グラム)と、初期の寛永通寶より軽めであり、形状は円形で、中央部に正方形の穴が開けられてお

り、表面には「文久永寶(宝)」の文字が上下左右の順に刻まれ、裏面には波形模様で刻まれている。

この「文久永寶(宝)」の文字には3種類のあると言われており、それぞれ当時、幕府の中核にあった要人たちが元となる文字の揮毫を担当したとされている。

初字の「文」の字が楷書体のもは、当時の若年寄であった小笠原老岐守長行(のちに老中・外国事務総裁、肥前唐津藩主、1822(文政5)年～1891(明治24)年)の筆によるもので「真文」と呼ばれている。

初字の「文」の字が草書体の「文」となっているものは、当時の老中であった板倉周防守勝静(のちに老中首座・内国御用取扱、備前松江藩主、1823(文政6)年～1889(明治22)年)の筆によるもので「草文」と呼ばれている。

初字の「文」の字が草書体で、「寶」の字が「宝」となっているものは、当時、新設されたばかりの政事総裁職に就任した松平越前守慶永(1828(文政11)年～1890(明治23)年)の筆によるもので「略宝」と呼ばれている。

これら江戸時代に流通した銭貨のうち、鉄銭は1873(明治6)年12月25日に、天保通寶は1891(明治24)年末をもって運用停止となったが、「文久永寶(宝)」などの銅銭は1953(昭和28)年末の「小額通貨の整理及び支払金の端数計算に関する法律」により廃止されるまで、法的には通用していた。

#### 参考文献

1. 鹿澤武雄・西脇康「日本史小百科「貨幣」」東京堂出版、1969。
2. 滝沢武雄「日本の貨幣の歴史」吉弘文館、1996。

## 第2節 出土した近世の陶磁器・土器について

世良田は「新田荘」を領した新田義重の本拠地であり、中世にはその末子・得川(世良田)義季が開いた長楽寺の門前町として栄えた。長楽寺の繁栄によって世良田は宿としても知られるようになり、その縁辺には市なども開かれ、東上野の交通・交易の中心地だったという。当遺跡がある通称「世良田十字路」は、中世の「四日市と宿」があったとされる古道の中心域に該当する。また、江戸時代には長楽寺の南に東照宮が置かれ、江戸時代も商業地区として栄えたようである。1845(弘化2)年の絵図では、世良田十字路の南北の道は「大門町」、東西の道は「中町」と記載されており、両道沿いには家々の屋根が連なるように描かれている(第53図)。

今回の調査でも中世の瓦や陶磁器類が出土しているが、その主体を占めるのは江戸時代後期の陶磁器類である。年代的には18世紀末葉から19世紀前半代のものが主体を占めており、揃いものも数多く認められた。特に世良田十字路の南西側にあたるⅢ区1号遺物集中からは一括廃棄された多量の陶磁器類が出土しており、接合率も高く、揃いものや特殊な遺物も数多く検出されている。これらの遺物は大半が日常使用する雑器ではあるが、各種のものがよく出揃っており、県内のこの時期の基準的な一群として注目される。

ここでは、この地区の特徴を示すものや、注目されるものをいくつか取り上げて紹介しておきたい。

### 1. 文字資料

不明瞭なものもあるが、24点を確認した(第4表)。いずれも江戸時代後期から幕末頃に使用されたものと判断する。文字は墨書・刻印のほかに焼継溶液で記載したものもあり、また注文で屋号や店名を呉須で書いたと考えられるものもある。

瓦や焙烙にみられる刻印は4例あり、いずれも作り手が商品名を示すものであろう。

墨書と思われるものは12点出土しており、数が多いが欠損品や不明瞭なものも多い。5は急須の底に片仮名で「トチ」と書いてあるが、何を示すのかは解らない。6は

ひょうそくの底部に平仮名で「に」と書いてあり、おそらく「いろは」でナンバーを付けたものだろう。10は徳利の底に「大町井筒屋」と屋号を書いたもので、店の名を示すものであろう(口絵1-7)。ただ、世良田には「大門町」はあるが「大町」はわからない。14・15は置き溜の焚き口前面に文字が書かれたもので、残念ながらその示すものがはっきりしない。

17は焼継が施された染付端反碗の高台内に赤色塗料で「千せ」と書いてあり、おそらく所有者の名前を示すのであろう(口絵1-6)。これは焼継溶液に赤色の塗料を混ぜて使用した可能性が高い。

18~22は焼継溶液で文字を書いたもので、いずれも焼継が施された器であり、修繕の注文を受けた際に預かった人名や店名をメモした事例であろう。18は染付湯呑の底に「文吉」と書いてあり、所有者の名前と考えてよい(口絵1-5)。19~22は器種や大きさは様々だが、いずれも見えにくい高台付近に「せらだ しみずや(世良田清水屋)」と特定の店名を書いている。焼継溶液でこれほどの文字数を書いた事例は希少である(口絵1-1~4)。

23・24は呉須で書かれた事例で、店名と屋号を書いたものであろう。これらは陶磁器製造元に注文で発注した可能性が高い。(口絵1-8)

これらの遺物は、当時の群馬県南東部地域での生活の中で文字がどのように使われていたのかを示している。また店名を書いたものが多いことは、この地区にそうした店舗が存在した可能性も想定させる。なかでも19~22の「世良田 清水屋」は、4点のうち3点がⅢ区1号遺物集中から出土しており、この地点に「世良田 清水屋」があった可能性が高いと言えよう。

しかもこの事例は、文字数の多い点もさることながら、同じ店名を4点とも異なった書き方で綴っている点は偶然とは言いがたく、むしろ洒落や遊び心を楽しむ様子まで彷彿とさせる。こうした点は、当時の一地方の生活習慣や風俗を知る手懸かりとしても重要な事例と言てよいだろう。

### 2. 明かりの道具類

当時の照明具は行灯が一般的で、ろうそくは高級品で庶民が使えものではなかったという。照明用の灯油が

第4表 陶磁器類文字資料一覧 (半原その地について、群馬県立文書館古文書部の協力を得た。)

番号	区	遺構	No. 回廊番号	種類	器種	年代	置いた場所	使ったもの	文字	読み	備考
1	Ⅱ	1号溝	52	在地系土器	十徳	江戸時代後半～終末	表面中央部	刷印	二山マータの下の下に「加」	やまか	刷造元、または商品名を示す。
2	Ⅱ	1号溝	66	瓦	平瓦	江戸時代後半～終末	側面部	刷印	一山マータの下の下に「米」	やまき	刷造元、または商品名を示す。
3	Ⅲ	4号溝	26	在地系土器	知格	江戸時代後半～終末	底部内面	刷印	「口上」	うらえ	刷造元、または商品名を示す。
4	Ⅳ	1号溝物集巾	145	在地系土器	知格	江戸時代後半～終末	底部前面中央部	刷印	「大口上」	だいウケうえ	刷造元、または商品名を示す。
5	Ⅱ	16号土坑	2	陶器	急須	江戸時代後半～終末	底部	墨書	「トチ」	とち	カタカナ
6	Ⅱ	24号土坑	25	瀬戸・美濃陶器	鉄轆ようそく	江戸時代後半～終末	底部	墨書	「に」	に	「いろは」でナンバリング
7	Ⅱ	3号井戸	1	在地系土器	皿	江戸時代後半～終末	見込み	墨書か？	？	不明	
8	Ⅱ	1号溝	65	瓦	平瓦	江戸時代後半～終末	裏面	墨書	「大口」	だい	「太」の可能性もあり、文字が読めず可能性が高い。
9	Ⅱ	溝外	5	肥前磁器	染付皿	江戸時代後半～終末	底部の目高台部	墨書	「口可も」？	かも？	店の名であるう。
10	Ⅲ	22号土坑	6	陶器	徳利	江戸時代後半～終末	底部	墨書	「大井筒屋、整頓い内に「梅」	おおまち いづつや	
11	Ⅲ	1号溝物集巾	100	瀬戸・美濃陶器	灰轆七入れ	江戸時代後半～終末	底部高台内	墨書	「巳口」	み？	「見」の可能性もあり
12	Ⅲ	一括	72	埴子・笠原陶器	灰轆皿	江戸時代後半～終末	底部高台部	墨書	「口田」	せらだ？	地名、人名、屋号か？
13	Ⅲ	一括	88	瀬戸・美濃陶器	灰轆灯台受皿	江戸時代後半～終末	底部高台内	墨書	不明	不明	屋号の可能性もある
14	Ⅲ	一括	127	瀬戸系土器	置き蓋	江戸時代後半～終末	外面	墨書	「駒か」	駒か？	所有者あるいは使用場所・屋号か
15	Ⅲ	一括	128	瀬戸系土器	置き蓋	江戸時代後半～終末	裏き口前面	墨書	不明	不明	所有者あるいは使用場所・屋号か
16	Ⅳ	29号土坑	10	肥前磁器	赤絵火入れ	江戸時代後半～終末	見込	墨書	「お二口」？	おにし	
17	Ⅲ	一括	25	肥前磁器	染付燗反碗	江戸時代後半～終末	底部高台内	墨書	「チセ」又は「千世」	ちせ	所有者の名前か。焼屋あり。
18	Ⅲ	1号溝	11	肥前磁器	染付燗存	江戸時代後半～終末	底部高台内	焼屋消液	「文五」	ぶんきち	所有者の名前か。焼屋あり。内面に赤紫色の付着物。
19	Ⅲ	1号溝物集巾	62	肥前磁器	広重碗	江戸時代後半～終末	底部高台内	焼屋消液	「せら田 志ミ寿々」	せらだ しみずや	田の名であろう。焼屋あり。
20	Ⅲ	1号溝物集巾	123	京・信楽系陶器	灰轆土瓶	江戸時代後半～終末	外面	焼屋消液	「せら田 志ミ寿々」	せらだ しみずや	田の名であろう。焼屋あり。
21	Ⅲ	1号溝物集巾	7	肥前磁器	染付存	江戸時代後半～終末	底部高台内	焼屋消液	「せら田」	せらだ	田の名であろう。焼屋あり。
22	Ⅳ	2号土坑	21	肥前磁器	染付皿	江戸時代後半～終末	外面	焼屋消液	「志ミ寿々」	しみずや	田の名であろう。焼屋あり。
23	Ⅱ	6号土坑	4	肥前磁器	染付皿	江戸時代後半～終末	見込み、底部高台内	焼屋消液	「せら田 志ミ寿々」	せらだ しみずや	田の名か、社交祝注法か。
24	Ⅱ	1号野穴状遺構	1	陶器	染付土瓶	江戸時代後半～終末	外面上文様下の内面	焼屋消液	「口口口」と屋号兼友？	「ひらのや」か？屋号はかねともか？	田の名か、社交祝注法か。

一般まで使えるようになったのは江戸時代中期以降だとされており、江戸時代の遺跡では灯明皿が数多く出土する。当遺跡でもひょうそく7点、灯明油皿19点、灯明受皿28点、土器皿35点が出土しているが、その他に県内では出土例が少ないカンテラが8点出土しており、ここで5点について紹介したい。なお、非掲載のものは、Ⅲ区一括で2点、Ⅳ区一括で1点、いずれも破片である。

当遺跡出土のカンテラはいずれも両口形のもので、内外面に光沢のある透明釉(5は黒みを帯びる)がかけている。3は肩部の片側に円形のスタンプを横位に重ねた三輪の文様が印刻されているが、その他はいずれも無文である。

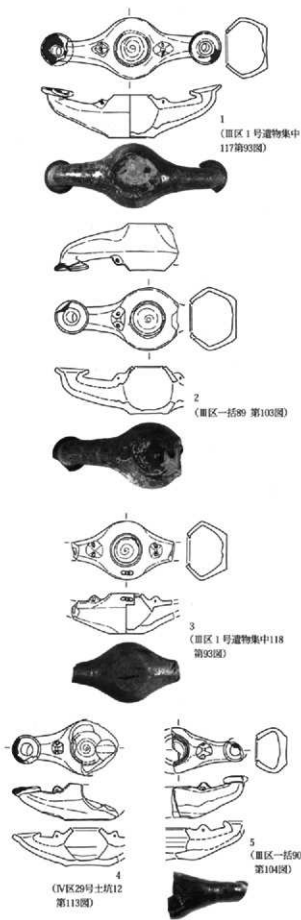
大きさは、1は長さ23.7cm、幅6.0cm、高さは本体が5.6cm、腕部も含めた高さは6.9cmである。これを基準にすると、2は本体の高さはやや高いがほぼ同型、3・4はそれよりやや小さく、腕の長さも短い。5は腕の長さは4に近いが、本体はさらに小型で小さい。

いずれも本体は轆轤で成形し、そこに腕のような両口部が取り付けられている。2では底部に回転系切り痕が残っており、いずれも底部内面に指ナデ痕が残る。底部の平面形状は1・4が菱形、2・5が方形、3は円形である。本体口唇部にはいずれも蓋受けが付くが、蓋は見当たらない。両腕部の付け根には釣り手用の紐かけ孔がつく一対の突起があり、2ではこの部分に割線が一部残っていた。

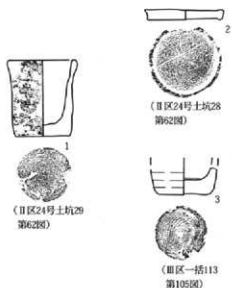
なお、燃焼部が欠損する3以外の4点は、いずれも燃焼部を中心に使用による煤油が明瞭に付着している。

こうしたカンテラは18世紀後葉以降に出現したもので、天井から吊り下げた「八軒」もしくは「八方」と呼ばれる照明具のなかに入れて使用されたとされており、以前は江戸市中でのみ使用された特殊な器種と考えられていた。

少なくとも高所に吊り下げて広範囲を照らす道具であることは間違いなく、大広間や湯屋、あるいは広い作業場などで使用されたものであろう。それが5点も出土しているとなれば、当遺跡付近にそうした施設があったことになる。また、これらは5点のうち2点がⅢ区1号遺物集中、2点がⅢ区一括からの出土であり、文字資料の「世良田 清水屋」との関連を想定させる。



第49図 出土したカンテラ



第50図 出土した焼塩壺

### 3. 焼塩壺

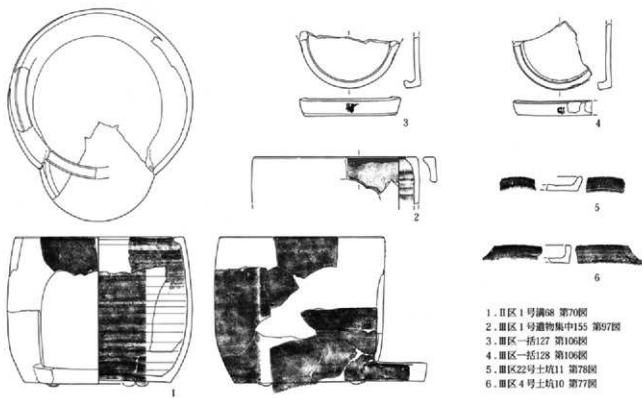
身が2点、蓋が1点、計3点が出土している。身は2つとも輪轆成形のもので、底部に回転糸切り痕を残す。いずれもⅢ類と言われる江戸時代後半期のもので、僅か

な出土数だが群馬県では城以外で出土する事例は極希であり、本地区が一般的な農村や集落ではないことを示す資料の一つでもある。

### 4. 置き竈

土器類のなかで注目したい遺物の一つがこの「置き竈」である。同じ形態と考えられるものが6点出土しているが、県内の他の遺跡からの出土例は寡聞にして知らない。これらの出土位置は6点中5点がⅢ区から、1点はⅡ区からの出土だが、いずれも半径40m以内の至近距離からの出土である。なお、非掲載であるが、この他にⅢ区1号礎石から4点、Ⅲ区1号遺物集中箇所から23点、Ⅲ区一括から3点、Ⅳ区一括から2点の破片が出土している。

ほぼ全容が把握できる1は大きさが胴部直径39.2cm、高さ31cmで、底部に半球状の脚が4個付く。正面に狭間様の装飾を施した焚き口枠があり、その下部に縁がつく半円状の盤が取り付けられている。そのほかでは狭間様の装飾がある上部部(2)1点と焚き口下部の盤が4点(3・4・5・6)出土しており、このうち3・4は正面部に墨書がある。盤は1も含めて5点あり、1は直径26cmほどだが、その他の4点はいずれも直径20cmほどで共



第51図 出土した置き竈

- 1.Ⅱ区1号溝68 第70図
- 2.Ⅲ区1号遺物集中155 第97図
- 3.Ⅲ区一括127 第106図
- 4.Ⅲ区一括128 第106図
- 5.Ⅲ区22号土坑11 第78図
- 6.Ⅲ区4号土坑10 第77図

通している。ただし、緑部の形態は皆異なっており、手作りとはいえこだわりを感じる。

置き竈はその構造から板の間や室内での煮炊きを可能にする道具と考えられ、料亭などの高級な施設で使用された可能性も考えられるのではないだろうか。

### 5. 手水鉢

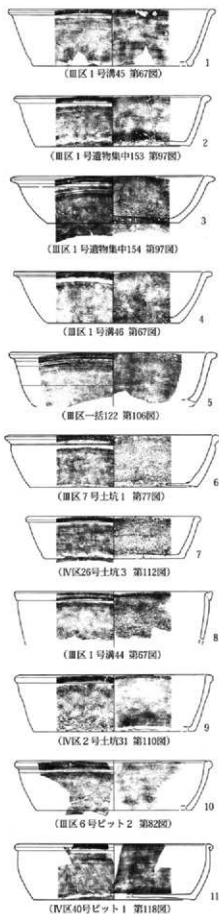
土器類のなかでもう一つ注目したいのは、焼して黒くした大きな鉢である。総計11点が出土しており、県内でもこれだけまとまって出土する例は少ない。

大きさはいずれも口縁部直径が40cmほどあり、口唇部から内面にわたって入念に研磨を施し、光沢を放っている。二次焼成を受けて変色したもの(5)や焼成がややあまいもの(10)もあるが、この点は当器種の最大の特徴である。形態は、体部が大きく開き、口縁部上端がくの字状に外折して口唇部上端が平坦になるもの(1~6)と、体部の開きが小さく、口縁部上端に隆帯を施すもの(7~11)とがある。

同様の形状を呈するものはこの他に数点あるが、内面の研磨が認められないため除外した。火鉢としたものも焼して黒くしたものが多く、口唇部に光沢を施すが、内面を研磨するものはない。

これらは手水鉢として使用された可能性を考えたい。当遺跡では水鉢の出土がほとんどなく、焙烙に比べて底部もやや厚手につくられており、水を扱う器としてこの器種がふさわしいと判断した。当然染み出しはあるだろうが、そのことを予め了解していれば不都合はないのではないかと。

以上、出土遺物から窺えた当遺跡の特色のいくつかを述べてみた。工事の性格上掘削部のみの限られた調査で遺構は全容まで把握できないが、出土遺物は各種の材料が比較的出揃っており、江戸時代後期の当地域の基準的な資料を提示することができた。また、出土遺物のなかには周囲に店舗等が並んだ商業地区の様相が想定されるものもあり、江戸時代後期に「大門町」や「中町」と呼ばれた世良田十字路の様相を垣間見ることができた。



第52図 出土した手水鉢

### 第3節 まとめ

周知のように、世良田環濠集落遺跡は、平安時代末期の1157（保元2）年に、源義国の長男である新田義重が、父義国とともに再開発した上野国新田郡南西部の早川流域・石田川流域の「空閑の郷々」19郷（女塚、上江田、下江田、田中、大館、粕川、小角、押切、出塚、世良田、三木、上今井、下今井、上平塚、下平塚、木崎、長福寺、多古宇、八木沼）について、鳥羽法皇御願寺である金剛心院を本家に、藤原北家花山院流藤原忠雅を領家として寄進され立券し、同年、藤原忠雅により新田義重が新田荘下司職に補任されて成立した上野国内屈指の中世荘園である新田荘のただ中に所在する中世に形成された環濠集落遺跡として名高い遺跡である。

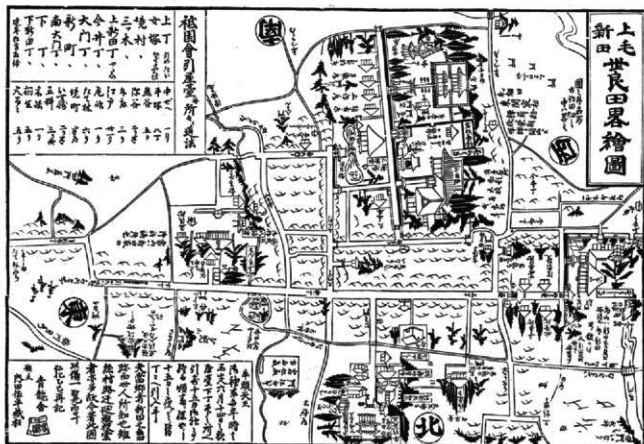
周知には、北に金山城を築いた由良氏の重臣であった大沢氏の居館であったと伝える岩松陣屋跡や八坂神社、西に新田氏本家の館跡と伝えられる新田館跡、東に新

田氏累代の家臣であった船田氏の居館跡と伝えられる船田館跡、南に中世以来の古刹である長楽寺など、重要な中世の遺跡が点在している。

ただ、世良田環濠集落の実態は、遺跡範囲内の市街地化が甚だしいことなどもあり、現在までのところ、ほとんど明らかになっていないのが実情である。

平成24年度に太田市教育委員会の調査により中世の環濠集落の堀が早川まで続いていたことが明らかとなったが、平成26年2月から12月まで断続的に実施され世良田交差点改良工事に伴う今回の一連の発掘調査では、残念ながら、これに関係する堀跡は発見されず、明確な中世の遺構もほとんど発見することができなかった。

近世の井戸、土坑、建物の柱穴跡、櫓列の穴跡等の遺構が確認され、とくに土坑からは長楽寺で使用された多数の瓦片が出土した。その概要については、『世良田環濠集落遺跡』（1）で報告したとおりであり、近世に徳川将軍家の家祖と位置づけられた中世豪族得川氏の開基である長楽寺は、江戸時代を通じて幕府の手厚い庇護を受



第53図 上毛新田世良田略絵図(弘化2 (1845年))

(太田市立新田荘遺跡資料館提供)



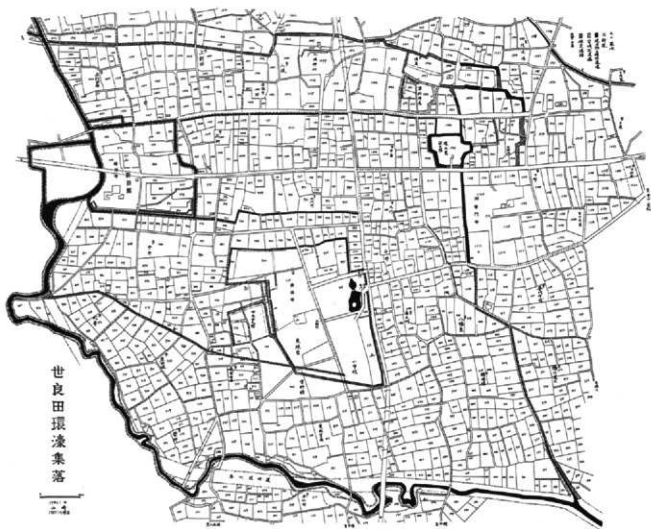
け、その繁栄が、「門前町」とも言うべき世良田交差点周辺の集落にも大きな影響を及ぼしていたことを改めて認識させられた。

今回、ここに報告する発掘調査においても、残念ながら、建物については、調査範囲が狭いため、全体像は全く明らかにすることができなかった。また、現在の道路に並行して近世の柵列の跡がいくつも検出されており、おそらく、近世以前の道に面して柵が存在したものと考えられる。

また、今回の一連の調査で、大量に出土した近世～近代の陶磁器類には、当時は使用されることが極めて希であったカンテラが含まれていたり、また、当時は高級品とされた肥前陶磁が多数出土していたり、さらには京・信楽系陶器や瀬戸・美濃系陶磁器、常滑陶器など大量に

出土しており、この地における物資流通の高い水準のほどや、そうした器物を大量に購入・使用しつづけていたこの地域の豊かさには驚嘆の念を禁じ得ない。江戸幕府の歴代将軍の手厚い庇護を受けてきた中世以来の古刹・長楽寺の門前町というこの地の特質を考慮しても、主要街道に直接面しているわけでもなく、宿場町でもないこの地域にこれほどの流通と消費があったことは、これまで予測できなかったことである。今後、周辺地域の歴史的環境を考察する上で、重要な手がかりとなりうる事象であると確信する。

また、これほどまとまって出土した近世陶磁器類の資料群は、群馬県内における近世陶磁器の一つの指標となるべき資料と位置づけられるものとする。資料として活用されることを期待したい。



第54図 山崎一氏作図世良田環濠集落図  
(太田市立新田荘遺跡資料館提供)

遺物観察表

Ⅱ区2号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第5581	1 石製品磁石	2/3	長 幅	(9.5) (4.6)	厚 重	(3.0) 155.6	砂岩	断面は3面認められる。正面及び裏面は、研ぎ減りと考えられるやや内湾した形態である。右側面はほぼ平坦である。上部、下部及び左側面欠損。	

Ⅱ区6号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第5582	1 肥前磁器染付皿	ほぼ完形	口 底	13.2 5.4	高	3.0	白灰	見込み碗の目録割き。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面唐草文と2重團縁。外面無文。	
第5582	2 肥前磁器染付皿	一部欠損	口 底	13.0 6.4	高	2.9	白	見込み碗の目録割き。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面唐草文と2重團縁。外面無文。	
第5582	3 肥前磁器染付皿	一部欠損	口 底	13.3 5.1	高	2.8	白灰	見込み碗の目録割き。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面唐草文と2重團縁。外面無文。1と類似。	
第5582	4 肥前磁器染付皿	一部欠損	口 底	13.5 8.0	高	4.1	白灰	体部外面に唐草文。見込み1重團縁内に「□□」(ひらのやか)と屋号「興隆」か「兼友」か。底部高台内1重團縁内に満指字銘か。器形に歪み。焼成不良。	
第5582	5 瀬戸・美濃陶器染付皿	一部欠損	口 底	13.4 6.4	高	3.5	灰黄白	見込み碗の目録割き。中央に手書きの帆掛け舟。体部内面に花唐草文と1重團縁。外面無文。	
第5582	6 瀬戸・美濃陶器染付皿	一部欠損	口 底	12.7 6.2	高	3.1	灰黄白	見込み碗の目録割き。中央に手書きの帆掛け舟。体部内面に花唐草文と1重團縁。外面無文。5と類似。	
第5582	7 在地球土器皿	ほぼ完形	口 底	9.6 6.2	高	1.8	橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り。無調整。糸が細かく細い。底部のほぼ中央に焼成後の小凹。	
第5582	8 在地球土器皿	ほぼ完形	口 底	9.6 5.8	高	2.0	にぶい橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り。無調整。糸が細かく細い。	
第5582	9 在地球土器皿	1/2	口 底	(9.4) (6.1)	高	2.1	浅黄橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り後、撫で。糸が細かく細い。底部のほぼ中央に焼成後の小凹。	
第5582	10 在地球土器皿	1/3	口 底	(8.9) (5.5)	高	2.1	にぶい黄橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り。無調整。糸が細かく細い。	
第5582	11 鉄製品釘	一部欠損	長 幅	3.7 0.6	厚 重	1.12	0.6	断面ほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなるが先端は尖らないが破損の可能性も有る。頭は薄く延ばし直角に曲げるが端は劣化破損する。材質等は確認できない。	

Ⅱ区7号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第5681	1 円筒形土製品	完形	横 縦	6.8 6.5	厚	2.0	灰	互の破片を円筒状に打ち欠いたもの。	器面摩滅

Ⅱ区12号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第5681	1 瀬戸・美濃陶器燻徳利	一部欠損	口 首 底	4.2 2.5 7.2	高	22.2	淡黄白	注ぎ口が嚙状に尖るが欠損。体部の片面に鉄釘具で寝室珠を2つ挿く。口縁部内面と外面に反触。貫入する。	器面摩滅
第5681	2 在地球土器火鉢	口縁部1/4、体部1/3	口 底	(12.0) 18.6	高	9.0	にぶい橙～灰	体部が丸い小型品で、底部に丸い脚が倒付く。内外面無し、黒色化。口唇部研削・光沢。口縁部外面に太い沈線が走り、体部外面に回転絶文による寝位の目文。	器面摩滅
第5681	3 銅製品銭貨	一部欠損	縦 横	2.700 2.678	厚 重	0.105 2.48		文久永宝。表面外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面も外縁・波・郭とも形深く明瞭。波型の模様に沿ってゴースト状に低い波型の隆起が見られる。裏裏向面に細かい素浪が密に存在する。	器面摩滅

Ⅱ区13号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
第5781	1 肥前磁器染付丸碗	體上3/4欠	口 底	7.8 2.8	高	3.6	灰白	体部外面に染付。内面無文。	
第5781	2 肥前磁器染付丸碗	体部1/4	口 底	9.8 -	高	3.9	灰白	体部外面に染付。内面無文。	
第5781	3 円筒状加工品	完形	口 底	6.4 5.7	高	1.6	灰白	肥前磁器。染付碗の底部を円筒状に打ち欠いたもの。	
第5781	4 肥前磁器染付碗蓋	体部1/2欠	口 底	9.6 5.8	高	2.5	白	外面彫格字文。狭み内1重團縁内に券か。口縁部内面2重團縁。天井部内面1重團縁内に不明文様。広東碗の蓋。	
第5781	5 肥前磁器染付鉢	2/3	口 底	12.4 6.5	高	6.8	白	外面に草木文。内面無文。口唇部と口縁部内面の輪を拭き取る。高台外面に2重團縁。	
第5781	6 京・信楽系陶器碗	口縁部1/2欠	口 底	7.1 2.8	高	3.9	灰白	内外面に反触。貫入する。腹下と高台に輪無し。	
第5781	7 瀬戸・美濃陶器灰輪丸碗	口縁部1/4、体部1/2	口 底	(8.9) 3.6	高	5.2	灰黄白	内外面に反触。腹下と高台に輪無し。体部外面に鉄釘一部残る。	
第5781	8 瀬戸・美濃陶器灰輪折縁輪丸皿	2/3	口 底	14.8 6.1	高	4.7	白灰	口縁～腰部内外面と見込み反触。	
第5781	9 瀬戸・美濃陶器灰輪折縁輪丸皿	口縁～体部1/4	口 底	(14.6) -	高	3.6	灰	反触に貫入する。	

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第57図 10	丹波陶器寸鉢	1/2、底部欠	口底 34.4 14.4	高	12.7	にぶい黄橙	直立する口縁部に凹輪が2条差巡る。口唇部に沈積染。口縁部内面に段差。内面の筋帯は6条。内外面に自然釉。底部は丸く打ち欠かれている。体部外面下位指拵え状仕込。	
第57図 11	在地系土器瓦貫鉢?	口縁部片	口底	高		灰	瓦貫で復原。外反する口縁部に等間隔に内孔が並ぶ。内折した口唇部が内面に突出し、土壁に広い平坦面を形成。	
第57図 12	在地系土器陶格	1/2	口底 (38.2)	高	5.7	橙～黒褐	底部丸底。内耳2個。内面研磨。軽い光沢。外面煤付着、黒色化。	
第58図 13	在地系土器陶格	1/2	口底 (36.0)	高	5.9	にぶい橙～黒褐	口縁部内湾。底部丸底状。内耳1個。口縁部～腹部外面に煤付着。黒色化。	
第58図 14	在地系土器陶格	1/3	口底 (37.0)	高	-	橙～黒褐	底部丸底。内耳1個。内面撫で。外面煤付着。	
第58図 15	在地系土器陶格	口縁部片	口底 38.8	高	5.3	明赤褐	口縁部直立。底部丸底状。内耳1個。外面に煤付着、黒色化。	
第58図 16	在地系土器陶格	口縁部片	口底 (39.4)	高	-	橙	口縁部直立。底部丸底状。内耳1個。外面に煤付着、黒色化。	
第59図 17	在地系土器陶格	口縁部片	口底 (36.2) (32.6)	高	5.6	黒～にぶい黄橙	口縁部外傾気味に直立。底部平底。口唇部外面に段差あり。内耳1個。外面に煤付着、黒色化。底部外縁寄りに直径4mmの円孔あり。その周辺にキリ孔痕2カ所あり。	
第59図 18	在地系土器陶格	1/6	口底 (36.0) (30.4)	高	5.0	にぶい黄橙	口縁部直線的に開く。底部平底。内面に磨目。腹下に押さえ痕。黒色化。	
第59図 19	羽口	破片				にぶい橙	体部直径5.2cm、孔直径1.6cm。焼通まって重量感あり。外面煤付着、黒色。	

## Ⅱ区16号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第59図 1	制作地不詳陶器急須	完形	口底 2.7 5.4	高	18.6	にぶい黄橙	外面透明釉の上に口縁部に緑色釉を滑け流し。透明釉の下半部では緑色釉が混ざって暗色化している。	
第59図 2	制作地不詳陶器急須	一部欠損	口底 6.0 5.0	高	7.0	褐灰	口唇部、注ぎ口端部、把手部等に黒色釉施す。注ぎ口内面に茶葉が付く。把手上面に唇の透かし。上げ底状の底面に布痕が残る。その中央に墨書で「トチ」の文字。	
第59図 3	在地系土器火鉢	口縁部1/3残	口底 11.0	高	-	にぶい橙	口縁部が僅かに外反しながら開き。口唇部がくの字に内湾。内外面横し、黒色化。口唇部～口縁部外面研磨・光沢。口唇部上面が一樣に丸く磨ったように削れており、口唇部内面も削れやギズが多い。	
第59図 4	在地系土器火鉢	1/3	口底 (16.3) 15.4	高	14.0	にぶい橙	円筒形の小型の火鉢で、口縁部が内側へ垂れ込み、腹部をめぐる凹輪下が丸く突出する。内外面横し、黒色化。口唇部研磨・光沢。体部外面に回転施文による波状文を施す。体部外面の一部と底部外縁の摩耗が顕著。	
第60図 5	在地系土器甕	体部上半1/3残	口底 (34.0)	-	橙	円筒状の甕形で、外面に細網の斜格子文が施される。内外面横し、灰色化。口唇部上面に粗い条状の煤で痕がつくが、使用により摩耗。内面被熱・白色化。煤付着。		
第60図 6	在地系土器甕	口縁部1/3、体部内面一部残	口底 (20.0)	-	橙～黒褐	体部が二重構造の甕形で、口唇部に磨掛け用の突出部がつく。外面横し・黒色化。口唇部上面と口縁部外面研磨・光沢。口縁部外面に2条の沈積がめぐる。内側部分には中位でロータ状に細くなる構造で、上半部には一定間隔で円孔が付き、下半部に方形の出し入れ口がある。		
第60図 7	鉄製品鏝	ほぼ完形	長幅 18.6 9.8	厚重 1.1 80.90			細身の鏝で、先端部は特に細く研ぎ減りと見られるが、錆化が著しく底界面は識別できない。基は端部を細く延ばし折り曲げる形状。柄の木質等は確認できない。	
第60図 8	礮石磨石	完形	長幅 11.8 9.7	厚重 2.3 416.5			扁平な円盤を素材とする。正面及び裏面の全体に割い磨面をもつ。	

## Ⅱ区24号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第61図 1	肥前磁器小坏	完形	口底 6.0 2.4	高	3.0	白	外面口縁部下に微隆輪がめぐる。内外面に灰釉。口縁。近現代。	
第61図 2	肥前磁器小坏	完形	口底 6.6 2.4	高	2.8	白	口縁部外面僅状の染付。正面のみに染付。内面無文。高台内中央に小さな凹みあり。	
第61図 3	瀬戸・美濃磁器小坏	完形	口底 7.1 2.9	高	4.7	白	内外面に花翠文染付。胴と高台外に2重隆輪。内面無文。	
第61図 4	制作地不詳磁器陶輪	一部欠損	口底 7.3 3.1	高	5.6	白	体部2箇所に素地に模様を線刻し、その上に須葉を刷色塗りする。内面無文。貫入入る。	近代か。
第61図 5	瀬戸・美濃磁器小坏	一部欠損	口底 5.1 3.3	高	5.3	白	外面に藍格子文様を染付。内面無文。口唇部を須葉で縁取り。高台内1重隆輪内に不明跡。	近現代。
第61図 6	肥前磁器染付環状甕	2/3	口底 10.5 3.6	高	5.9	白	外面に藍格子の牡丹文様。口縁部内面に藍文帯。見込み1重隆輪内に寿字文か。	近代。
第61図 7	瀬戸・美濃磁器か染付酒口	完形	口底 6.5 4.6	高	5.4	灰白	やや小型。底部宛の目凹型高台。内外面に白色釉。外面に浜辺風景染付。見込みに帆掛付舟か。口縁。輪は白濁し、焼成不良。	
第61図 8	肥前磁器染付酒口	1/3	口底 (7.3) (5.4)	高	5.6	白	外面に山河文様。口縁部内面に2重隆輪。見込みに1重隆輪。	
第61図 9	肥前磁器染付酒口	体部片	口底 (5.9)	高	-	灰白	やや大型。外面に立木文様。内外面灰釉に貫入入る。	

遺物観察表

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第618	10	制作地不詳 磁器白磁焼 反皿	1/3	口 底	(12) (6.7)	高 2.1	灰白	壁が折れて口縁部が外反。見込みに素地を毛彫りした文様が つく。釉は淡い水色。	
第618	11	肥前磁器染 付皿	2/3	口 底	12.4 4.4	高 3.9	灰白	見込みの目輪跡が。体部内面斜格子文と2重彫。外面 無文。	
第618	12	瀬戸・美濃 陶器染付皿	2/3	口 底	14.0 6.6	高 3.9	灰白	体部内面に眉文と花文を2重配置。見込みに帆掛け舟。体 部外面に結び目文を2重配置。高台内中央に円形の削り。 内外面とも貫入する。	
第618	13	瀬戸・美濃 陶器染付皿	一部欠損	口 底	13.6 6.7	高 3.6	灰白	体部内面に眉文と花文を2重配置。見込みに帆掛け舟。体 部外面に結び目文を2重配置。高台内中央に円形の削り。 内外面とも貫入する。	12と揃い。
第628	14	京・信楽系 陶器か灰釉 蓋	完形	口 底	5.5 3.5	高 1.3	灰白	上面の目削りだし。握み部に僅かな円形の突出あり。上面 に灰釉、貫入する。	
第628	15	京・信楽系 陶器か灰釉 蓋	完形	口 底	5.6 3.8	高 1.3	灰黄白	上面の目削りだし。握み部に円形の突出部がつく。上面 に灰釉、貫入する。	
第628	16	制作地不詳 陶器透明釉 蓋	一部欠損	口 底	5.5 2.3	高 1.6	淡黄	ロート型で端部が外反し、片側に円孔がつく。上面の目 削りだし。握みは乳首状。上面に透明釉、貫入する。裏面 回転糸切り、無調整。	
第628	17	制作地不詳 陶器染付蓋	一部欠損	口 底	6.6 2.0	高 1.4	灰白	ロート型で端部が外反し、片側に円孔がつく。上面に翼の 飛來図を染付。握みは付くが欠損。上面に灰釉、貫入する。 裏面回転糸切り、無調整。	
第628	18	制作地不詳 陶器蓋	完形	口 底	8.1 -	高 2.1	灰黄緑	無輪。型作り成形で、上面に布痕が残る。握みは粘土土を 5字状にして貼り付け、片側に円孔を備す。内面に指紋が 残る。	
第628	19	京・信楽系 陶器か灰釉 灯明台皿	1/3	口 底	(10.3) (4.0)	高 2.4	灰	上面に灰釉、外面無輪。見込みと体部外面に重燒痕。	
第628	20	瀬戸・美濃 陶器脚輪灯 明台皿	完形	口 底	9.2 4.1	高 1.8	灰白	踏輪軸輪後、口縁部外面以下を払う。見込みと体部外面に 重燒痕。	
第628	21	瀬戸・美濃 陶器脚輪灯 明台皿	一部欠損	口 底	9.6 4.0	高 2.3	灰	受け部1箇所をU字形に換る。踏輪軸輪後、口縁部外面以下 を払う。受け部と体部外面重燒痕。	
第628	22	瀬戸・美濃 陶器脚輪灯 明台皿	完形	口 底	9.1 4.1	高 2.0	灰	受け部1箇所をU字形に換る。踏輪軸輪後、口縁部外面以下 を払う。受け部と体部外面重燒痕。	
第628	23	京・信楽系 陶器か灰釉 灯明台皿	一部欠損	口 底	9.7 3.9	高 2.0	灰白	受け部1箇所をU字形に換る。上面に灰釉、外面無輪。受け 部と体部外面重燒痕。	
第628	24	京・信楽系 陶器か灰釉 灯明台皿	口縁部3/4欠	口 底	10.4 3.8	高 2.0	黄灰白	受け部1箇所をU字形に換る。上面に灰釉、外面無輪。受け 部と体部外面重燒痕。	
第628	25	瀬戸・美濃 陶器鉄絵 ひょうそく	完形	口 底	5.1 3.6	高 4.2	淡黄	内面と外面覆まで鉄輪。底部回転糸切り後、無調整。底面 中央に固定用の円孔あり。底部に「」と墨書。いろはで順 に記載したものであろう。	
第628	26	制作地不詳 灰釉片口鉢	ほぼ完形	口 底	16.8 8.7	高 7.9	オリーブ灰	口縁部に肥厚帯、その下に片口がつく。内面と外面覆まで 灰釉。見込みにトナリ銀5個、高台に重燒痕。	
第628	27	在地系土器 皿?	完形	口 底	1.9 5.0	高 0.9	橙	深く凹いた形。底部をややくぼめ、周囲を爪状の圧痕で 丸く表現。内面入念撫で。外面に細かな割れが残る。非実 用品か。蓋の可能性もあり。	
第628	28	瀬入形土器 埴輪壺蓋	一部欠損	口 底	6.2 5.8	高 0.8	橙	型作り成形。裏面の周面に緑が付く。	
第628	29	瀬入形土器 埴輪壺蓋	体部1/3	口 底	5.2 (4.2)	高 6.0	橙	口縁部付近やや外反。輪軸整列。底部回転糸切り、無調整。 外面の器面彫り顕著。	
第638	30	制作地不詳 陶器納蓋	1/3欠	口 底	4.2 16.0	高 4.7	黄橙	天井部に高台様の丸い把手がつく。体部外面に飛びかんな の文様。把手の外側と腹部に総の目状に薄い緑泥。内面に 薄い緑釉。	
第638	31	在地系土器 サナ	1/3	口 底	(14.8) -	高 2.1	黄白	型作り成形。上面が被熱で赤色化、灰付着。	
第638	32	瓦椀瓦	破片			高 1.7	灰	表面灰色から灰黒色。緑に面取り。	
第638	33	瓦椀瓦	1/4			高 1.7	灰	表面灰色から灰黒色。緑に面取り。	
第638	34	割製品銭貨	完形	縦 横	2.699 2.680	厚 重 0.114 3.10		文久永貨。表面外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も外 縁・波・郭とも彫深く明瞭。	

## Ⅱ区1号井戸

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第638	1	在地系土器 皿	1/3、口縁部欠	口 底	- (6.8)	高 -	にぶい橙	外面腹部に素地土の織ぎ目。底部回転糸切り、無調整。	
第638	2	在地系土器 皿	1/3	口 底	(7.2) (5.6)	高 1.7	にぶい黄橙	見込み周囲が凹む。内面に煤油付着。底部回転糸切り、無 調整。	

## Ⅱ区2号井戸

排図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 1	肥前磁器染付丸呑み	1/3	口底 (6.8) (4.2)	高 6.0	白	外面に手書き草花文。内面無文。 近代か。
第63図 2	肥前磁器染付丸呑み	体部1/4	口底 (8.0) -	高 -	灰白	外面に染付。口縁部内面に2重線輪
第63図 3	瀬戸・美濃 陶器染付筒形湯呑	1/2、口縁部欠	口底 (3.2)	高 -	灰白	焼成不良。外面に菊花文。見込み1重線輪内に不明文様。
第63図 4	肥前磁器丸呑み	口縁部片	口底 (9.0) -	高 -	灰白	外面に線輪。口縁部内面に斜格子帯。見込み2重線輪。
第63図 5	京・信楽系 陶器灰輪産	1/2	口底 5.0 3.8	高 1.1	灰白	上面乾の目割りだし。幅み部欠損。上面に灰輪。貫入入る。24土14と同型か。裏面合わせ部を細かく打ち欠いて、鋭利な刃を作出している。
第63図 6	在地系土器皿	底部	口底 - 6.1	高 -	橙	体部欠損。焼成良好。底部やや上げ底。底部内面指撫で。底面回転糸切り。無調整。底部の中央と片側に小円孔2個。 中世か。
第63図 7	在地系土器 裏か	体部下半1/4	口底 - (11.5)	高 -	橙	焼成良好。硬質。胴部直立。内面に轆轤目。外面磨削、光沢。
第63図 8	在地系土器 蓋輪	破片			にぶい橙	表面に覆付着。
第63図 9	在地系土器 焙烙	口縁部片			橙	内耳1個残。
第63図 10	石製品砥石	1/2	長幅 (4.8) 2.4	厚重 1.5 24.4	砥沢石	研面は3面認められ、それぞれほぼ平坦な形態である。正面には、刃慣らし傷と考えられる痕跡が認められる。右側面には鎌倉タガネ痕が明確に認められ、上面にはそれが僅かに残る。下部欠損。
第63図 11	石製品砥石	2/3	長幅 6.2 2.0	厚重 2.2 43.4	砂岩	研面は3面認められる。正面は、研ぎ減りと考えられるやや外湾した形態である。上面及び裏面はほぼ平坦である。左右側面及び下部欠損。

## Ⅱ区3号井戸

排図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第63図 1	在地系土器皿	底部片	底 (7.0)		橙	焼成良好。底部回転糸切り。無調整。見込みに磨削。文字不明。
第63図 2	在地系土器鉢	破片			にぶい黄橙	胴部下平から底部の内面が摩耗。 中世。

## Ⅱ区4号井戸

排図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第64図 1	肥前磁器染付丸呑み	1/2	口底 (8.6) (3.5)	高 4.3	白	外面にコンニャク判による菊花文を配置。内面無文。
第64図 2	中国白磁皿	底部1/3残	口底 (6.0)	高 -	灰白	底部内面見込みに削りの段がめぐる。底部外面に輪の拭き取り痕。茶色に変色。口丸部の底面。
第64図 3	瀬戸・美濃 陶器天目茶碗	胴部片	口底 -	高 -	灰白	内外面に鉄輪。
第64図 4	焼締陶器裏	胴部片	口底 -	高 -	灰オリーブ	内面横撫で。外面縦撫で。
第64図 5	常滑陶器裏	胴部片	口底 -	高 -	灰～灰黒	外面に鉄輪。内外面に自然釉。外面では自然釉が欠れる。
第64図 6	石製品砥石	2/3	長幅 (7.0) 2.8	厚重 1.6 54.5	デイスait	研面は5面認められる。正面は、研ぎ減りと考えられるやや外湾した形態である。裏面、右側面、左側面及び下面はほぼ平坦である。右側面には僅かに鎌倉タガネ痕が残る。下部欠損。
第64図 7	石製品砥石	ほぼ完形	長幅 8.8 (2.8)	厚重 2.3 63.9	デイスait	研面は3面認められる。正面及び裏面は、研ぎ減りと考えられる著しく外湾した形態である。右側面はほぼ平坦である。

## Ⅱ区1号溝

排図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第64図 1	肥前磁器染付小杯	一部欠損	口底 6.2 2.7	高 3.1	白	極薄成形。口縁部内面に矢羽根文様。腹に染付帯。見込みに月か。いわゆる仰殿手。
第64図 2	肥前磁器染付小杯	一部欠損	口底 7.0 2.4	高 3.8	灰白	外面に草花文。内面無文。
第64図 3	肥前磁器染付小杯	1/2	口底 (7.2) (2.8)	高 2.8	灰白	口縁部外面に斜格子文。内面無文。焼成不良。
第64図 4	肥前磁器染付小杯	体部1/2欠	口底 7.2 -	高 -	白	外面に草花文。内面無文。二次被熱。 2と類似。
第64図 5	肥前磁器染付端反碗	体部2/3欠損	口底 (8.4) 3.5	高 5.2	白	外面に高沢図。内面無文。高台外に2重線輪。
第64図 6	肥前磁器染付湯呑	一部欠損	口底 7.2 (3.7)	高 6.2	灰白	外面に花鳥図。内面無文。
第64図 7	肥前磁器染付湯呑	1/3	口底 (7.3) (3.2)	高 5.8	白	外面に花鳥。内面無文。

遺物観察表

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	高	径				
第64	8	瀬戸・美濃 磁器染付湯 呑	1/2	口 底	7.0 3.3	高	6.5	白	外面に花図。内面無文。	近代か
第64	9	肥前磁器染 付湯	1/3欠	口 底	7.5 3.7	高	5.3	灰白	焼成不良。外面に格子文を描く。	
第64	10	肥前磁器染 付湯呑	1/2	口 底	7.4 3.6	高	5.9	白	外面に花鳥図。口縁部内面と高台外に淡く2重圈線。欠損部断面に透緑色の黒色漆が残る。	
第64	11	肥前磁器染 付湯呑	1/2	口 底	7.5 4.2	高	5.4	白	腰が水平に開き、高台がひの字に開く。外面に風景図。口縁部内面に刷れた雷文帯。高台外に2重圈線。内外面に赤褐色の渋流付着。欠け口断面に焼跡痕。高台内面に焼跡痕で「文吉」と記載。	
第64	12	肥前磁器染 付丸碗	1/3	口 底	8.4 3.4	高	4.9	灰白	外面に草花図。口縁部内面に2重圈線。見込み1重圈線内に刷した五弁花。	
第64	13	肥前磁器染 付筒形湯呑	体部2/3欠損	口 底	(6.2) 2.8	高	4.5	白	外面に円文。内面無文。	
第64	14	肥前磁器染 付筒形湯呑	体部2/3欠損	口 底	8.0 4.2	高	5.8	白	焼成不良。外面に菊花文。口縁部内面に2重圈線。見込み1重圈線内に五弁花か。	
第64	15	肥前磁器染 付丸碗	1/2	口 底	9.6 4.0	高	4.8	白	外面に菊花と鳥。内面無文。高台内に1重方角福満字跡。	
第64	16	肥前磁器染 付瓚反碗	1/2	口 底	11.0 4.2	高	6.1	灰白	外面に斜格子文。口縁部内面に裝飾帯。見込み1重圈線内に不明文様。高台外面に2重圈線。	
第64	17	肥前磁器染 付平碗	体部下半1/2	口 底	- 3.2	高	4.4	白	外面に竹か。内面無文。	近現代。
第65	18	肥前磁器染 付止東碗	体部下半1/2	口 底	- 6.2	高	5.1	灰白	外面に呉須2色使用の焼付。見込み1重圈線内に不明文様。高台端に砂付着。	
第65	19	肥前磁器染 付瓚反碗蓋	一部欠損	口 底	9.1 3.9	高	2.8	白	外面に梅と草花。口縁部内面に裝飾帯。見込みの草花。	
第65	20	肥前磁器染 付皿	1/2	口 底	12.7 5.4	高	2.6	灰白	内面に蓼文。見込み五弁花コンチャク判。蛇の目に輪軸き取り。底部と見込みに重焼痕。	
第65	21	肥前磁器染 付皿	一部欠損	口 底	12.6 5.6	高	2.9	灰	内面に蓼文。見込み五弁花コンチャク判。蛇の目に輪軸き取り。底部と見込みに重焼痕。	20と揃い。
第65	22	肥前磁器染 付輪光皿	口縁部1/2欠	口 底	13.4 4.9	高	2.7	灰	内面に蓼文。見込み五弁花コンチャク判。蛇の目に輪軸き取り。底部と見込みに重焼痕。	
第65	23	肥前磁器染 付輪光皿	一部欠損	口 底	13.6 5.3	高	3.1	灰白	内面に蓼文。見込み五弁花コンチャク判。蛇の目に輪軸き取り。見込みに重焼痕。	22と揃い。
第65	24	肥前磁器染 付輪光鉢	覆下1/2壊	底	6.4			白	内外面に染付。高台外面に2重圈線。	
第66	25	肥前磁器染 付輪光鉢	一部欠損	口 底	18.4 9.2	高	8.5	灰白	内面に2種の草花図を2重配置。見込みに龍図。外面に同図案を4重配置。底部蛇の目凹型高台。高台内外側の軸を描き取る。覆付にも輪軸。一部に焼跡があり、その溶剤で見込みに斜格子様の図形を施す。	
第65	26	瀬戸・美濃 陶器腰掛碗	1/4	口	(9.5)			灰白	反輪に貫入る。	
第65	27	制作地不詳 陶器陶器灰 輪瓚反碗	1/2	口 底	(10.0) 4.7	高	5.4	黄黄	内面と外面腰下まで反輪を描く。内外面とも腰位に白土を横位に半面分だけ刷毛塗り。削り出し高台。	
第65	28	瀬戸・美濃 陶器灰輪所 輪光皿	破片	口 底	(14.0) (5.3)	高	3.8	灰白	内外面腰まで灰輪。	
第65	29	瀬戸・美濃 陶器皿	底部片	底	(14.0)			灰白	内面に呉須と鉄絵具で文様を描く。内外面の反輪に貫入る。見込みにトシ線2重。	
第65	30	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油皿	1/2	口 底	9.6 3.2	高	1.8	灰	踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。	
第65	31	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油皿	1/4	口 底	(10.6) (4.6)	高	2.0	灰白	踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。	
第66	32	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油皿	1/2	口 底	9.8 3.7	高	1.8	灰	踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。	
第66	33	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油受皿	2/3	口 底	9.4 3.9	高	2.0	黄灰	受け部1箇所をV字形に抉る。踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。口唇部3箇所に灯火痕。	
第66	34	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油受皿	1/2	口 底	9.6 4.1	高	2.3	灰白	踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。口唇部1箇所に灯火痕。	
第66	35	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油受皿	覆上2/3欠	口 底	(9.7) 4.3	高	2.3	灰白	踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第66	36	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油受皿	2/3	口 底	9.2 3.8	高	1.9	黄灰	受け部1箇所をV字形に抉る。踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第66	37	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油受皿	1/3	口 底	(9.7) (4.3)	高	1.9	灰	踏輪軸輪後。口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。口唇部に灯火痕2箇所。	

群 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・形状の特徴	備考
第66群	38	瀬戸・美濃 陶器胎輪灯 明油受皿	口縁1/4、底部 1/2残	口 径 (9.6) 4.2	高 1.8	灰	鋪地焼成後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重 焼成。
第67群	39	制作地不詳 陶器土瓶	体部2/3欠	口 径 6.7 7.2	高 11.7	くすんだ灰緑	注口部欠損。胴部内面から体部外面下位焼成。外面の変動 部分に鉄絵具で緑取り、内部に白土を使用して白費を揃い ている。口唇部の釉は拭き取る。上げ部の底部と腹下に煤 が厚く付着。欠損部に焼痕。
第66群	40	瀬戸・美濃 陶器水盥	口縁部片			灰白	外面素地に文様印刷。内外面に灰緑、外面に緑釉輪施。貫 入する。
第66群	41	瀬戸・美濃 陶器平胴鉢	腹下1/3	底 6.2		灰白	内面と外面腹まで焼成。
第66群	42	瀬戸・美濃 陶器枳輪大 皿	1/5	口 径 (28.0) (18.5)	高 6.9	灰白	内面と外面腹まで焼成。貫入する。見込みのトチン前2箇所。
第67群	43	研・明石陶 器すり鉢	1/4	口 径 (32.0) (14.2)	高 11.7	赤橙	底部上げ底。外縁部擦れ。内面平滑。見込みの磨面消滅。
第67群	44	在地系土器 鉢	口縁部片	口 径 (44.0) (34.0)	高 11.9	黒灰～灰白	内外面焼し、黒色化。口縁部肥厚。口唇部と内面研磨光沢。 内面下半部擦れ、本丈・割かれ顯著。
第67群	45	在地系土器 鉢	体部片	口 径 (42.0) (28.0)	高 10.9	赤橙～黒灰	内外面焼し、黒色化。口縁部小さく外折。口唇部と内面研 磨光沢。
第67群	46	円盤状加工 品	完形	口 径 4.7 4.5	高 1.4		土器の破片を円形に打ち欠いたもの。
第67群	48	在地系土器 皿	口頸部3/4欠	口 径 (9.2) 6.4	高 1.6	橙	焼成良好。硬質。内外面焼し、黒色化。体部やや丸みを持 ちながら直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転面切り、 無調整。
第67群	49	在地系土器 皿	口頸部3/4欠	口 径 (9.5) 6.2	高 2.2	橙	焼成良好。硬質。内外面焼し、黒色化。体部やや丸みを持 ちながら直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転面切り、 無調整。
第67群	50	在地系土器 割り鉢	口頸部1/2欠	口 径 14.2 7.3	高 4.6	白橙	焼成良好。硬質。把手欠損。体部内外面に輪轡目。底部内 外面回転面で。口縁部内面に煤が付着。
第67群	51	在地系土器 割り鉢	体部1/4	口 径 (14.4) (12.4)	高 4.6	にぶい白橙	焼成良好。硬質。把手欠損。体部内外面に輪轡目。底部内 外面回転面で。口縁部内面に煤が付着。
第67群	52	在地系土器 土瓶	体部1/3			黄灰白	焼成良好。側面と底面型作り痕。先端部内割ぎ状。表面中 央に星号「山」の刻印。
第68群	53	在地系土器 土瓶	把手欠	口 径 (26.0) 17.0	高 5.0	黄灰白	把手欠損。焼成差。側面と底面型作り痕。
第68群	54	在地系土器 陶輪	破片	口 径 (27.0) (40.6)	高 3.7	橙	断面皿字形。煤付着。
第68群	55	在地系土器 焙烙	1/2残、底部欠	口 径 38.0		黄橙～橙	内耳2個残存。底部丸底。外面被熱。煤付着。縁から4cm のところには孔一對あり。補修孔であらう。
第68群	56	在地系土器 焙烙	1/2残、底部欠	口 径 38.0		橙～灰	内耳2個残存。底部平底。外面被熱。煤付着。縁から2cm のところには孔一對あり。補修孔であらう。
第68群	57	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 径 (37.0)		橙	内耳1個残存。底部丸底。外面被熱。煤付着。
第68群	58	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 径 (37.0)		橙	内耳1個残存。底部平底。外面被熱。煤付着。
第68群	59	在地系土器 焙烙	1/4	口 径 (38.0)		橙	内耳1個残存。底部平底。外面被熱。煤付着。
第68群	60	在地系土器 焙烙	口縁部片		高 5.4	黄白灰	焼成良好。硬質。内面瓦質。底部平底。内耳1個残存。外 面煤付着。黒色化。口縁部下に補修孔あり。
第68群	61	在地系土器 焙烙	口縁部片		高 5.7	灰白～黒灰	焼成良好。硬質。内面瓦質。底部平底。内耳1個残存。外 面煤付着。黒色化。
第69群	62	瓦椀瓦	1/4	厚 1.9 ～2.1		白灰	右前角を方形に切り落し。裏面に指痕。表面と側面光沢。
第69群	63	瓦椀瓦	左前部破片	厚 1.9		白灰	左後部を方形に切り落し。表面と側面光沢。
第69群	64	瓦平瓦	1/3	幅 24.0	厚 1.7	白灰～暗灰	1枚成形。面取り側縁1増部。表面と側面に研磨。裏面磨で。
第69群	65	瓦平瓦	左後部破片	厚 1.7		白灰	裏面に「大」番書。表面と側面焼し、黒色化。表面と側面光沢。
第69群	66	瓦平瓦	前部破片	厚 1.7		灰	前側面に星号「山木」の刻印。表面焼し、黒色化。表面と側 面光沢。
第69群	67	瓦椀瓦	軒丸部破片			灰	軒丸が右に付くタイプ。瓦当巴文。
第70群	68	在地系土器 置き壺	3/4	高 低 (35.4) 31.0	高 31.4	橙	天井部一部残。体部・底部2/3残。体部クワ成形。口唇 部内折して平坦面形成。正面を大きく切り取り、底部に直 径26の盤を平張して強出部を取り付け。出入れ口の上部 を狭間網の裝飾を加える。底面には丸い脚が4個つく。内 面と口唇平坦面に煤付着。黒色化。底部内面と体部内面中 位が被熱で白色化。
第70群	69	鉄製品釘	ほぼ完形	長 幅 7.1 0.8	厚 重 0.7 5.38		断面はほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなり尖る。 頭は薄く広げ折り曲げる。硬い筋・泥に覆われ本体脆弱な ため、本質等は確認できない。
第70群	70	銅製品キセ ル・吸い口	ほぼ完形	長 幅 6.0 1.0	厚 重 1.0 5.77		キセルの吸い口。劣化し全体に緑青に覆われるが一部に黒 色平滑な表面が残存する。扉首側端部から1mm程に沈線が 確認できられている。

遺物観察表

排 出 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
			長 幅	(7.9) 4.8	厚 重				1.9 110.4
第708	71	右製品砥石	1/2				建質粘板岩	研面は4面認められる。正面には、研ぎ減りと考えられる作出面が2面認められる。下部の作出面は、やや内湾した形態である。上面、右側面及び左側面は平坦である。下部欠損。	

Ⅱ区2号溝

排 出 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
			口 底	7.8 3.0	高				3.2
第711	1	肥前磁器染付小杯	2/3	口底	7.8 3.0	高	3.2	白	外面に染付、内面無文。内面に赤褐色の付着物。
第711	2	肥前磁器染付小杯	1/2	口底	7.2 2.6	高	3.9	白	外面に染付、内面無文。
第711	3	肥前磁器白磁香炉	破片	口	(13.0)			白	断面S字状。口縁部から体部外面透明釉。
第711	4	瀬戸・美濃陶器染付皿	一部欠損	口底	13.6 6.2	高	3.8	灰白	内面に扇と花を2階配置。見込み2重重線内に略した五弁花。外面に折れ枝。高台中央に凹形の印刷。折り曲げている。
第711	5	制作地不詳陶器蓋	完形	口底	4.7 4.0	高	1.4	白灰	凹管で腹部が水平に開く。中央に乳首状の橋み。上面に白磁釉。貫入する。裏面回転削り。
第711	6	瀬戸・美濃陶器陶輪灯明油皿	1/2	口底	8.6 3.6	高	2.0	灰白	銷輪軸輪後、口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。
第711	7	瀬戸・美濃陶器陶輪灯明油受皿	1/3	口	(7.0) (3.6)	高	1.7	淡黄	銷輪軸輪後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。
第711	8	在地系土器陶輪	破片	口	(28.5) (32.2)	高	3.8	橙	断面L字形。煤付着。
第711	9	鉄製品釘	ほぼ完形	長幅	8.5 1.7	厚重	1.21 2.23		断面はほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなり端部は劣化破損する。頭は大きく広げ深く折り曲げている。錆び中に植物繊維束が残存するが、釘との直接かかわりはないと考えられる。

Ⅱ区3号溝

排 出 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
			口 底	(9.0) (3.2)	高				2.8	
第721	1	肥前磁器染付短反蓋	1/4	口底	(9.0) (3.2)	高	2.8	白	内外面に染付。	
第721	2	肥前磁器染付丸鍋	1/4	口底	(9.4) 5.4	高	5.0	灰	焼成不良。器形歪み、器面折れ。外面に草木文、内面無文。	
第721	3	丹波状加工品	完形	口底	5.4 5.2	高	2.4	淡黄	肥前陶器引器手挽の底部を凹形状に打ち欠いたもの。高台部も打ち欠いている。	
第721	4	在地系土器皿	1/4	口	(10.0) (6.0)	高	2.4	橙	焼成量。体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転削り。無調整。	
第721	5	在地系土器鉢か	底部片					灰	焼成良好。瓦質。底部外面に粗い回転刷毛調整痕。	
第721	6	在地系土器火鉢か	口縁部片					灰黄	器形不揃。内外面焼し。黒色化。口縁部外面に鈔状の突起が付き、その上面に2種類の印像を備える。	
第721	7	在地系土器焙烙	口縁部片			高	5.3	淡橙	内耳1個残存。外面煤付着。黒色化。	
第721	8	常滑陶器甕	胴部片					黄灰	内面に窪のあたり能。外面撫で。	
第721	9	銅製品キセル・燗首	完形	長幅	3.3 1.3	厚重	1.5 3.87		キセルの燗首。表面は緑青色で一部に黒青色平滑な表面が残存するが、メッキ・鍍金等の装飾は見られない。喉い口側胴部内面に基部と見られる木質部が見られる。	
第721	10	銅製品銭貨	ほぼ完形	縦横	2.326 2.335	厚重	0.138 2.51		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも明確。裏面も外縁・郭とも明確。外縁周縁の凹みは劣化痕跡。	
第721	11	右製品砥石	1/2	長幅	(6.2) 2.6	厚重	1.5 37.1		砥石	研面は4面認められ、それぞれほぼ平坦な形態である。正面は、研ぎ減りと考えられる作出面が認められる。左側面は正面及び底面に対して斜交する。下部欠損。

Ⅱ区5号溝

排 出 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
			口 底	(9.6) <td></td> <td></td>					
第721	1	在地系土器皿	口縁部1/4	口	(9.6)			淡橙	口唇部に灯火煎2箇所。
第721	2	瓦男瓦	左端部片					橙	焼成酸化。硬質。半成形成。面取り削れ2面、丸みあり。表面に錆び付き痕。裏面に斜削り痕。

Ⅱ区6号溝

排 出 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
			口 <td>(10.7)</td> <td></td> <td></td>	(10.7)					
第721	1	瀬戸・美濃陶器尾呂茶碗	体部1/4	口	(10.7)			灰黄	胎輪とウノフ輪漬掛け。
第721	2	常滑陶器甕	胴部片					粗灰	内面にロク口目。外面に厚く自然釉。

Ⅱ区7号溝

排 出 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
			口 <td>(9.0)</td> <td></td> <td></td>	(9.0)					
第721	1	肥前磁器染付丸鏡	口縁部片	口	(9.0)			白	外面に染付。口縁部内面に装飾帯。見込みに2重重線。



種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第72図	2	肥前磁器陶染付筒	1/4	口底	(11.0) (4.8)	高	6.9	灰白	外面に東屋山水文。内面無文。貫入入る。
第72図	3	京・信楽系陶器灰輪軸		口縁部片	(7.0)			灰黄白	内外面に灰輪。貫入入る。
第72図	4	志戸呂陶器輪軸灯明油受皿	1/5	口底	(11.0) (5.8)	高	2.2	灰	軽質で受け部が高い。内面と口縁部外面に筋軸。筋軸黒褐色。受け部と体部外面重視。底部回転溝あり。外面に煤油付着。志戸呂か。

## Ⅱ区8号溝

第73図	1	瀬戸・美濃陶器灰輪丸盤	1/3	口底	(6.8) 2.8	高	4.1	灰黄白	内外面に澄んだ淡い緑色の灰輪。貫入入る。	
第73図	2	常滑陶器灰輪部片						黒灰褐色	外面に薄く鉄軸。内面に指押さえ痕。	
第73図	3	石製品砥石	1/2	長幅	(18.8) (13.8)	厚重	(7.7) 279.0		粗粒輝石安山岩	長筒形の円盤を素材とする。正面及び裏面に研面と想定される平滑面が認められる。正面には、角削りし歯と考えられる粗粒が集中する。

## Ⅱ区9号溝

第73図	1	肥前磁器陶染付丸盤	体部1/4	口	(8.0)			白	外面に雨降り文。内面無文。
------	---	-----------	-------	---	-------	--	--	---	---------------

## Ⅱ区4号ピット

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第73図	1	在地系土器大鉢	1/3	口底	(21.2) (23.0)	高	18.0	黄灰白～灰褐色	高台が付く火鉢で、体部の両側に獅子の把手が付く。内外面焼し、黒色化。体部外面の上下に2種類の印き目文等を配し、中位の把手部に貝の圧痕と印付山水を表現。無文部を研磨し、体部外面に黒漆。高台外面に赤漆を塗布。内面には口ろくろ痕が残る。口縁部全体に敲打痕。磨きか。

## Ⅱ区10号ピット

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第73図	1	石製品砥石	2/3	長幅	(10.2) 3.2	厚重	1.7 67.0		砥石	研面は9面認められる。正面及び裏面は、研ぎ減りと考えられるやや円滑した形態である。正面には、研ぎ減りによる部分的な作面が認められる。左側面はほぼ平坦である。右側面には、磨面タガネ痕が認められる。上部及び下部欠損。

## Ⅱ区1号地下式土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第73図	1	肥前磁器陶染付皿	一部欠損	口底	12.4 4.4	高	3.9	灰黄白	内面に二重線文。見込み純の目録割ぎ。見込みに重焼痕。高台に砂付着。
第73図	2	在地系土器香炉	破片					橙	底部に三脚が付く。体部外面に円文と菊花文の型押し文様。中世。

## Ⅱ区1号竪穴状遺構

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第74図	1	制作地不詳陶器染付土器	一部欠損	口底	11.6 10.2	高	13.0	灰	底部上げ底。外面腰まで白色釉輪軸し、その上に山水と花を2組染付。貫入入る。内面の光沢は、薄く灰輪軸毛塗りか。注口内面に目孔7個。体部を縦断する焼痕さざらあり。	
第73図	2	制作地不詳陶器灰輪軸付灯明油受皿	皿部欠損	口底	(9.0) 5.7	高	5.0	灰黄白	台部が容器になっており、中に油を入れておくこともできる。受け部外側と外面に灰輪。貫入入る。底部に重焼痕。	
第73図	3	瓦軒残瓦	軒丸部分のみ	径	7.7			暗灰	軒丸は巴文。	
第74図	4	陶製品残貨	ほぼ丸形	縦横	2.615 2.652	厚重	0.110 2.44		文久永青。表面外縁・文字・郭とも形深く可辨。裏面も外縁・波・郭とも形深く可辨。波型の模様に沿ってゴースト状に低い波型の模様が認められる。	
第74図	5	石製品砥石	丸形	長幅	25.2 25.4	厚重	12.0 700.0		粗粒輝石安山岩	全体的に平滑な面で構成されており、非常に丁寧に整形されている。側面全体には、花楸のモチーフが削まれている。

## Ⅱ区2号竪穴状遺構

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第75図	1	遺物所在不明皿	破片					白灰	表裏に暗緑色の釉が厚く掛かる。
第75図	2	鉄製品釘	一部欠損	長幅	5.2 0.6	厚重	0.5 2.26		断面はほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなるが先端部は劣化破損する。頭部は斜めに破損している。木質等は確認できない。

## Ⅱ区遺構外

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第75図	1	肥前磁器陶染付小鉢	体部1/3欠	口底	6.4 4.0	高	4.7	白	体部外面上半部に二重線の唐草文。下半に輪花状の加工を施し、そこに同文様を配置。口縁部内面に雷文帯。
第75図	2	肥前磁器陶染付丸盤	1/3	口底	(10.2) 4.0	高	5.4	灰白	外面に常輪輪軸文。内面無文。高台内/大明刺れ跡か。高台に砂付着。

遺物観察表

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第758 3	肥前磁器染付 肥前反碗	1/3	口底 (10.5) 4.2	高 5.9	灰白	外面に山水区、口縁部内面に裝飾帯、見込み1重圓縁内に舟か。
第758 4	肥前磁器染付 丸碗	1/3	口底 (9.0) 3.4	高 4.7	灰白	外面にコンニャク判による菱形文を配置。内面見込みにコンニャク判による五弁花。
第758 5	肥前磁器染付 皿	1/2	口底 (11.5) (7.0)	高 3.6	灰白	口縁部肥厚。底部碗の目高台。内面に格子文。見込みの輪を蛇の目に置き取る。見込みに不明文。底部碗の目高台部に墨書3文字が現る。「口可もか」。
第758 6	肥前磁器染付 水筒	破片			白	型打ち造りで、一側に注ぎ口がつく。底部が大きく上げ底となる。外面には底まで灰輪が掛り、上面には染付が入る。底部の裏面に布目紋が付く。
第758 7	制作地不詳 陶器ミニ チュア碗	口縁部2/3欠	口底 (2.0) 0.8	高 1.2	黄白	楕円碗の形態。口唇部平坦。内外面に透明釉。内面に鉄輪で3本の線。
第758 8	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油皿	3/4	口底 10.4 4.3	高 2.1	にぶい黄白	踏輪踏輪後、口縁部外面以下を払う。見込みと底部に重焼痕。
第758 9	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油受皿	3/4	口底 10.4 5.0	高 7.3	にぶい黄橙	受け部1箇所をV字形に挟る。踏輪踏輪後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。受け部と外面に煤油付着。
第758 10	瀬戸・美濃 陶器ひょう そく	体部2/3欠	底 4.4		暗灰	内面から外面下に鉄輪。底部に設置用の円孔。底部回転系切り、無調整。底面に重焼痕。
第758 11	在地系土器 陶輪	3/4	口底 11.0 7.2	高 2.3	灰黄白	器形歪み。口縁部内底。見込みに指痕。底部回転系切り、無調整。
第758 12	在地系土器 陶輪	1/5	口底 (14.8) (18.0)	高 4.1	にぶい黄橙	底面内湾。内外面黒色化。煤付着。

## II区一括

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第768 1	土製品土製 人形	ほぼ完形	縦横 1.8 1.3	厚 0.6	明赤釉	恵比寿像。頭部の頭巾が潰れ、裏面に細かな布痕。下方に小孔一對あり。何かの付属品か。
第768 2	土製品土製 人形	ほぼ完形	縦横 2.4 1.7	厚 0.75	明赤釉	狐狸面。鼻先が潰れて不明瞭。裏面に細かな布痕あり。
第768 3	瓦瓦	破片			灰褐	表裏面無釉。中央に釘孔1個。
第768 4	羽口	破片	径孔 (7.2) (2.5)		灰黄白	伊内先端部に溶着物付着。胎土赤化、手前白色化。
第768 5	鉄製品不詳 ほぼ完形	ほぼ完形	長幅 10.6 2.4	厚 1.0 25.60		断面楕円形で先端は丸みを持つ。基部に柄の痕跡と見られる木質が残存する。ヤスリと考えられる目録ではヤスリ目は確認できない。
第768 6	銅製品半七 ル・磨首	破片	長幅 1.7 厚 1.76	厚 0.4		キセル磨首の火磨部分で上下に潰れている。潰れながらも厚さをとどめ、所置箇所は芝草型ではない。
第768 7	銅製品銭貨 一部欠損	縦 1.320 横 -	厚 1.01 1.84			(けん)元重。表面は外縁・文字・部とも明瞭だが文字の一部が潰れ劣化。裏面は平坦で外縁・部とも一部で不明瞭。外縁の一部は劣化破損する。
第768 8	石製品火打 石	完形	長幅 3.3 2.0	厚 1.3 8.6	チャート	稜線の上に連続する潰れと微小な割傷が認められる。
第768 9	石製品砥石 2/3		長幅 (8.1) (4.1)	厚 (2.1) 98.7	砂質頁岩	研面は3面認められる。それぞれほぼ平坦な形態を呈する。正面は非常に滑らかで細かな線状痕が認められるが、裏面には長軸方向に並行する僅かな段差がいくつか認められ、大きな線状痕が集中する。右側面には、この面で分割することを意図した打撃痕が残る。
第768 10	石製品砥石 2/3		長幅 10.0 5.7	厚 2.8 58.3	二ツ岳軽石	正面、裏面、左側面及び右側面の4つの研ぎによる作出面で構成される。それぞれ滑らかな曲面を呈する。正面と裏面は僅かに凸状であり、左側面と右側面は外湾する形態である。下部欠損。
第768 11	石製品石製 品	1/2	長幅 30.0 21.2	厚 14.4 5000.0	粗粒輝石安山岩	楕円の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約4cm、深さ約3cmを測る。孔は、比較的滑らかな曲面で構成される。正面には、僅かに断面十字の線状痕が認められる。下部欠損。

## III区1号土坑

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第778 1	在地系土器 鉢	口縁部片			淡紫灰	焼成良好。瓦質。口縁部内湾。口縁部下に3条の沈線。中世か。

## III区4号土坑

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第778 1	肥前磁器染付 小杯	1/2	口底 7.4 3.0	高 3.5	灰白	外面に染付、内面無文。
第778 2	肥前磁器染付 丸碗	1/2	口底 (9.2) 3.6	高 4.4	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。
第778 3	肥前磁器染付 丸碗	口頸部1/2欠	口底 8.6 3.6	高 5.0	灰白	外面に擬格子と楕。口縁部内面に2重圓縁。見込み1重圓縁内に五弁花。内外面に細かな瓦入る。
第778 4	京・信楽系 陶器灰輪灯 明油皿	1/3	口底 (10.3) (4.0)	高 2.1	白灰	内面に灰輪、貫入する。外面腹下から底部に細長溝あり。口部下に灰。見込みにトチン虫1個。

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第778	5	瀬戸・美濃陶器のようそく	体部2/3欠	口底	(7.0) 4.5	高	5.1	灰黄褐色	内外面に鉄釉。底部回転糸切り痕、無調整。底面に設置用の円孔あり。
第778	6	瀬戸・美濃陶器のようそく	体部欠	口底	- 4.4	高	4.5	灰黄	内外面に鉄釉。底部回転糸切り痕、無調整。底面に設置用の円孔あり。
第778	7	在地系土器	1/2	口底	10.4 7.0	高	2.0	黄橙	底部から口縁部に直線的に開く。底部回転糸切り痕、無調整。
第778	8	円盤形土器品	完形	横径	5.1 4.8	厚	0.9	灰黒	内耳側の胴部破片を円形状に打ち欠いたもの。
第778	9	在地系土器焙烙	1/5	口底	(8.4) (34.6)	高	5.0	灰褐色	底部平底。内耳筒残存。外面に煤付着。黒色化。
第778	10	在地系土器織き織	破片					黄橙～灰褐	出し入れ口底面につく突出部分の破片。直径20程度の盤を平裁した大きさで、縁部の高さは3.8で、僅かに外傾しながら直立する。内外面に回転痕で、内外面被熱、まだらに黒色化。

## Ⅲ区7号土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第778	1	在地系土器鉢	1/6	口底	(45.0) (34.5)	高	10.3	灰黄白～灰黒	口縁部がくの字に折れて突出。外面撫で、口唇部と内面研磨・光沢。口唇部に銀打痕と擦れ。体部内面と底部内外面荒れ・劣化・割れ。底部外縁擦れ顕著。
第778	2	瓦軒丸瓦	破片					灰黄白	軒丸瓦の一部が剥落したもの。軒丸瓦は巴紋。中世か。

## Ⅲ区9号土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第778	1	在地系土器鉢	底部1/4	底	(11.0)			にぶい黄橙	焼成良好。硬質。内面に縦位の樹皮状洗滌。内面摩耗顕著。中世。
第778	2	常滑陶器製	胴部片					黒褐色	内面に刷毛目横撫で痕、外面に刷毛目縦撫で痕。中世。
第778	3	常滑陶器製	口縁部片					灰褐色	口縁部折り返し。中世。
第778	4	常滑陶器製	肩部片					橙	内外面に薄く鉄釉。光沢あり。内面に粘土帯接合痕、指押さえ痕、撫で等の痕跡が残る。5と同個体。中世。
第778	5	常滑陶器製	胴部片					橙	4と同個体。中世。
第778	6	在地系土器焙烙	口縁部片					灰白～淡橙	口縁部が大きく開き、口唇部内面に稜を付す。内外面回転痕で、外面腫し。黒色化。中世。
第778	7	在地系土器内耳筒	口縁部片					灰黄～灰橙	内外面腫し、内面灰色化、外面黒色化。外面煤付着。中世。

## Ⅲ区11号土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第788	1	肥前窯青磁皿	口縁部片					暗灰	口縁部大きく外反。口唇部輪花。軸に貫入。中世。
第788	2	瀬戸・美濃陶器碗	口縁部片					くすんだ淡橙白	形不明瞭。内外面に長石釉か。貫入。中世。

## Ⅲ区13号土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第788	1	肥前窯形染付丸碗	1/2	口底	8.8 3.4	高	5.2	白	外面に菊花文。口縁部内面に2重開線、見込み1重開線内に五弁花。
第788	2	瀬戸・美濃陶器德利	腹下1/3	底	(11.0)			白灰	外面に筋軸、内面無釉。腹下厚手の作り。
第788	3	堺・明石陶器すり鉢	口縁部片					橙	内外面に鉄釉。軸に光沢なし。口縁部内面の段消失。

## Ⅲ区16号土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第788	1	古瀬戸陶器盤類	底部片					灰黄白～淡橙	体部外面と底部回転線削り。外面下位まで灰褐色、内面下位まで灰褐色毛塗り。中世。

## Ⅲ区22号土坑

種別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第788	1	肥前窯形染付筒形小杯	1/2	口底	5.6 3.4	高	4.2	灰白	口縁部外反。高台蛇の目様。外面に横線文、内面無文。
第788	2	肥前窯形染付小杯	体部1/3欠	口底	6.8 2.5	高	3.2	白	口縁部外面に貫須節、内面無文。口縁部以下の内面全体に赤茶色の付着物。付着物の大半は失われてその痕跡のみ。赤錆と言うには赤色が濃すぎる。
第788	3	肥前窯形染付丸碗	1/2	口底	7.2 3.6	高	5.3	白	外面に格子文、内面無文。内外面に引い貫入。中世。
第788	4	肥前窯形染付丸碗	1/3	口底	(9.8) (4.0)	高	4.2	灰白	外面に染付、内面無文。
第788	5	瀬戸・美濃陶器か鉄絵德利	1/2	口底	(3.3) (5.7)	高	18.8	黄白	薄手のつくりで、口縁部に小さく注ぎ口が付く。注ぎ口の左手体部に鉄絵で梅を描き、花を白土、葉を緑色の釉で表現。外面全体と口縁部内面に透明釉。細かな貫入。内面と底部無釉。

遺物観察表

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第788H	6	制作地不詳 陶器塗利	胴部下半	底	6.8		黄白	底部回転摺削り。外面に透明釉。細かな貫入入る。底面に「本町 井筒屋」の文字と屋号「杵形内に付」を墨書。	
第788H	7	在地系土器 皿	2/3	口 底	10.0 6.0	高 2.1	橙	縁が丸く、口縁部は直線的に開く。焼成良好。底部内面指撫で、外面回転糸切り無調整。	
第788H	8	在地系土器 皿	3/4	口 底	9.8 6.2	高 2.0	橙	縁が丸く、口縁部外反。焼成良好。底部内面指撫で、外面回転糸切り無調整。	
第788H	9	在地系土器 塔筒	口縁部片				白橙	底部丸底。	
第788H	10	常滑陶器類	口縁部片				褐灰	口縁部くの字状。	中世。
第788H	11	在地系土器 置き籠	破片				赤橙～褐灰	出し入れ口部底面につく突出部分の破片。直径20程の籠を平置きした大きさで、縁部の高さは3で、外縁しながら立ち上がる。内外面に回転撫で痕。	

## Ⅲ区24号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	肥前磁器染 付丸碗	1/6	口 底	(8.8) (3.4)	高 4.4	灰白	外面染付、内面無文。	

## Ⅲ区27号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	銅製品残貨	ほぼ完形	縦 横	2.518 2.484	厚 0.174 1.98		皇〇〇〇、露化が著しく、文字不明瞭。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが一部錆に覆われ判別困難。裏面は平坦で不明瞭。	
第798H	2	古銭		縦 横	2.402 -	厚 0.152 0.79			

## Ⅲ区30号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	肥前磁器染 付丸碗	胴上4/5欠	口 底	(7.4) 2.4	高 3.9	白	外面草文、内面無文。	

## Ⅲ区31号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	在地系土器 内耳鍋	3/4	口 底	31.9 19.6	高 16.1	にぶい褐色	口縁部が内湾しながら短く開き、内面に低い小さな内耳が付く。内耳1筋残存。内面と口縁部回転摺撫で。体部外面粗い研磨。	中世。

## Ⅲ区32号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	瀬戸・美濃 陶器鉄輪 ひょうそく	体部1/5	口 底	(5.6) (3.5)	高 4.5	灰黄白	見込み内欠損。内面及び外面撫下まで鉄輪。	

## Ⅲ区35号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	肥前磁器染 付丸碗	1/2	口 底	7.2 2.6	高 4.4	灰白	焼成不良。口縁部外面に笹文、内面無文。高台内外面に灰輪がくめられて割れている。	

## Ⅲ区36号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	常滑陶器類	胴部片				暗灰	内面に指撫痕。	中世。

## Ⅲ区47号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	円盤形加工 品	完形	縦 横	4.1 4.1	厚 1.5		常滑陶器類の破片を円形に加工したもの。	
第798H	2	瓦軒平瓦	破片			厚 2.1	灰	表面に斜行撫で。裏面に斜格子の叩き目痕。側面2面とも軽い研磨。	
第798H	3	在地系土器 火鉢か	口縁部片				灰褐～灰	瓦質。口縁部内面に突出。口縁部外面に菊花型の型押し有り。	
第798H	4	在地系土器 植木鉢	破片			高 12.7	黒灰	瓦質。輪花型の型押し造り。高さ2.7の脚が付く。口縁部外面に菊花の型押し文が通る。口縁部と体部内外面研磨光沢。底部内面に斜格子状の研磨文様有り。	

## Ⅲ区1号土坑

種 号	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第798H	1	在地系土器 内耳鍋	口縁部片				にぶい橙	口縁部内面が内湾。焼成良好。	中世。
第798H	2	常滑陶器類	胴部片				橙～灰褐	外面入念撫で、軽い研磨。断面荒れ顕著。内面粗い研磨。底付着、黒色化。	中世。
第798H	3	石製品磁石	2/3	長 幅	(5.6) 1.8	厚 1.7 27.1	磁沢石	研面は4面認められる。それぞれの研面は、ほぼ平坦な形態である。下部欠損。	

## Ⅲ区2号井戸

排戻No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80回	1 在地系土器片口鉢	1/6	口底 (29.0) (11.6)	高 (10.3)	白灰	口縁部が弱く外傾。口唇部に浅い凹線が走る。内外面横し、黒色化。体部下平面に数本の縦筋有り。	中世。
第80回	2 在地系土器焙烙	口縁部片			赤褐～灰褐	厚手の作り。口縁部内湾しなから開く。内面横撫で。外面横し、黒色化。	
第80回	3 常滑陶器鉢	胴部片			黒灰	外面に鉄軸。内面撫で、指押さえ。	中世。

## Ⅲ区2号井戸

排戻No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80回	1 青白磁華か測部片				灰白	外面表面に印刻文。軸は淡水色。内面に軸流れる。二次被熱。	中世。
第80回	2 常滑陶器鉢	口縁部片			黒灰	口縁部が折り返し状に外反。	中世。

## Ⅲ区2号溝

排戻No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80回	1 銅製品鉄片	一部欠損	縦横 (2.96) (2.59)	厚重 (0.162) 2.96		水素還元。表面は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面も形深く外縁・郭とも明瞭。裏の外縁は氧化破損する。	

## Ⅲ区3号溝

排戻No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80回	1 瀬戸・美濃磁器鉢	1/3	口底 (8.4) (4.0)	高 4.4	白	外面に銅板転写による染付。内面無文。	近現代。
第80回	2 瀬戸・美濃陶器志野皿	胴下1/4			灰黄白	内外面に長石軸。貫入入る。	
第80回	3 石製品砥石	2/3	長幅 (12.0) 4.0	厚重 (5.1) 428.3	砥沢石	正面は、研ぎ減りによってやや内湾した形態である。左右側面には脚輪タガネ痕が僅かに残り、部分的な研ぎ部が認められる。裏面も部分的な研ぎ部が認められる。下部欠損。	

## Ⅲ区4号溝

排戻No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80回	1 肥前磁器染付丸鉢	口縁部片	口底 (8.8)		白	外面に花等のコンニャク判。内面無文。	
第80回	2 肥前磁器染付窪口	1/2	口底 (7.4) 4.4	高 5.4	白	外面に草花文様。内面無文。高台内に1車輪跡。	
第80回	3 瀬戸・美濃陶器天目茶碗	胴下1/3			灰白	高台欠損。内面と外面下まで鉄軸。禾目。	
第80回	4 内盤形加工品	完形	口底 5.8 5.7	高 1.2	灰白	中世古瀬戸平碗の底部を円形状に加工したものの。	
第80回	5 内盤形加工品	完形	口底 5.2 5.2	高 1.6	浅黄	瀬戸・美濃陶器鉄軸碗の底部を円形状に加工したものの。	
第80回	6 内盤形加工品	完形	口底 5.0 4.8	高 1.3	灰白	瀬戸・美濃陶器鉄軸碗の底部を円形状に加工したものの。	
第80回	7 内盤形加工品	完形	口底 4.4 4.3	高 1.2	黒灰	常滑陶器鉢の胴部破片を円形状に加工したものの。	
第80回	8 内盤形加工品	完形	口底 4.9 4.6	高 1.0	赤橙～黒灰	常滑陶器鉢の胴部破片を円形状に加工したものの。	
第80回	9 瀬美陶器鉢	胴部片			黒灰	外面に叩き目。口唇部内面に軽い研磨。	中世。
第81回	10 常滑陶器鉢	胴部片			黒灰	内外面に軽い研磨。	中世。
第81回	11 瀬美陶器鉢	胴部片			黒灰	外面に扇子状の叩き目。内面に自然軸	中世。
第81回	12 常滑陶器鉢	胴部片			白灰	外面に筋軸。内面に自然軸。	中世。
第81回	13 常滑陶器鉢	胴部片			黒灰	外面に自然軸。内面に指押さえ痕。	中世。
第81回	14 常滑陶器鉢	胴部片			黒灰～灰褐	外面に筋軸。内面に自然軸。内面に指押さえ痕。	中世。
第81回	15 常滑陶器鉢	胴部片			黒灰	外面撫で。内面指押さえ痕。	中世。
第81回	16 在地系土器片口鉢	胴部片			灰オリーブ	内面に縦すり目。	中世か。
第81回	17 在地系土器皿	1/3	底 (5.0)		複黄橙	底部内外面撫で。	中世。
第81回	18 在地系土器おろし皿	1/3	口底 (12.7) (7.0)	高 3.0	白灰	片口が付く。内面撫によるおろし目。内外面横し、黒色化。外面と底面撫で。	中世。
第81回	19 在地系土器焙烙	口縁部片			白灰～黒灰	口縁部外傾。口唇部内面に凹線。外面黒色化。	
第81回	20 在地系土器片口鉢	底部片			灰白	内面下位使用により摩滅。底部回転糸切り後、無調整。	中世。
第81回	21 在地系土器内耳蓋	口縁部片	口 (28.0)		白灰	内外面横し、黒色化。内面口縁部下位に浅い沈線。	中世。
第81回	22 在地系土器不詳	口縁部片			にぶい黄橙	内外面横し、黒色化。口縁部外面に軽い研磨。	中世。
第81回	23 内盤形加工品	完形	口底 3.8 3.3	高 0.6	褐～にぶい橙	焙烙の底部部分を円形状に加工したものの。	

遺物観察表

採 取 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第81回	24	在地系土器 烙結	破片				白灰～黒灰	内耳1個残存。外面煤付着、黒色化。
第81回	25	在地系土器 烙結	破片				白灰～黒灰	口縁部外縁。外面煤付着、黒色化。
第81回	26	在地系土器 烙結	底部片				にぶい黄橙	底部内面に刷印あり。扉かけ。
第81回	27	羽口	先端部1/2	外 径 (6.6)	内 径 (2.3)		にぶい橙	先端部に杯内の継ぎ物付着。羽口胎土亦変。
第81回	28	石製品灰石	不明	長 幅 (8.0) (6.9)	厚 重 (5.9) 282.3		粗粒輝石安山岩	研面と考えられる作出面が6面認められる。正面の研面はやや内湾した形態であるが、他の研面はほぼ平坦である。左側面には対角線に傷と考えられる痕跡が集中する。上下面欠損。

## Ⅲ区 2号ピット

第81回	1	瀬戸・美濃 陶器灰釉木 香炉	口縁部片	口	(5.2)		灰白	口縁部内面から外面に灰釉、貫入する。
------	---	----------------------	------	---	-------	--	----	--------------------

## Ⅲ区 6号ピット

採 取 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第82回	1	明・堺石陶 器すり鉢	底部片	底	(18.0)		明赤褐	使用により内面平滑。
第82回	2	在地系土器 鉢	口縁部片	口 底 (41.8) (32.8)	高 10.4		灰白～黒灰	口脛部と内面磨削により光沢を帯びる。

## Ⅲ区 1号礎石

採 取 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第82回	1	瀬戸・美濃 陶器灯明受 皿	1/3	口 底 (9.8) 4.2	高 2.1		淡黄	2号礎石出土破片と接合。内外面に筋飾、外面口縁部以下の軸拭う。外面磨に重痕。
第82回	2	瀬戸・美濃 陶器鉄軸持 形香炉	口縁部片	口	(14.0)		灰白	口縁部内面から外面腰まで鉄軸。欠け口の一部、外面磨の後、口脛部内外面に強く粗い磨れ痕あり。

## Ⅲ区 2号礎石

採 取 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第82回	1	肥前磁器碗	破片	口 底 (7.0) (2.7)	高 3.5		白	外面に染付。内面無文。
第82回	2	肥前磁器鉢 口	1/4	口 底 (7.6) (5.6)	高 5.8		灰白	外面に染付。内面無文。
第82回	3	肥前磁器陶 形湯呑	1/3	口 底 (7.6) (3.8)	高 5.4		灰白	外面に染付。口縁部内面に2重磨線。見込みに1重磨線。内外面に貫入する。
第82回	4	肥前磁器染 付重か鉢	1/2	口 底 (9.8) 6.6	高 2.7		灰白	外面型紙磨。内面無文。重ね部のみ無輪。
第82回	5	肥前磁器染 付広東蓋	1/2	口 底 (9.8) 5.0	高 2.7		白	外面染付。口縁部内面に2重磨線、見込みに1重磨線に繋ぐ。
第82回	6	肥前磁器広 東碗	底部2/3	底	5.9		白	外面に染付。内面見込みに1重磨線内に不明文様。
第82回	7	肥前磁器染 付皿	1/4	口 底 (13.0) (7.0)	高 4.0		灰白	内面に吉祥文様、外面に唐草文。
第82回	8	瀬戸・美濃 陶器練輪皿	口縁部片				淡黄	口縁部強く外折れ。口縁部先端内外面に灰釉。
第82回	9	瀬戸・美濃 陶器灰釉輪 文皿	2/3	底	5.0		灰白	底部内面両面に異なる型紙磨。貫入する。
第82回	10	瀬戸・美濃 陶器筋軸持 明油皿	1/2	口 底 9.8 4.0	高 2.2		灰オリーブ	内外面に筋飾。外面口縁部以下の軸拭う。見込みに重痕。
第82回	11	常滑陶器腰 裏	胴部片				灰褐	内外面に磨で。
第82回	12	常滑陶器腰 裏	胴部片				赤褐	外面に粗い研磨。
第83回	13	在地系土器 烙結	口縁部片				淡橙～黒灰	内耳が付く。口縁部直立きみ。底部平底。
第83回	14	在地系土器 烙結	口縁部片	口	(40.0)	高 3.4	橙	口縁部直立。
第83回	15	在地系土器 植木鉢	底部片				灰	瓦質で硬質。底部に低い脚が付く。
第83回	16	石製品石製 品	完形	長 幅 7.2 8.5	高 重 5.1 199.5		粗粒輝石安山岩	漏斗状の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約1cm、深さ約1.5cmを測る。孔は滑らかな曲面で構成される。上面には全体的に磨りか認められる。整った矩形を呈しており、何らかの工具により整形されたものと考えられる。
第83回	17	石製品石製 品	不明	長 幅 (18.1) (13.6)	高 重 (9.8) 2542.6		粗粒輝石安山岩	袋状の孔が認められ、上端部径約4cm、底部径約1.5cm、深さ約2cmを測る。孔の底部には滑らかな凹面が認められるが、孔のそれ以外の箇所は滑らかな曲面で構成される。正面は比較的滑らかな平面面である。

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	20.4 (19.8)	高 重			
第83回	18	石製品石製 品	4/5					扁斗状の孔が認められ、上部径約7.5cm、底部径約2cm、深さ約3cmを測る。孔の底部は滑らかな北面であるが、孔のそれ以外の箇所は細かな凹凸が認められる。正面上には平ノミ状の工具痕が残る。	
第83回	19	石製品石製 品	完形	長 幅	23.6 19.2	高 重	14.6 292.3	扁斗状の孔が認められる。正面上には平ノミ状の工具痕が残る。孔の底部には細かな凹凸が認められるが、孔のそれ以外の箇所は滑らかな北面で構成される。孔の側面に断面の字の線状痕があり、線状痕は底面に対して垂直方向に観察される。左側の孔は断面V字形であり、平ノミ状工具によりものと考えられる。	

Ⅲ区 4号礎石

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	(9.2) 3.6	高			
第84回	1	肥前磁器丸 鉢	体部上半欠損	口 底	6.7 3.6	高	5.1	白	外面に星梅鉢文。口縁部内面に2重圓線、見込み1重圓線内に五弁花コンニャク判か。
第84回	2	肥前磁器圓 形湯呑	2/3	口 底	6.7 3.6	高	5.1	白	1号遺物集中出土破片と接合。外面に菊花文染付。口縁部内面に2重圓線、見込み1重圓線内に開れた五弁花。
第84回	3	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明油皿	一部欠損	口 底	10.0 4.2	高	1.9	灰	内外面に踏輪、外面口縁部以下の軸状う。見込みに重焼痕。
第84回	4	在地系土器 焙烙	口縁部片			高	4.9	灰白	内外面焼し、黒色化。口縁部外縁。底部平底。

Ⅲ区 6号礎石

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	8.0 3.2	高			
第84回	1	肥前磁器小 広東碗	3/4	口 底 <td>8.2 3.9</td> <td>高 <td>3.8</td> <td>灰白</td> <td>外面に梅樹文染付、内面無文。粗い貫入入る。</td> </td>	8.2 3.9	高 <td>3.8</td> <td>灰白</td> <td>外面に梅樹文染付、内面無文。粗い貫入入る。</td>	3.8	灰白	外面に梅樹文染付、内面無文。粗い貫入入る。
第84回	2	肥前磁器丸 鉢	完形	口 底 <td>8.2 3.4</td> <td>高 <td>4.5</td> <td>灰白</td> <td>1号遺物集中出土破片と接合。外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。高台内の不明文様。</td> </td>	8.2 3.4	高 <td>4.5</td> <td>灰白</td> <td>1号遺物集中出土破片と接合。外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。高台内の不明文様。</td>	4.5	灰白	1号遺物集中出土破片と接合。外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。高台内の不明文様。
第84回	3	肥前磁器広 東碗蓋	一部欠損	口 底 <td>9.6 5.2</td> <td>高 <td>2.5</td> <td>白</td> <td>1号遺物集中出土破片と接合。外面に3重線文様、つまみ内に寿か。口縁部内面に2重圓線、見込み1重圓線内に花文。</td> </td>	9.6 5.2	高 <td>2.5</td> <td>白</td> <td>1号遺物集中出土破片と接合。外面に3重線文様、つまみ内に寿か。口縁部内面に2重圓線、見込み1重圓線内に花文。</td>	2.5	白	1号遺物集中出土破片と接合。外面に3重線文様、つまみ内に寿か。口縁部内面に2重圓線、見込み1重圓線内に花文。
第84回	5	円盤形加工 品	完形	口 底 <td>5.1 4.8</td> <td>高 <td>1.4</td> <td>灰白</td> <td>瀬戸・美濃陶器踏輪等の底部を円形状に加工したもの。</td> </td>	5.1 4.8	高 <td>1.4</td> <td>灰白</td> <td>瀬戸・美濃陶器踏輪等の底部を円形状に加工したもの。</td>	1.4	灰白	瀬戸・美濃陶器踏輪等の底部を円形状に加工したもの。
第84回	6	瀬戸・美濃 陶器大鉢	口縁部片	口	(28.0)			黄灰白	口縁部縁折れ状。口唇部に広く平坦面。内外面に灰化。
第84回	7	在地系土器 焙烙	口縁部片	口	(38.2)			赤橙～黄橙	口縁部内縁、底部丸底。外面に煤付着。黒色化。
第84回	8	常滑陶器盤 銅部片						黒灰	内外面に踏輪。内面に指押さえ痕。
第84回	9	在地系土器 皿	3/4	口 底	10.4 6.6	高	2.3	にぶい橙	1号遺物集中出土破片と接合。底部から直線的に同き、口縁部内縁、見込みに指押。底部9割断断切り後、無調整。
第85回	10	在地系土器 焙烙	1/5	口 底	(38.6) (37.0)	高	5.5	白黄橙	体部やや内湾しながら開く。内耳1個残存。
第85回	11	在地系土器 焙烙	1/2	口 底	40.0 36.0	高	5.5	灰白	1号遺物集中出土破片と接合。底部から直線的に同く。内耳2個残存。内外面焼し、黒色化。外面に煤付着。底部縁部りに完成後の小孔が1個あり。指押孔か。
第85回	12	瓦平瓦	破片					灰橙	酸化焼成。1枚成形。前縁部面取り1面。裏裏面かいる痕で。中世か。

Ⅲ区 7号礎石

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底 <th>(12.8) (7.0) <th>高</th> <th>4.3</th> </th>	(12.8) (7.0) <th>高</th> <th>4.3</th>	高			
第85回	1	肥前磁器碗 底部1/3		底	(4.0)			白	外面染付。見込み2重圓線内に花文か。
第85回	2	肥前磁器深 皿	1/3	口 底	(12.8) (7.0)	高	4.3	灰白	内面に染付、外面に能書草文。
第85回	3	瀬戸・美濃 陶器灰輪軸 反皿	口縁部片					灰白	口縁部端反り。内外面に灰化、貫入入る。
第85回	4	瀬戸・美濃 陶器染付皿	1/4	口 底	(11.1) 6.2	高	3.6	淡黄	体部内外面と見込みに染付。貫入入る。
第85回	5	瀬戸・美濃 陶器染付皿	底部	底	6.0			灰黄白	見込みに花文染付。高台部を打ち欠いている。底部を円形状に加工したものか?
第85回	6	在地系土器 底部	底部	底	6.5			にぶい橙	底部を円形状に加工したものか?見込みに指押。底部9割断断切り後、無調整。轆轤左回転。
第85回	7	石製品大打 石	完形	長 幅	5.3 2.6	高 重	2.3 31.8	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。左側面の一部、上面、下面及び裏面は自然面で覆われており、その形状から小形の垂円錐を利用していることが分かる。

Ⅲ区 1号配石

種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	5.4 5.3	高			
第85回	1	円盤形加工 品	完形	口 底 <td>5.1 4.7</td> <td>高</td> <td>2.1</td> <td>淡黄</td> <td>瀬戸・美濃陶器踏輪等の底部を円形状に加工したもの。</td>	5.1 4.7	高	2.1	淡黄	瀬戸・美濃陶器踏輪等の底部を円形状に加工したもの。
第85回	2	円盤形加工 品	完形	口 底 <td>5.1 4.7</td> <td>高</td> <td>2.1</td> <td>淡黄</td> <td>肥前陶器器手輪の底部を円形状に加工したもの。</td>	5.1 4.7	高	2.1	淡黄	肥前陶器器手輪の底部を円形状に加工したもの。

遺物観察表

排 回 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第85回 3	瀬戸・美濃 陶器種り鉢	1/4	口 底	(35.2) (14.4)	高 14.1	灰黄白	内外面に銷輪。底部回転系切り後、無調整。	
第85回 4	常滑陶器片 口鉢	口鉢部片				灰褐	口縁部外面積ナシ。内面軽い研磨。	常滑片口鉢2 點。中世。
第86回 5	在地系土器 陪格	1/4	口 底	(40.0) (33.0)	高 10.0	白灰〜黒	内外面焼し、黒色化。口縁部と内面研磨光沢。外面薄下洗 削り調整。	
第86回 6	在地系土器 陪格	口鉢部片	口	(39.0)		白灰	内面に軽い研磨。外面厚付帯、黒色化。	
Ⅲ区 2号配石								
第86回 1	在地系土器 盥?	底部1/2	底	(6.4)		灰	瓦質で硬質。内面研磨光沢。底面に厚膜な系切り痕。	
Ⅲ区 1号遺物集中								
排 回 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第86回 1	肥前磁器広 底陶器	ほぼ完形	口 底	9.1 4.6	高 2.5	白	外面に3重線画文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面 に2重線。見込み1重線内に花文。	6礎石4・1〜 6は揃い。
第86回 2	肥前磁器広 底陶器	ほぼ完形	口 底	9.3 5.0	高 2.8	白	外面に3重線画文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面 に2重線。見込み1重線内に花文。	6礎石4・1〜 6は揃い。
第86回 3	肥前磁器広 底陶器	1/2	口 底	9.3 4.9	高 2.7	白	外面に3重線画文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面 に2重線。見込み1重線内に花文。	6礎石4・1〜 6は揃い。
第86回 4	肥前磁器広 底陶器	1/2	口 底	9.1 5.0	高 2.6	白	外面に3重線画文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面 に2重線。見込み1重線内に花文。	6礎石4・1〜 6は揃い。
第86回 5	肥前磁器広 底陶器	1/2	口 底	(9.2) (5.0)	高 2.7	白	外面に3重線画文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面 に2重線。見込み1重線内に花文。	6礎石4・1〜 6は揃い。
第86回 6	肥前磁器広 底陶器	1/3	口 底	(9.0) (5.0)	高 2.5	白	外面に3重線画文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面 に2重線。見込み1重線内に花文。	6礎石4・1〜 6は揃い。
第86回 7	肥前磁器染 付杯	2/3	口 底	7.2 2.2	高 3.0	白	内面に牡丹と唐草の図案を対向する位置に配置。外面無文。 縁飾あり。高台内に縁飾消度で「せら田(せらだ)」、外面腰 部に「志み寿や(しみずや)」と記載。	
第86回 8	肥前磁器杯	1/3	口 底	(7.6) 2.7	高 3.0	白	内面七宝文染付。外面無文。	
第86回 9	肥前磁器丸 陶	1/2	口 底	(8.3) 2.9	高 3.9	灰白	外面に群文染付。外面無文。	13・14と揃い。
第86回 10	肥前磁器丸 陶	一部欠損	口 底	7.2 2.6	高 3.4	灰白	外面に群文染付。内面無文。	
第86回 11	肥前磁器丸 陶	1/2	口 底	7.6 2.8	高 3.5	白	外面に群文染付。内面無文。	
第86回 12	肥前磁器丸 陶	1/2	口 底	7.8 3.2	高 3.2	白	外面に群文染付。内面無文。	
第86回 13	肥前磁器丸 陶	1/3	底	2.8		灰白	外面に群文染付。内面無文。	9・14と揃い。
第86回 14	肥前磁器丸 陶	1/3	口 底	(8.0) 2.9	高 3.8	灰白	外面に群文染付。内面無文。	9・13揃い。
第86回 15	肥前磁器小 広東碗	1/2	口 底	8.0 2.8	高 2.5	白	外面に染付。口縁部内面に2重線。見込み1重線内に花 文か。	6礎石1と揃 い。
第86回 16	肥前磁器小 広東碗	一部欠損	口 底	7.8 2.9	高 4.2	白	外面に松と鳥を染付。内面無文。	
第86回 17	瀬戸・美濃 磁器器種反碗	1/2	口 底	8.0 2.8	高 4.5	白	外面に南浜風景文染付。内面無文。	
第87回 18	肥前磁器丸 陶	2/3	口 底	8.6 3.5	高 5.1	白	外面に世竹文。口縁部内面に2重線。見込み1重線内に 不明文様。貫入する。	
第87回 19	肥前磁器丸 陶	2/3	口 底	(8.4) 3.6	高 5.0	灰白	外面に世竹文。口縁部内面に2重線。見込み1重線内に 五弁花か。口縁部に焼成前の小孔あり。	23と揃いか。
第87回 20	肥前磁器丸 陶	1/2	口 底	(8.0) 3.3	高 5.1	灰白	外面に草花文。口縁部内面に2重線。見込み1重線内に 五弁花か。	21・22と揃い。
第87回 21	肥前磁器丸 陶	3/4	口 底	8.4 3.2	高 4.9	灰白	外面に草花文。口縁部内面に2重線。見込み1重線内に 五弁花か。	20・22と揃い。
第87回 22	肥前磁器丸 陶	1/3	口 底	(8.4) (3.2)	高 4.9	灰白	外面に草花文。口縁部内面に2重線。見込み1重線。 内面に不明文様。	20・21と揃い。
第87回 23	肥前磁器丸 陶	1/4	口 底	(8.7)		灰白	外面に世竹文。口縁部内面に2重線。見込み1重線。 内面に不明文様。	19と揃いか。
第87回 24	肥前磁器丸 陶	1/2	口 底	8.0 3.0	高 5.4	白	外面に若松文。見込み不明文様。	
第87回 25	肥前磁器丸 陶	一部欠損	口 底	8.4 3.4	高 4.8	灰白	外面に丸文4組。口縁部内面に2重線。見込み1重線内 に省略文様。	28と揃いか。
第87回 26	肥前磁器丸 陶	1/3	口 底	(8.4) 3.6	高 5.0	灰白	外面に丸文4組。口縁部内面に2重線。見込み1重線内 に省略文様。	25と揃いか。
第87回 27	肥前磁器丸 陶	1/3	口 底	(8.5) (3.2)	高 5.0	白	外面に3本の横帯文。口縁部内面に2重線。見込み1重 線内に不明文様。	
第87回 28	肥前磁器筒 形湯呑	3/4	口 底	6.6 3.0	高 5.0	白	外面に花と蝶模文。腹下に結び目文。口縁部内面に2重線。 見込み1重線内に丸文。	
第87回 29	肥前磁器筒 形湯呑	ほぼ完形	口 底	6.6 3.5	高 4.6	白	外面に草花文3組。口縁部内面に2重線。見込み1重線 内に五弁花か。	30と揃いか。



種 別	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	高			
第877	30	肥前磁器陶 形湯呑	3/4	口 底 6.8 3.4	高 5.1	白	外面に草文3組。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に五弁花か。貫入入る。	29と揃いか。
第877	31	肥前磁器陶 形湯呑	1/2	口 底 7.4 4.0	高 5.3	白	外面に菊花と格子文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に不明文様。	
第877	32	肥前磁器陶 形湯呑	3/4	口 底 6.6 3.9	高 5.0	白	外面に横掛け舟3組。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に五弁花か。	
第877	33	肥前磁器陶 形湯呑	1/2	口 (6.8)		白	外面に草文3組。口縁部内面に2重圈線、見込みに圈線。貫入入る。	
第877	34	肥前磁器陶 形湯呑	1/4	口 (5.6)		白	口跡。外面中位鉄泥による横線。外面カキ目。	
第877	35	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底 (8.6) (3.5)	高 5.2	白	外面に矢羽根文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線。	
第877	36	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底 (8.2) 3.3	高 4.8	灰白	外面に菊花と格子文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に不明文様。	37と揃いか。
第877	37	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底 (8.6) (3.4)	高 4.9	灰白	外面に矢羽根文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に不明文様。	36と揃いか。
第887	38	肥前磁器丸 碗	1/2	底 3.4		白	外面に染付。見込み1重圈線内に省略した五弁花か。	
第887	39	肥前磁器丸 碗	1/3	口 (9.0)		白	外面に生繪文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線。変色あり。二次焼成か。	40と揃いか。
第887	40	肥前磁器丸 碗	口縁部片	口 (9.3)		白	外面に生繪文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線。	39と揃いか。
第887	41	肥前磁器丸 碗	ほぼ定形	口 底 8.8 3.7	高 4.2	灰	焼成不良。外面に2種類のコンニャク盤を交互に3溝流置。内面無文。	
第887	42	肥前磁器丸 碗	ほぼ定形	口 底 8.5 3.6	高 3.9	白灰	焼成不良。外面に梅寄文。内面無文。	
第887	43	肥前磁器丸 碗	完形	口 底 9.0 3.7	高 5.0	白灰	焼成不良。外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内に不明文様。	47と揃いか。
第887	44	肥前磁器丸 碗	3/4	口 底 (8.4) 3.0	高 4.1	白灰	焼成良好。外面に草文文。内面無文。	
第887	45	肥前磁器丸 碗	3/4	口 底 8.6 3.5	高 4.4	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内中央に丸い凹み。	46・48と揃いか。
第887	46	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底 8.6 3.5	高 4.3	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内中央に丸い凹み。	45・48と揃いか。
第887	47	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底 8.5 3.4	高 4.7	灰	焼成不良。外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内に凹みと不明文様。	43と揃いか。
第887	48	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底 (8.5) (3.4)	高 4.2	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。	45・46と揃いか。
第887	49	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底 (9.0) (4.0)	高 4.2	灰	外面に草文文。内面無文。	
第887	50	肥前磁器丸 碗	1/4	口 底 (10.0) (4.2)	高 5.1	灰	焼成不良。外面に雪輪梅樹文。内面無文。	43と揃いか。
第887	51	肥前磁器丸 碗	1/3	底 4.0		灰白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。	53・54・55と揃いか。
第887	52	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底 (8.8) 3.4	高 4.7	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内に折れ松様の文様。	43と揃いか。
第887	53	肥前磁器丸 碗	3/4	口 底 9.9 4.0	高 5.2	灰白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。高台内に「み」か。	
第887	54	肥前磁器丸 碗	1/3	口 9.4		灰白	外面に雪輪梅樹文。	
第887	55	肥前磁器丸 碗	3/4	口 底 (9.8) 3.5	高 5.2	白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。	
第887	56	肥前磁器陶 反碗	3/4	口 底 10.9 4.1	高 5.8	白	外面に海浜風景。内面見込みに舟図。	
第887	57	肥前磁器陶 反碗	1/2	口 底 (10.5) 4.2	高 5.9	灰白	外面に松竹梅図。内面見込みに十字文様。	58と揃いか。
第887	58	肥前磁器陶 反碗	底部1/2	底 (4.0)		灰白	外面に松竹梅図。内面見込みに十字文様。	57と揃いか。
第887	59	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底 (11.5) 4.4	高 5.8	灰白	外面に丸文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に五弁花。	61と揃いか。
第887	60	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底 (11.2) 4.4	高 5.5	白	外面に丸文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に五弁花。	59・61と同文だが色調が異なる。
第887	61	肥前磁器丸 碗	底部2/3	底 4.6		白灰	外面に丸文。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に五弁花。	59と揃いか。
第887	62	肥前磁器丸 東碗	3/4	口 底 10.5 5.7	高 5.8	白	外面に3重圈線文様を染付。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に花文。焼練あり。高台内に焼練溶剤で「せら田志ミ寿や(せらだ しみずや)」と記載。	6碗石4・1～6は揃いか。
第887	63	肥前磁器丸 東碗	ほぼ定形	口 底 (10.2) 5.8	高 5.8	白	外面に3重圈線文様を染付。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に花文。焼練1箇所あり。口唇部7箇所に赤褐色の粘土様の付着物あり。焼練作業に伴うものか。	6碗石4・1～6は揃いか。
第887	64	肥前磁器丸 東碗	1/2	口 底 (10.2) 5.6	高 5.8	白	外面に3重圈線文様を染付。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に花文。	6碗石4・1～6は揃いか。
第887	65	肥前磁器丸 東碗	1/3	口 底 (10.3) 5.8	高 5.6	白	外面に3重圈線文様を染付。口縁部内面に2重圈線、見込み1重圈線内に花文。	6碗石4・1～6は揃いか。

遺物観察表

種 別	So.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第898	66	肥前磁器広 東碗	1/4	口 底	(10.1) (5.6)	高 5.9 白	外面に3重歯文様を染付。口縁部内面に2重歯線、見込み1重歯線内に花文。	6碗石(4・1～ 6)は揃い。
第898	67	肥前磁器広 東碗	3/4	口 底	(11.0) (6.4)	高 6.1 白	外面に龍格文、高台外面に2重歯線。口縁部内面に2重歯線、見込み1重歯線内に変形した寿。	8と揃い。
第898	68	肥前磁器広 東碗	ほぼ完形	口 底	(10.9) (6.5)	高 6.3 白	外面に龍格文、高台外面に2重歯線。口縁部内面に2重歯線、見込み1重歯線内に変形した寿。	67と揃い。
第908	69	肥前磁器広 東碗	1/4	口 底	(11.2) (6.6)	高 6.2 白	外面に草花文染付。口縁部内面に2重歯線、見込み1重歯線ないに不明文様。貫入入る。	
第908	70	肥前磁器広 東碗	1/3	口 底	(10.8) (6.0)	高 5.6 灰白	外面に七宝文か、口縁部内面に2重歯線、見込み1重歯線内に不明文様。	
第908	71	肥前磁器広 東碗	1/4	口 底	(9.8) (5.6)	高 5.5 白	外面に仙芝文染付。口縁部内面に2重歯線、見込み1重歯線内に不明文様。	
第908	72	肥前磁器広 東碗	底部3/4	底	6.0	白	見込み1重歯線内に不明文様。軸は青色が強く、高台に重焼時の付着物が残る。貫入入る。	
第908	73	肥前磁器染 付部	1/4	口 底	(6.8)	高 3.0 灰	内面に菊唐草文、見込み蛇の目輪割ぎ。高台と見込みに重焼痕。	
第908	74	肥前磁器染 付部	1/2	口 底	(13.3) (7.6)	高 4.4 灰	輪花口縁。体部内面に染付、見込みに2重歯線。外面に蛇唐草文。	
第908	75	肥前磁器染 付部	1/4	口	(13.8)	灰	輪花口縁。体部内面に染付、見込みに2重歯線。外面に蛇唐草文。	
第908	76	肥前磁器染 付部	1/2	口 底	(14.3) (7.6)	高 3.6 白	蛇の目四型高台。口縁が付く。体部内面に染付、見込み2重歯線内に松竹梅の型印刷文。体部に焼痕あり。	近代。
第908	77	肥前磁器染 付部	3/4	口 底	14.0 10.2	高 3.9 白	蛇の目四型高台。内面に一連の風景を染付、外面に蛇唐草文。	
第908	78	肥前磁器染 付部	底部片			白	皿の底部破片。内面に松竹梅染付。高台内「富貴長寿」路、円盤ピン指4箇所。	
第908	79	肥前磁器精 口	完形	口 底	6.9 4.6	高 5.7 白	外面に斜格子文と研文を染付。内面無文。	
第908	80	肥前磁器精 口	2/3	口 底	7.1 4.5	高 5.3 白	外面全体に斜格子文染付。	81・82と揃い。
第908	81	肥前磁器精 口	2/3	口 底	6.8 4.3	高 5.8 白	外面下半に斜格子文染付。	80・82と揃い。
第908	82	肥前磁器精 口	1/2	口 底	(6.9) (4.4)	高 6.0 白	外面下半に斜格子文染付。	80・81と揃い。
第918	83	肥前磁器精 口	1/3	口 底	(7.2) (4.8)	高 5.6 白	口縁。体部外面に身文染付。	
第918	84	肥前磁器精 口	1/4	口 底	(7.1) (4.2)	高 5.8 白	外面に染付。	
第918	85	肥前磁器精 口	1/4	口 底	(8.8) (6.0)	高 5.9 白	蛇の目四型高台。外面に松文染付。口縁部内面に菱形装飾帯、見込み1重歯線内に不明文様。	
第918	86	磁器仏飯具	一部欠損	口 底	7.8 4.6	高 6.0 灰白	体部外面に簡略化した龍文。脚底部蛇の目。	
第918	87	肥前磁器水 洗	1/2	幅	6.8	高 2.6 灰白	上面に押型した印刷文様。底部内外面に布紋が残る。左手前角に注ぎ口。外面全体に灰釉。上面の一部に藍色の釉を掛けるが、因の右手側面は一部無釉となっている。	
第918	88	肥前磁器染 付小瓶	底部1/2	底	7.0	灰	焼成不良。外面に染付。内面無釉。高台の作り粗雑。砂付着。内面に藍色の錆状付着物。	
第918	89	肥前磁器染 付小瓶	胴部下半～底部	底	5.3	灰白	体部球形。外面に染付。内面無釉。底部内面の中央に軸垂れ落ち痕量。	
第918	90	瀬戸・美濃 陶器小瓶	1/2	口 底	5.8 2.8	高 3.1 黄灰白	内面と外面腹下まで灰釉。貫入入る。	
第918	91	瀬戸・美濃 陶器小瓶	2/3	口 底	6.0 2.9	高 3.8 白灰	内面と外面腹下まで灰釉。貫入入る。登付が二重。	
第918	92	京・信楽系 陶器灰釉計 次かカンテ ラ	胴部1/2	口 底	(4.7) (4.5)	高 3.8 灰白	把手欠損。内面と外面腹まで灰釉。貫入入る。口縁部上面無釉。	
第918	93	古瀬戸灰釉 平碗小	胴部片			淡黄	内面と外面腹まで灰釉。	中世。
第918	94	京・信楽系 陶器灰釉碗	1/2	口 底	9.2 3.4	高 5.2 灰白	内面と外面腹まで灰釉。貫入入る。	
第918	95	瀬戸・陶器 茶碗	2/3	口 底	(8.4) (3.4)	高 5.8 灰白	内面斜輪縁。外面胎輪。外面円転施文具による飾文。内外面に貫入入る。	
第918	96	瀬戸・美濃 陶器観音茶 碗	1/3	口 底	(8.8) 3.8	高 6.1 黄灰白	内面と口縁部外面に灰釉。以下に錆輪。灰釉に貫入入る。	
第918	97	瀬戸・美濃 陶器鉄輪丸 碗	2/3	口 底	8.7 (3.4)	高 5.4 黄灰白	内面と外面腹まで鉄釉。口唇ほつれ部が黒色化。灰落とし、大入れ等に転用か。	
第918	98	瀬戸・美濃 陶器観音茶 碗	1/3	口	(9.0)	灰	内面と口縁部外面に灰釉。以下に錆輪。灰釉に貫入入る。	
第918	99	瀬戸・美濃 陶器灰釉碗	口縁部片	口	(14.0)	灰	内外面に灰釉。貫入入る。	

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			底	口底	高			
第92図	瀬戸・美濃 陶器灰輪火 入れか	底部片	底	(5.5)		灰白	外面腰まで灰輪、内面無輪。貫入入。高台内に「巳」印書。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器灰輪的 形香炉	1/3	口底	(9.6) 5.8	高 6.1	淡黄	口縁部内面から外面腰まで筋輪。口縁部外面最打痕顯著。灰落とし、火入れ等に使用か。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器灰輪的 形香炉	1/3	口底	(10.0) (7.0)	高 6.2	にぶい橙黄緑	口料部平坦で内斜。内外面腰まで筋輪。口唇部無輪。脚先端部に筋輪付着。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器灰輪輪 壳皿	1/2	口底	(13.5) 5.8	高 3.2	黄灰白	口縁部外折。口唇部外側に縁。体部上半に灰輪とぶ漬け、見込みに指で塗る。見込みと高台に重焼痕。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器灰輪輪 壳皿	2/3	口底	10.4 5.8	高 3.1	黄灰白	口縁部外折。口唇部外側に縁。体部上半に灰輪とぶ漬け、見込みに指で塗る。見込みと高台に重焼痕。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器灰輪輪 壳皿	2/3	口底	12.2 6.4	高 3.2	黄白灰	体部内高。内外面に灰輪、見込みを蛇の目に輪筋とし、筋輪を巻る。内面腰に貝須で1重磨輪。見込みに貝須輪。貫入入る。	
第92図	京・信楽系 陶器灰輪灯 明受皿	1/4	口底	(10.6) (4.0)	高 2.1	灰白	内面腰目1箇所。口縁部外面から内面に灰輪、貫入入る。底部回転位置で。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	一部欠損	口底	10.4 4.9	高 2.0	灰	内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。見込みと外面に重焼痕。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	2/3	口底	10.0 4.8	高 1.9	灰オリーブ	内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。見込みと外面に重焼痕。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	一部欠損	口底	9.8 3.9	高 1.9	灰オリーブ	内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。見込みに重焼痕。内外面と欠け口に埋込付着。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器か灰輪 灯明受皿	1/2	口底	(10.6) (4.0)	高 2.1	黄灰白	受け部大きく「U」字状に挟る。口縁部外面から内面に灰輪、貫入入る。受け部と外面に重焼痕。	
第92図	瀬戸・美濃 陶器鉄輪灯 明受皿	一部欠損	口底	10.0 4.8	高 2.4	黄灰白	受け部「U」字状に挟る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。受け部と外面に重焼痕。	
第93図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	3/4	口底	10.2 4.4	高 2.0	灰	内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。受け部と外面に重焼痕。	
第93図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	3/4	口底	9.9 4.3	高 1.9	黄灰白	受け部「U」字状に挟る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。受け部と外面に重焼痕。外面に埋込付着。	
第93図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	1/2	口底	(10.8) 4.8	高 2.2	黄灰白～灰褐	瓶形形。内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。見込みと外面に重焼痕。	
第93図	瀬戸・美濃 陶器筋輪灯 明受皿	1/3	口底	(9.8) (4.7)	高 2.0	黄灰白	受け部「U」字状に挟る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の輪状う。受け部と外面に重焼痕。	
第93図	瀬戸・美濃 陶器鉄輪 ひょうそく	受け部2/3欠損	底	5.7		灰白	脚台がつく大型品。内外面に鉄輪。底部回転系切り後、無調整。底面に固定用の円孔。	
第93図	杖貫輪陶器 器カテラ	ほぼ正形	口底	4.9 6.0	高 5.6 6.9	橙	両口形。長さ23.7。本体口唇部に小さく蓋受けが付く。腕部付け根に吊り下げ用の突起が一つ付くが、蓋は残っていない。内外面に薄い透明釉。底部変形。内面に同転指溝で、両端部に使用による黒色の付着物が残る。	
第93図	杖貫輪陶器 器カテラ	両端部欠損	口底	4.2 4.2	高 5.3	橙	両口形。両端部欠損。本体口唇部に小さく蓋受けは付く。腕部付け根に吊り下げ用の突起が一つ付くが、蓋は残っていない。内外面に薄い透明釉。一方の前部に凹形のスタンプを重ねて横位に三輪を印刷。底部丸形。内面に同転指溝で。	
第94図	瀬戸・美濃 陶器灰輪片 口	底部	底	7.8		灰オリーブ～淡黄	内面と外面腰まで灰輪。内面底部に目直3箇所。高台内に丸い当て具痕。	
第94図	瀬戸・美濃 陶器灰輪片 口鉢	胴部下半 口鉢	底	8.3		淡黄	外面腰まで灰輪、艶があり貫入入る。内面淡く灰輪刷毛塗り。艶無し。	
第94図	古瀬戸灰輪 輪	胴部片				灰	胴目縁に一条。外面灰輪。内面無輪。	中世。
第94図	古瀬戸灰輪 輪	胴部片				灰～淡黄	外面腰まで灰輪。貫入入る。内面下位。灰輪刷毛塗り。内面上位から灰輪流れる。	中世。
第94図	京・信楽系 陶器か灰輪 土瓶	2/3	口底	(6.8) 7.2	高 11.0	灰～黄灰白	3R6号磁石出土破片と接合。注口および把手を欠損。外面腰まで灰輪。内面肩部にたつぷりの筋輪あり。底部外面に粒状の凹凸部所貼り付け。底部に使用による炭付着。筋輪あり。外面腰に炭融液で「せら田 志み寺や(せらだし みずや)」と記載。	124と類似か。

遺物観察表

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
			口径	底径	高				
第94図 124	京・信楽系 陶器か灰釉 土瓶	1/3	口径 (7.0) (6.4)		高 10.3	灰～黄灰白	外面腰まで灰釉。内面胴部に軽い磨釉。注口取り付け部に丸孔3個で連続。底部外面に粒状の脚3箇所貼り付け。底部に使用による保付着明。	123と揃いか。	
第94図 125	京・信楽系 陶器か土瓶	1/4	底 (6.6)			黄灰白	外面に青緑釉。注口取り付け部に丸孔3個で連続。底部外面に粒状の脚3箇所貼り付け。底部に使用による保付着。		
第94図 126	明・石陶器 すり鉢	口縁部片	口 (30.0)			赤褐色	磨釉なし。		
第94図 127	瀬戸・美濃 陶器鉄軸す り鉢	口縁部片	口 (31.0)			黄灰白	内外面に鉄釉。		
第94図 128	在地系土器 片口鉢	底部片	底 (15.0)			橙	内面に縦位の沈線。内面使用により平滑化。二次焼熟あり。		
第94図 129	在地系土器 片口鉢	底部片	底 (16.0)			淡黄灰	内面に磨釉状の施文あり。内面使用により平滑化。底部に磨釉状の調整痕。		
第94図 130	在地系土器 片口鉢	胴部片				灰	内面使用により平滑。		
第95図 131	縄文陶器 胴部片					灰	外面に叩き目。内面横ナデ。		
第95図 132	常滑陶器 胴部片					黒灰	内外面横ナデ。外面に鉄釉。		
第95図 133	常滑陶器 胴部片					黒灰	外面に自然釉。内面に指押し痕。		
第95図 134	常滑陶器 胴部片					黒灰～橙	内外面ナデ。内面に指押し痕。		
第95図 135	常滑陶器 胴部片					黒灰～橙	内外面ナデ。内面に指押し痕。		
第95図 136	瀬美陶器 胴部片					灰	外面に刷毛目。内面に自然釉。		
第95図 137	円盤形加工 品	完形				にぶい黄橙	在地系土器の破片を円形に加工したものの。		
第95図 138	円盤形加工 品	完形				橙	在地系土器の破片を円形に加工したものの。		
第95図 139	在地系土器 皿	1/3	口径 (10.4) 7.0		高 1.8	淡橙	底部から口縁部に直線的に開く。底部回転系切り痕、無調整。内面指ナデ。		
第95図 140	円盤形加工 品	完形				にぶい橙	在地系土器の破片を円形に加工したものの。		
第95図 141	在地系土器 皿	底部	底 5.4			淡黄橙	底部回転系切り後、無調整。内面ナデ。		
第95図 142	在地系土器 皿	口縁部片	口径 (10.4) (7.0)		高 1.9	淡橙	体部直線的に開き、口縁部内折。底部回転系切り後、無調整。		
第95図 143	在地系土器 茶釜	胴部片				橙	外面に粗い研磨。内面ナデ。		
第95図 144	在地系土器 植木鉢	破片			高 10.3	黒灰～灰白	方形で脚が付く。側面内面取り。外面に軽い研磨。内面ナデ。		
第96図 145	在地系土器 焙烙	一部欠損	口径 35.7		高 6.9	にぶい橙	底が丸いタイプで、内面に把手が筋すつく。底部内面ほぼ中央に「大器」上の刻印。外面煤付着。		
第96図 146	在地系土器 焙烙	口縁部片	口径 (35.3)			橙白～橙	底が丸いタイプで、内面に把手がつく。外面煤付着。		
第96図 147	在地系土器 焙烙	3/4	口径 (39.4) 33.0		高 5.3	灰白～黒灰	底が平坦なタイプ。内面に把手が筋すつく。外面に煤付着。		
第96図 148	在地系土器 焙烙	口縁部片	口径 (37.8) (36.0)		高 5.1	にぶい黄橙	底が平坦なタイプ。内面に把手がつく。外面に煤付着。		
第96図 149	在地系土器 焙烙	口縁部片	口径 (37.8) (33.0)		高 5.1	橙	底が平坦なタイプ。内面に把手がつく。底部内面から軽い研磨。体部外面に煤付着。		
第96図 150	在地系土器 鉢	1/2	口径 (22.0)		高 9.0	にぶい黄橙	胴部に沈線1条、口縁部外面に靨。外面が荒れており、口縁部と底部周縁に著しい潰れ・ぼつれが認められる。		
第96図 151	在地系土器 植木鉢?	1/3	口径 (33.0)			黒灰～黄灰	胴部が丸く、口縁部が外折。内外面横し、黒色化。外面に弱い叩き目がつき、胴部中央の無紋帯と口縁部内面に研磨光沢を施す。内面には輪軸目をそのまま残す。底部欠損。		
第97図 152	在地系土器 皿	口縁部片	口径 (29.2) (24.7)		高 8.7	黒灰～黄灰	体部がやや開き、口縁部が外折。内外面横し、黒色化。内面に強い研磨を施す。外面腰下に胎土不足による凹みが目立つ。		
第97図 153	在地系土器 水鉢?	1/4	口径 (40.4) (32.4)		高 10.6	黒灰～黄灰	体部が開き、口縁部が外折。内外面横し、黒色化。内面に急研磨、光沢。		
第97図 154	在地系土器 水鉢?	1/3	口径 (40.0) (28.0)		高 9.9	灰～黄灰白	体部が丸く開き、口縁部外折。内外面横し、黒色化。内面に急研磨、光沢。153に比べて丸みがある。		
第97図 155	在地系土器 置き皿	上部部1/4	口径 (35.0)			黒灰～橙	焚き口上方の窓部縁飾の一部が残る。内外面の所々に使用による弱い焼変色あり。上縁部外縁に煤付着。		
第97図 156	陶製品残貨	完形	縦横 2.332 1.128	厚重 0.9		0.129	黄水滲着。表面は彫深いが破損部に覆われ外縁・文字・部とも不明瞭。裏面は平坦外縁・部とも不明瞭。		
第97図 157	石製品砥石	ほぼ完形	長幅 10.3 6.3	厚重 3.1 308.9			砥石	研面は4面認められる。正面は、下部が研ぎ減りによって先端に向かって著しく傾斜した形態を呈する。また、中央から上部にかけては、やや内湾した形態である。裏面も同様な形態である。左右側面はほぼ平坦である。上部欠損。	
第97図 158	石製品砥石	1/2	長幅 6.0 1.8	厚重 (3.4) 54.3			濁灰質砂岩	研面は5面認められる。正面、左右側面、上面はほぼ平坦な形態である。右側面に径約5mmの孔が認められる。右側部欠損。	

## Ⅱ区一括

種 類	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第9898	1	磁器環	1/4	底	2.6	白	見込みに青色の上絵具で「咲紫」の文字。外面高台付相に異形で曲状の文様。蓋台内に不明の文字。	
第9898	2	肥前磁器染付小碗	2/3	口底	(7.3) 2.5	高 3.9 白	外面に染付、内面無文。	7と揃い。
第9898	3	肥前磁器染付小碗	1/2	口底	7.4 3.0	高 3.4 白	口縁部外面に笹文、内面無文。	
第9898	4	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	胴部1/2	底	4.0	高 3.1 白	外面に東屋文、見込みに染付文様。	
第9898	5	肥前磁器白磁か染付端反小碗	1/3	口底	(6.8) 2.4	高 3.4 灰	全体に貫入。残存部無文。	
第9898	6	肥前磁器染付端反小碗	底部1/2	口底	(7.1) 3.5	高 5.2 白	外面に染付、内面無文。	
第9898	7	肥前磁器染付小碗	3/4	口底	7.5 2.6	高 3.9 白	外面に染付、内面無文。	2と揃い。
第9898	8	肥前磁器広東碗蓋	2/3	口底	10.2 5.8	高 2.9 白	外面に碑と亀。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内に鬘。	
第9898	9	肥前磁器広東碗蓋	1/3	口底	(9.9) 5.2	高 2.7 白	外面に縦格子文。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内に寿文。	1遺物集中67・68に蓋
第9898	10	肥前磁器広東碗蓋	1/3	口底	(9.3) 4.8	高 2.6 白	外面に3重圓線文様。つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圓線、見込み1重圓線内に花文。	6礎石・1遺物集中1～6と揃い。
第9898	11	肥前磁器端反碗蓋	1/2	口底	(8.6) (3.4)	高 2.8 白	外面に笹文。口縁部内面と見込みに炭筆きによる雲状文。	38と共通手法。
第9898	12	瀬戸・美濃磁器端反碗	1/2	口底	(7.1) 3.5	高 4.0 白	外面に刷版転写による筋文。内面無文。底部蛇の目凹高台。	近現代。
第9898	13	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底	7.5 2.7	高 3.7 灰白	口縁部外面に折松葉と山、内面無文。	
第9898	14	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	8.4 3.6	高 3.7 灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第9898	15	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	(8.0) 4.0	高 4.1 灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第9898	16	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.6) (4.2)	高 5.2 灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第9898	17	瀬戸・美濃磁器端反碗	1/2	口底	8.2 3.2	高 4.7 白	外面にゴム印刷による筋文。内面無文。	近現代。
第9898	18	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	8.8 3.8	高 4.0 灰	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第9898	19	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	8.8 3.6	高 4.1 灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第9898	20	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	(8.4) 3.1	高 4.1 白	外面に二重罫目文、内面に一重罫目文、見込み星形文様コンニャク判。	
第9898	21	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.0) 3.6	高 4.3 灰	外面に梅樹文。内面無文。	
第9898	22	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	9.0 3.6	高 5.2 灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明跡。	
第9898	23	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(8.4) (3.8)	高 4.3 灰	外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。	
第9898	24	瀬戸・美濃磁器染付丸碗	2/3	口底	(7.0) 3.4	高 5.5 白	外面に草花文、内面無文。貫入入る。	
第9898	25	肥前磁器染付端反碗	胴部下平	底	4.0	白	外面に草花文、見込みに草花文。高台内に炭筆き時の「千也」朱書き。炭筆き痕あり。	
第9898	26	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底	9.6 4.2	高 5.2 灰白	外面に雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明跡。	
第9898	27	肥前磁器染付筒形湯呑	1/3	口底	(7.1) 3.5	高 5.1 灰白	外面に草花文。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内五弁花。	
第9898	28	肥前磁器染付筒形湯呑	1/4	口底	(7.0) (3.5)	高 5.3 灰白	外面に染付。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内の文様不明。内面に茶褐色の付着物。	
第9898	29	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	8.4 3.5	高 5.1 白	外面孟宗調。見込み一重圓線内五弁花。	
第9898	30	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	(8.6) 3.5	高 5.1 灰白	外面に菊花文。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内五弁花。	
第9898	31	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	(8.8) 3.6	高 5.7 白	外面に草花文。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内五弁花。貫入入る。	
第9898	32	肥前磁器染付丸碗	1/4	口底	(9.6) (3.8)	高 5.6 白	外面に染付。口縁部内面に二重圓線、見込み二重圓線内五弁花。	
第9898	33	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.7) 3.2	高 5.1 白	外面に笹竹文。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内五弁花。	1遺物集中23と揃いか。
第9898	34	肥前磁器染付丸碗	1/4	口底	(7.8) 3.5	高 5.3 灰白	外面に笹竹文。口縁部内面に二重圓線、見込み一重圓線内五弁花。	

遺物観察表

押 回	No.	種類/器種	出土位置 残存率	計測値		胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第99回	35	肥前磁器染付丸筒	胴下半1/2	底 3.6		白	外面に笹文。見込一重線輪内五弁花。貫入入る。	
第99回	36	肥前磁器染付丸筒	1/2	口底 8.4 3.2	高 5.4	白	外面に胡蝶草文。口縁部内面に装飾帯。見込み二重線輪内に胡蝶草。	
第99回	37	肥前磁器染付丸筒	1/2	口底 (8.8) 3.2	高 5.6	白	外面に菊花文。口縁部内面に二重線輪。見込一重線輪内五弁花。	
第99回	38	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	1/2	口底 9.5 3.7	高 5.0	浅黄	外面に花唐草文。口縁部内面灰滑きによる雲状文。見込み2重線輪内に不明文様。高台内不明筋。	
第99回	39	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	3/4	口底 9.2 4.0	高 4.8	白	外面「口縁部」の文字。口縁部内面に染付帯。見込み1重線輪内に米印。	
第99回	40	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	1/4	口底 (10.7) 4.2	高 6.0	白	外面に草花文。口縁部内面に藪間文。見込み染付文様。	
第100回	41	肥前磁器染付端反碗	一部欠損	口底 10.5	高 6.0	灰白	外面によろけ儲文。口縁部内面に格子文。見込み一重線輪内に斜格子文。費付に灰付着。	
第100回	42	瀬戸・美濃磁器か丸筒	1/2	口底 11.4 3.8	高 5.0	灰白	外面に型紙摺による箱籠文。口縁部内面滑澤文。見込み、手描きによる1重線輪内に型紙摺による松竹梅文。	
第100回	43	肥前磁器染付端反碗	2/3	口底 10.5 4.0	高 6.3	灰白	外面に斜格子文。口縁部内面に装飾帯。見込み一重線輪内に不明文様。	
第100回	44	肥前磁器染付端反碗	1/3	口底 (11.2) 4.4	高 6.0	白	外面に梅木文か。見込みに染付文様。	
第100回	45	肥前磁器染付丸筒	3/4	口底 11.4 4.5	高 6.0	灰白	外面に丸文。口縁部内面に二重線輪。見込一重線輪内五弁花。費付に灰付着。	
第100回	46	肥前磁器染付広底碗	1/2	口底 11.4 5.8	高 6.6	灰白	外面に籬か。口縁部内面に二重線輪。見込み一重線輪内に染付文様。	
第100回	47	瀬戸・美濃陶器染付広底碗	底部片	底 (5.0)		黄白	外面に染付。見込み一重線輪内に染付文様。斜り貫入入る。	
第100回	48	制作地不詳磁器不詳	口縁部片			白	内面白焼。時期不詳。内外面灰焼。口縁部無縁。	
第100回	49	肥前磁器染付皿	3/4	口底 13.6 7.0	高 2.9	灰	内面に胡蝶草文。見込み蛇の目輪割ぎ。見込み五弁花コンニャク判。見込みと高台に重燒痕。	
第100回	50	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 12.4 5.2	高 2.7	灰	内面に胡蝶草文。見込み蛇の目輪割ぎ。見込み五弁花コンニャク判。五弁花は小さい。見込みと高台に重燒痕。	
第100回	51	肥前磁器染付皿	ほぼ完形	口底 7.5	高 3.8	灰白	内面に山水と扇文。見込み五弁花コンニャク判。外面に藍唐草文。高台内1重線輪に消線字路。	
第101回	52	肥前磁器染付皿	1/2	口底 (14.0) 7.8	高 3.9	灰白	内面に山水と扇文。見込み五弁花コンニャク判。外面に藍唐草文。高台内1重線輪に消線字路。	
第101回	53	肥前磁器染付皿	口縁部片	口底 (15.0) (9.0)	高 4.6	白	打ち型成形。内外面染付。口縁部内面に雷文帯がめぐる。	
第101回	54	肥前磁器染付皿	底部1/2	底 8.0		白	内外面染付。高台内1重線輪に消線字路。見込み五弁花コンニャク判。	
第101回	55	肥前磁器染付皿	1/3	口底 (13.4) (8.2)	高 3.8	灰	内外面染付。	
第101回	56	肥前磁器染付皿	口縁部片	口 (12.0)		白	内外面染付。底部蛇の目目型高台。	
第101回	57	肥前磁器染付中皿	1/2	口底 (21.0) 12.4	高 4.8	白	口縁部輪花。内面に草花文。見込み一重線輪内草花文か。外面に二重線による藍唐草文。高台内一重線輪内に不明文様。底部高台内にトン飯1個。	
第101回	58	肥前磁器染付茶口	1/3	口底 (6.8) 4.6	高 5.9	白灰	外面下半に斜格子文。内面無文。	1遺物集中81・82と類似か。
第101回	59	肥前磁器青磁火入れ	1/3	口 11.5		灰白	体部上寄直線的にやや開き。口唇部内折して突出。内面中位付近から外面青磁輪。	
第101回	60	制作地不詳磁器レンジ	把手端部欠損			白	縁に帆頭を横布。内面緑色絵具による手描き松文。底面に墨付がつく。	近現代。
第101回	61	内盤形加工品	完形	口底 4.8 4.8	高 1.3	白灰	肥前磁器小鉢の底部を円形加工したもの。高台端部も打ち欠く。	
第101回	62	京・信楽系陶器小形碗	胴下半1/3	底 3.2		黄灰白	外面下位に鉄線。内外面透明釉に細か貫入入る。	
第101回	63	瀬戸・美濃陶器端反碗	口縁部片	口 (8.9)		浅黄釉	口縁部外面白土と鉄絵具による梅文?内面白化粧。内外面透明釉。細かい貫入入る。	
第101回	64	京・信楽系陶器碗	1/3	口底 (10.9) (4.4)	高 5.5	くすんだ黄灰	口縁部外面鉄絵具と白土による梅文。内面から高台部透明釉。細かい貫入入る。内面目直2箇所。	
第101回	65	肥前陶器陶器染付碗	1/3	底 4.7		暗灰	内外面に貫入入る。	
第101回	66	肥前陶器刷毛目茶碗	底部1/2	底 4.8		明橙	内外面白土刷毛焼。細か貫入入る。	
第101回	67	肥前陶器刷毛目茶碗	口縁部片	口 (12.0)		明橙	内外面白土刷毛焼。66と同個体。	
第101回	68	肥前陶器陶器染付碗	1/3	口 (11.3)		暗灰	内外面に貫入入る。	
第101回	69	肥前陶器陶器染付碗	1/2	底 5.2		灰	外面に花唐草文か。内外面に貫入入る。	

排 団	No.	種類・種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	口	高				
第102	70	瀬戸・美濃 陶器染付筒 形湯呑	胴下半2/3	底	3.3		灰〜黄白	外面に菊花文。見込み一重歯輪内に星梅鉢文。		
第102	71	瀬戸・美濃 陶器灰釉丸 皿	1/3	口 底	(11.0) (5.6)	高	2.4	暗灰オリーブ	外面上半部から内面に灰釉。	
第102	72	益子・笠間 陶器か伏輪 皿	1/4	口 底	(13.0) (8.8)	高	2.1	灰黄白	内面只須による文様。見込み目録3箇所。高台上に「田」墨書。高台内にも墨書あり。	
第102	73	粗末陶器か 色絵花皿	ほぼ完形	口 底	9.6 4.9	高	2.8	灰黄白	軸は透明釉をかけた。全体に明瞭な二重入りが入る。口縁部5箇所を内側に押圧して花形を構成し、内面に赤・緑・黄・茶・白の上絵具で絵柄を施す。	近現代か。
第102	74	瀬戸・美濃 陶器灰釉輪 売皿	1/2	口 底	(12.0) 6.8	高	3.1	黄灰白	体部上半内外面と見込みに灰釉。高台内粗いナデ。	
第102	75	瀬戸・美濃 陶器灰釉皿	1/2	口 底	(13.8) 6.5	高	2.9	淡灰オリーブ	外面上半部から内面に灰釉。見込みと高台に重焼痕。	
第102	76	瀬戸・美濃 陶器御深井 皿	1/2	口 底	(12.5) 7.5	高	2.9	淡黄	やや焼成不良。内面鉄絵具による型模。内面底部周縁浅い沈線。内面から口縁部外面灰釉。高台仕上げ粗。内面口縁3箇所。	
第102	77	瀬戸・美濃 陶器大皿	底部1/2	底	14.0			灰白	内面只須で染め、鉄絵具で枝かきを描く。内面から高台筋。内面口縁3箇所。	
第102	78	内整形加工 品	未製品?	口 底	5.6 5.6	高	2.2	灰白	肥前陶器器手輪の高台部を円形状に加工したもの。高台部の一部にも好打痕があり、高台部を外す意図がみられる。	
第102	79	内整形加工 品	完形	口 底	5.1 5.1	高	1.5	黄灰白	瀬戸・美濃陶器鉄絵碗の高台部を円形状に加工したもの。	
第103	80	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	完形	口 底	9.6 4.4	高	2.0	灰	内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。見込みに重焼痕。内外面に煤油付着。	
第103	81	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	ほぼ完形	口 底	10.2 4.0	高	2.1	灰オリーブ	内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。見込みに重焼痕。内外面に煤油付着。	
第103	82	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	1/2	口 底	(10.2) (4.4)	高	2.0	黄灰白	内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。見込みに重焼痕。内外面に煤油付着。	
第103	83	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	一部欠損	口 底	10.3 4.8	高	1.6	灰	受け部「U」字状に決る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。受け部と外面に重焼痕。受け部上端の大半が擦れ・潰れ。	
第103	84	瀬戸・美濃 陶器か灰輪 灯明受皿	口縁部片	口 底	(12.0) (4.3)	高	2.4	灰黄白	口縁部上端から内面に灰釉。底部回転覆りナデ。	
第103	85	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	一部欠損	口 底	10.4 4.6	高	2.6	灰	受け部「U」字状に決る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。受け部と外面に重焼痕。	
第103	86	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	3/4	口 底	11.2 6.2	高	2.2	淡黄灰	口縁より受け部がかなり高い。受け部「U」字状に決る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。受け部と外面に重焼痕。	
第103	87	瀬戸・美濃 陶器踏輪灯 明受皿	1/2	口 底	10.3 4.6	高	2.4	黄灰白	受け部「U」字状に決る。内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸状。底部回転覆り。受け部と外面に重焼痕。	
第103	88	瀬戸・美濃 陶器灰輪灯 明受皿	1/2	口 底	9.8 5.8	高	1.7	灰黄白	口縁部上端から内面に灰釉。底部回転覆りナデ。腹下に墨書らしき部あり。	
第103	89	軟質陶輪 器カンテラ	2/3	口 底	4.5 5.0	高	6.1	橙	両口形カンテラ。底部形状で、回転糸切り痕あり。底部内面に割子。燃焼部欠欠。全体に光沢のある透明釉をかける。口唇部にほつれ。体部に剥落あり。所々に使用による煤油付着。釣り穴部に割線残る。	
第104	90	軟質陶輪 器カンテラ	1/2	口 底	(4.0) 3.5	高	5.5	橙	小型で、全体に光沢のある黒色釉をかける。燃焼部一部欠損。所々に使用による煤油付着。口唇部蓋受け明瞭。底部形状・内面に回転筋ナデ。	
第104	91	古瀬戸陶器 灰輪皿	胴部片					白灰	外面に灰釉。内面釉垂れ。	中世。
第104	92	龍泉窯系青 磁皿	胴部片					暗灰	内外面に貫入。	中世。
第104	93	瀬戸・美濃 陶器灰釉用 給水管入れ	1/3			高	3.8	灰白	外面鉄絵具による型模。内面から体部外面に灰釉。いわゆる御深井製品。	
第104	94	瀬戸・美濃 陶器踏輪有 耳皿	口縁部片	口	(8.0)			灰	外面と口縁部内面に筋輪。内外面とも口縁部上半は無釉。口唇部上端全体に割子。胎輪一部残る。重焼痕か。	
第104	95	古瀬戸陶器 灰輪有耳皿	胴部片					白灰	外面に灰釉がたっぷりとかかる。貫入入る。胴部に横状の把手が付く欠欠。	中世。
第104	96	瀬戸・美濃 陶器灰輪片 口鉢	1/3	口	(18.5)			淡黄	口縁部外面下端に削り沈線。口唇部内面にやや突出。内外面に灰釉。	

遺物観察表

種 別 No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値		胎土/焼成色/調 石材・素材等	成 形・ 整 形 の 特 徴	備 考
第104回 97	塀・明石陶器すり鉢	口縁部片			橙	無釉。	
第104回 98	塀・明石陶器すり鉢	口縁部片			赤橙	内外面に錆輪。口縁部内面の段差明瞭。	
第104回 99	塀・明石陶器すり鉢	口縁部片			橙～暗橙	片口部分。口縁部が薄く、口唇部の沈線が明瞭。	
第104回 100	瀬戸・美濃陶器すり鉢	口縁部片			灰黄白	内外面錆輪。	
第104回 101	円盤形加工品	底部	口底 4.7 4.3	高 2.0	橙	塀・明石陶器すり鉢の底部破片を円形状に加工したものの。	
第104回 102	在地系土器片口鉢	底部	底 11.3		淡灰～淡橙	被熱劣化。底部内面使用により平滑。底部を円形状に加工した円盤状加工品の可能性あり。	
第104回 103	常滑陶器甕	口縁部片			灰	口縁部上下端が小さく伸びる。外面に錆輪か。	13世紀第3四半期
第104回 104	常滑陶器甕	口縁部片			灰白	口縁部受け口状をなす。内外面に自然釉。	13世紀第2四半期
第105回 105	焼酎陶器甕	胴部片			淡紫橙	表面褐色。内面ナデ、外面かるい研磨。	中世。
第105回 106	常滑陶器甕	胴部片			暗紫灰	外面に自然釉。	中世。
第105回 107	常滑陶器甕	胴部片			黒灰	内外面に錆輪。	中世。
第105回 108	常滑陶器甕	胴部片			赤橙	内外面ナデ。外面に錆輪。	中世。
第105回 109	円盤形加工品	完形	口底 5.8 6.0	高 1.1	灰	常滑陶器甕破片を円形状に加工したものの。外面に錆輪。	
第105回 110	円盤形加工品	完形	口底 5.2 5.1	高 1.5	赤橙	常滑陶器甕破片を円形状に加工したものの。	
第105回 111	円盤形加工品	完形	口底 5.2 5.1	高 1.5	灰～黄橙	常滑陶器甕か甕破片を円形状に加工したものの。	
第105回 112	円盤形加工品	完形	口底 4.7 4.5	高 1.4	白灰	在地系土器の破片を円形状に加工したものの。内外面錆し、黒色。外面に円孔状、乾割跡。	
第105回 113	搬入系土器焼酎甕	胴下半	底 4.0		くすんだ灰黄	轆轤整形。内外面錆ナデ。底面に糸切り痕を残す。	
第105回 114	在地系土器打明燈?	2/3	口底 4.3 (7.7)	高 2.5	橙	全体に劣化。厚手で、底部が縁打以上に突出し、口縁部先端が外側ギザに内湾。口唇全体に煤面付着。	
第105回 115	在地系土器皿	1/3	口底 10.0 (7.4)	高 1.8	橙	薄手硬質。体部直線的に開く。底部上縁沈没、回転糸切り後、無調整。	
第105回 116	在地系土器皿	1/3	口底 9.4 (5.6)	高 1.9	淡橙	焼成並。口縁部やや内湾。底部回転磨削後、無調整。	
第105回 117	在地系土器皿	1/4	口底 9.8 (7.0)	高 2.1	淡橙	焼成並。口縁部やや内湾。底部ナデ。底部に円孔あり。	
第105回 118	在地系土器皿	底部片	底 (6.0)		淡橙	焼成並。底部回転磨削後、縁部錆ナデ。底部に円孔あり。	
第105回 119	在地系土器鉢?	底部片			にぶい橙	丸底内耳淵に似るが、脚が付く。内外面錆し、黒色。内外面ナデ。	中世。
第105回 120	在地系土器茶釜?	胴部片			にぶい橙	やや厚手のつくりで、胴部が丸く、肩部につまみが付く。内外面錆し、黒色。外面内急ナデ、内面粗いナデ。	中世か。
第105回 121	在地系土器サナ	1/4	径 (7.0)	高 1.7	明赤橙	上面被熱灰色、割落多。	
第105回 122	在地系土器手水鉢	口縁部片	口 (4.2)		黒～淡黄灰	口縁部小さく外折。外面上半部削り後、内急ナデ、内面研磨光沢。	
第105回 123	在地系土器甕?	胴部片			白灰	内外面錆し、黒色。内外面丁寧ナデ。	
第105回 124	在地系土器焙烙	口縁部片	口底 (36.0 33.0)	高 5.4	淡黄橙	平底で、内耳が付く。外面に煤付着。	
第105回 125	在地系土器焙烙	口縁部片	口底 (36.0 33.0)	高 5.3		平底で、内耳が付く。内外面錆し、黒色。外面に煤付着。	
第105回 126	在地系土器焼酎甕?	口縁部片			くすんだ赤橙	直径約27cm。焼成良好。硬質。内外面に丁寧ナデ。口唇部は身をもたせて特に丁寧な仕上げ。底部に強いナデ。縁内面突出し、直径20の盤を平砥して使用したものと考える。正面部に黒書か?	
第105回 127	搬入系土器置き甕	焼き口部			橙	127より厚みがなく、縁内面の突出が無い。直径20の盤を平砥して使用したものと考える。正面部に黒書か。	
第105回 128	搬入系土器置き甕	焼き口部			橙	表面に丁寧ナデ。裏面に粗いナデ。	中世。
第105回 129	瓦平瓦	破片			くすんだ橙		
第107回 130	製鉄品銭貨	完形	縦横 2.836 2.846	厚重 0.131 4.23		黄水滲貫(白波)。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も外縁・波・郭とも明瞭。	
第107回 131	製鉄品銭貨	一部欠損	縦横 2.378 2.384	厚重 0.116 2.04		黄水滲貫。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は平坦で外縁・郭不明瞭。外縁面側の凹凸は劣化破損。	
第107回 132	石製品火打石	完形	長幅 6.1 1.5	厚重 3.1 24.7	チャート	縁線上に連続する潰れが認められる。右側面は、全面が自然面である。自然面はほぼ平坦であり、裏材の形状は不明である。裏面には両縁側面が認められ、両縁打撃により整形されている。	
第107回 133	石製品砥石	完形	長幅 9.5 3.4	厚重 2.9 50.6	砥沢石	研面は4面認められる。正面、裏面及び左側面は、研ぎ減りによって内湾した形態である。右側面はほぼ平坦である。上部欠損。	



## ⅣK2号土坑

種 別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・形状の特徴	備 考		
第107図 1	肥前磁器染付広東碗蓋	ほぼ丸形	口底 10.2 5.8	高 2.9	白	外面に蓮弁文、つまみ部内に略した寿。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪に飾。	17とセットか。	
第107図 2	肥前磁器染付広東碗蓋	1/3	口底 (10.0) (5.4)	高 2.7	白	外面とつまみ部内に草花文。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪内に不明文様。		
第107図 3	肥前磁器染付小碗	1/2	口底 7.4 2.8	高 3.8	白	外面に草花文と蜻蛉、内面無文。	4と揃い。	
第107図 4	肥前磁器染付小碗	ほぼ丸形	口底 7.4 2.8	高 3.8	白	外面に草花文と蜻蛉、内面無文。	3と揃い。	
第107図 5	肥前磁器染付小広東碗	1/2	口底 8.0 3.3	高 3.3	白	外面に梨付。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪内に不明文様。		
第107図 6	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底 (8.8) (3.4)	高 5.0	白	外面に菊花文。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪内に五弁花か。	7と揃い。	
第107図 7	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底 (8.6) (3.3)	高 5.0	白	外面に菊花文。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪内に五弁花。貫入する。	6と揃い。	
第107図 8	肥前磁器染付丸碗	3/4	口底 (10.0) 3.8	高 5.1	白	外面に菊花文。内面無文。		
第107図 9	瀬戸・美濃磁器染付燗反碗	3/4	口底 9.0 3.5	高 4.6	白	外面に梨付、見込みに染付。		
第107図 10	肥前磁器染付丸碗	完形	口底 8.4 3.6	高 4.9	白	外面に笹文と蟲夫か。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪内に略した五弁花。		
第108図 11	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底 10.0 3.9	高 5.0	白灰	外面に梅木文、内面無文。		
第108図 12	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底 10.2 4.2	高 5.0	白灰	外面に雲輪梅葉文、内面無文。高台内不明跡。	12～14は揃い。	
第108図 13	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底 9.8 4.1	高 5.1	白灰	外面に雲輪梅葉文、内面無文。高台内不明跡。	12～14は揃い。	
第108図 14	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底 10.2 3.9	高 5.2	白灰	外面に雲輪梅葉文、内面無文。高台内不明跡。	12～14は揃い。	
第108図 15	肥前磁器染付燗反碗	一部欠損	口底 11.0 4.6	高 6.1	白	外面に草文、見込みに染付。		
第108図 16	肥前磁器染付広東碗	体部2/3欠	(11.2) 6.8	高 6.0	白	外面に東原文か、内面無文、見込みにトチン虫3個。		
第108図 17	肥前磁器染付広東碗	3/4	口底 11.8 6.4	高 6.1	白	外面に蓮弁文。口縁部内面に二重線輪、見込み一重線輪内に唐草文。	1とセットか。	
第108図 18	肥前磁器小瓶	胴部1/3	底 2.8		灰白	御神酒徳利。外面に染付。		
第108図 19	肥前磁器染付皿	1/5	(12.8) 底 (6.0)	高 3.1	白灰	内面に唐唐草文、見込み蛇の目輪割ぎ。外面無文。		
第108図 20	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 19.6 12.2	高 3.1	白	体部内面に菊花文と斜格子文、見込み五弁花コンニャク判、外面に唐草文。高台内1重線輪内に「大明年製」跡。高台内内丹蓮ピンズ。		
第109図 21	肥前磁器染付皿	ほぼ丸形	口底 14.5 9.2	高 4.0	白	蛇の目型高台。内面全体に草花文、外面に唐草文。縁輪1箇所。高台蛇の目部分に焼継浴液で「せり田 志ミすやせらだ しみすや」と記載。		
第109図 22	瀬戸・美濃陶器脚踏茶碗	完形	口底 8.8 4.4	高 5.6	灰白	外面口縁部下に螺旋状凹線。灰釉に貫入する。		
第109図 23	瀬戸・美濃陶器小盥	1/3	口底 (7.8) (5.0)	高 1.6	浅黄	汁次の蓋か。表面に灰釉。中央に方形にした積みか付く。裏面凹輪隆削り。体部との接を弱めに落す。		
第109図 24	古瀬戸陶器平碗	口縁部片			灰黄白	内面から外面覆まで灰釉。貫入する。	14世紀後半～15世紀初期。	
第109図 25	瀬戸・美濃陶器汁次火	口縁部片	口 (10.0)		灰黄白	残存部無文。口唇部から外面にたっぷりの灰釉。貫入する。口縁部内面差受け部は無釉。体部内面に唐草文。		
第109図 26	瀬戸・美濃陶器縁り鉢	口縁部片	口 (28.0)		灰黄白	内外面に灰釉。貫入する。		
第109図 27	瀬戸・美濃陶器水甃	口縁部片	口 (28.0)		黄灰白	口縁部内折。外面磨鉢工具で施文。内外面灰釉で割線輪を擦す。貫入する。		
第109図 28	瀬戸・美濃陶器縁り鉢	一部欠損	口底 25.5 12.0	高 15.7	灰黄白	内面と外面覆下まで灰釉。貫入する。見込みに大きく4箇所、底の輪を掻き取る。底部削りだし高台。		
第110図 29	瀬戸・美濃陶器平脚燗	体部2/3欠損	(22.8) 底 17.0	高 23.4	灰黄白	外面口縁部下に腰に2条の沈線。内外面に灰釉。外面覆下と底面の輪を掻き取る。見込みに4箇所、口唇部に1箇所のトチン虫。高台に灰付着。底部に口孔あり。植木鉢に転用か。		
第110図 30	在地系土器焙烙	1/4	口底 (38.0) (35.0)	高 5.2	黄灰白	底部平底。体部内外面焼し、黒色。外面に梨付着。		
第110図 31	在地系土器手水碗	1/6	口底 (42.0) 底 (34.0)	高 11.9	黒灰～白灰	口縁部折り返し状に肥厚。口唇部上面に浅い沈線がめぐる。内外面焼し、黒色。外面ナデ。口唇部～内面研磨光沢。内面上手と外面下手が殊々、腐食・剥落。		
第110図 32	石製品石製品	完形	長幅 12.3 厚重 11.7	8.8 887.5		磨粒輝石安山岩	漏斗状の孔が認められ、上部径約7cm、底部径約2cm、深さ約3cmを測る。孔の底部付近には著しい凹凸が認められるが、孔のそれ以外は滑らかな曲面で構成されている。外周部分に孔から断面の線状痕が認められる。	

遺物観察表

Ⅳ区3号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第110図	1 瓦平瓦	破片				明灰～白い橙	表面に砂付着。前面一部研磨。外面に粗い遺痕。	中世。

Ⅳ区12号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第110図	1 肥前磁器染付丸壺	口縁部2/3欠	口 底	(7.8) 3.3	高	4.2	灰白	外面に貫文、内面無文。
第110図	2 在地系土器皿	体部1/2欠	口 底	9.3 5.7	高	1.9	灰白	体部内湾、口縁部外反。底部回転糸切り後、内面に指ナデ痕。轆轤石回転か。垂焼により口縁部変色。
第110図	3 在地系土器皿	体部欠損	口 底	6.4			灰白～淡橙	底部回転糸切り後、ナデ。底部内面に指ナデ痕。轆轤石回転。内面に黒面付着。
第110図	4 懐砂か	完形	口 底	12.1 7.6	高	2.0	淡灰	瓦片の裏面を削り、小判形に整形。懐砂として使用か。
第110図	5 瀬製品銭貨	ほぼ完形	縦 横	2.380 2.394	厚 重	0.158 2.58		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は外縁・郭不明瞭。

Ⅳ区13号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第111図	1 常滑陶器壺	胴部片					淡灰	内外面ナデ。外面に自然釉。	中世。
第111図	2 石製品砥石	2/3	長 幅	(9.3) 2.5	厚 重	2.7 93.0	砥沢石	研面は4面認められる。正面は、研ぎ減りにより中央部が盛り上がったやや凸状の形態を呈する。裏面及び左右側面はほぼ平坦である。左右側面には、線状の彫跡が著しく認められる。上部欠損。	

Ⅳ区18号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第111図	1 瀬戸・美濃磁器か染灰小坏	1/4	口 底	(6.2) (2.2)	高	4.2	白	口縁部外面に一重塗線内、腹下に二重塗線。内面無文。	近現代。
第111図	2 常滑陶器壺	胴部片					黒褐色	内外面ナデ。外面に筋輪。	中世。
第111図	3 深美陶器壺	胴部片					暗灰	外面叩き目。内面無文。外面に自然釉。	中世。
第111図	4 常滑陶器壺	胴部片					黒灰	外面に縦位の刷毛目、内面に横位の刷毛目。	中世。
第111図	5 在地系土器片口鉢	口縁部片					くすんだ赤橙	内面丁寧ナデ、外面粗いナデ。内外面焼し、黒色。	中世。
第111図	6 在地系土器大鉢か	口縁部片					淡橙	口縁部焼成前に内側から穿孔。内外面焼し、黒灰色。口縁部塗線内面塗れる。	中世。
第111図	7 瓦平瓦	破片					赤橙～暗灰	内外面ナデ。側面研磨。	中世。
第111図	8 瓦丸瓦	端部破片					淡灰～くすんだ橙	表面ナデ、かるい研磨。裏面布目痕、粗いナデ。	中世。

Ⅳ区22号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第111図	1 肥前磁器染付丸壺	1/3	口 底	(9.0)			白灰	外面に簡略化した青輪樹文。内面無文。	
第111図	2 京・信楽系陶器小形碗	腹下破片	口 底	(3.1)			灰白	外目下位に鉄粒具による指文。内外面灰釉に貫入入る。	
第111図	3 瀬戸・美濃陶器手馴壺	胴下平2/3	口 底	14.4			淡橙	内面から外面覆まで鉄釉。削りだし高台か。	
第111図	4 在地系土器焙烙	1/6	口 底	(37.0) (34.0)	高	4.9	黄灰白	底部平底。内耳がつく。内外面焼し、黒色。	

Ⅳ区25号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第112図	1 瀬製品銭貨	完形	縦 横	2.327 2.334	厚 重	0.134 2.01		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面は平坦で外縁・郭とも不明瞭。	
第112図	2 瀬製品銭貨	一部欠損	縦 横	2.431 2.425	厚 重	0.157 2.36		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面は平坦だが外縁・郭不明瞭。外縁周囲の凸凹は劣化痕。	

Ⅳ区26号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第112図	1 肥前磁器的形湯呑み	1/3	口 底	(6.2) (3.0)	高	4.1	白灰	外面にコンニャク判の円文を横位に3つ重ねて三輪を表示。内面無文。	
第112図	2 制作地不詳陶器ミニチュア碗	完形	口 底	3.0 1.1	高	1.5	黄灰白	型作り。内面から口縁部外面に筋輪。	
第112図	3 在地系土器手水鉢?	1/6	口 底	(37.0) (29.4)	高	8.9	黒灰～灰白	口縁部折り返し状に肥厚。内外面焼し、黒色。外面内念ナデ、口唇部～内面研磨光沢。内面全体に荒れ削者、腐食・割落多し。	
第112図	4 瓦丸瓦	破片					淡灰	表面ナデ、一部に網目叩き痕を残す。表面粗いナデ、一部に布目痕を残す。	

IV区28号土坑

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1128号	1 銅製品残片	ほぼ完形	縦横 2.385 2.385	厚 重 0.158 2.38		白	寛水通貫。表面は硬い膜に覆われるが、外縁・文字・郭とも明瞭。裏面はやや平坦だが外縁・郭とも明瞭。	
第1128号	2 銅製品残片	完形	縦横 2.485 2.500	厚 重 0.128 2.11		白	寛水通貫。表面は硬い膜に覆われるが、外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は外縁・郭とも形深く明瞭。	
第1128号	3 銅製品残片	完形	縦横 2.322 2.315	厚 重 0.120 1.98		白	寛水通貫(背付)。表面は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面は外縁・郭とも明瞭だが郭と穴の中心がずれる。	
第1128号	4 銅製品残片	完形	縦横 2.355 2.346	厚 重 0.131 2.57		白	寛水通貫。表面は外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面は外縁・郭とも明瞭だが郭と穴の中心がずれる。	

IV区29号土坑

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1128号	1 肥前磁器染付広東鏡蓋	1/3	口底 10.1 (5.0)	高 2.4	白		外面に花唐草文か、つまみ部内に不明染付。口縁部内面に二重圓縁。見込み一重圓縁内に覆か。	
第1128号	2 肥前磁器染付丸瓶	1/2	口底 8.6 3.4	高 4.9	灰		外面残存部梅樹文。内面無文。高台内に不明文様。	
第1138号	3 肥前磁器染付丸瓶	1/3	口底 (8.8) (3.3)	高 3.9	灰白		外面に簡略化した雪輪梅樹文か。内面無文。	
第1138号	4 肥前磁器染付丸瓶	1/3	口底 (8.4)		灰白		外面に菊花文。口縁部内面に二重圓縁。見込み一重圓縁。	
第1138号	5 肥前磁器染付大口	1/3	口底 (7.4) (4.8)	高 5.7	白灰		外面下半に斜格子文。内面無文。	
第1138号	6 肥前磁器不詳	体部上半	口底 7.0		白		体部が直線的に開き。内面中位に突出部。あるいは二重構造か。外面に草花文3環染付。残存部内面無文。	
第1138号	7 肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 14.0 9.5	高 3.5	白		蛇の目型高台。内面雲龍文。外面に乾唐草文。	7～9は類似。
第1138号	8 肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 13.9 9.7	高 3.9	白		蛇の目型高台。内面雲龍文。外面に乾唐草文。	7～9は類似。
第1138号	9 肥前磁器染付皿	底部欠損	口底 14.0		白		大きさ・文様とも残存部は7・8と共通。	7～9は類似。
第1138号	10 肥前磁器赤絵火入れ	1/2	口底 (10.0) 7.5	高 7.6	白		脛から膝やかに内湾しながら腰かに開き気味に立ち上がり。口縁部先端が内折して巻き込むように下がる。外面から口縁部内面に伏輪。貫入する。外面に赤絵で海浜風景。見込みに「おに」を題す。	
第1138号	11 瀬戸・美濃陶器油輪灯明油皿	1/3	口底 (10.2) 4.9	高 2.0	灰オリーブ		内外面に筋輪。外面口縁部以下の軸取う。底部回転蓋別り。見込みと外面に重複痕。	
第1138号	12 軟質胎土陶器カンテラ	2/3	口底 (4.2) 5.0	高 5.0	赤橙		皿口形カンテラ。底部皿形状。底部内面に指ナデ。燃焼部側欠け痕。全体に光沢のある透明釉をかける。燃焼部に使用による炭化付着。釣り穴部に紐なし。	
第1138号	13 丹塗形加工品	完形	口底 2.4 2.2	高 0.5	灰白		瀬戸・美濃陶器種複製品破片を丹塗状に加工。	
第1138号	14 丹塗形加工品	完形	口底 2.7 2.9	高 0.9	黒灰～灰白		在地製土器焼結の底部片を丹塗状に加工。	
第1148号	15 在地系土器焙烙	1/6	口底 (36.2) (33.0)	高 4.7	黒灰～灰白		底部平底。内耳が付く。体部内外面焼し。黒色。外面に煤付着。	
第1148号	16 在地系土器焙烙	1/4	口底 (36.4) (32.6)	高 5.2	黒灰～灰白		底部平底。内外面焼し。黒色。外面に煤付着。	
第1148号	17 在地系土器焙烙	体部1/4	口底 (36.4) (33.0)	高 5.4	黄灰白		底部平底。内耳が付く。外面に煤付着。	
第1148号	18 在地系土器鉢	一部欠損	口底 40.0 33.5	高 10.9	黄灰白		底部に剥落。欠損あり。口縁部上端を平らに調整。口縁部外面に竹筒様の残骸が着る。体部外面に強いナデ。	
第1148号	19 在地系土器磁器	1/4	口底 (26.0) (27.2)	高 22.2	黒灰～黄灰白		円筒形で上下が空き。前面に大きな方形の枠が開く。枠の上方に扇状の薄冊が付く。冊等を掛ける口縁部に煤付着。	
第1148号	20 鉄製品不詳	破片	長 14.2 11.5	厚 重 1.24 6.55			1字形の細い板状鉄製品で、鉄製品に沿って片面全体に密着する針葉樹材木質が残存する。4箇所に鉄製品を木質に固定する状態で角釘破片が埋付する。木製枠の縁金と考えられるが、材質の残存がわずかなため断定はできない。	

IV区31号土坑

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第1158号	1 瀬戸・美濃陶器か皿	1/2	口底 10.9 6.4	高 2.2	白		内面黒色絵具による波と岩の文様を銅板転写。外面無文。	近現代。
第1158号	2 制作地不詳磁器ミニチュア彫刻	完形	口底 1.0 1.5	高 4.9	白		左右を型で作り、貼り付けて成形。外面黄緑色と黄色の上絵。口縁部上面黄色の絵具で塗る。	近現代か。
第1158号	3 制作地不詳磁器彫刻	一部欠損	口底 2.7 5.4	高 17.4	灰白		外面の口縁部。胴部。腰下に銅板転写による筋文。	近現代。
第1158号	4 在地系土器植木鉢	体部下半1/2残存	口底 (8.4)		橙		輪縁筒形。底部ナデ。底部中央に円孔。	
第1158号	5 在地系土器焙烙	3/4	口底 34.5	高 4.3	黒灰～ふい黄橙		丸底。内耳3箇所。1箇所斜縁。口縁部器厚い。外面被熱黒色。煤付着。	

遺物観察表

IV区32号土坑

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11580 1	肥前磁器碗	腹下残存	底 2.9	白灰	腹存部内外面無文。	
第11580 2	在地系土器皿	1/2	口底 9.4 5.8 高 2.1	ぶい糟	体部直線的に開き、口縁部弱く内湾。底部回転糸切り後、無調整。底部内面指ナデ。轆轤左回転。口縁部全体に油煙付着。	
第11580 3	陶製品残片	ほぼ完形	縦 2.271 横 2.238 厚重 0.177 1.84		寛永通寶。表面は外縁・郭とも明瞭。裏面は平坦で外縁・郭やや不明瞭。寛および永の字の部分に外圧による変形が見られる。	

IV区33号土坑

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11580 1	瀬戸・美濃 陶器灰釉面	底部片	底 (6.2)	黄灰白	内面と外面腹下まで灰焼。貫入入る。	

IV区36号土坑

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11580 1	京・信楽系 陶器鉢	口縁部片	口 (20.0)	黄灰白	口縁部受け口状。内外面灰焼。細かな貫入入る。	
第11580 2	石製品磁石	2/3	長幅 (7.5) (2.6) 厚重 1.8 50.5	砥沢石	研面は2面認められる。正面は、研ぎ減りにより緩やかな起伏面を呈する。左側面には、部分的な研ぎ部が認められほぼ平坦である。左右側面には、轆轤タガネ痕が僅かに残る。下部欠損。	

IV区38号土坑

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11680 1	肥前磁器架 付皿	1/5	口底 (13.6) (8.0) 高 3.5	白	内面に草花文、外面に蛇舌草文。	
第11680 2	瀬戸・美濃 陶器灰釉皿	2/3	口底 12.2 5.0 高 3.0	暗灰	底部内面須臾絵。文様不明瞭であるが型紙摺か。高台端部を除き灰焼。貫入入る。	
第11680 3	在地系土器皿	2/3	口底 9.7 6.2 高 1.9	糟	体部内湾しながら開く。底部回転糸切り後、無調整。底部内面指ナデ。轆轤左回転。	
第11680 4	石製品石臼 (下)	1/4	径 (34.0) 高重 (12.4) 586.3	粗粒輝石安山岩	1/4残。上面は摩滅し僅かに挽目の輪跡が残る。側面に挽き手孔の一部残る。中央部には径約4cmの輪受孔が見られる。	

IV区1号井戸

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11680 1	古瀬戸陶器 緑釉小皿	1/3	口 (11.4)	淡灰	口縁部外反。体部内面から口縁部外面灰焼。腹下に轆轤状の刷毛目。底部欠損。	14世紀末～15世紀前半。
第11680 2	常滑陶器灰	胴部片		黒灰～暗緑	外面平直目。焼締まり弱く焼成不良。	中世。
第11680 3	常滑陶器灰	胴部片		赤緑	内外面ナデ。	中世。

IV区3号井戸

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11680 1	常滑陶器灰	胴部片		灰	外面灰動かか。内面横ナデ。	中世。
第11680 2	瓦平瓦	破片		淡灰	前端側面外削ぎ。表裏面粗いナデ。表面前部研磨。	中世。

IV区4号井戸

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11680 1	常滑陶器灰	胴部片		暗灰	内外面横ナデ。内外面器表暗褐色。	中世。
第11680 2	常滑陶器灰	胴部片		黒灰	外面に筋輪。	中世。
第11680 3	常滑陶器灰	胴部片		黒濁～黒灰	内外外面器表黒色。外面に縦位の刷毛目。内面横位ナデ。	中世。

IV区6号井戸

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11780 1	常滑陶器灰	胴部片		灰濁	内外面横ナデ。外面に筋輪。	中世。
第11780 2	瓦平瓦	破片		灰	薄手。表裏面に粗い刷毛目。側面研磨。	中世。
第11780 3	瓦平瓦	破片		暗灰	側面上端部を丸く調整。表裏面粗いナデ。	中世。
第11780 4	瓦丸瓦	破片		明糟	瓦当面欠損。表面ナデ。裏面斜行する刷毛目。口縁部入念ナデ。	中世。

IV区7号井戸

排 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値	胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第11780 1	石製品磁石	ほぼ完形	長幅 8.4 2.9 厚重 2.2 64.1	砥沢石	研面は4面認められる。正面は、研ぎ減りにより緩やかな起伏面を呈する。裏面は、やや外湾した形態である。左右側面は、著しく内湾している。上面の一部に研ぎ部が認められることから、この形態で機能したものと判断した。	

## Ⅳ区8号井戸

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図	1 肥前磁器染付丸碗	体部1/4	口	(10.0)		白灰	外面染付、内面無文。	
第117図	2 石製品磁石	完形	長 幅	12.6 7.3	厚 重	4.1 494.6	砂岩	研面は5面認められる。正面は、研ぎ減りによりやや内湾した形態である。左側面と底面は、中央部が盛り上がったやや凸状の形態を呈する。右側面と裏面は緩やかに外湾しており、部分的な研ぎ部が認められる。

## Ⅳ区10号井戸

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図	1 在地系土器片I鉢	底部片				灰	外面研磨光沢、体部内面下位から底部内面使用により摩滅。	中世。

## Ⅳ区11号井戸

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第117図	1 瀬戸・美濃陶器磁茶碗	腋下	底	4.6		白灰	内面灰釉貫入。	
第117図	2 常滑陶器焼	胴部片				灰釉	外面斜格子状印キ目。外面磨蝕。	中世。
第117図	3 瓦平瓦	破片				灰～暗橙	薄手。側面に丸み。表面粗相いナデ。	中世。

## Ⅳ区12号井戸

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 瀬戸・美濃陶器小碗	口縁部片				白	外面磨蝕転写による染付。内面無文。	近現代。
第118図	2 古瀬戸陶器盤類	破片				淡灰	外面輪縁目跡著。外面側に沈線4条。内外面体部下位まで灰釉。内面貫入。	15世紀。
第118図	3 常滑陶器焼方壺	胴部片				暗灰	外面に印キ目、内面ナデ。外面磨蝕。	中世。
第118図	4 在地系土器皿	口縁部片				橙	体部内湾。	

## Ⅳ区13号井戸

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 在地系土器火鉢	口縁部片				淡灰～灰白	内外面磨蝕し、黒色。内面刷毛目ナデ。口部部と外面研磨光沢。口縁部外面に陰彫区画型押し巴文。	

## Ⅳ区3号鉢

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 在地系土器皿	一部欠損	口 底	10.0 6.6	高	1.8	白橙	体部内湾。底部糸切り後ナデ。内面に指ナデ。

## Ⅳ区40号ビッド

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 在地系土器火鉢	1/6	口 底	(42.0) 34.0	高	11.6	灰白橙	体部内湾。口縁部丸く折り返して突帯をなす。内外面磨蝕し、黒色。口部部～内面研磨光沢。外面1軍なナデ。手水鉢分。

## Ⅳ区41号ビッド

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 遊瓦	瓦当面1/3				灰～灰黒	瓦当面に巴紋。内面研磨。	

## Ⅳ区68号ビッド

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 銅製品銭貨	完形	縦 横	2.515 2.513	厚 重	0.164 3.03		寛永通寶。表面は錆びに覆われるが外縁・文字・郭とも形深く明瞭。裏面は平坦で外縁・郭不明瞭。

## Ⅳ区70号ビッド

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 古瀬戸陶器盤類	胴部片				白灰	盤類体部下位片か。残存部外面上端灰釉。	15世紀か。

## Ⅳ区1号礎石

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第118図	1 石製品石製品	完形	長 幅	22.3 13.7	高 重	12.6 329.8	粗粒輝石安山岩	浅い皿状の孔が認められ、上端部径約9cm。底部径約3cm。深さ約1cmを測る。孔は滑らかな曲面で構成される。

## Ⅳ区一括

種別 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第119図	1 肥前磁器染付広東陶蓋	1/2	口 底	(9.0) 4.9	高	2.2	白灰	外面龍文。横み内宝珠文。天井部内面雲雷文か。

遺物観察表

押 込	so.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第11909	2	制作地不詳 磁器白磁か 染付坏	口縁部1/4、底 部1/2	口 底	(6.4) 2.5	高	3.0	白	破反、残存部無文。	
第11909	3	肥前磁器染 付小碗	一部欠損	口 底	6.5 3.2	高	4.7	白	外面に草花文。口縁部内面に一重線。見込み一重線。	近代か。
第11909	4	肥前磁器染 付小碗	3/4	口 底	7.6 3.2	高	3.3	灰白	外面に格子文、内面無文。	5と揃い。
第11909	5	肥前磁器染 付小碗	3/4	口 底	7.5 3.0	高	3.4	灰白	外面に格子文、内面無文。	4と揃い。
第11909	6	肥前磁器染 付小碗	1/2	口 底	8.3 2.8	高	3.4	灰白	外面不明文様コンニャク判。内面無文。	
第11909	7	肥前磁器染 付丸碗	3/4	口 底	9.6 4.1	高	5.2	灰	口縁部外面の朝枝はコンニャク印判。内面無文。	
第11909	8	肥前磁器染 形湯呑み	一部欠損	口 底	6.3 3.1	高	4.5	白	外面三輪文を2箇所に配置。内面無文。	
第11909	9	肥前磁器染 形湯呑み	体部2/3欠損	口 底	(6.2) 3.0	高	4.2	白	外面二輪文を2箇所に配置。内面無文。	
第11909	10	肥前磁器染 形湯呑み	1/3	口 底	(7.0) (4.2)	高	5.6	白	外面やや崩れた菊文。口縁部内面に二重線。見込み一重線。	
第11909	11	肥前磁器染 形湯呑み	体部2/3欠損	口 底	(7.7) 3.0	高	5.6	白	外面菊文。口縁部内面に二重線。見込み一重線内に五弁花。	
第11909	12	肥前磁器染 付皿	口縁部破片	口	(14.0)			灰白	内面に染付、外面に梵書草文。	
第11909	13	肥前磁器染 付皿	1/2	口 底	(13.6) (4.2)	高	3.1	白灰	内面乾の白刺書。口縁部内面に唐草文、見込み小型五弁花コンニャク判。	
第11909	14	肥前磁器染 付口	3/4	口 底	7.7 4.7	高	5.5	灰白	外面松竹梅文。松文はコンニャク判。内面無文。高台内/大明年製崩れ跡あり。	
第11909	15	肥前磁器染 付口	1/3	口 底	(7.2) (4.6)	高	5.5	灰白	外面下半に格子文、内面無文。	
第11909	16	制作地不詳 磁器湯呑み か	口縁部破片	口	(7.0)			灰白	口縁部外面グリーン二重線。いわゆる国民食器。	近現代。
第11909	17	瀬戸・美濃 磁器軸木鉢	口縁部破片	口	(21.0)			白	口縁部直角に外折。外面と口縁部内面・口唇部に染付。内面口縁部以下は無軸。	近現代。
第11909	18	瀬戸・美濃 陶器灰輪汁 次?	胴部下半~底部 1/2	底	4.5			灰黄白	外面腰まで灰輪。貫入。内面見込みに輪垂れ。	
第11909	19	瀬戸・美濃 陶器腰箱茶 碗	2/3	口 底	9.4 4.0	高	5.6	灰黄白	口縁部外面下位螺旋状凹線。灰輪に貫入。	
第11909	20	瀬戸・美濃 陶器銷輪灯 明油皿	1/2	口 底	10.2 4.6	高	1.8	黄灰	内外面に銷輪。外面口縁部以下の輪拭う。底部回転部削り。見込みと外面に重焼痕。口唇部に熱焼面2箇所。	
第11909	21	瀬戸・美濃 陶器銷輪灯 明油受皿	2/3	口 底	9.5 4.0	高	2.0	暗灰	受け部U字状に伏。内外面に銷輪。外面口縁部以下の輪拭う。底部回転部削り。受け部と外面に重焼痕。	
第12009	22	瀬戸・美濃 陶器大皿	口縁部破片	口	(8.6)			灰黄白	口縁部外折。内面頸須で黄を、鉄絵具で紫を施す。灰輪に貫入。	
第12009	23	中国陶器河 南彰徳陶器	底部片					灰白~暗灰	内面に線輪と短色、外面は腰まで線輪。内面線輪2条。	中世。
第12009	24	瀬戸・美濃 陶器江戸車	ほぼ完形	径	4.5	高	1.4	灰白	軸穴と接地面灰輪。灰輪は腰れ、2箇所で素地露出。	
第12009	25	堺・明石陶 器部子鉢	口縁部破片					灰橙~赤橙	口唇部内面に沈線がめぐる。	
第12009	26	瀬戸・美濃 陶器平飯鉢	口縁部破片	口	(21.0)			暗灰	外面顔色の鉄軸。	
第12009	27	内製形加工 品	完形	口 底	3.5 3.7	高	1.2	黒灰	常滑製の駒部破片を円形に加工したもの。外面に銷輪。	
第12009	28	在地系土器 皿	2/3	口 底	9.2 6.4	高	1.6	橙	体部内湾。底部回転部削り後、無調整。底部内面に指ナデ。	
第12009	29	常滑陶器黄 銅部破片	胴部破片					黒灰	外面に銷輪。	
第12009	30	在地系土器 内耳瓶	口縁部破片					淡灰	口縁部外折。内外面横し。黒色。内外面ナデ。	中世。
第12009	31	在地系土器 鉢	口縁部破片					暗灰	横し。内外面ナデ。	中世。
第12009	32	在地系土器 鉢	1/2、底部欠損	口	(30.8)			黒灰~白橙	内外面横し。黒色。口唇部研磨光沢。体部上半の沈線部を磨面の波状文で充填。下半部に軽い研磨を施す。内面ナデ。	
第12009	33	在地系土器 焙烙	口縁部破片	口 底	(30.0) (31.0)	高	3.3	明橙	口縁部厚く、厚い。内面研磨光沢。口唇部から外面に煤付器。黒色。	
第12009	34	字瓦	字部1/3					白灰	瓦当文様は点列状。色は灰白色で、胎土に砂を多量に含む。焼成良好で硬質。	中世。
第12009	35	石製品 砥石	2/3	長 幅	(7.1) 3.1	厚 重	2.6 75.1	砥沢石	研面は面認められる。正面は、研ぎ崩れにより僅かに内湾する。裏面と左側面はほぼ平坦であり、右側面は僅かに内湾した形態である。上部欠損。	
第12009	36	石製品	2/3	長 幅	9.0 10.4	厚 重	8.2 561.3	二ツ岳石	漏斗状の孔が認められ、上端部径約2.5cm、底部径約1cm、深さ約1.5cmを測る。孔には、正面と並行する方向の段差がいくつかに認められ、工具を回転するように用いあげられた痕跡と推定される。	

第5表 非掲載遺物集計表 (点数)

区	層位・面	遺物種別	土師器		須恵器		灰輪陶器		中世			近世			近現代			時期不詳		
			小形物品	中形物品	大形物品	不明	陶・磁	磁器	不明	其	中国陶器	中国陶器	中国陶器	陶磁器	土器類	土器類	土器類	ガラス	土器類	その他
Ⅱ	1	土坑																		
Ⅱ	2	土坑																		
Ⅱ	3	土坑																		
Ⅱ	5	土坑																		
Ⅱ	6	土坑																		
Ⅱ	7	土坑																		
Ⅱ	9	土坑																		
Ⅱ	11	土坑																		
Ⅱ	12	土坑																		
Ⅱ	13	土坑																		
Ⅱ	16	土坑																		
Ⅱ	18	土坑																		
Ⅱ	20	土坑																		
Ⅱ	22	土坑																		
Ⅱ	23	土坑																		
Ⅱ	1	地下式坑																		
Ⅱ	1	埋物																		
Ⅱ	1	竪穴																		
Ⅱ	2	竪穴																		
Ⅱ	1	井戸																		
Ⅱ	2	井戸																		
Ⅱ	3	井戸																		
Ⅱ	4	ピット																		
Ⅱ	10	ピット																		
Ⅱ	1	溝																		
Ⅱ	2	溝																		
Ⅱ	3	溝																		
Ⅱ	4	溝																		
Ⅱ	5	溝																		
Ⅱ	6	溝																		
Ⅱ	7	溝																		
Ⅱ	8	溝																		
Ⅱ	9	溝																		
Ⅱ		交差点南西側一帯																		
Ⅱ		磯辺前一帯																		
Ⅱ		Ⅱ-1区表土																		
Ⅱ		Ⅱ-2区表土																		
Ⅱ		Ⅱ-3区表土																		
Ⅱ		Ⅱ-4区表土																		
Ⅱ		Ⅱ-5区表土																		
Ⅱ		表探																		
Ⅱ		Ⅱ-3区南西部																		
Ⅱ		Ⅱ-3区西側																		
Ⅱ		Ⅱ-3区西1/2																		
Ⅱ	1	土坑																		
Ⅱ	4	土坑																		
Ⅱ	7	土坑																		
Ⅱ	8	土坑																		
Ⅱ	9	土坑																		
Ⅱ	10	土坑																		
Ⅱ	11	土坑																		
Ⅱ	13	土坑																		
Ⅱ	14	土坑																		
Ⅱ	15	土坑																		
Ⅱ	16	土坑																		
Ⅱ	20	土坑																		
Ⅱ	21	土坑																		
Ⅱ	22	土坑																		
Ⅱ	23	土坑																		
Ⅱ	24	土坑																		
Ⅱ	27	土坑																		
Ⅱ	28	土坑																		
Ⅱ	29	土坑																		
Ⅱ	30	土坑																		
Ⅱ	31	土坑																		
Ⅱ	32	土坑																		
Ⅱ	34	土坑																		
Ⅱ	35	土坑																		
Ⅱ	37	土坑																		
Ⅱ	38	土坑																		
Ⅱ	39	土坑																		



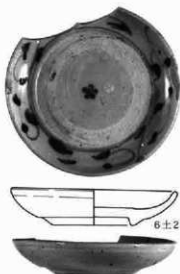
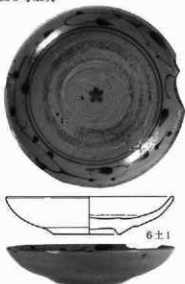


II区

II区2号土坑



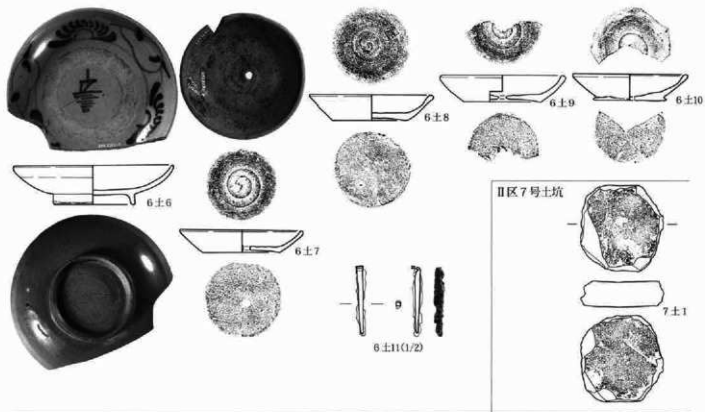
II区6号土坑



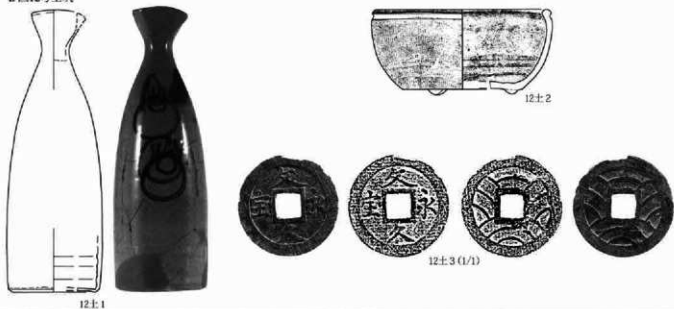
0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

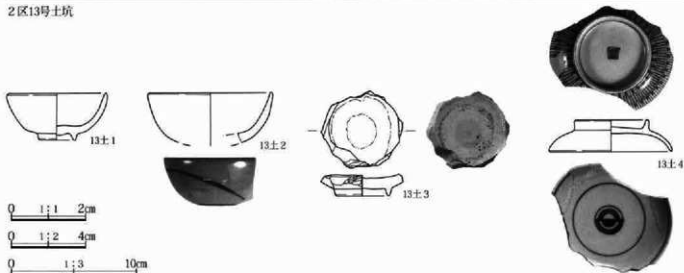
第55图 II区2号土坑出土遗物、6号土坑出土遗物(1)



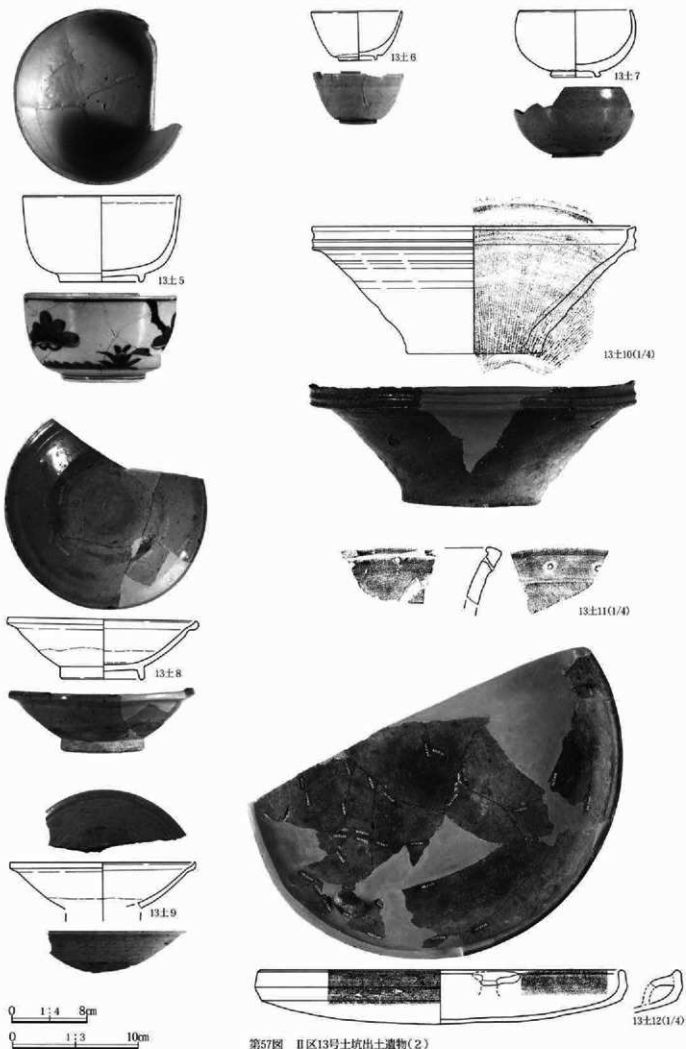
II区12号土坑



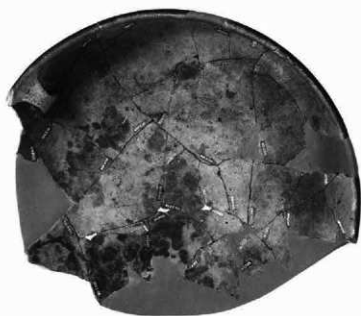
2区13号土坑



第56图 II区6号土坑出土遗物(2)、7·12号土坑出土遗物、13号土坑1出土遗物(1)



第57图 II区13号土坑出土遗物(2)



13±13(1/4)



13±14(1/4)



13±15(1/4)



13±16(1/4)

第58圖 II区13号土坑出土遺物(3)

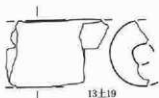
0 1:4 8cm



13土17(1/4)



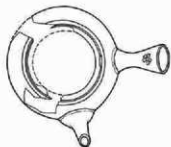
13土18(1/4)



13土19



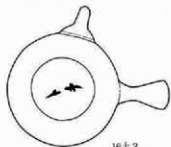
II区16号土坑



16土2



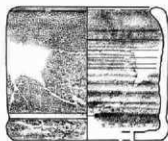
16土3(1/4)



16土4(1/4)



16土1



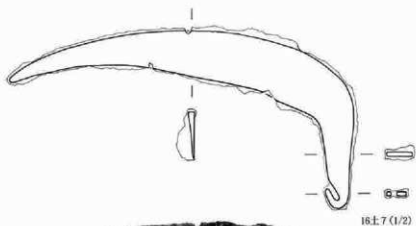
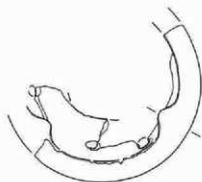
第59图 II区13号土坑出土遗物(4)、16号土坑出土遗物(1)

0 1:4 8cm

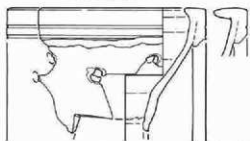
0 1:3 10cm



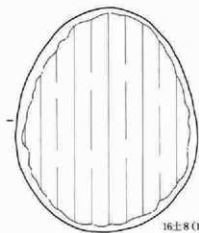
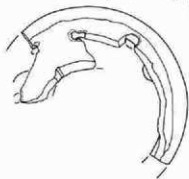
16±5 (1/4)



16±7 (1/2)



16±6 (1/4)



16±8 (1/2)

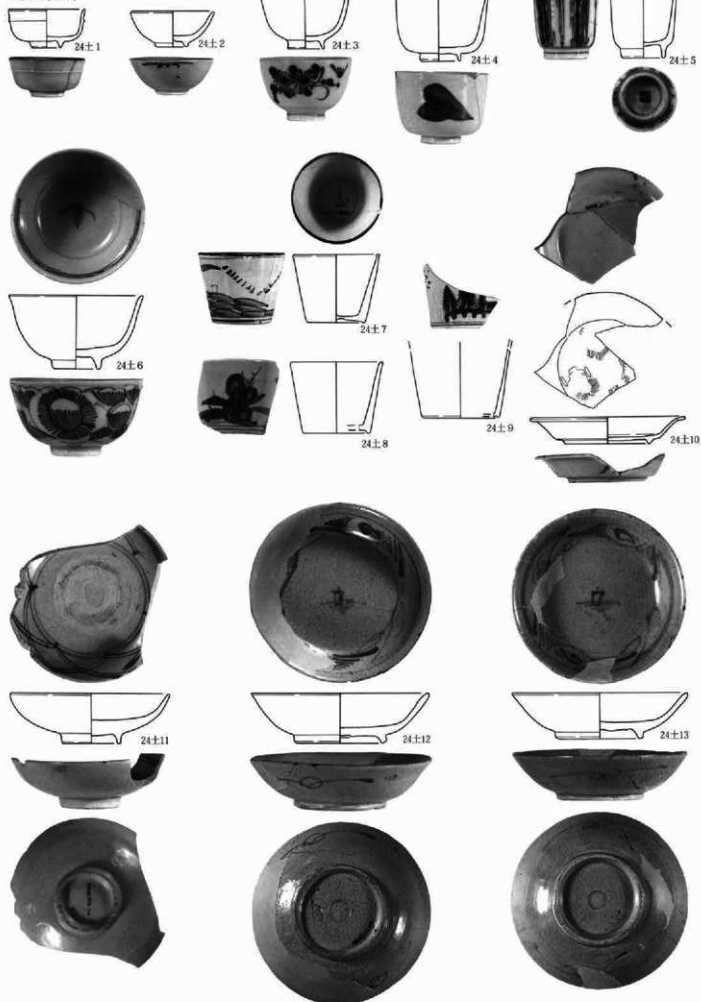


0 1 2 4cm

0 1 4 8cm

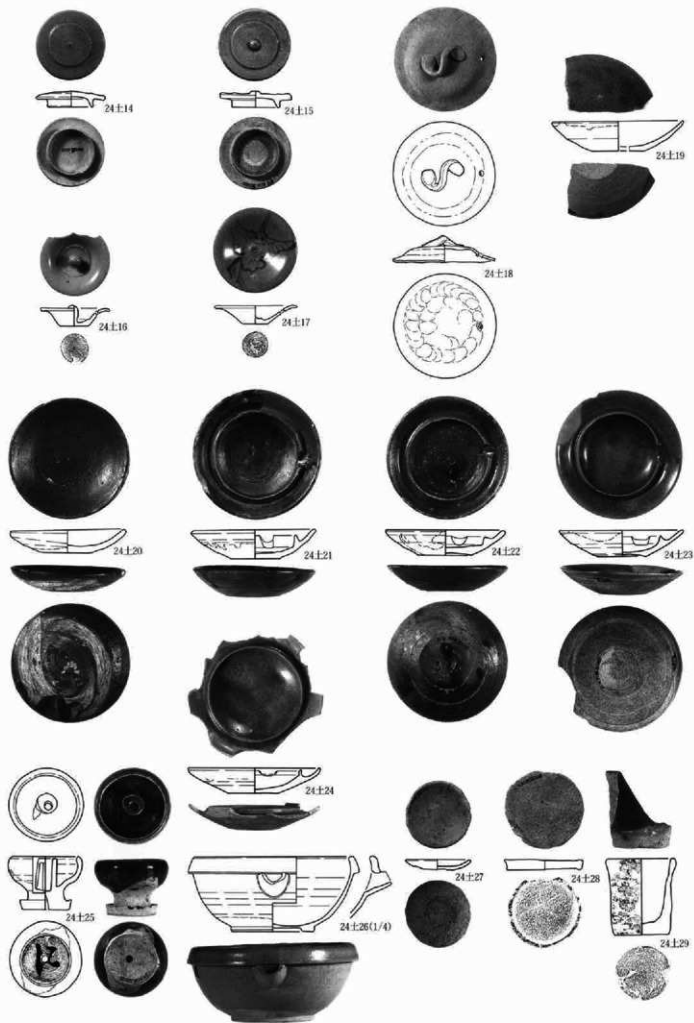
第60图 II区16号土坑出土遗物(2)

II区24号土坑



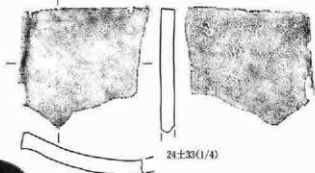
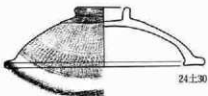
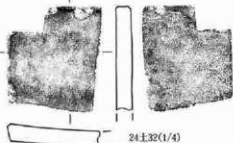
第61图 II区24号土坑出土器物(1)

0 1:3 10cm



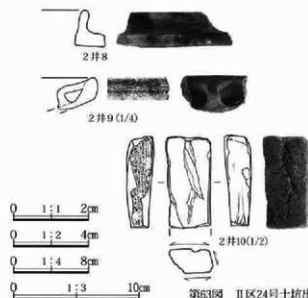
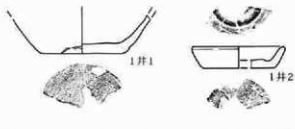
第62图 II区24号土坑出土遗物(2) 0 1:3 10cm 0 1:4 8cm



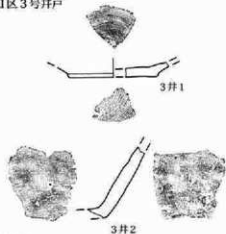


II区1号井戸

II区2号井戸

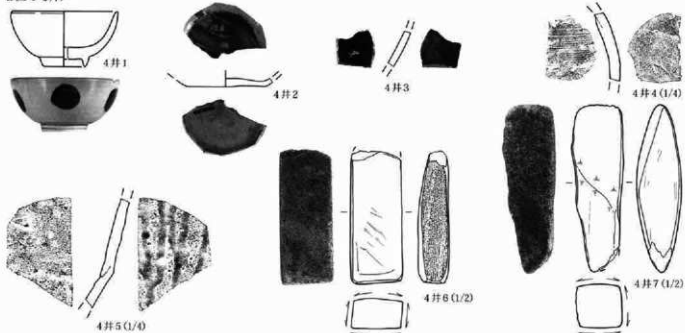


II区3号井戸

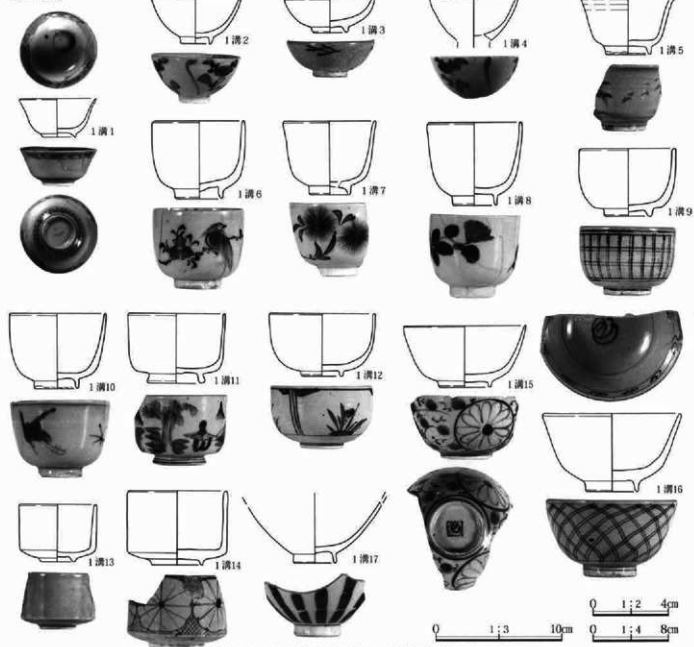


第63图 II区24号土坑出土遺物(3)、1~3号井戸出土遺物

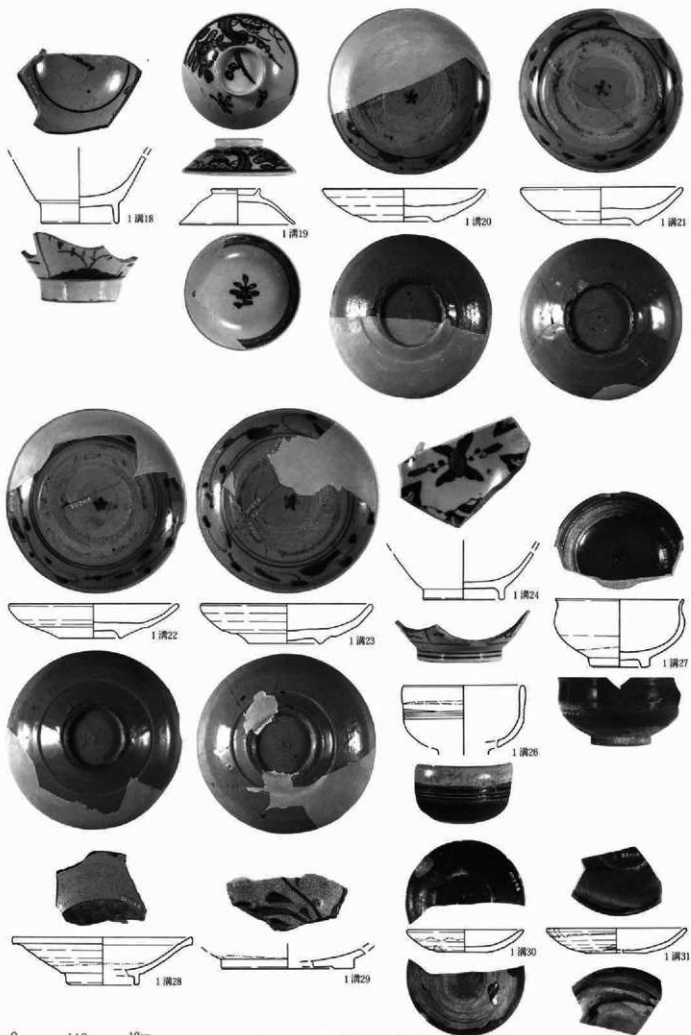
Ⅱ区4号并戸



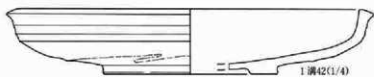
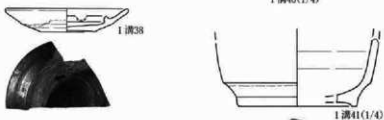
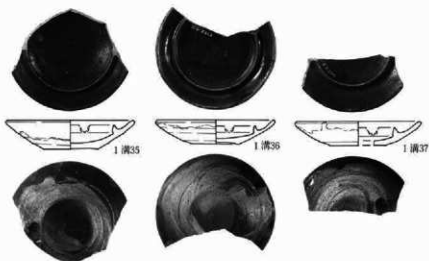
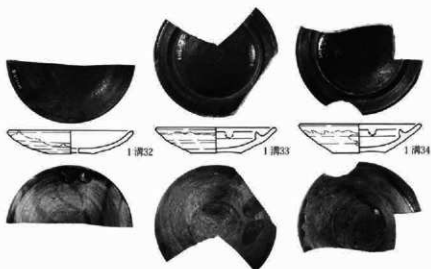
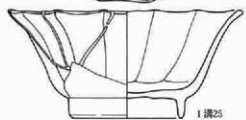
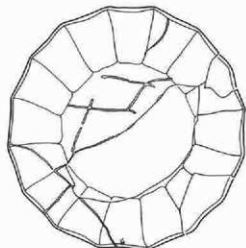
Ⅱ区1号溝



第64图 Ⅱ区4号并戸出土遺物、1号溝出土遺物(1)



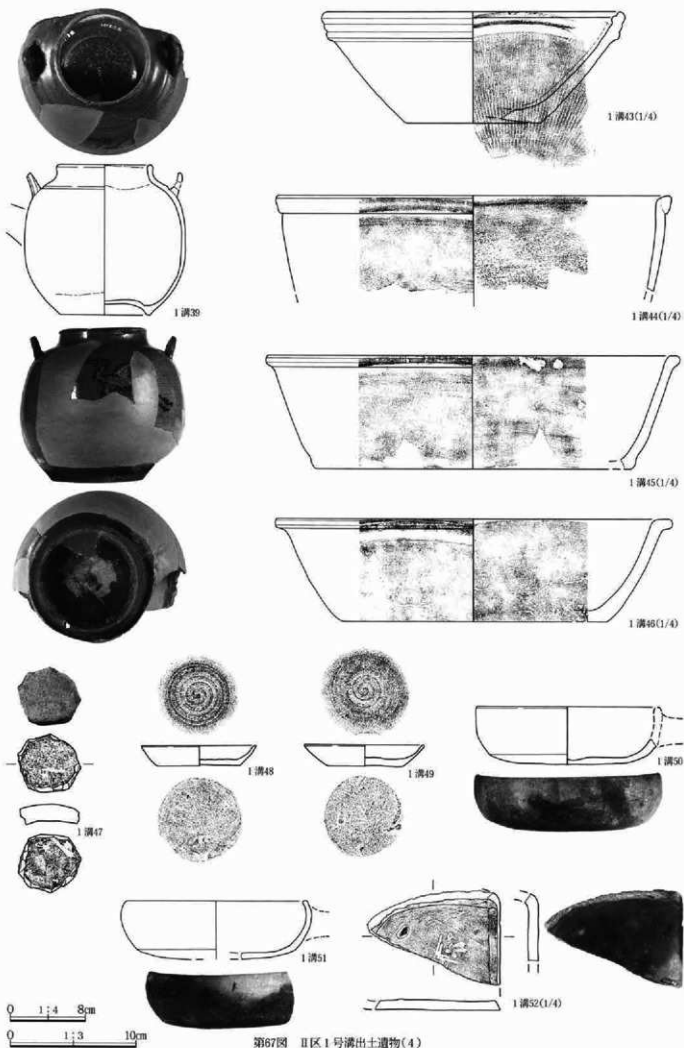
第65图 II区1号清出土器物(2)



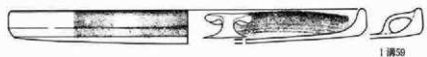
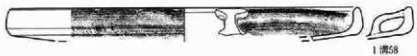
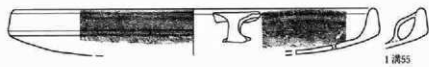
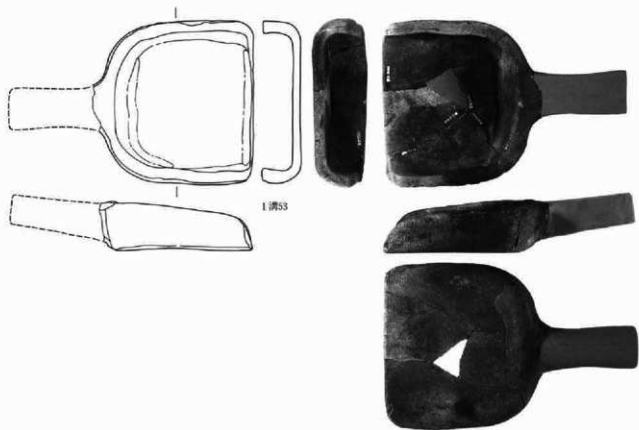
0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

第66图 II区1号清出土器物(3)

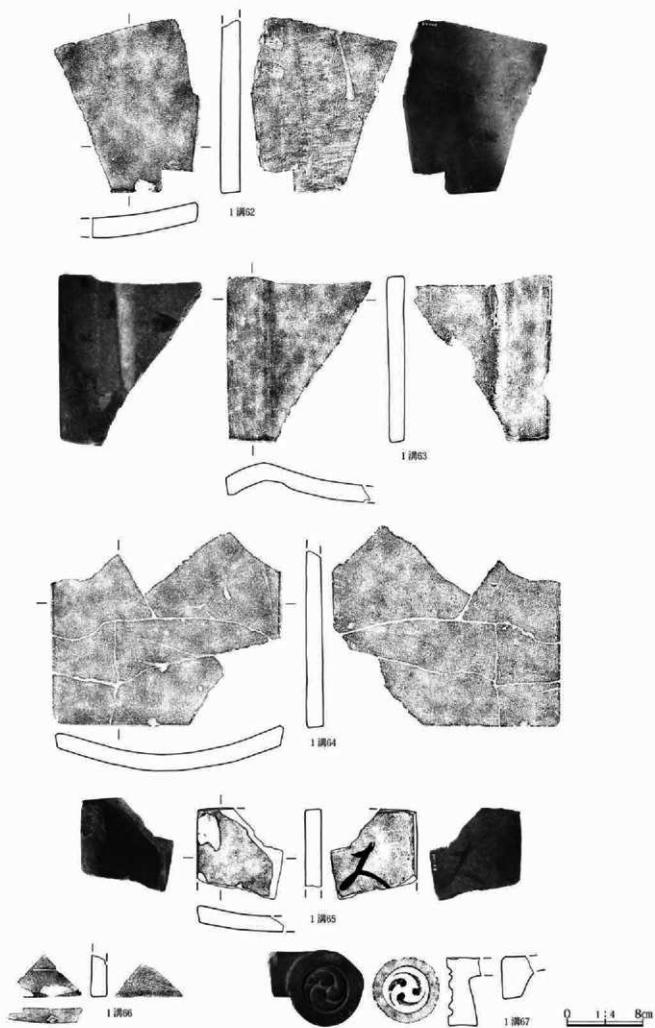


第67图 Ⅱ区1号溝出土遺物(4)

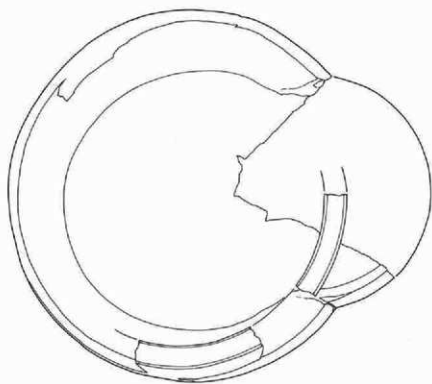


0 1:4 8cm

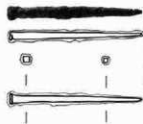
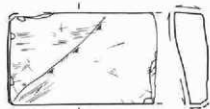
第68图 II区1号清出土遗物(5)



第69图 II区1号溝出土遺物(6)



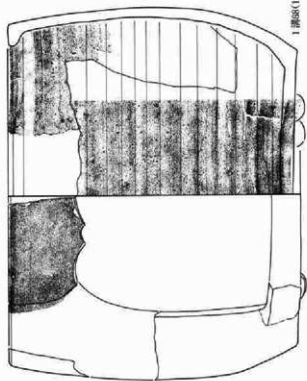
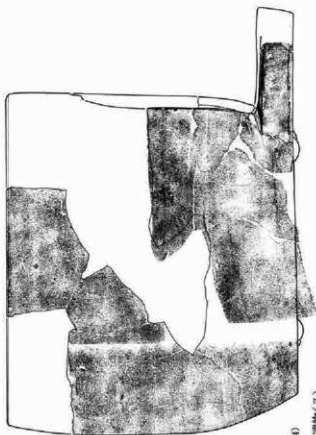
1 漆71(0/2)



1 漆70(1/2)



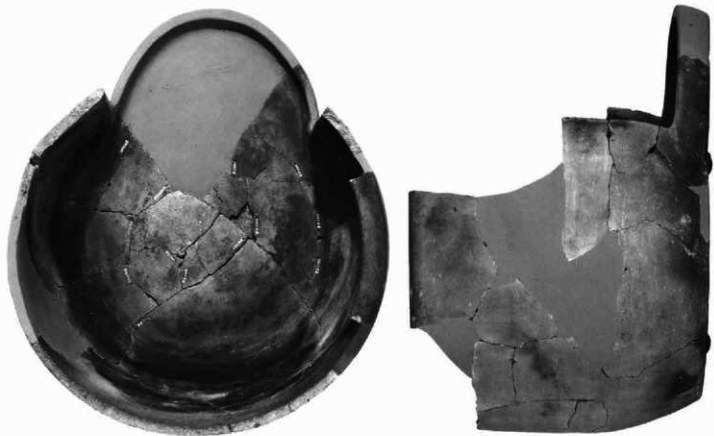
1 漆88(1/2)



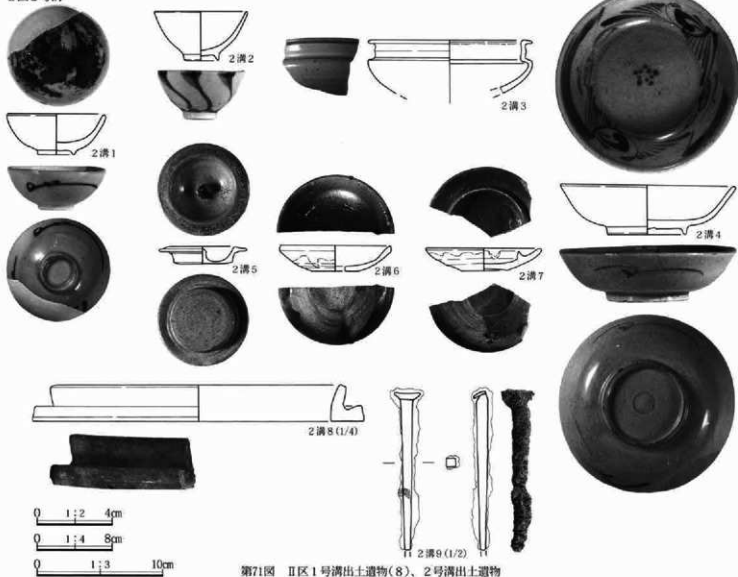
1 漆88(1/4)

第708号 II区1号清出土遺物(7)



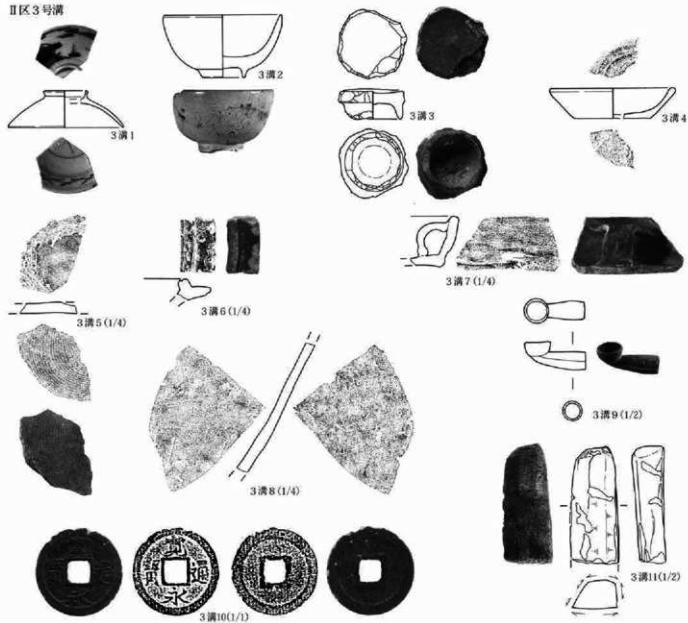


II区2号溝

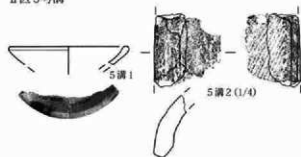


第71图 II区1号溝出土物(8)、2号溝出土物

II区3号溝



II区5号溝



II区6号溝



II区7号溝



第72图 II区3·5·6号溝出土遗物、7号溝出土遗物

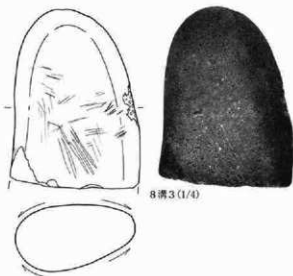
Ⅱ区8号溝



8溝1



8溝2 (1/4)



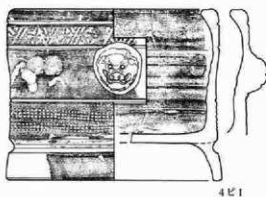
8溝3 (1/4)

Ⅱ区9号溝



9溝1

Ⅱ区4号ピット



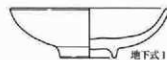
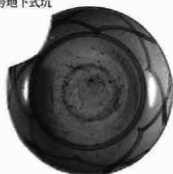
4ピ1

Ⅱ区10号ピット



10ピ1

Ⅱ区1号地下式坑



地下式1



地下式2

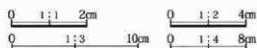
Ⅱ区1号竪穴状遺構



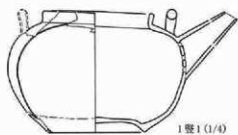
1竪2



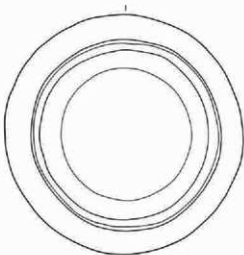
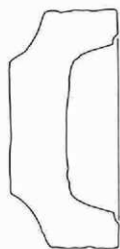
1竪3 (1/4)



第73図 Ⅱ区8・9号溝出土遺物、4・10号ピット、1号地下式坑出土遺物、1号竪穴状遺構出土遺物(1)



1器1(1/4)



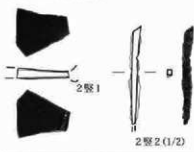
1器5(1/4)



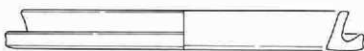
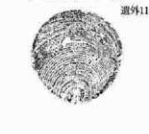
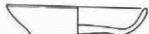
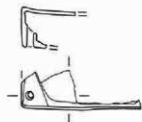
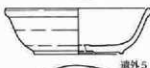
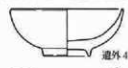
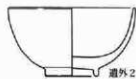
1器4(1/1)



II区2号整穴状道横



II区道横外

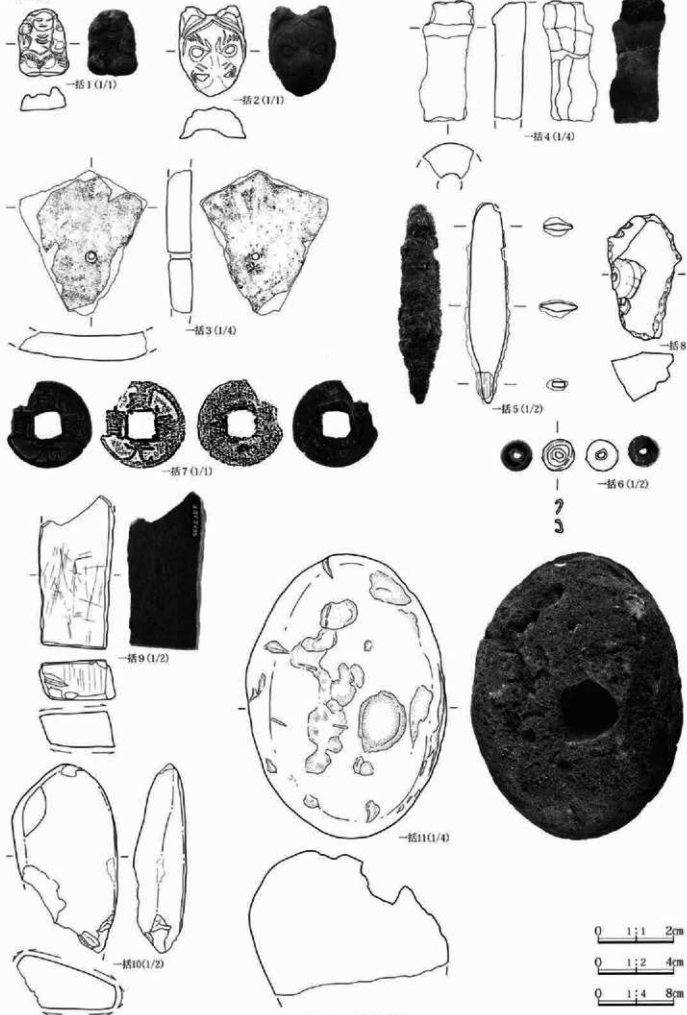


道外12(1/4)

0 1:2 4cm 0 1:3 10cm 0 1:4 8cm

第75图 II区2号整穴状道横、道横外出土道物

II区—括



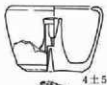
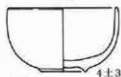
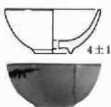
第76图 II区—括出土遗物

Ⅲ区

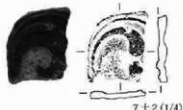
Ⅲ区1号土坑



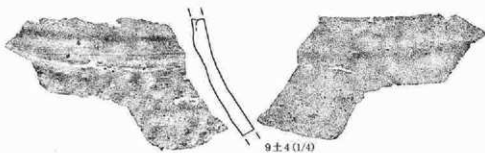
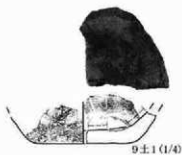
Ⅲ区4号土坑



Ⅲ区7号土坑



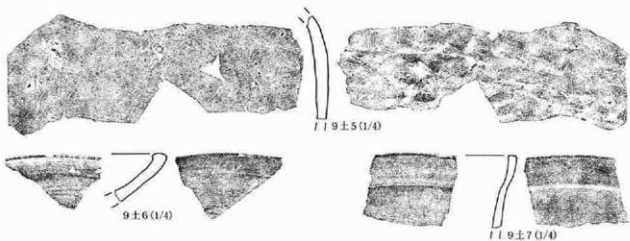
Ⅲ区9号土坑



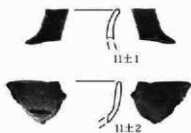
0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

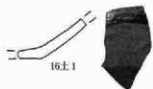
第77图 Ⅲ区1·4·7号土坑出土遗物、9号土坑出土遗物(1)



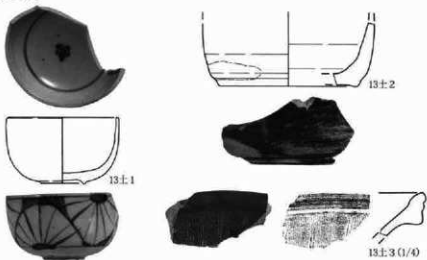
Ⅲ区11号土坑



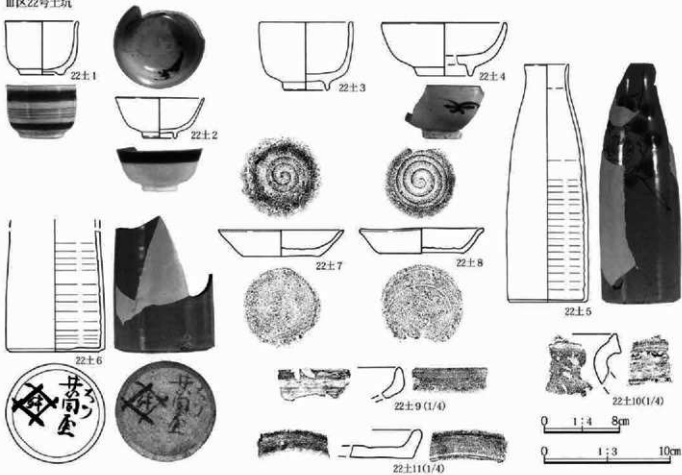
Ⅲ区16号土坑



Ⅲ区13号土坑



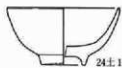
Ⅲ区22号土坑



第78图 Ⅲ区9号土坑出土遗物(2)、11·13·16·22号土坑出土遗物



Ⅲ区24号土坑



24±1

Ⅲ区30号土坑



30±1

Ⅲ区27号土坑

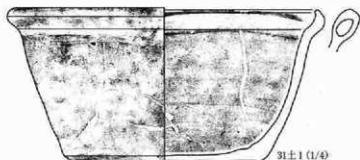


27±1 (1/1)



27±2 (1/1)

Ⅲ区31号土坑



31±1 (1/4)

Ⅲ区32号土坑



32±1

Ⅲ区35号土坑



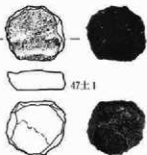
35±1

Ⅲ区36号土坑

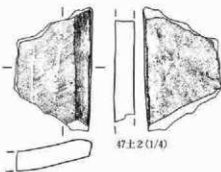


36±1 (1/4)

Ⅲ区47号土坑



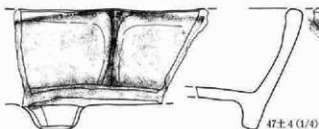
47±1



47±2 (1/4)



47±3 (1/4)

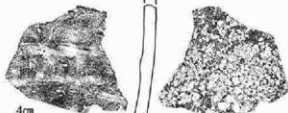


47±4 (1/4)

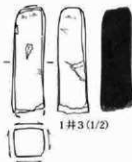
Ⅲ区1号井戸



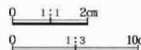
1井1 (1/4)



1井2 (1/4)

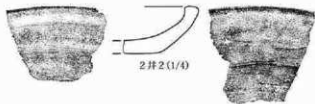
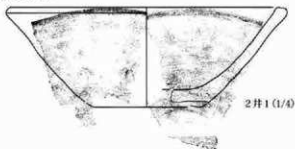


1井3 (1/2)

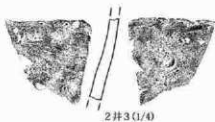
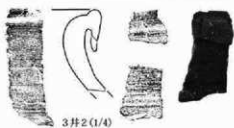


第79图 Ⅲ区24·27·30~32·35·36·47号土坑、1号井戸出土器物

Ⅲ区2号井戸



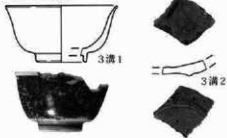
Ⅲ区3号井戸



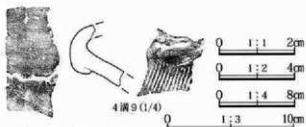
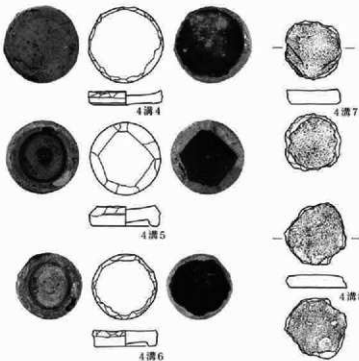
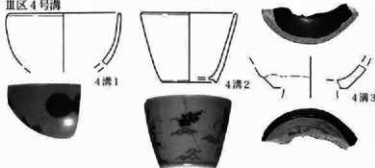
Ⅲ区2号溝



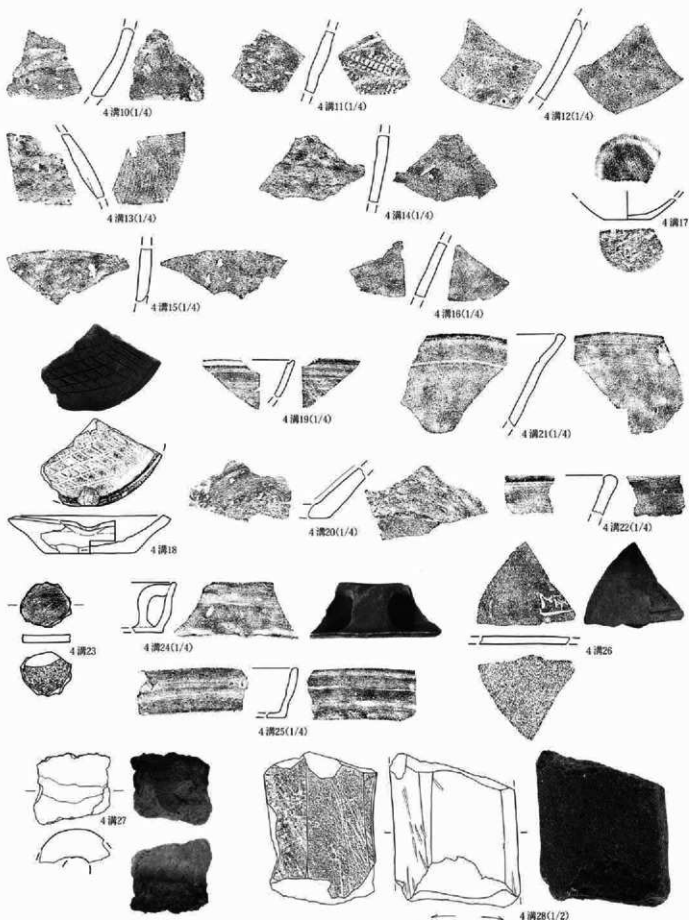
Ⅲ区3号溝



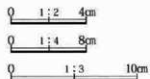
Ⅲ区4号溝



第80图 Ⅲ区2・3号井戸、2・3号溝出土遺物、4号溝出土遺物(1)

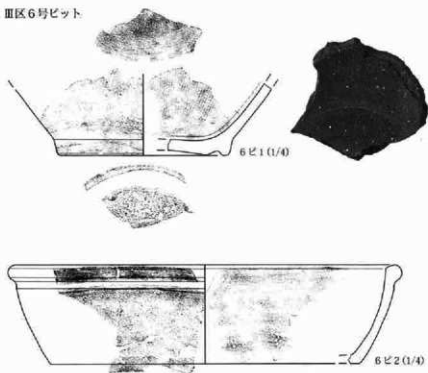


Ⅲ区2号ピット



第81図 Ⅲ区4号溝出土遺物(2)、2号ピット出土遺物

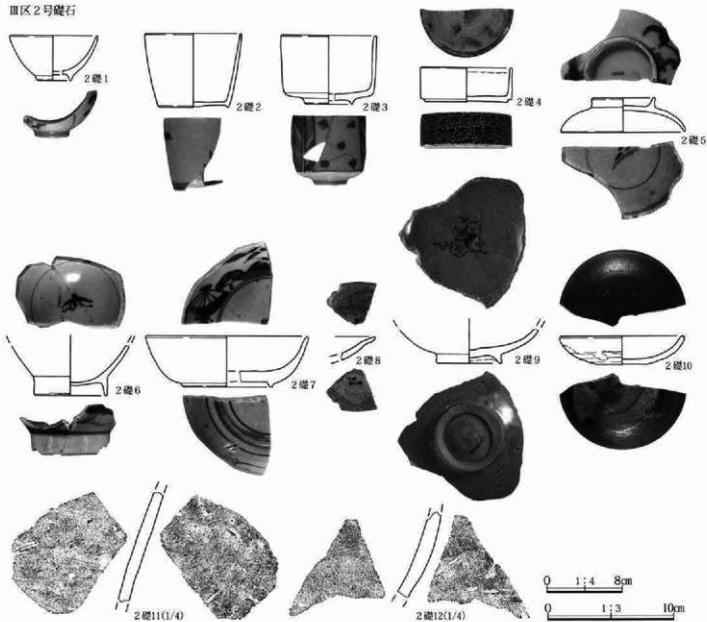
Ⅲ区6号ピット



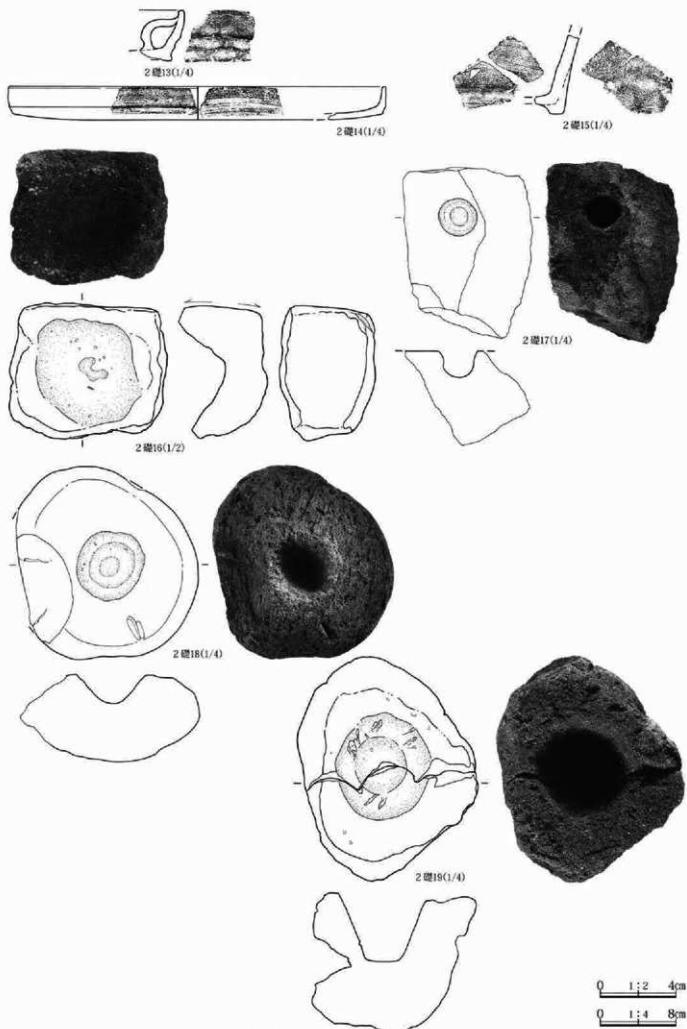
Ⅲ区1号礎石



Ⅲ区2号礎石

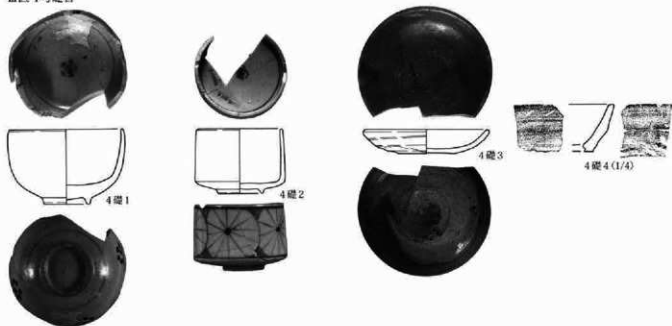


第82図 Ⅲ区6号ピット、1号礎石出土遺物、2号礎石出土遺物(1)

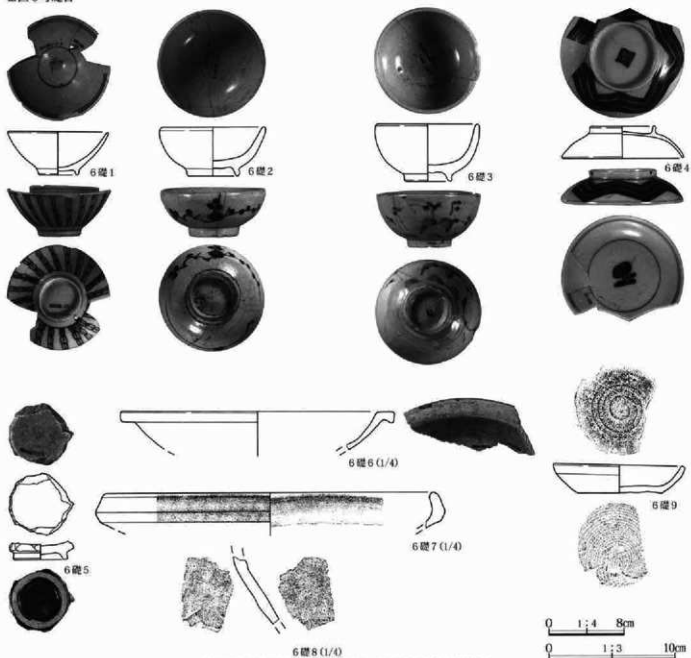


第83图 Ⅲ区2号砾石出土遗物(2)

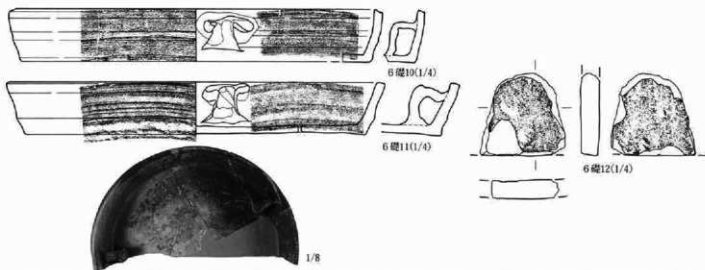
Ⅲ区4号礎石



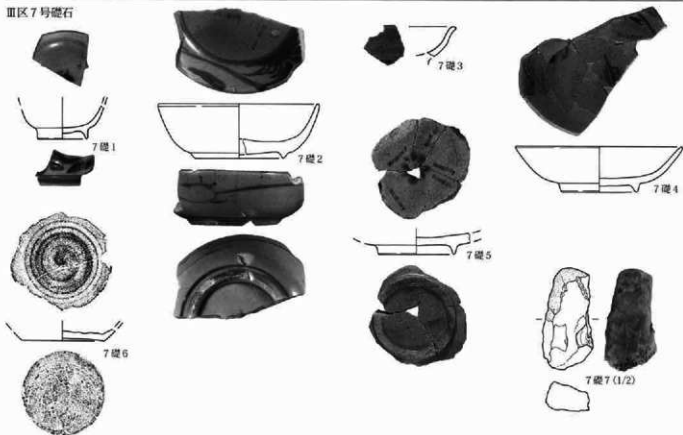
Ⅲ区6号礎石



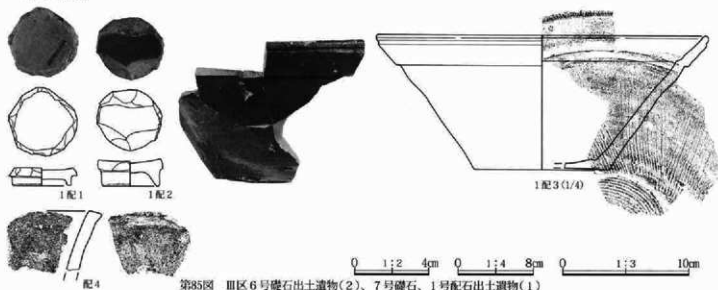
第84图 Ⅲ区4号礎石出土遺物、6号礎石出土遺物(1)



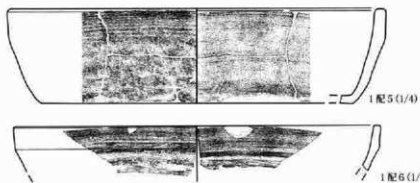
Ⅲ区7号磁石



Ⅲ区1号配石



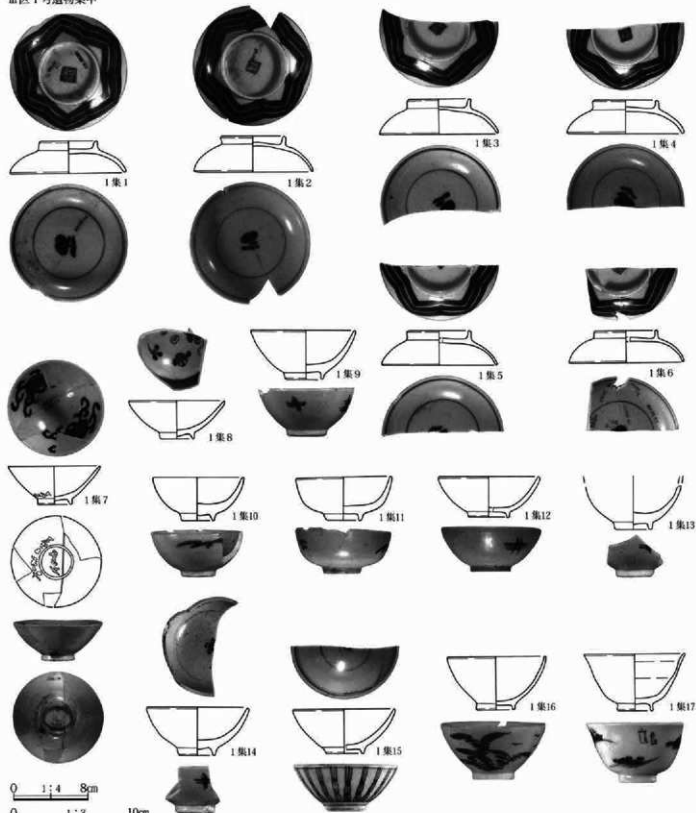
第85图 Ⅲ区6号磁石出土遗物(2)、7号磁石、1号配石出土遗物(1)



Ⅲ区2号配石

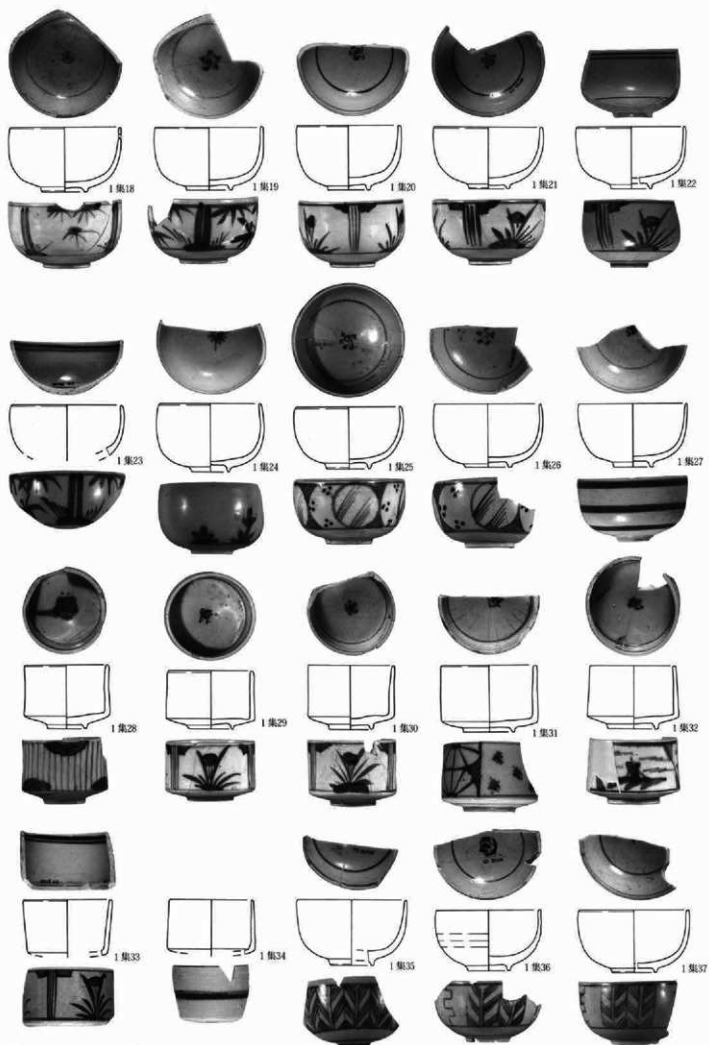


Ⅲ区1号遗物集中



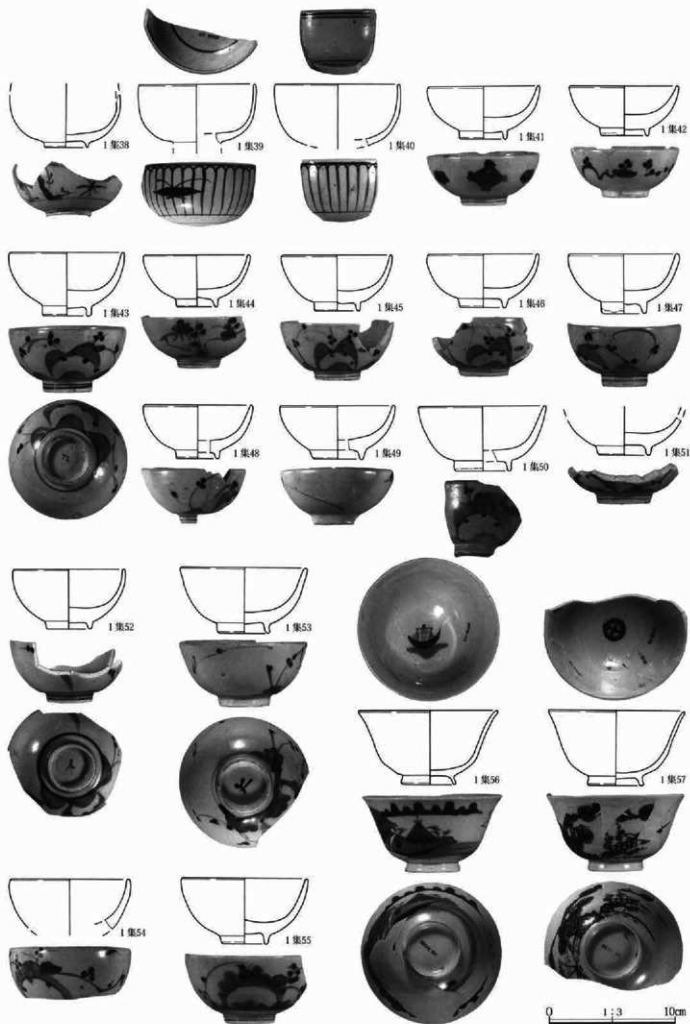
第86图 Ⅲ区1号配石出土遗物(2)、2号配石出土遗物、1号遗物集中圆所出土遗物(1)



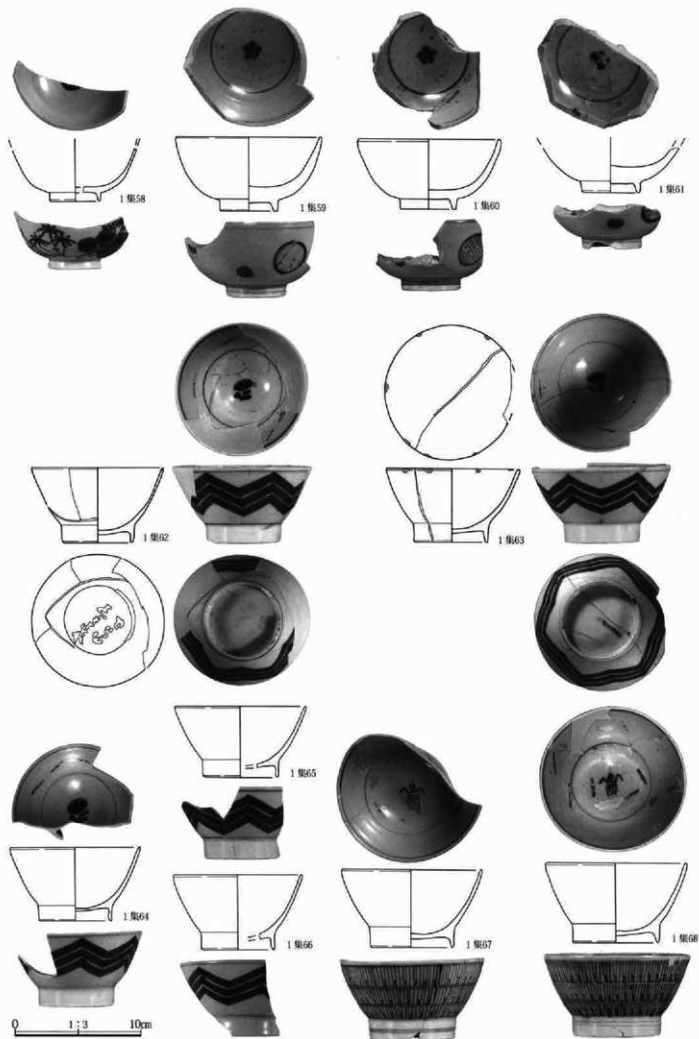


0 1:3 10cm

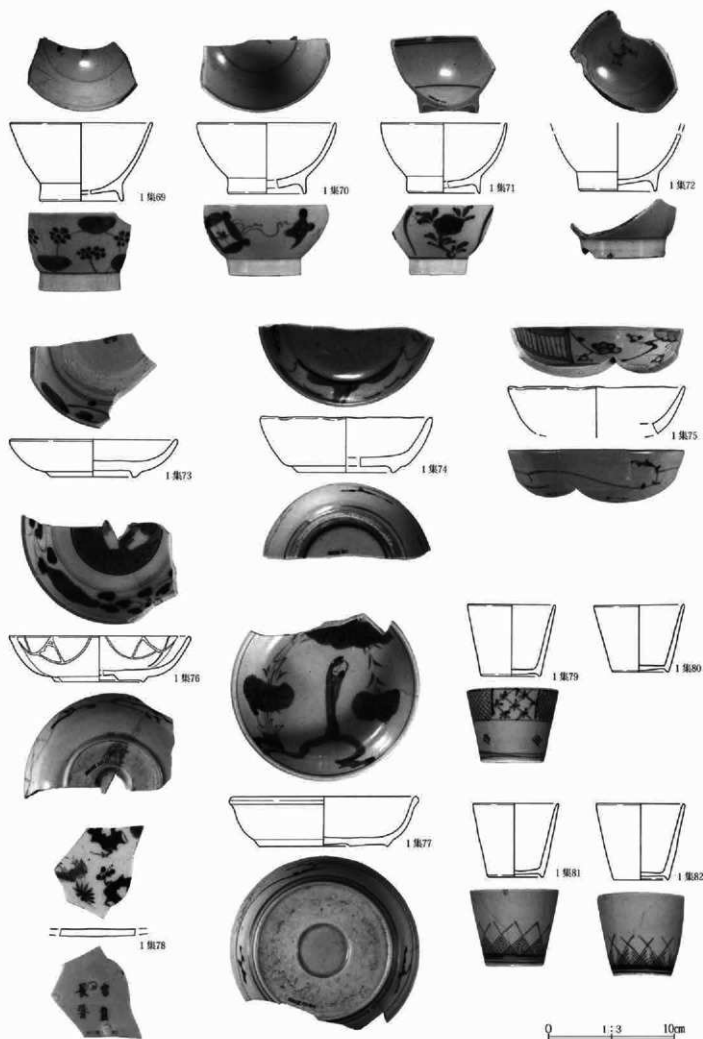
第87图 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(2)



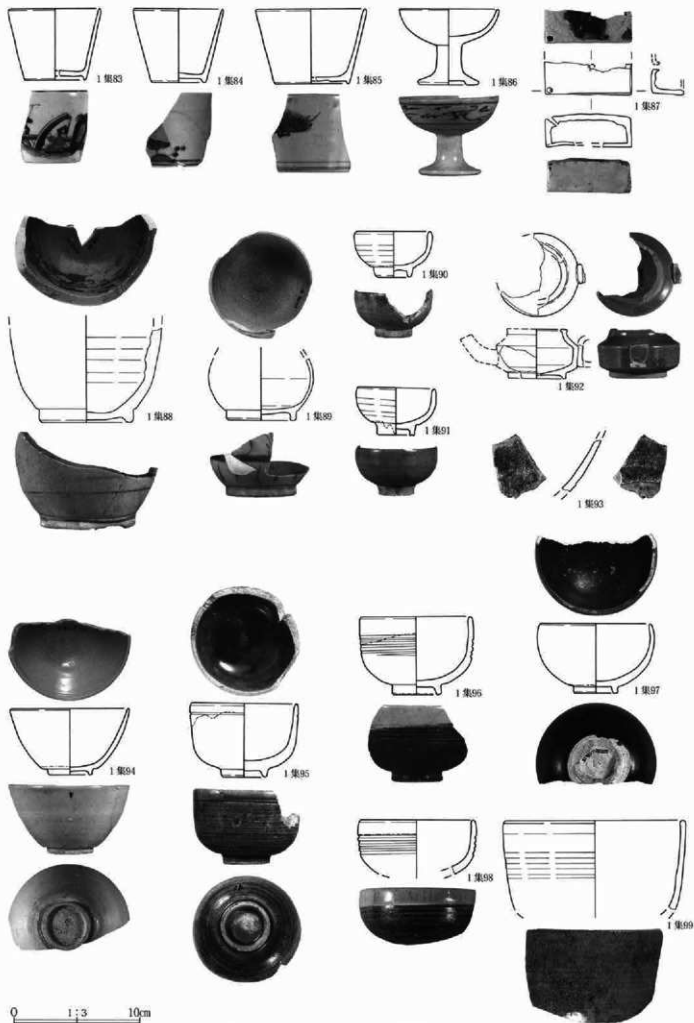
第88图 Ⅲ区1号遗物集中箇所出土土遺物(3)



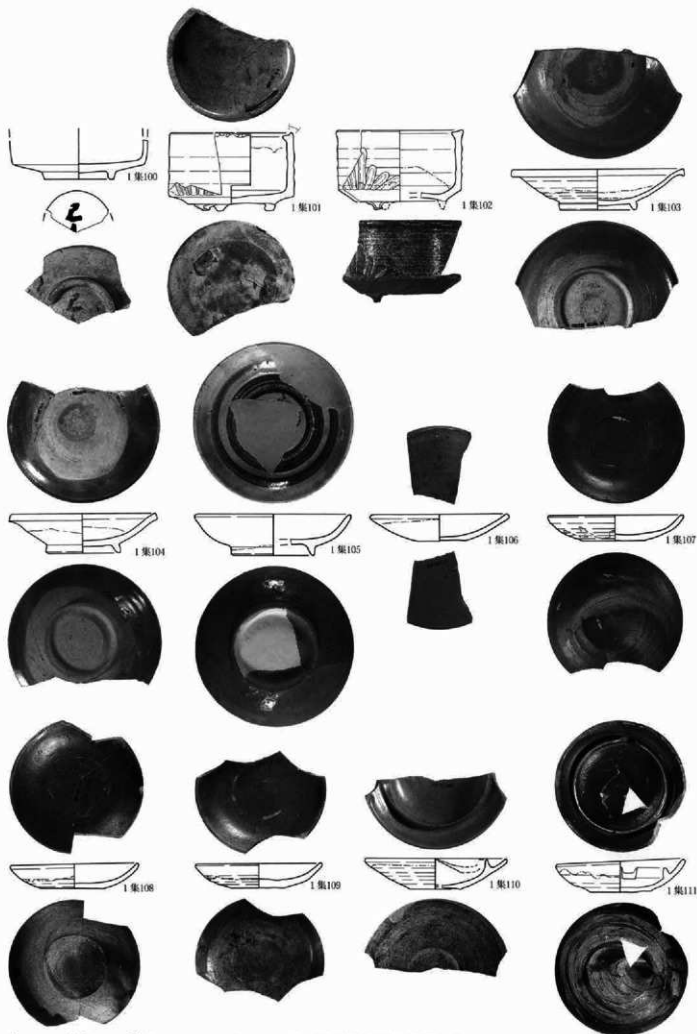
第89图 III区1号遗址集中出土器物(4)



第90图 Ⅲ区1号遺物集中圖所出土遺物(5)

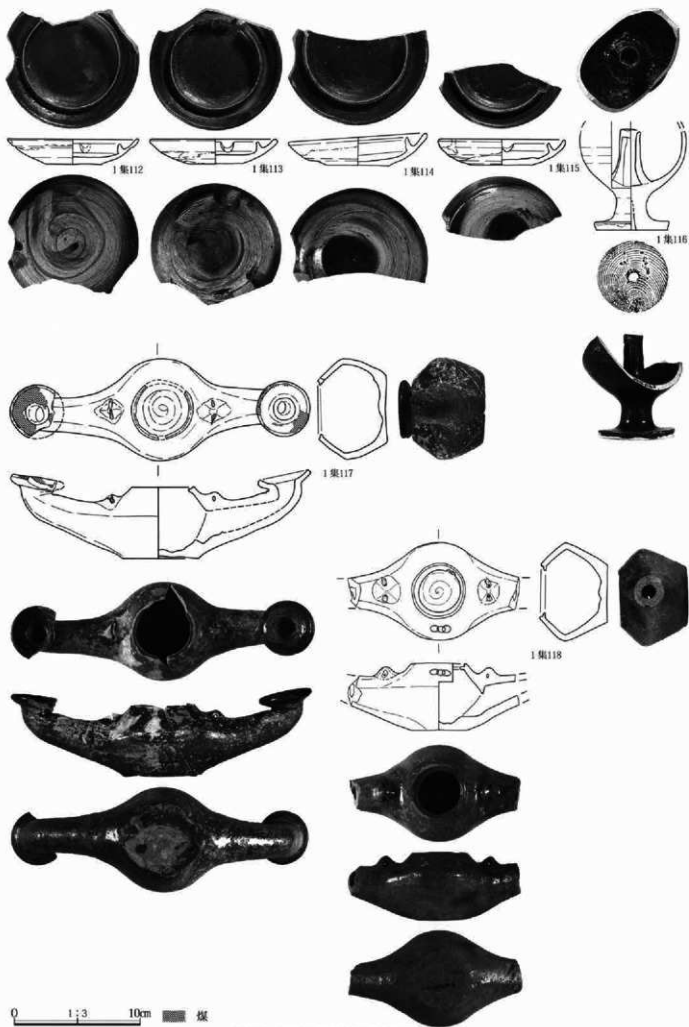


第91图 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(6)

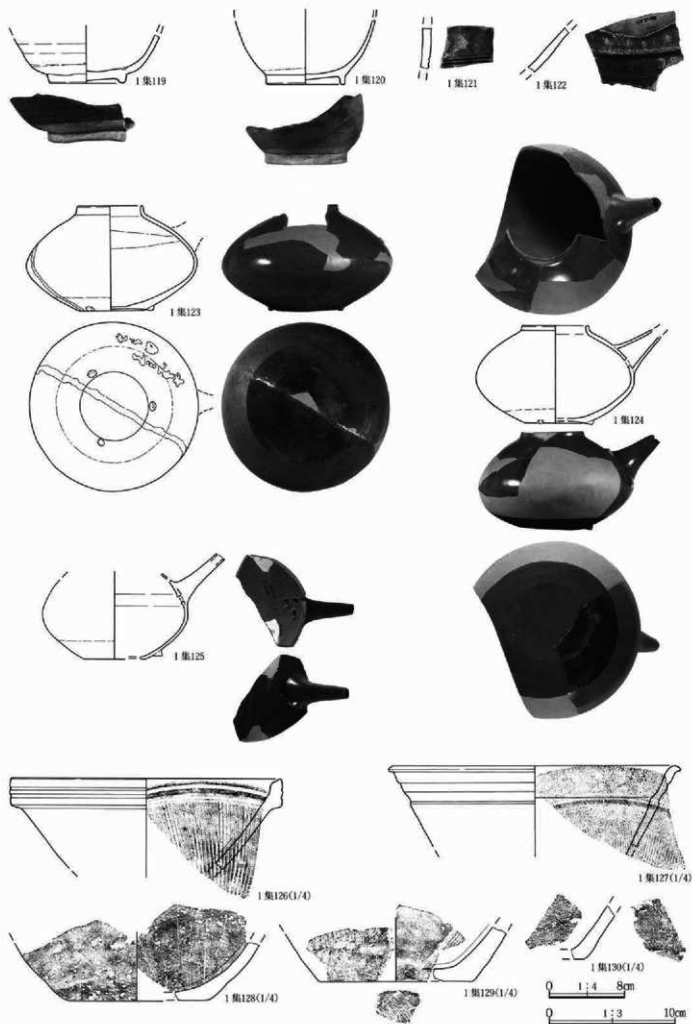


0 1:3 10cm

第92图 III区1号遺物集中箇所出土遺物(7)

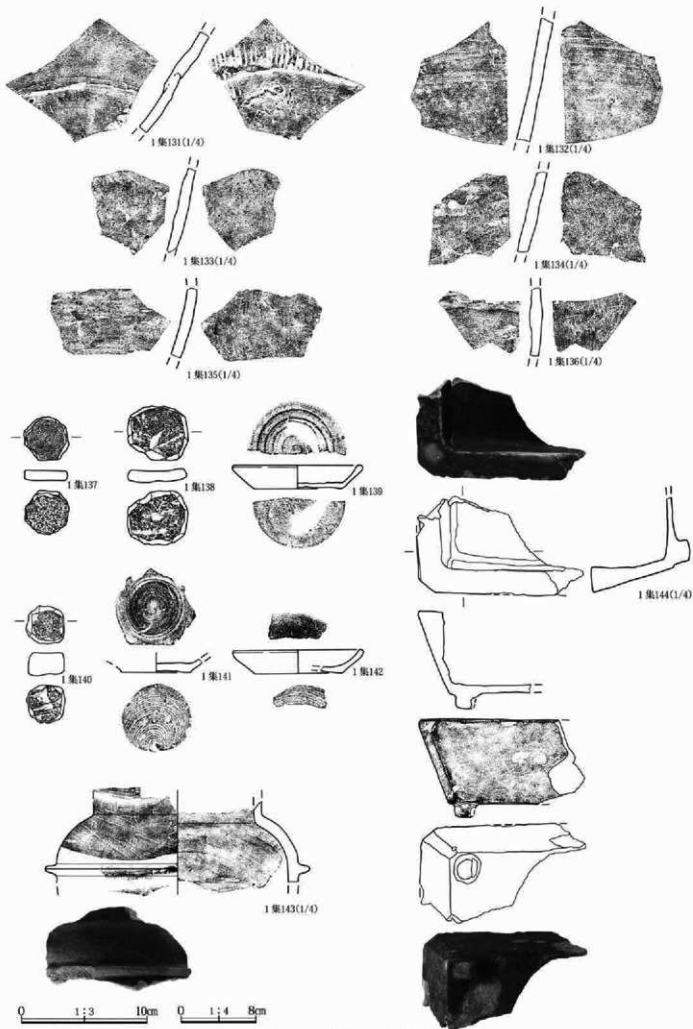


第93图 III区1号遗址集中出土遗物(8)

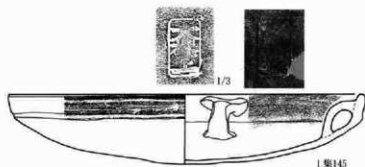


第94图 Ⅲ区1号遺物集中園所出土遺物(9)





第95图 Ⅲ区1号遗物集中箇所出土土遺物(10)



I 集145



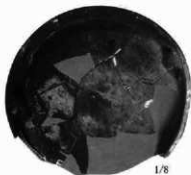
1/8



I 集146



I 集147



1/8



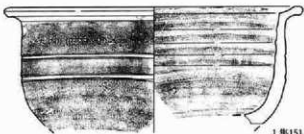
I 集148



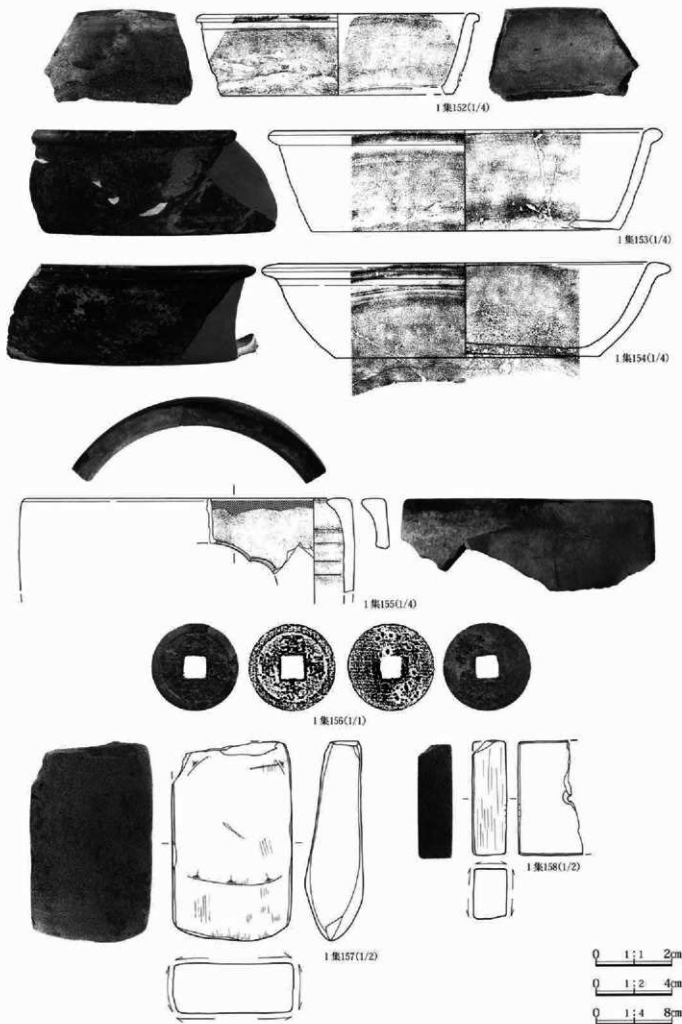
I 集149



I 集150

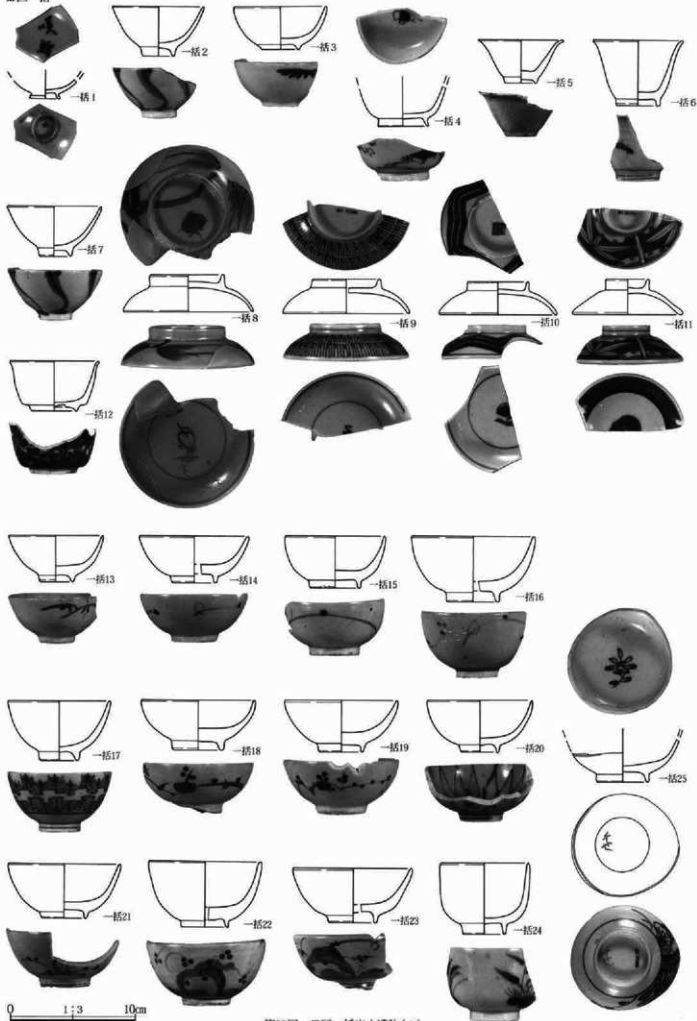


I 集151

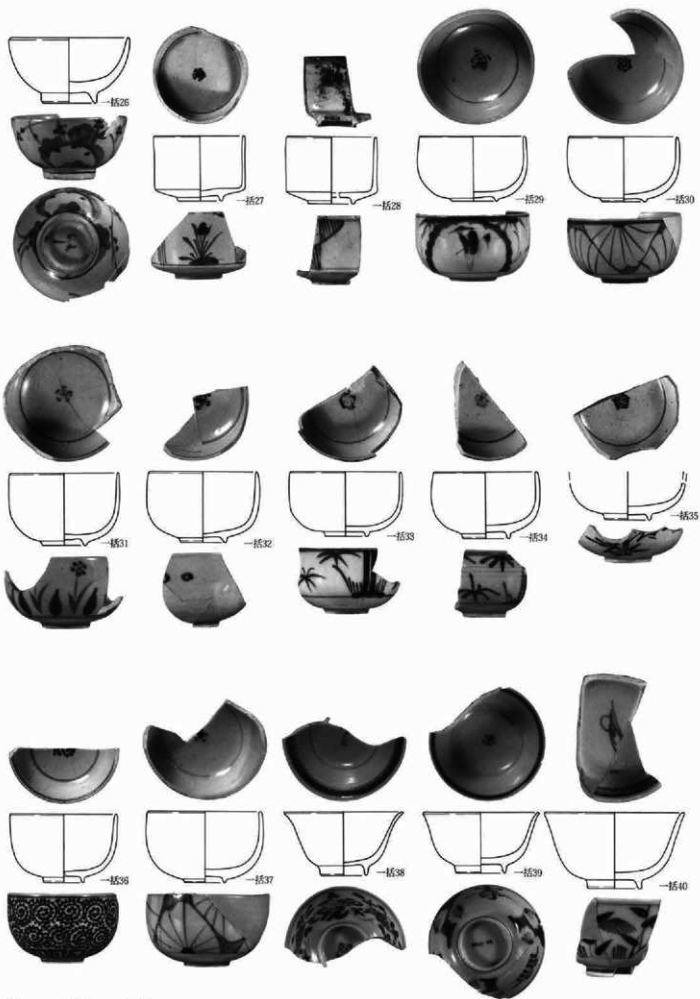


第97图 Ⅲ区1号遗物集中窟所出土遗物(12)

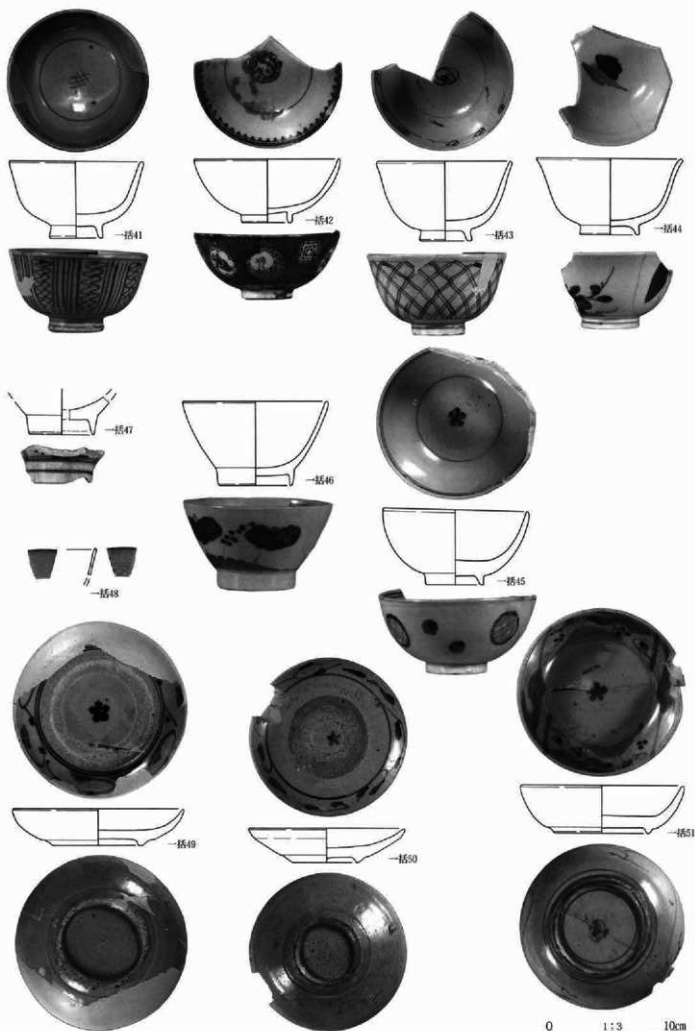
Ⅲ区—括



第98图 Ⅲ区—括出土遗物(1)



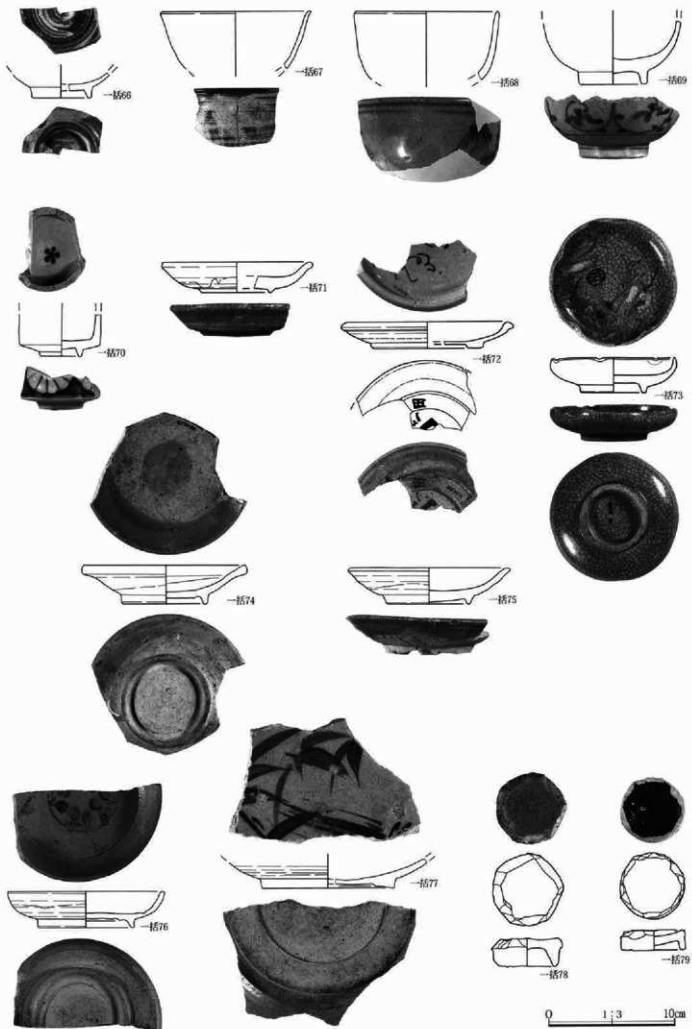
第99图 Ⅲ区—括出土遗物(2)



第100图 III区一括出土文物(3)

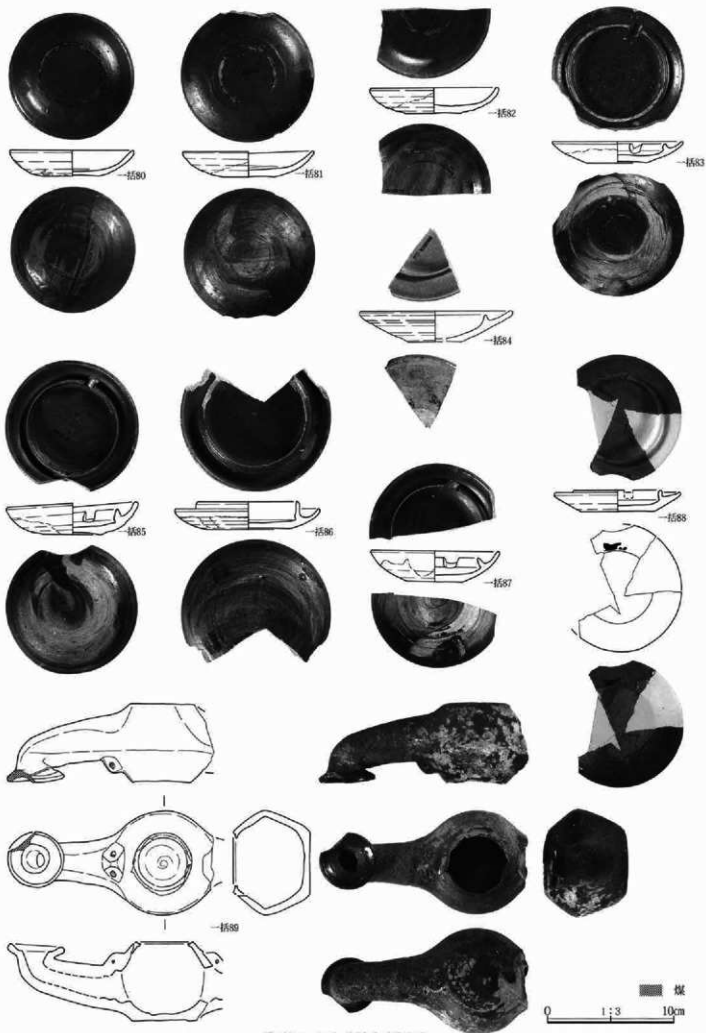


第101图 Ⅲ区一括出土物(4)

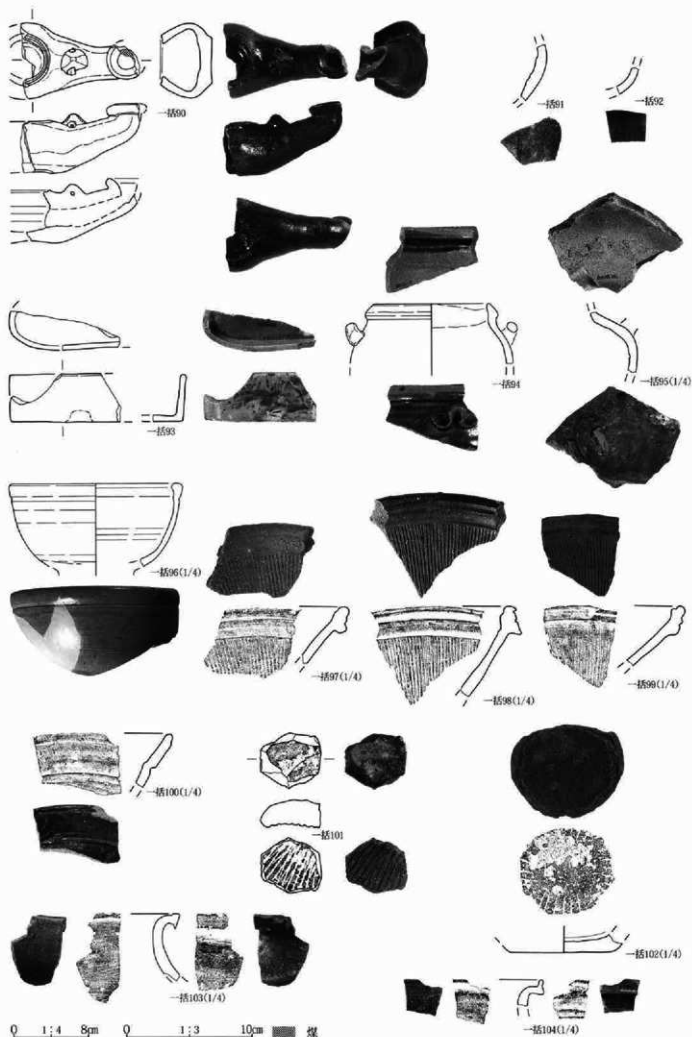


第102图 Ⅲ区一括出土遗物(5)

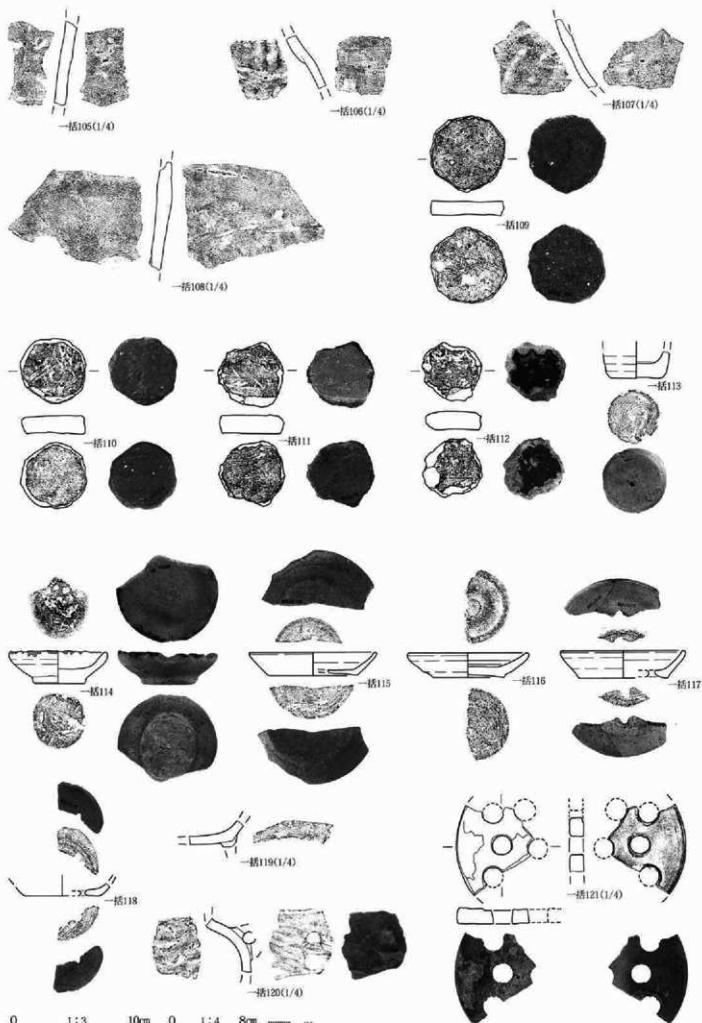




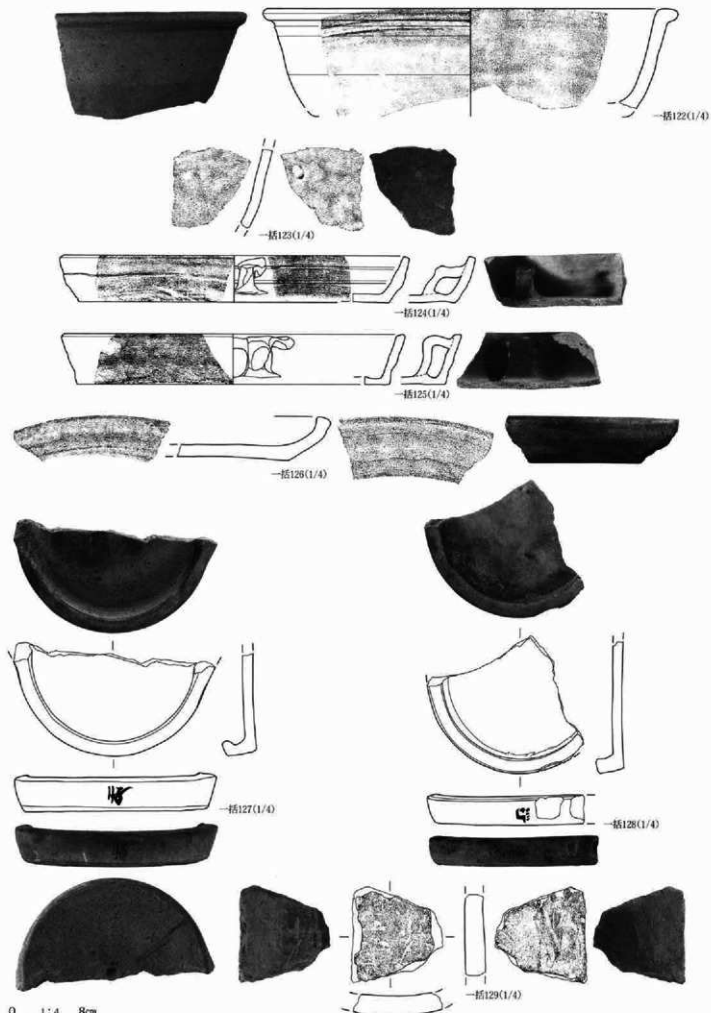
第103图 III区一括出土遺物(6)



第104图 Ⅲ区—括出土遺物(7)



第105图 Ⅲ区一括出土文物(8)



第106图 Ⅲ区一括出土遗物(9)



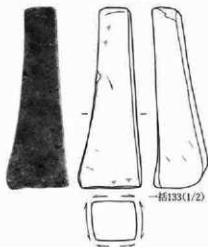
—插130(1/1)



—插131(1/1)



—插132(1/2)



—插133(1/2)

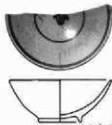
IV区 IV区2号土坑



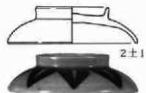
2±3



2±4



2±5



2±1



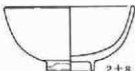
2±2



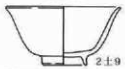
2±6



2±7



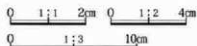
2±8



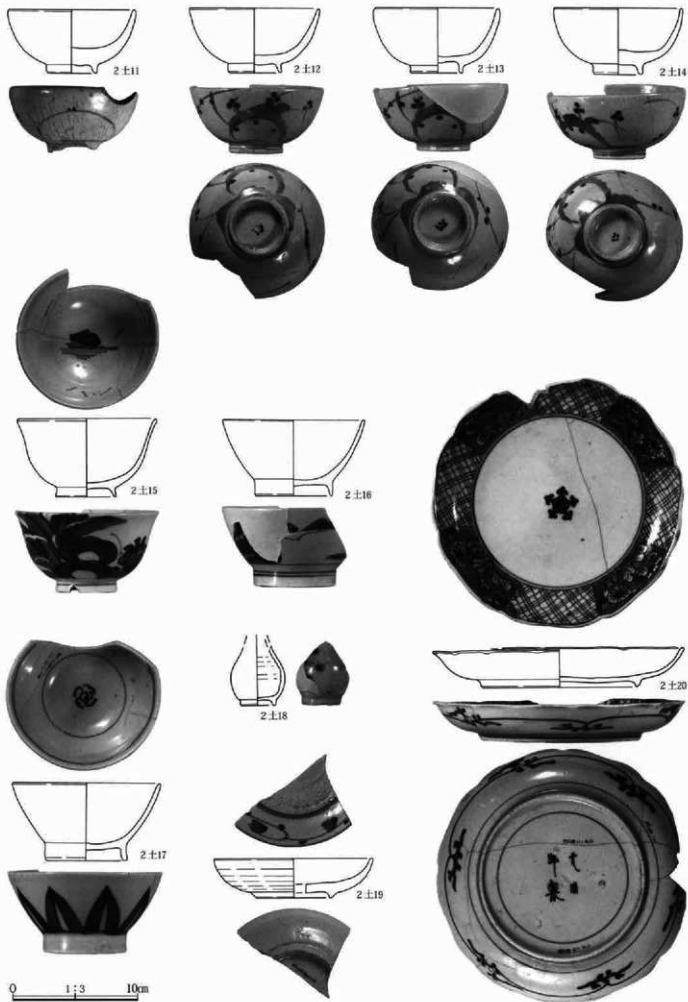
2±9



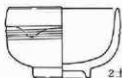
2±10



第107图 III区一插出土遗物(10)、IV区2号土坑出土遗物(1)



第108图 IV区2号土坑出土遗物(2)



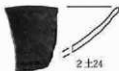
2 ± 22



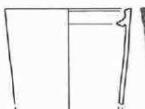
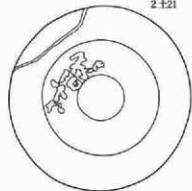
2 ± 23



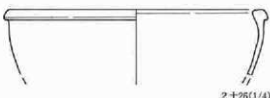
2 ± 21



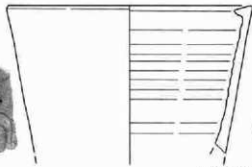
2 ± 24



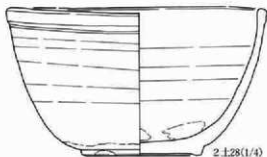
2 ± 25



2 ± 26(1/4)



2 ± 27(1/4)

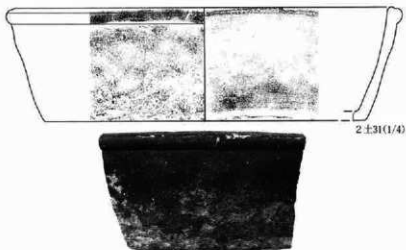
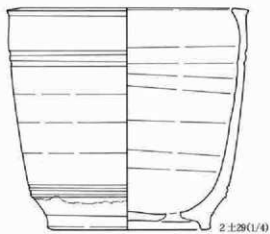


2 ± 28(1/4)

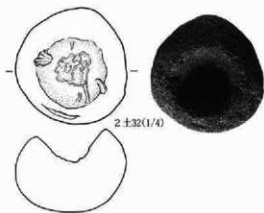
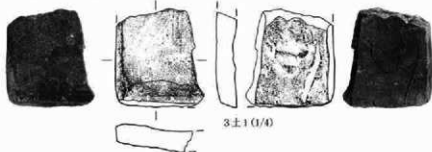


0 1:3 10cm 0 1:4 8cm

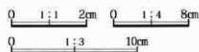
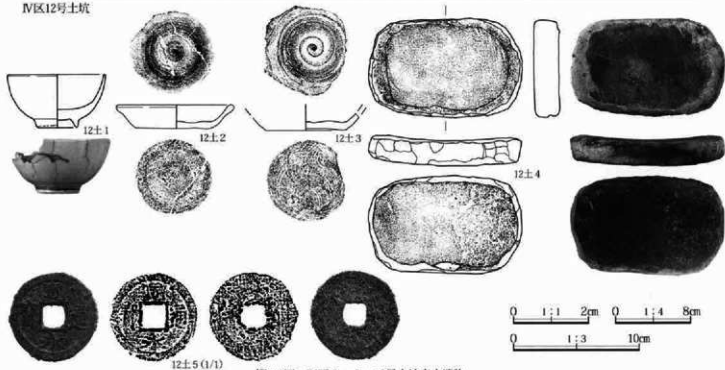
第109图 IV区2号土坑出土遗物(3)



IV区3号土坑



IV区12号土坑

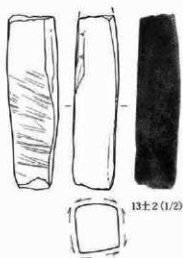




IV区13号土坑



13±1 (1/4)

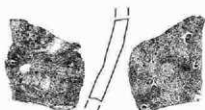


13±2 (1/2)

IV区18号土坑



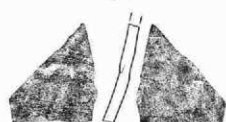
18±1



18±2 (1/4)



18±3 (1/4)



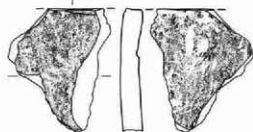
18±4 (1/4)



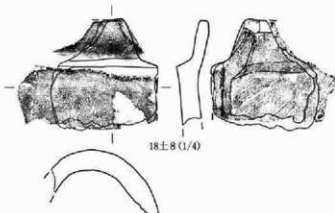
18±5 (1/4)



18±6 (1/4)



18±7 (1/4)



18±8 (1/4)

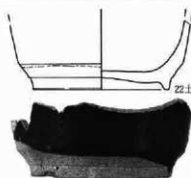
IV区22号土坑



22±1



22±2



22±3 (1/4)



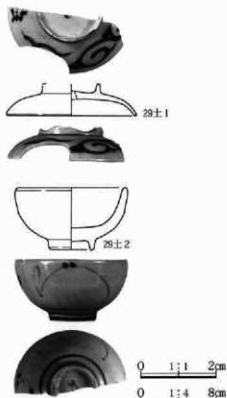
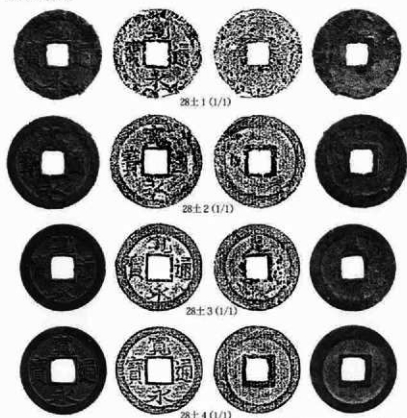
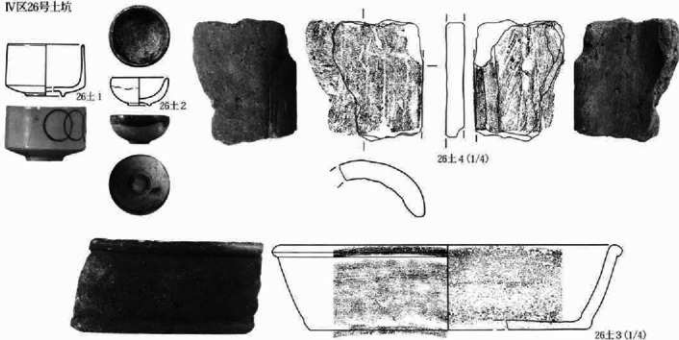
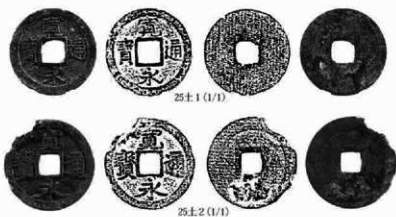
22±4 (1/4)



0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

第111图 IV区13·18·22号土坑出土遗物



第112图 IV区25·26·28号土坑出土遗物、29号土坑出土遗物(1)

0 1:3 10cm



第113图 IV区29号土坑出土遗物(2)



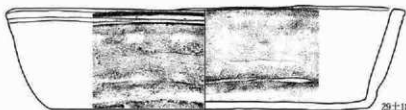
29±15(1/4)



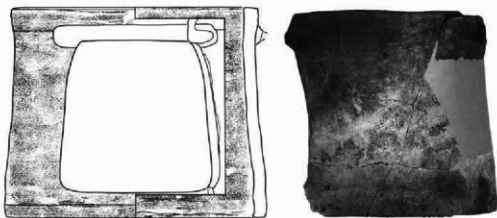
29±16(1/4)



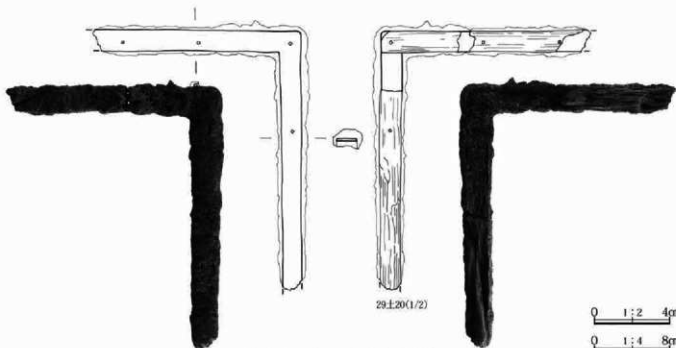
29±17(1/4)



29±18(1/4)



29±19(1/4)

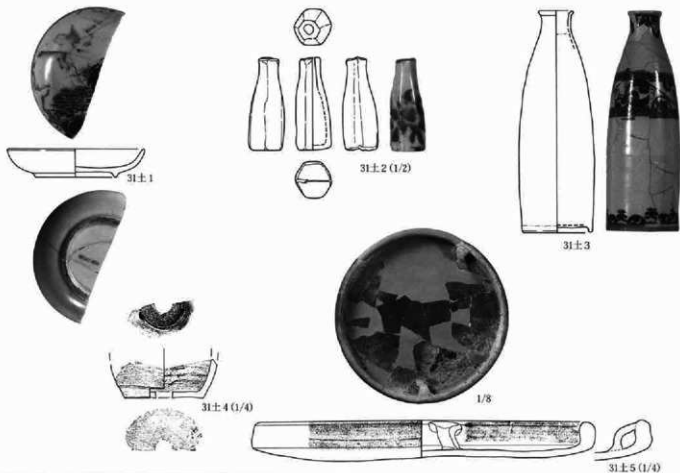


29±20(1/2)



第114图 IV区29号土坑出土器物(3)

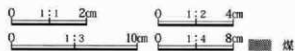
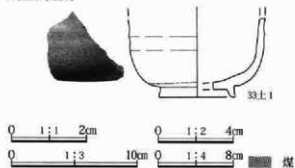
IV区31号土坑



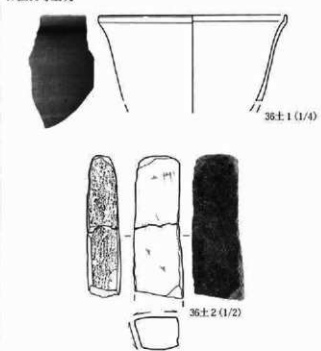
IV区32号土坑



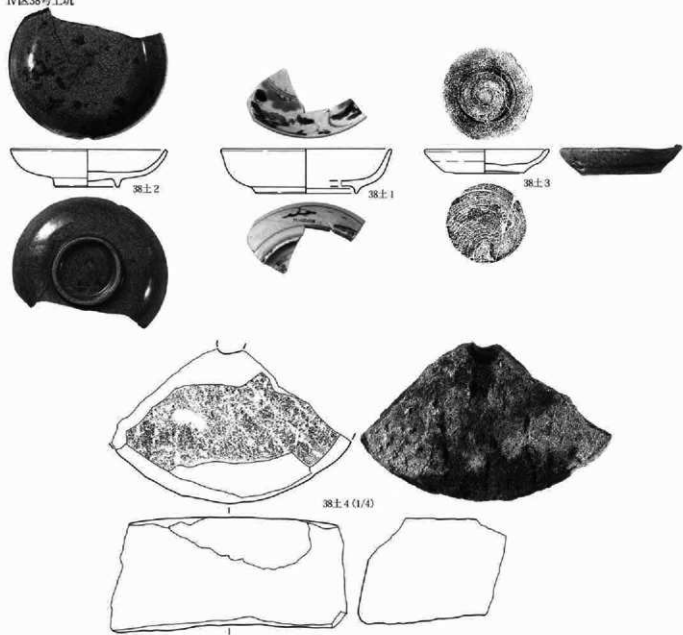
IV区33号土坑



IV区36号土坑



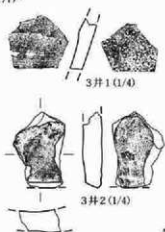
IV区38号土坑



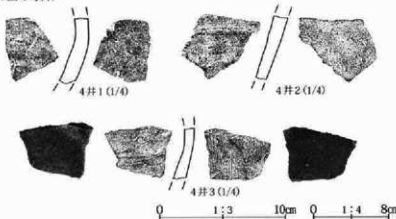
IV区1号井戸



IV区3号井戸



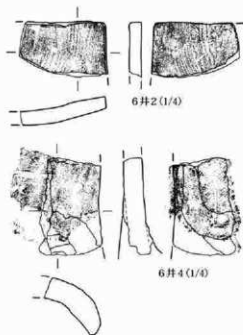
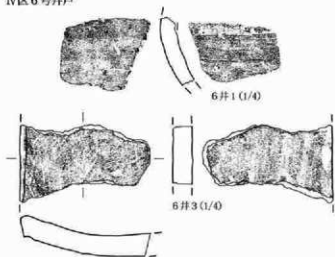
IV区4号井戸



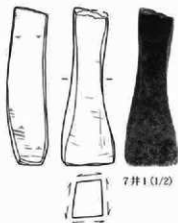
0 1:3 10cm 0 1:4 8cm

第116图 IV区38号土坑、1·3·4号井戸出土遺物

IV区6号井戸



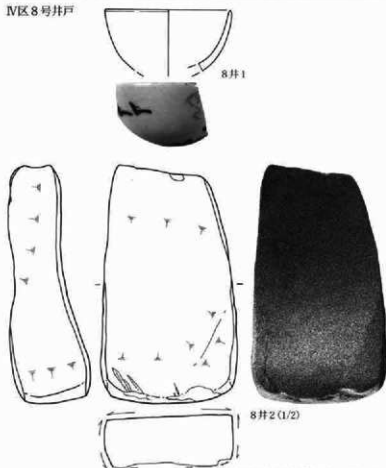
IV区7号井戸



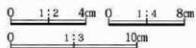
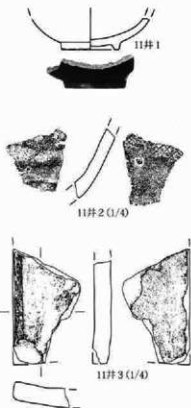
IV区10号井戸



IV区8号井戸

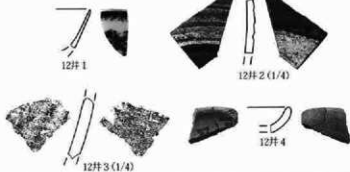


IV区11号井戸



第117图 IV区6~8·10·11号井戸出土遺物

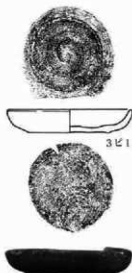
IV区12号井戸



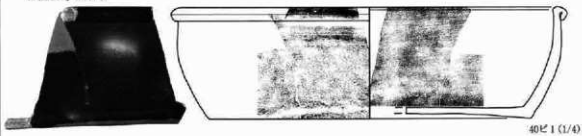
IV区13号井戸



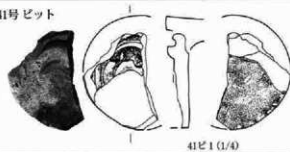
IV区3号ピット



IV区40号ピット



IV区41号ピット



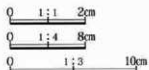
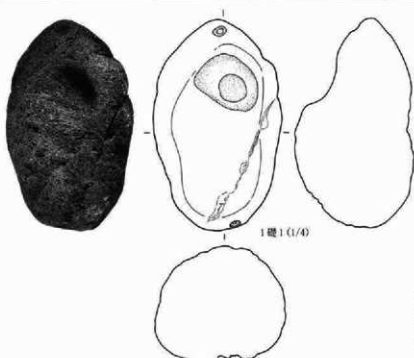
IV区70号ピット



IV区68号ピット



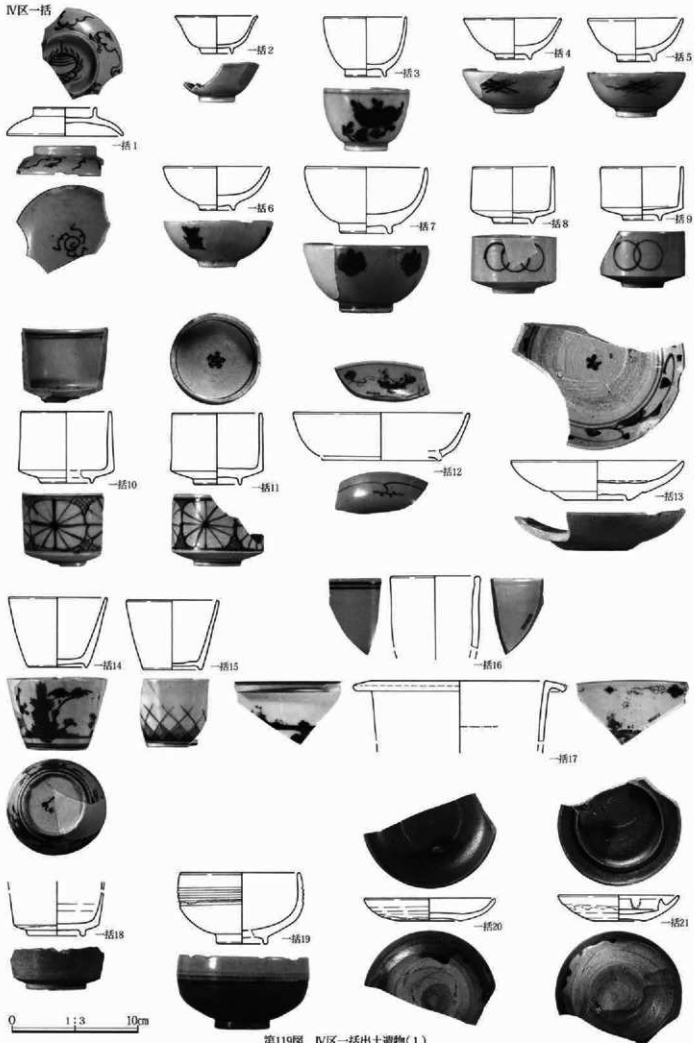
IV区1号礎石



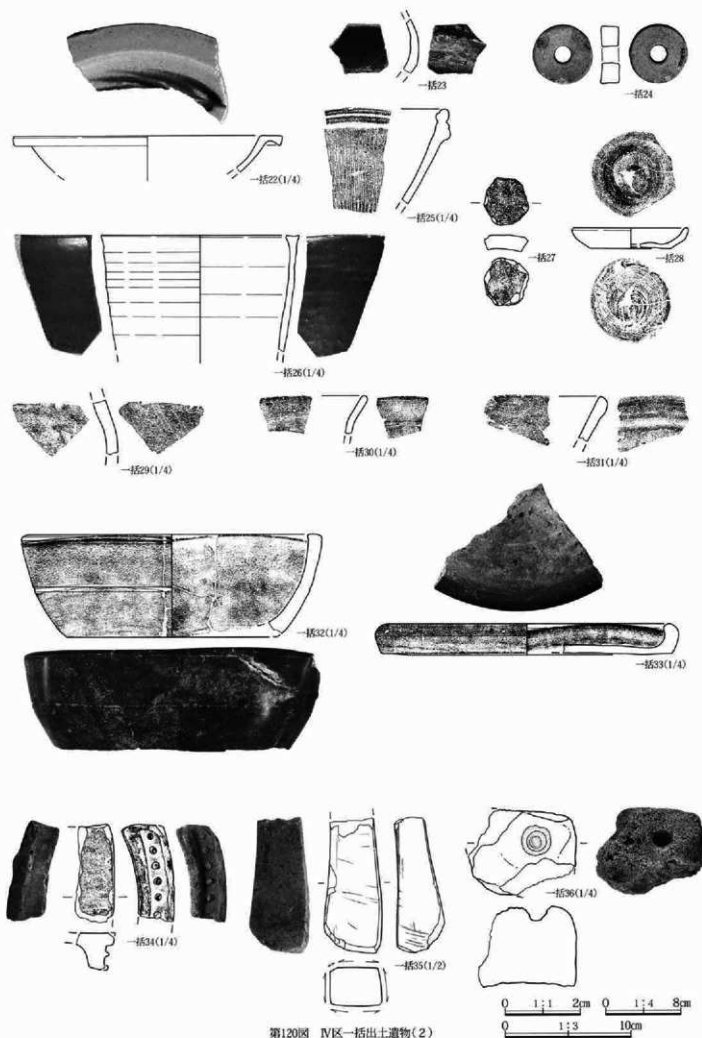
第118図 IV区12・13号井戸、3・40・41・68・70号ピット、1号礎石出土遺物



IV区一括



第119图 IV区一括出土遗物(1)



第120图 IV区—括出土遗物(2)



1. II-1区全景(北)



2. II-2区全景(南)



3. II-3区全景(北)



4. II-3区全景 北端(南)



5. II-4区全景(南)



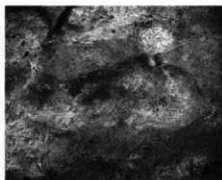
6. II-5区全景(北)



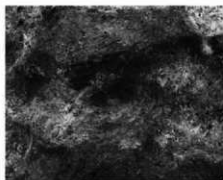
7. II-7区全景 西端(西)



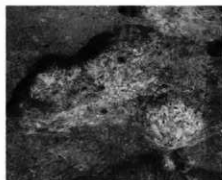
8. II-7区全景 東端(西)



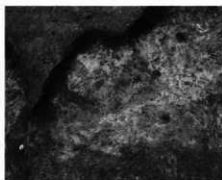
1. II-3区1号土坑全景(南)



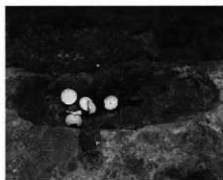
2. II-3区2号土坑全景(南)



3. II-3区3·5号土坑全景(南)



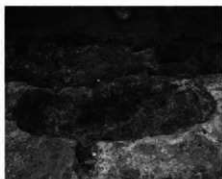
4. II-3区4号土坑全景(南)



5. II-3区6号土坑遺物出土狀況(東)



6. II-3区6号土坑土層断面(南)



7. II-3区6号土坑全景(東)



8. II-3区7号土坑全景(東)



9. II-3区7号土坑土層断面(南)



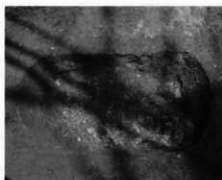
10. II-2区8号土坑土層断面(東)



11. II-5区9号土坑全景(西)



12. II-5区10号土坑全景(西)



13. II-4区11号土坑全景(南)



14. II-4区12号土坑全景·土層断面(南)



15. II-1区13号土坑全景(南)



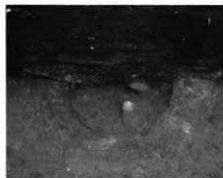
1. II-1区13号土坑土层断面(南)



2. II-6区16号土坑全景(北)



3. II-6区16号土坑土层断面(西)



4. II-7区17号土坑全景·土层断面(南)



5. II-7区18号土坑全景(西)



6. II-7区18号土坑土层断面(北)



7. II-7区19号土坑全景(西)



8. II-7区19号土坑土层断面(西)



9. II-7区20号土坑全景·土层断面(北)



10. II-7区21号土坑土层断面(北)



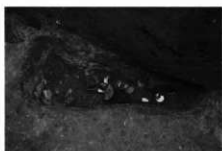
11. II-7区22号土坑全景(北)



12. II-7区21号土坑土层断面(南)



13. II-7区24号土坑遗物出土状况(南西)



14. II-7区24号土坑遗物出土状况(南西)



15. II-7区24号土坑全景(南西)



1. II-6区25号土坑土层断面(东)



2. II-6区26号土坑土层断面(南)



3. II-7区27号土坑全景(北)



4. II-7区28号土坑全景·土层断面(南)



5. II-2区1号井户全景(北)



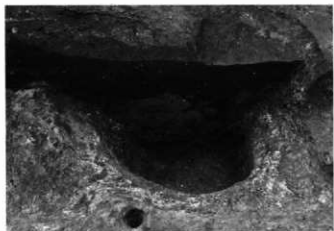
6. II-2区1号井户土层断面(南)



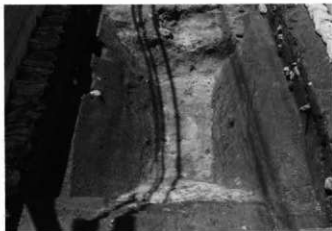
7. II-2区2号井户全景(北)



8. II-2区2号井户土层断面(西)



1. II-1区3号井戸全景・土層断面(西)



2. II-3区1号溝全景(北)



3. II-3区1号溝土層断面(東)



4. II-3区2号溝全景(南)



5. II-1区3号溝全景(北)



6. II-1区3号溝土層断面(北)



7. II-2区3号溝全景(北)



8. II-2区3号溝土層断面(北)



1. II-3区3号溝南部全景(北)



3. II-3区3号溝土層断面(南)



2. II-3区3号溝北部全景(北)



4. II-4区3号溝全景(南)



5. II-5区3号溝全景(南)



6. II-7区5号溝全景・土層断面(東)

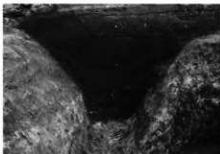


7. II-7区6・7号溝全景(東)





1. II-7区8号溝全景(西)



2. II-6区8号溝土層断面(西)



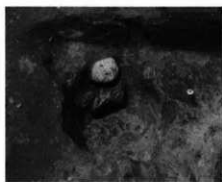
3. II-7区9号溝全景(北)



4. II-7区9号溝全景(西)



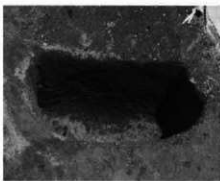
5. II-7区9号溝土層断面(西)



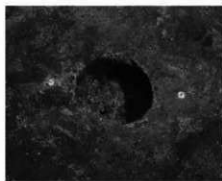
6. II-3区1号ピット全景(南)



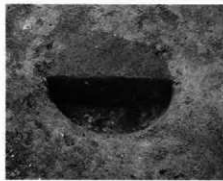
7. II-3区1号ピット土層断面(東)



8. II-3区2号ピット全景・土層断面(南西)



9. II-5区3号ピット全景(東)



10. II-5区3号ピット土層断面(東)



11. II-7区4.5号ピット全景・土層断面(北)



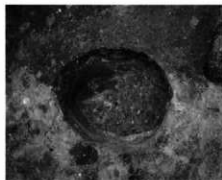
12. II-7区6号ピット全景・土層断面(北)



13. II-7区7号ピット全景・土層断面(南)



14. II-7区8号ピット全景(北)



15. II-7区9号ピット全景(北)



1. II-6区1号地下式抗全景(南西)



2. II-3区1号竪穴状遺構遺物出土状況(東)



3. II-3区1号竪穴状遺構全景(北)



4. II-4区2号竪穴状遺構全景(東)



5. II-4区2号竪穴状遺構土層断面(南)



6. II-6区1号礎石全景(南)



7. III-1区全景(北)



8. III-1区土層断面(南)



1. III-2区全景(南西)



2. III-3区全景(南)



3. III-4区全景(南)



4. III-5区全景西端(南)



5. III-5区全景(南東)



6. III-5区全景(北西)



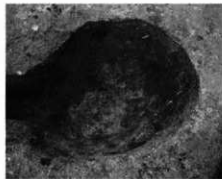
7. III-5区全景(南東)



1. III-5区1号土坑全景(北東)



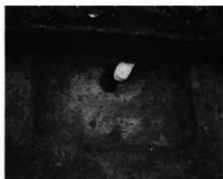
2. III-5区1号土坑土層断面(東)



3. III-5区2号土坑全景(北西)



4. III-5区2号土坑土層断面(東)



5. III-5区3号土坑全景(北)



6. III-5区3号土坑土層断面(南西)



7. III-5区4号土坑全景·遺物出土状況(北東)



8. III-5区4号土坑土層断面(南東)



9. III-5区5号土坑全景·土層断面全景(北東)



10. III-5区6号土坑土層断面(南東)



11. III-3区7号土坑全景(東)



12. III-3区7号土坑土層断面(東)



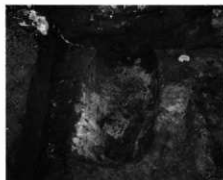
13. III-3区8号土坑全景(南東)



14. III-3区8号土坑土層断面(東)



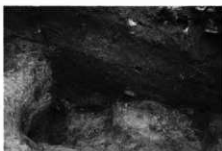
15. III-5区9号土坑全景(西)



1. III-3区10号土坑全景(東)



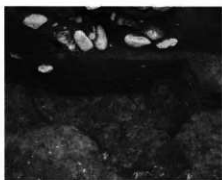
2. III-3区10号土坑土層断面(東)



3. III-5区11号土坑全景(南西)



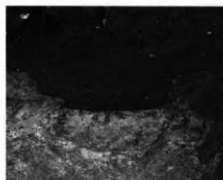
4. III-5区11号土坑土層断面(南西)



5. III-5区12号土坑全景·土層断面(南西)



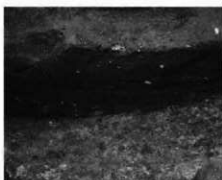
6. III-5区13号土坑全景·土層断面(北)



7. III-5区14号土坑全景·遺物出土狀況(北西)



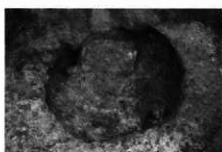
8. III-5区15号土坑全景(南西)



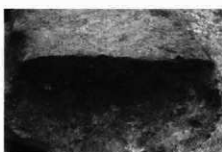
9. III-5区15号土坑土層断面(南西)



10. III-5区16号土坑全景·土層断面(北東)



11. III-5区17号土坑全景(南)



12. III-5区17号土坑土層断面(北西)



13. III-5区18号土坑全景·土層断面(北西)



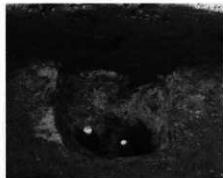
14. III-5区19号土坑全景(南西)



15. III-2区20号土坑全景(東)



1. III-2区21号土坑全景·土層断面(東)



2. III-2区22号土坑遺物出土狀況(東)



3. III-2区22号土坑全景·土層断面(東)



4. III-2区23·24号土坑全景(南)



5. III-2区23·25号土坑全景(北西)



6. III-2区23·25号土坑土層断面(南)



7. III-5区27号土坑全景(南西)



8. III-5区28·29号土坑全景(南西)



9. III-4区30号土坑全景(南東)



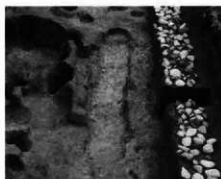
10. III-4区30号土坑土層断面(東)



11. III-4区31·58号土坑全景(西)



12. III-4区31号土坑土層断面(東)



13. III-5区32号土坑全景(東)



14. III-5区32号土坑土層断面(南東)



15. III-4区33·37号土坑全景(南東)



1. Ⅲ-4区34号土坑全景(南東)



2. Ⅲ-4区34号土坑土層断面(西)



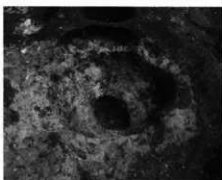
3. Ⅲ-4区35号土坑土層断面(西)



4. Ⅲ-4区36号土坑全景(北西)



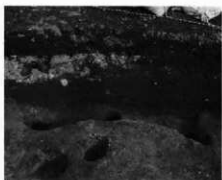
5. Ⅲ-4区36号土坑土層断面(南)



6. Ⅲ-4区38号土坑全景(西)



7. Ⅲ-4区38号土坑土層断面(西)



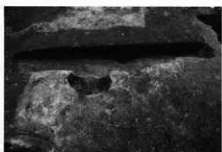
8. Ⅲ-4区40·41号土坑全景(南西)



9. Ⅲ-4区42·44~46号土坑全景(北西)



10. Ⅲ-4区42号土坑土層断面(南西)



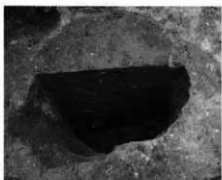
11. Ⅲ-4区44号土坑全景(南東)



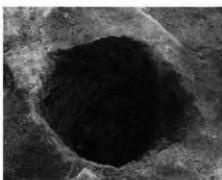
12. Ⅲ-4区46号土坑土層断面(南東)



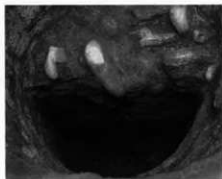
13. Ⅲ-4区47号土坑全景(西)



14. Ⅲ-4区47号土坑土層断面(南東)



15. Ⅲ-4区47号土坑罐下全景(西)



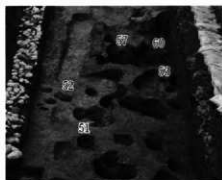
1. Ⅲ-4区47号土坑井下土层断面(南)



2. Ⅲ-4区48号土坑全景(南西)



3. Ⅲ-4区50号土坑全景·土层断面(南東)



4. Ⅲ-5区51~54·57·60号土坑全景(北西)



5. Ⅲ-5区51号土坑土层断面(南西)



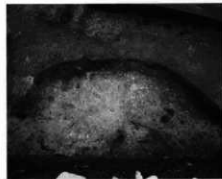
6. Ⅲ-5区52号土坑土层断面(南東)



7. Ⅲ-5区53号土坑土层断面(北東)



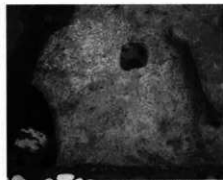
8. Ⅲ-5区54号土坑土层断面(北東)



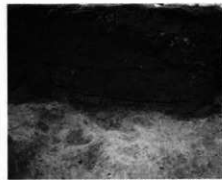
9. Ⅲ-5区55号土坑全景(北東)



10. Ⅲ-5区55号土坑土层断面(南西)



11. Ⅲ-5区56号土坑全景(北東)



12. Ⅲ-5区56号土坑土层断面(南西)



13. Ⅲ-5区57号土坑全景·土层断面(南西)



14. Ⅲ-1区58号土坑土层断面(北)



15. Ⅲ-5区60号土坑土层断面(北西)

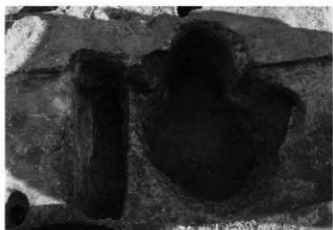




1. III-5区1号井戸全景(北西)



2. III-5区1号井戸土層断面(北東)



3. III-4区2号井戸全景(北西)



4. III-4区2号井戸土層断面(南東)



5. III-4区3号井戸全景(南東)



6. III-4区3号井戸土層断面(北東)



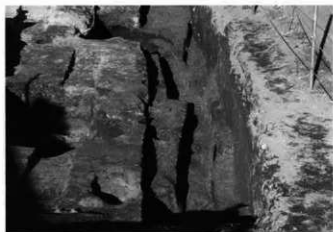
7. III-5区1号溝全景(北)



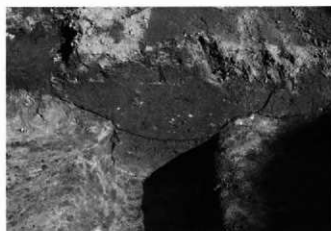
8. III-3区3号溝全景(南西)



1. III-3区3号溝土層断面(南西)



2. III-4区3号溝全景(南西)



3. III-4区3号溝土層断面(南西)



4. III-2区4号溝全景(南西)



5. III-3区4号溝土層断面A-A'(南西)



6. III-3区4号溝土層断面B-B'(北東)



7. III-4区5号溝全景(南東)



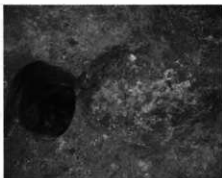
8. III-4区5号溝土層断面(南)



1. III-5区2号ピット全景・土層断面(北)



2. III-5区3号ピット全景・土層断面(東)



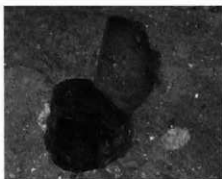
3. III-5区5号ピット全景(北西)



4. III-5区5号ピット土層断面(北西)



5. III-5区6号ピット土層断面(西)



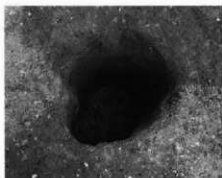
6. III-4区7・18号ピット全景(北西)



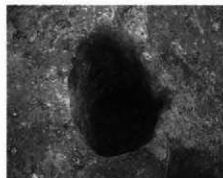
7. III-4区8・9号ピット全景(北西)



8. III-4区10号ピット全景(南東)



9. III-4区12号ピット全景(南)



10. III-4区13号ピット全景(北西)



11. III-4区13号ピット土層断面(南)



12. III-4区ピット群(北西)



13. III-5区21号ピット土層断面(北)



14. III-5区22号ピット土層断面(西)



15. III-5区23号ピット土層断面(南)



1. III-5区24号ピット土層断面(北西)



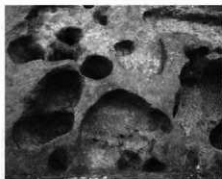
2. III-5区25号ピット土層断面(南東)



3. III-5区26号ピット土層断面(北西)



4. III-4区27号ピット土層断面(北西)



5. III-5区ピット群全景(東)



6. III-5区1号礎石全景(北東)



7. III-5区1号礎石土層断面(北東)



8. III-5区1号礎石石組み状況(南)



9. III-5区2号礎石全景(東)



10. III-5区2号礎石全景(南西)



11. III-5区2号礎石土層断面(西)



12. III-4区3~7号礎石全景(南)



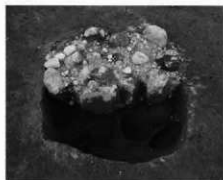
13. III-4区3・4号礎石土層断面(北西)



14. III-4区3号礎石土層断面(北西)



15. III-4区4号礎石全景(北西)



1. Ⅲ-4区4号礎石土層断面(東)



2. Ⅲ-4区5号礎石全景(北東)



3. Ⅲ-4区5号礎石土層断面(南東)



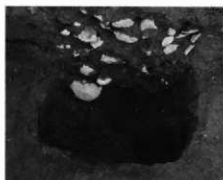
4. Ⅲ-4区6号礎石全景(北西)



5. Ⅲ-4区6号礎石土層断面(東)



6. Ⅲ-4区7号礎石全景(西)



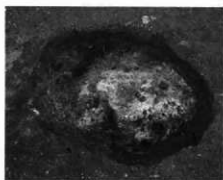
7. Ⅲ-4区7号礎石土層断面(東)



8. Ⅲ-4区8号礎石全景(西)



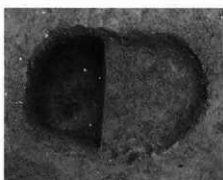
9. Ⅲ-3区1号配石全景(西)



10. Ⅲ-3区1号配石完掘後全景(西)



11. Ⅲ-3区2号配石全景(西)



12. Ⅲ-3区2号配石完掘後全景(西)



13. Ⅳ-1区全景(南)



14. Ⅳ-2区全景(北東)



15. Ⅳ-3区北東端全景(北東)



1. IV-3区西端全景(西)



2. IV-3区西全景(東)



3. IV-3区中央全景(南)



4. IV-5区全景(東)



5. IV-4区全景(東)



6. IV-3区1号土坑全景・土層断面(南)



7. IV-5区2号土坑全景(南)



1. IV-3区4号土坑全景·土層断面(東)



2. IV-1区5号土坑全景·土層断面(東)



3. IV-1区6号土坑全景·土層断面(東)



4. IV-1区7号土坑全景·土層断面(東)



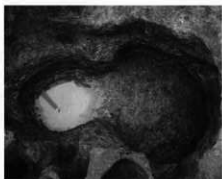
5. IV-1区8号土坑全景·土層断面(東)



6. IV-1区9号土坑全景(南)



7. IV-1区10号土坑全景·土層断面(東)



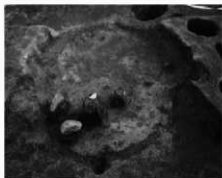
8. IV-1区11号土坑全景(南西)



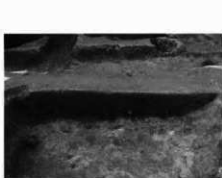
9. IV-1区11号土坑·5号井戸土層断面(北)



10. IV-1区11号土坑底部付近土層断面(南西)



11. IV-1区12号土坑全景(北西)



h12. IV-1区12号土坑土層断面(北西)



13. IV-1区13号土坑土層断面(西)



14. IV-4区14号土坑全景(南西)



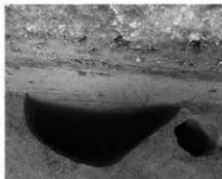
15. IV-4区15号土坑全景·土層断面(東)



1. IV-4区16号土坑全景(北)



2. IV-4区16号土坑土层断面(北東)



3. IV-4区17号土坑土层断面(北)



4. IV-4区18号土坑土层断面(南西)



5. IV-3区21号土坑全景(南東)



6. IV-3区21号土坑土层断面(南西)



7. IV-3区22号土坑出土遺物(東)



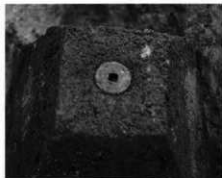
8. IV-3区22号土坑全景(南西)



9. IV-3区22号土坑土层断面(北)



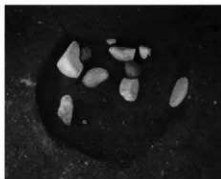
10. IV-3区23-25号土坑土层断面(南東)



11. IV-3区25号土坑土层断面(南東)



12. IV-3区26号土坑全景·土层断面(北西)



13. IV-3区28号土坑全景(西)



14. IV-3区29号土坑出土遺物狀況(北)



15. IV-3区29号土坑全景(北)





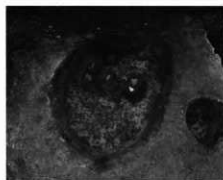
1. IV-3区29号土坑土层断面(西)



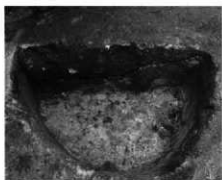
2. IV-4区30号土坑全景·土层断面(北)



3. IV-3区32号土坑遗物出土状况(南)



4. IV-3区32号土坑全景(南)



5. IV-3区32号土坑土层断面(南西)



6. IV-3区33号土坑全景·土层断面(西)



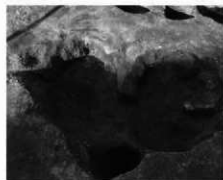
7. IV-4区34号土坑土层断面(南)



8. IV-3区36号土坑全景·土层断面(北西)



9. IV-3区38号土坑遗物出土状况(南西)



10. IV-3区38号土坑全景(南)



11. IV-3区38号土坑土层断面(南西)



12. IV-3区39号土坑全景(东)



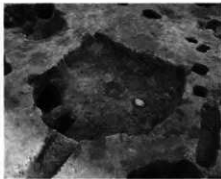
13. IV-3区39号土坑土层断面(南)



14. IV-3区40号土坑全景(西)



15. IV-3区40号土坑土层断面(北西)



1. IV-3区41号土坑全景(北)



2. IV-3区42号土坑全景(东)



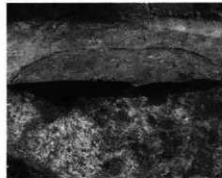
3. IV-3区42号土坑土層断面(南)



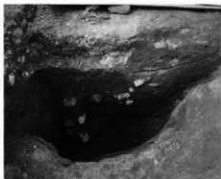
4. IV-3区43号土坑全景(南)



5. IV-3区43号土坑土層断面(南西)



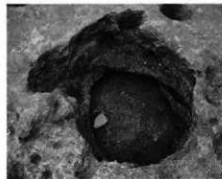
6. IV-2区44号土坑全景·土層断面(北)



7. IV-3区1号井戸全景·土層断面(东)



8. IV-3区2号井戸全景·土層断面(南)



9. IV-1区3号井戸全景(南東)



10. IV-1区3号井戸土層断面(南西)



11. IV-1区4号井戸土層断面(北東)



12. IV-3区6号井戸全景(北東)



13. IV-3区6号井戸土層断面(南東)



14. IV-3区7号井戸全景(北東)



15. IV-3区7号井戸土層断面(南東)



1. IV-3区8号井戸全景(北)



2. IV-4区9号井戸全景(東)



3. IV-3区10号井戸全景・土層断面(北)



4. IV-3区11号井戸全景・土層断面(東)



5. IV-2区12号井戸全景(西)



6. IV-2区12号井戸土層断面(東)



7. IV-3区13号井戸全景(北東)



8. IV-2区13号井戸全景・土層断面(南)



1. IV-5区1号溝全景(南)



2. IV-5区1号溝土層断面(北)



3. IV-5区2号溝全景(南東)



4. IV-5区2号溝土層断面(北)



5. IV-1区3号溝全景・土層断面(東)



6. IV-4区4号溝土層断面(北)



7. IV-5区4号ピット土層断面(南)



8. IV-5区5号ピット全景(南)



1. IV-5区6号ピット全景(南)



2. IV-5区7号ピット土層断面(東)



3. IV-1区21号ピット土層断面(東)



4. IV-1区22・23号ピット全景(北西)



5. IV-1区22号ピット土層断面(南)



6. IV-1区24～27・30・31・33号ピット群全景(南東)



7. IV-1区23号ピット土層断面(南西)



8. IV-1区24号ピット土層断面(南)



9. IV-1区25号ピット土層断面(西)



10. IV-1区26号ピット土層断面(南)



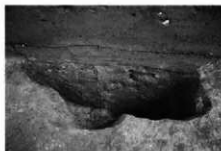
11. IV-1区27号ピット土層断面(南)



12. IV-1区30号ピット土層断面(南西)



13. IV-1区31号ピット土層断面(南西)



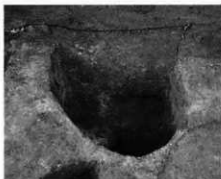
14. IV-4区34号ピット全景・土層断面(南西)



15. IV-4区36号ピット土層断面(北東)



1. IV-4区37号ピット土層断面(東)



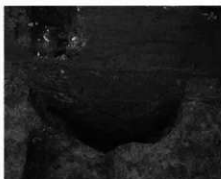
2. IV-4区38号ピット土層断面(南西)



3. IV-4区39号ピット土層断面(北西)



4. IV-3区40～42号ピット全景・土層断面(南東)



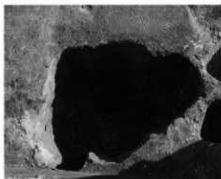
5. IV-4区60号ピット土層断面(南)



6. IV-4区61・62号ピット土層断面(南)



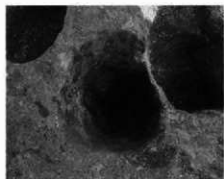
7. IV-3区63号ピット土層断面(南)



8. IV-3区64号ピット全景(北)



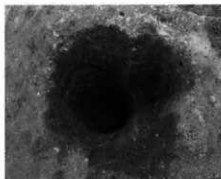
9. IV-3区65号ピット全景(西南)



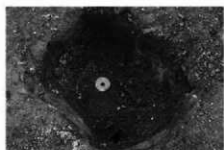
10. IV-3区66号ピット全景(北)



11. IV-3区66号ピット土層断面(北西)



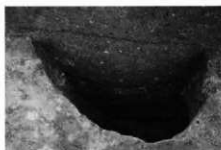
12. IV-3区67号ピット全景(北)



13. IV-3区68号ピット全景(北西)



14. IV-2区69号ピット土層断面(東)



15. IV-2区70号ピット土層断面(南西)



1. IV-2区71号ビット土層断面(南西)



2. IV-2区72号ビット土層断面(南西)



3. IV-4区3~5号礎石全景(南東)



4. IV-5区2号礎石全景(南)



5. IV-5区2号礎石土層断面(南)



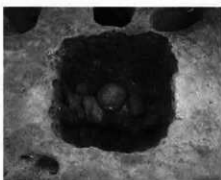
6. IV-4区3号礎石全景(南西)



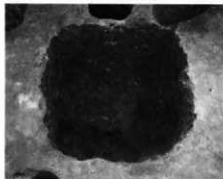
7. IV-4区3号礎石撤去後全景(南)



8. IV-4区4号礎石全景(南西)



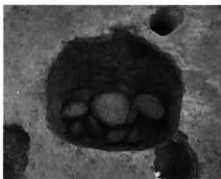
9. IV-4区4号礎石上面石取り上げ後(南)



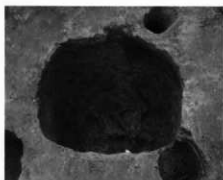
10. IV-4区4号礎石完掘後全景(北)



11. IV-4区5号礎石全景(南西)



12. IV-4区5号礎石下面全景(南)



13. IV-4区5号礎石完掘後全景(南)



14. IV-2区旧石器確認調査坑全景(南)



15. IV-2区旧石器確認調査坑土層断面(北西)

# 報告書抄録

書名ふりがな	せらだかんごうしゅうらくいせきに
書名	世良田環濠集落遺跡(2)
副書名	社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	607
編著者名	高島英之 藤巻幸男
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20151120
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	せらだかんごうしゅうらくいせき
遺跡名	世良田環濠集落遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしせらだちょう
遺跡所在地	群馬県太田市世良田町
市町村コード	10205
遺跡番号	10052
北緯(世界測地系)	361555
東経(世界測地系)	1391642
調査期間	20140601-20140630、20141101-20141231
調査面積	1,452
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	中世/近世/近代
遺跡概要	集落—中世+近世—土坑跡132+溝跡18+井戸跡 20+ピット117+礎石跡14+竪穴状遺構2+配石跡2+地下式坑1—陶磁器+土器+瓦+鉄器+銅銭+石製品
特記事項	大量の近世陶磁器の出土
要約	世良田環濠遺跡は、上野国を代表する中世荘園、新田荘の中に位置する中世環濠集落遺跡であり、付近には新田氏本宗家の居館跡と伝える新田館跡や、中世以来の古刹である長楽寺が存在している。今回の調査では、中世の集落に関わる明確な遺構は検出されなかったが、近世の大量かつ多種多様な陶磁器が出土し、その中には高価な肥前磁器が多数含まれていた。江戸以外の地では出土例が無いと言われていたカンテラなどが複数点あり、そうした物資の流通と購買を可能にした豊かな地域性を窺うことが出来る。



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第607集

## 世良田環濠集落遺跡(2)

社会資本総合整備(防災・安全)(公安・重点)(主)大間々町世良田線  
世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成27年(2015) 11月5日 印刷

平成27年(2015) 11月20日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北楯町下箱田784番地2

電話(0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社大塚カラー 群馬事業所

---

世良田環濠集落遺跡2

